三重県埋蔵文化財調査報告２６９

織　糸　遺　跡

― 明和町金剛坂を中心とする方形周溝墓群の調査 ―

２００６.３

三重県埋蔵文化財センター

織糸遺跡調査区 全景（西南から）

例　　言

1　本書は、三重県多気郡明和町金剛坂に所在する織糸遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査の経費は、三重県県土整備部が負担した。

3　発掘調査は、下記の体制で行った。

調査主体　　三重県教育委員会
調査担当　　三重県埋蔵文化財センター
　　調査研究Ⅱグループ　主幹　泉　雄二
　　企画調整グループ　　技師　池本浩弥
発掘調査作業委託先　　朝日航洋株式会社
調査期間　　平成16年６月18日～平成16年11月19日
調査面積　　８８１㎡

4　本書の執筆・編集・遺物写真は、泉が担当した。

5　本書が扱う発掘調査の資料並びに出土遺物等は、三重県埋蔵文化財センターが保管している。

6　調査にあたっては、三重県県土整備部道路整備室、松阪地方県民局建設部、明和町教育委員会及び地元各位からご協力をいただいた。

凡　　例

＜地図類＞

１．本書で使用した地図類は、国土地理院発行の１／25,000地形図、明和町都市計画図である。

２．これら地図類は、国土調査法の日本測地形による座標第Ⅵ系（旧国土座標）で表現されているため、平成14年から施行されている日本測地形2000及び測地成果2000には対応していない。

３．挿図の方位はすべて座標北で示している。なお磁針方位は西偏６°　40′　、真北方位は西偏０°　17′　34″　（平成10年）である。

＜遺構類＞

４．用語は、「墓に関わる穴」には壙、「その他の穴」には坑を用いた。

５．土層図は、層の区分を実線で、調査区壁面及び採録深度に相当する部分を一点破線で表現している。また遺構面や層位の大区分となる層については、他の土層面よりも太い線で表現した。

６．土層図の色調は、小山正忠･竹原秀雄編著『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社　1967年初版）を用いた。

７．当報告書での遺構は通番となっているが、織糸古墳１～４号墳は消滅したとされて欠番となっているため、遺構番号は５から使用した。経緯については前言で述べてある。

８．遺構番号の頭には、遺構の性格によって、凡そ以下の略記号をつけている。

ＳＢ……掘立柱建物　　ＳＨ……竪穴住居　　ＳＤ……溝　　ＳＫ……土坑

ＳＸ……方形周溝墓・その他の遺構　　Ｐｉｔ……ピット、柱穴

＜遺物類＞

８．当報告での遺物実測図類は実物の1/4を基本とし、各遺跡毎の通番となっている。

９．遺物観察表は、以下の要領で記載してある。

報告書№…挿図掲載番号である。

登録番号…実測段階の登録番号である。

器種…遺物の器種を示す。

遺構・層位…遺物の出土した遺構や層名を記した。

計測値　（径・器高　cm）…遺物の法量を示す。径は口縁部径、器高は遺物の高さを示す。欄内に記載された口は口縁部径、底は底部径、台は高台部径を示す。なお数値はそれぞれの部位の実測段階の接地点で計測している。

残存度…ある部位を12分割した際の残存度を示した。全体が残っているものは完存と記した。

調整・技法の特徴…主な特徴を内面（内：）・外面（外：）で示した。「Ａ→Ｂ」はＡの後にＢが施されたことを示す。

胎土…小石等の混和材を除いた素地の緻密さを「密～粗」で区分した。

焼成…遺物の焼き具合を見た目によって「良～不良」で区分した。

色調…その遺物の代表となる色調を記載した。表記は、前掲『新版標準土色帖』による。

特記事項…遺物の特徴となる事項を記した。

＜写真図版＞

10. 挿図と写真図版の遺物番号は、それぞれの遺跡の実測図報告書番号と対応している。

11. 遺物の写真図版は、大型品は縮尺1/４、小型品は縮尺１/３、小型石製品は原寸である。なお、方形周溝墓出土の土師器は、縮尺1/４のほか、縮尺不同で文様を拡大したものも掲載した。

本 文 目 次

Ⅰ　前言…… 1
Ⅱ　位置と環境…… 5
Ⅲ　遺構…… 9
Ⅳ　遺物…… 39
Ⅴ　結語…… 47
Ⅵ　周辺関連遺跡…… 55
　1　寺垣内遺跡 …… 55
　2　金剛坂遺跡 …… 85

挿 図 目 次

1　遺跡地図（1:5,000）　(2)
2　遺跡位置図（1:50,000）　(7)
3　発掘調査場所位置図 （1:5,000）　(8)
4　調査区位置図（1:1,000)　(8)
5　調査前地形測量図（1:400）及び地区設定　(9)
6　ＳＫ28遺構平面図（1:100）　(10)
7　遺構平面図（1:200）　(11･12)
8　ＳＸ５遺構平面図（1:100）　(13)
9　〃　東北側周溝遺物出土状況図（1:40）　(15)
10　〃　西側周溝遺物出土状況図（1:40）　(15)
11　ＳＸ６遺構平面図（1:100）　(17)
12　〃　主体部遺構平面図（1:40）　(19)
13　〃　西側周溝遺物出土状況図（1:40）　(19)
14　ＳＸ７遺構平面図（1:100）　(21)
15　〃　主体部遺構平面図（1:40）　(23)
16　〃　東南隅周溝遺物出土状況図（1:40）　(24)
17　〃　南側周溝遺物出土状況図（1:40）　(24)
18　〃　主体部直上遺物出土図（1:20）　(24)
19　ＳＸ８遺構平面図（1:100）　(27)
20　〃　主体部遺構平面図（1:40）　(28)
21　〃　西側周溝遺物出土状況図（1:40）　(29)
22　〃　南側周溝遺物出土状況図（1:40）　(29)
23　ＳＸ９遺構平面図（1:100）・遺物出土図（1:40）　(30)
24　ＳＨ14遺構平面図（1:80）
　　及び遺物出土状況図（1:40）　(31)
25　ＳＫ10遺構平面図（1:20）　(32)
26　ＳＫ13遺物平面図（1:20）　(34)
27　ＳＢ19遺構平面図（1:80）　(35)
28　ＳＢ21・22遺構平面図（1:80）　(36)
29　ＳＢ23・24遺物実測図（1:80）　(37)
30　織糸遺跡　遺物実測図（1）　(40)
31　織糸遺跡　遺物実測図（2）　(41)
32　織糸遺跡　遺物実測図（3）　(42)
33　織糸遺跡　遺物実測図（4）　(43)
34　織糸遺跡　遺物実測図（5）　(44)
35　織糸遺跡　遺物実測図（6）　(45)
36　周辺遺跡調査位置図（1:8,000）　(48)
37　周辺遺跡遺構略図・金剛坂遺跡（1:1,000）　(50)
38　周辺遺跡遺構略図・寺垣内遺跡ほか（1:1,000）　(51)
39　寺垣内遺跡　遺構平面図（1:300）　(56)
40　〃　遺構平面図（1:300）　(57･58)
41　〃　遺物実測図（1）　(65)
42　〃　遺物実測図（2）　(66)
43　〃　遺物実測図（3）　(67)
44　〃　遺物実測図（4）　(68)
45　〃　遺物実測図（5）　(69)
46　〃　遺物実測図（6）　(70)
47　〃　遺物実測図（7）　(71)
48　〃　遺物実測図（8）　(72)
49　〃　遺物実測図（9）　(73)
50　〃　遺物実測図（10）　(74)
51　〃　遺物実測図（11）　(75)
52　〃　遺物実測図（12）　(76)
53　〃　遺物実測図（13）　(77)
54　〃　遺物実測図（14）　(78)
55　〃　遺物実測図（15）　(79)
56　〃　遺物実測図（16）　(80)
57　〃　遺物実測図（17）　(81)
58　〃　遺物実測図（18）　(82)
59　〃　遺物実測図（19）　(83)
60　〃　遺物実測図（20）　(84)
61　金剛坂遺跡　遺構平面図（1）（1:300）　(86)
62　〃　遺構平面図（2）（1:300）　(87)
63　〃　遺物実測図（1）　(89)
64　〃　遺物実測図（2）　(90)
65　〃　遺物実測図（3）　(91)
66　〃　遺物実測図（4）　(92)

表　目　次

第１表　ＳＸ５　東西・南北土層名　(14)
第２表　ＳＸ６　東西土層名　(16)
第３表　ＳＸ６　主体部土層名　(18)
第４表　ＳＸ７　東西・南北土層名　(20)
第５表　ＳＸ７　主体部土層名　(22)
第６表　ＳＸ８土層名　(26)
第７表　方形周溝墓一覧表（1）　(53)
第８表　方形周溝墓一覧表（2）　(54)
第９表　周辺遺跡遺構一覧（1）　(62)
第10表　周辺遺跡遺構一覧（2）　(63)
第11表　周辺遺跡遺構一覧（3）　(64)
第12表　金剛坂遺跡調査一覧　(85)
第13表　織糸遺跡遺物観察表（1）　(93)
第14表　織糸遺跡遺物観察表（2）　(94)
第15表　織糸遺跡遺物観察表（3）　(95)
第16表　寺垣内遺跡遺物観察表（1）　(96)
第17表　寺垣内遺跡遺物観察表（2）　(97)
第18表　寺垣内遺跡遺物観察表（3）　(98)
第19表　寺垣内遺跡遺物観察表（4）　(99)
第20表　寺垣内遺跡遺物観察表（5）　(100)
第21表　寺垣内遺跡遺物観察表（6）　(101)
第22表　寺垣内遺跡遺物観察表（7）　(102)
第23表　寺垣内遺跡遺物観察表（8）　(103)
第24表　寺垣内遺跡遺物観察表（9）　(104)
第25表　寺垣内遺跡遺物観察表（10）　(105)
第26表　寺垣内遺跡遺物観察表（11）　(106)
第27表　寺垣内遺跡遺物観察表（12）　(107)
第28表　寺垣内遺跡遺物観察表（13）　(108)
第29表　金剛坂遺跡遺物観察表（1）　(109)
第30表　金剛坂遺跡遺物観察表（2）　(110)

写 真 目 次

巻首図版　織糸遺跡調査区 全景（西南から）
ＰＬ１　上：調査前風景（北から）
　　下：工事中現況写真（H17.12月：北から）
ＰＬ２　上：ＳＸ５・６（東から）
　　下：ＳＸ７・８（北から）
ＰＬ３　上：ＳＸ５南北アゼ（東から）
　　下：ＳＸ５表土除去後（北から）
ＰＬ４　上：ＳＸ５主体部検出状況（北から）
　　下：ＳＸ５墳丘盛土除去後（北から）
ＰＬ５　上：ＳＸ５主体部検出状況（西から）
　　下：ＳＸ５主体部（北から）
ＰＬ６　上：ＳＸ５周溝東側遺物出土状況（北西から）
　　下：ＳＸ６南北アゼ（西から）
ＰＬ７　上：ＳＸ６表土除去後（北から）
　　下：ＳＸ６主体部検出状況（西から）
ＰＬ８　上：ＳＸ６墳丘除去後（北から）
　　下：ＳＸ６主体部検出状況（西から）
ＰＬ９　上：ＳＸ６主体部土層（北から）
　　下：ＳＸ６主体部（南から）
ＰＬ10　上：ＳＸ６周溝西側遺物出土状況（西から）
　　下：ＳＸ７表土除去後（東から）
ＰＬ11　上：ＳＸ７主体部検出状況（北東から）
　　下：ＳＸ７主体部上遺物出土状況（東から）
ＰＬ12　上：ＳＸ７主体部土層（東から）
　　下：ＳＸ７主体部（西から）
ＰＬ13　上：ＳＸ７周溝東側遺物出土状況（北から）
　　下：ＳＸ８表土除去後（南西から）
ＰＬ14　上：ＳＸ８主体部検出状況（南から）
　　下：ＳＸ８周溝南側遺物出土状況（東から）
ＰＬ15　上：調査区西側（東から）
　　下：ＳＢ21（南から）
ＰＬ16　上：ＳＢ19検出状況（南から）
　　下：ＳＢ19完掘状況（南から）
ＰＬ17　上：ＳＢ23（東から）
　　下：ＳＢ22（南から）
ＰＬ18　上：ＳＢ24（西から）
　　下：ＳＨ14（西から）
ＰＬ19　上：ＳＫ10検出状況（西から）
　　下：ＳＫ10遺物出土状況（西から）
ＰＬ20　上：ＳＫ10土器棺出土状況（北から）
　　下：ＳＫ13遺物出土状況（北から）
ＰＬ21　織糸遺跡遺物写真
ＰＬ22　織糸遺跡遺物写真
ＰＬ23　織糸遺跡遺物写真
ＰＬ24　織糸遺跡遺物写真
ＰＬ25　織糸遺跡遺物写真
ＰＬ26　織糸遺跡遺物写真

Ⅰ　前　言

1　調査に至る経緯

織糸古墳群は、三重県多気郡明和町金剛坂字織糸に所在する遺跡である。西方には祓川から続く沖積地が広がる明野台地西端の洪積台地上に位置し、現況は竹林である。

今回の発掘調査は、平成16年度多気停車場斉明線国補緊急地方道路整備事業に伴い実施した。県道多気停車場斉明線は、国道42号線から県道鳥羽松阪線への交通路として重要な機能を果たしている。しかしながら、現状の県道多気停車場斉明線は、明和町内では集落を抜けるので狭くてカーブも多く、交通路としては非常に不便であるため、現道の西側に新たなルートが設定された。

新ルートは洪積台地縁辺部に沿って東南から北東に向かうルートで、事前に実施した試掘調査の結果から、南から平成９～11年に調査を行ったコドノＡ・Ｂ遺跡、平成11年度に調査を行った城堀遺跡、平成15年に調査を行った金剛坂里中遺跡や県道鳥羽松阪線に接続する位置で平成10年に調査を行った辰ノ口古墳群があり、平成16年度調査に調査を行うこととなった織糸古墳群は金剛坂里中遺跡と城堀遺跡の間に所在している。

周辺の試掘結果

明和町の遺跡地図によれば織糸古墳群が当調査地の東側に存在するだけであり、踏査の結果から当調査地は城堀古墳群（仮称）、南側隣接地は城堀Ｂ遺跡としてとして試掘対象地となっていた。

織糸古墳群・城堀Ｂ遺跡の試掘は、平成15年５月16日に実施した。織糸古墳群は試掘杭２カ所（16㎡：２ｍ×４ｍ×２カ所）入れて調査を行ったが、表土から2.8mは置き土であることが判明した。城堀Ｂ遺跡は試掘杭を５カ所（42㎡：２ｍ×４ｍ×４カ所＋２ｍ×５ｍ×１カ所）入れて調査を実施したが、表土から0.5ｍ～1.9mは後世の盛土であると判断され、両遺跡ともにすでに削平を受けて遺構は確認されなかったため、工事については実施可と事業部局に報告した。

城堀古墳群については、平成15年７月29日に試掘杭３カ所（12.75㎡：１ｍ×４ｍ×１カ所＋１ｍ×５ｍ×１カ所＋1.5ｍ×2.5ｍ×１カ所）を入れて試掘調査を実施した。試掘結果から古墳群の存在することが確認され、本調査の必要な面積は1,200㎡として通知した。

これを受けて、遺跡保護に向けて県土整備部と文化財保護の協議を重ねた。その結果、事業に伴い保存不可能な部分について調査を実施し、記録保存することとなった。

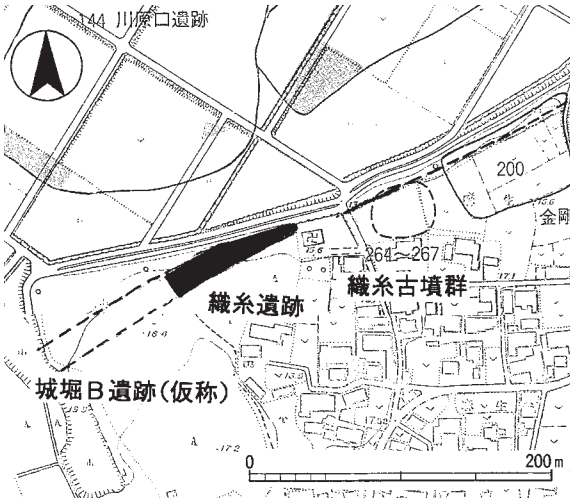
2　調査の経過と諸手続き

(1)　遺跡名称について

当古墳群の所在する場所は、明和町遺跡地図によれば遺跡の新発見の地域とされ、織糸古墳群の４基の古墳はすでに消滅したとして、浅生公民館の道を挟んだ東北側の地域が記載されていた。東側の場所については字名が麻生であり、これまでの字名から遺跡名を呼称したことを考えると所在地の誤記入れの可能性が高いものと思われる。しかしながら、織糸古墳群の試掘結果からは、当該場所はすでに削平を受けており、消滅したとされる古墳群の存在については判断を下すことができなかった。

これに対して仮称城堀古墳群としたものは、試掘報告段階では仮称城堀古墳群としていたが、所在する字名を遺跡名とする取り扱いからいえば、織糸古墳群と命名する必要が生じる。遺跡名称については地元自治会からも変更の要望があがっており、次の様に整理することとする。

消滅したと記載された織糸古墳群が当該古墳群で、明和町遺跡地図には誤って記載された可能性が高いものと考えられるが、織糸古墳群１～４号墳はすでに消滅したと明和町の遺跡台帳では登録されているため、混乱を避けるために新たに遺跡発見届を



第１図　遺跡地図（１：5,000）

提出することとなった。

このため、平成16年３月３日教埋第338号で織糸古墳群の遺跡発見の通知を県教育長宛に行い、今後は当古墳群は織糸古墳群であることを周知した。

織糸古墳群は、すでに１～４号墳は消滅されたとしてあるため、今回の調査対象古墳を５号墳からの名称を与えた。現況では古墳墳丘が残るもの３基が確認されており、北から５号、６号、７号とした。また、事前測量・写真撮影のため、竹の伐採などの清掃を行ったところ、７号墳の西側でマウンドが一部削平されてはいるが古墳の可能性のある地形が確認されており、便宜上８号墳として調査を開始することとなった。

なお、後で述べるように当古墳群は調査の結果、古墳時代初期の方形周溝墓であることが判明したことや、墳墓群以外にも掘立柱建物・竪穴住居なども確認されている。このことから、方形周溝墓・掘立柱建物・竪穴住居を含めた総称として、遺跡の名称を織糸遺跡とするのが適切と判断し、ここに報告することとなった。

(2) 調査委託先

織糸遺跡の本調査必要面積は、隣接地との境界と距離を離した1,050㎡で設計し、平成16年６月に行った入札結果から株式会社朝日航洋が受託することとなった。調査期間は６月18日から10月29日までの契約であったが、竹などの伐根により古墳の検出が困難であったこと、すべてが人力による調査となったことから、契約変更を行い11月19日までの契約となった。

なお、調査面積は、当初は段丘斜面も入った面積であったが、斜面分の調査は不必要となったため、最終調査面積は881㎡となった。

(3) 掘削の方法

掘削方法は、表土・包含層は重機を使用する場合が多いが、今回は墳丘が残っていることを考えて、重機を使用せず、すべてを人力で行った。しかしながら竹が多く、人力ですべての伐根を行うことが困難であった。そのため、墳丘など表土層の薄いところは人力で、表土層が厚く遺構への影響が少ないところでは、重機によって竹根を抜き取った。

墳丘の残る方形周溝墓の掘削はすべて四分割で、畦畔を残しながら行い、最初に周溝の検出及び掘削を行った。主体部についても四分割の畦畔を利用しながら検出を行ったが、墳丘上面での検出は困難を極め、任意に掘り下げながら、主体部の検出を行い、墳丘盛土内で確認することができた。

(4) 調査区の設定

調査区の地区設定は、国土座標、道路のセンターラインとは無関係で、５～７号墓の３基の墳丘土層が確認できるよう、３基の墳丘中心が通るように調査区の主軸を設定した。地区表示は、長辺では東から西に２～23の数字、短辺では北から南にＤ～Ｈのアルファベットを割り振り、西北隅の地区杭をその地区の地区名としてある。

(5) 遺物の取り上げ

出土遺物は、出土年月日と層位・遺構の区別を行い小地区単位で取り上げている。それぞれの遺物には専用のラベルを現地で入れた上で、洗浄などの作業を行うため、当センターへ搬送した。なお、方形周溝墓の主体部内の排土については、土嚢袋に入れた上、メッシュの異なる３段階のふるいを使用して現地にて洗浄を行った。

(6) 図面作成

調査にあたっては、事前に古墳の地形測量を縮尺１/100で作成した。遺構検出段階は、通常は１/40の概略図を手測りで作成しているが、面積の広い方形周溝墓が中心となることから電子平板による遺構略図を作成した。

遺構平面については、方形周溝墓が集中する北東部は１/50で作成し、南西部の掘立柱建物が集中する地区については１/20で作成したほか、遺物出土状況図や主体部など詳細図面を必要とするものについては1/10あるいは１/５で作図を行ったものもある。これらの原図をもとに全体の遺構平面図は１/50及び１/100で作図を行っている。

(7) 写真撮影

調査区全景と主な遺構の撮影については、４×５ビューカメラを主に使用したが、補助撮影としてブローニ６×７を用いた。

(8) 文化財保護法に関する諸通知

文化財保護法 （以下、法）等にかかる諸通知は、以下により行っている。

・遺跡発見通知（県教育長宛）

平成16年３月３日教埋第338号（県教育長宛）

・法58条の２第１項（県教育長宛）

平成16年６月17日付教埋第121号（県教育長宛）

・遺失物にかかる文化財発見・認定通知 （松阪警察署長宛）

平成17年１月19日教委第12-４-27号

３　整理作業と日誌抄

(1) 遺物類の整理

発掘調査現地から当センターへ出土遺物を搬送した後に、洗浄・注記・接合作業を実施した。

出土遺物は接合後、選別を行い、報告書掲載遺物と未掲載遺物に区分した。報告書掲載遺物については実測作業を行った後、それぞれ専用のラベルを付加し報告書番号を記入して専用収蔵庫に収蔵した。未掲載遺物については、袋詰めにし、整理箱に収蔵した後収納してある。

(2) 図面作成と遺物写真撮影

遺構平面図は、全体を１/100、個別遺構を１/50ないし１/５～１/10で報告書用原図を作成してトレースを行った。遺物写真は、主要なもののみ、大型カメラを用いて、ブローニ白黒フィルムで撮影した。

(3) 調査日誌抄

６月24日　発掘調査受託業者（朝日航洋株式会社）と現地協議

６月30日　現場事務所設営

７月５日　地区設定の基準線確認

７月６・７日　調査前平面測量

７月９日　調査前全景写真撮影。地区設定。

７月12日　ベルコン搬入、人力による掘削開始

７月13日　５・６号墳表土除去。墳丘が不明瞭なため東西方向のトレンチを設定する。

７月14日　５号墳の南北トレンチ内で南・北の周溝を確認する。

７月15日　６ライン北壁で土器棺を検出しＳＫ10とする。断面写真及び土層図

７月16日　５号墓周辺の遺構検出を行う。

７月20日　７・８号墳にトレンチを設定し、周溝の確認を行う。埋文センター職場安全巡視

７月21日　５号墓北側の周溝検出。６･７号墓、７･８号墓間のトレンチ内で周溝を検出。

７月22日　５号墓の北西位置で、須恵器杯３点の置かれたＳＫ13を確認。

７月23日　５～６号墓北側までの周溝を確認。

７月26日　５号墳の北側の周溝を確認。西側では方形に巡ることを確認。溝の北西隅から古墳時代初頭の壺が出土するため、古墳と考えていたものが墳丘の残る方形周溝墓であると判断する。また、５号墓と６号墓の関係は、南側の６号墓が新しいことを確認する。

７月27日　５号墓周溝内出土土器、写真撮影。６号墓西側の周溝を確認、５号同様に方形周溝墓であることを確認する。

７月28日　５号・６号墓北側周溝掘削。

７月29日　６号墓南側周溝掘削開始。安全大会実施。

７月30日　台風10号のため、作業中止。

８月２日　６号墓南側周溝掘削

８月３日　６号墓周溝掘削

８月５日　５号墓東西ベルト除去

８月９日　８号墓の平面プランの確認するが、南側の周溝は未確認。

８月10日　７・８号の平面プランの確認作業。

８月11日　７号墳は方形周溝であることを確認す

る。竪穴住居を１棟確認する。

８月12日　ＳＤ17の掘削、古式土師器が出土し、方形周溝墓となり、９号墓と名称変更する。８号墳も方形周溝墓であることを確認。

８月17日　８号墳の周溝の掘削。南東隅が陸橋になることを確認。

８月18日　ＳＤ17（９号墳）と重複する総柱建物を確認する。掘立柱建物19とする。

８月19日　８号墓と７号墓の重複関係は、７号墓が新しいことを確認。

８月20日　掘立柱建物19の周辺でほかに掘立柱建物を２棟ほど確認。

８月21日　ＳＢ19柱掘形の立割。

８月23日　雨のため作業中止。

８月24日　７・８号墓の周溝掘削

８月25～26　６～８号墓ベルト除去。７号墓周溝内遺物写真撮影。

８月27日　全景写真撮影。

８月31日　遺構の個別写真撮影。

９月１日　５～７号墓の主体部検出に入る。７号墓の墳頂部で供献用土器の壺を検出。ＳＢ22・23写真及び図面作成。

９月２日　５～７号墳主体部検出作業。北側の残りの掘削開始する。７号墓の壺取り上げ。

９月３日　６号墓主体部検出作業。掘立柱建物の立割作業

９月６日　６号墓の主体部検出作業・攪乱掘削。掘立柱建物の柱穴掘削。

９月７日　雨のため作業中止

９月８日　６号墓の主体部は東西方向の墓壙であることを確認するが北西部が不明瞭。８号墓の主体部は、痕跡をわずかに確認する。

９月９日　８号墓主体部検出作業。ＳＨ14内の柱穴から土師器壺が出土、貯蔵穴か。

９月10日　６号墓の主体部全体に掘削。ＳＫ10の土器は、土師器鍋と須恵器甕２個体の合わせ口の土器棺であることを確認する。

９月11日　掘立柱建物の断面実測。６号墓埋葬主体の棺痕跡の確認。

９月12日　10時から現地説明会開催、参加者150名。

９月13日　８号墓の主体部掘削。棺の痕跡、遺物は確認できなかった。６号墓埋葬主体は不明瞭なため、サブトレを併用。

９月14日　６号墓の埋葬主体の棺痕跡を確認し、一部掘削を開始する。サブトレの結果、棺断面はＵ字形となり。組み合わせ木棺ではなく、舟形木棺の可能性が高くなる。

９月15日　６号墓埋葬主体部写真撮影

９月16日　８号墓主体部写真撮影。６号墓主体部管玉２点出土。掘立柱建物21･23写真撮影。

９月17日　６号墓主体部掘削。ＳＨ14の写真撮影。ＳＫ10図面作成、須恵器甕の口縁部除去し、土師器鍋と須恵器甕の合わせ口の状況を確認する。８号墓墳丘立ち割開始。

９月20日　６号墓埋葬主体ベルト写真撮影。

９月21日　５号墓、主体部掘削終了する、遺物なし。写真撮影。６号墓からは管玉出土。

９月22日　６号墓埋葬主体部写真撮影。５号墓の墓壙掘形の掘削終了。８号墓の墳丘立ち割。

９月23日　６号墓全景写真。８号墓墳丘除去後に弥生時代前期の土杭を確認する。

９月24日　７号墓の棺検出作業を開始する。５号墓墳丘立割を開始。９号墓の西側を一部拡張してコーナー部分を確認。

９月25日　６号墓埋葬主体部の写真撮影。

９月27日　５・６号墓墳丘立ち割開始。７号墓の棺も舟形になることを確認する。

９月28日　７号墓棺痕跡写真撮影及び墓壙掘形の掘削開始。

９月30日　７号墓墓壙完掘。

10月１日　７号墓墳丘立ち割開始。

10月２日　７号墓墳丘立ち割。

10月４日　ＳＫ10の掘削を行うが、須恵器、土師器の完形遺物が出土し、土器棺とＳＫ10としたものは別遺構の可能性が高い。

10月６日　南側調査区実測。ＳＫ10掘削終了

10月７日　南側調査区実測。発掘調査現地作業終了。

Ⅱ　位置と環境

1　地理的環境

明和町は、多気郡の北東にあり、北は伊勢湾に面している。西は櫛田川の支流である祓川と櫛田川に挟まれた沖積平野を越えて松阪市へと、南は丘陵を挟んで多気町、度会郡玉城町に、東は伊勢市、度会郡小俣町に隣接する。北流する櫛田川と宮川に挟まれた洪積台地の西側に立地し、台地は北東に向かって緩やかに傾斜し、海岸部の沖積平野へと連なる。また明和町の南側には標高30mほどの丘陵が東西に連なり、伊勢湾に向かって平野が開けており、古くから開発の進んでいる地域である。

織糸遺跡は、この洪積台地西端に位置し、西側には比高差が約５ｍある祓川の沖積平野が広がる。

2　歴史的環境

ここでは、方形周溝墓群との関係から、古墳時代を中心として記述する。今回調査した織糸遺跡（１）の北側には、弥生時代前期を代表する金剛坂遺跡（２）が広がっており、当地域周辺は古くから開けた地域である。

集落

古墳時代の集落は、古墳ほど多くは確認されていない。東側２㎞にある北野遺跡[①]（３）は奈良時代を中心とした土師器生産の拠点的遺跡として知られている遺跡である。弥生時代後期から古墳時代始めにかけて５～10棟の方形竪穴住居がまとまった集落としていくつか確認されているほか、６世紀中頃から竪穴住居・掘立柱建物や土器焼成坑が確認され、以後250年に継続して土師器生産を行っている。

寺垣内遺跡[②]（４）は、当古墳群西側の祓川の沖積平野に立地する。この沖積平野は標高を見てみると寺垣内遺跡の立地する場所は微高地上になっており、旧祓川の自然堤防上と考えられる。弥生時代中期～古墳時代前期にかけての20基以上の方形周溝墓群や古墳時代後期～奈良時代にわたって竪穴住居40棟以上が確認されており、これまで洪積台地上でしか確認されてなかった当該期の遺構が確認されたことは初めてである。

曽祢崎遺跡[③]（５）では古墳時代後期の掘立柱建物１棟、堀田遺跡[④]（６）、発シＢ遺跡[⑤]（７）ではそれぞれ古墳時代後期の竪穴住居２棟が確認されている。

城堀遺跡[⑥]（８）は平成11年度に調査を行い、古墳時代前期の竪穴住居１棟のほか、同時期の方形周溝墓３基を検出した。

コドノＢ遺跡[⑦]（９）は平成10～11年にかけて調査を行い、竪穴住居は、弥生時代前期１棟・後期５棟・古墳時代初期１棟のほか、古墳時代としか判断できないものが１棟ある。方形周溝墓には、弥生時代前期２基・中期２基、弥生時代末から古墳時代初期にかけてのものが６基あるが、前期としたものは遺物が混入した可能性があり、弥生時代中期まで下る可能性も考えられる。また、ＳＸ89はこれまで周知の埋蔵文化財として知られるコドノ古墳の東側周溝にあたり、弥生時代後期から古墳時代初期にかけての方形周溝墓であることが判明した。墳丘部は路線外のため調査を行っていないが、検出面から１ｍほどの盛土が残っている。

以上のような古墳時代の集落が確認されてはいるものの、規模などから見て中心的な集落とは考えられず、後述するような古墳群を造営したと考えられる拠点的な集落は未確認である。

墳墓

方形周溝墓は、弥生時代中期では前述のコドノＢ遺跡のほか金剛坂遺跡、史跡斎宮跡[⑧]（10）など祓川右岸の段丘縁辺部で確認されている。

弥生時代末から古墳時代初頭にかけても造営されており、前述の寺垣内遺跡・コドノＢ遺跡・城堀遺跡のほか、近接する平成15年度に調査を行った金剛坂里中遺跡[⑨]で方形周溝墓が２基確認されている。これらはいずれの遺跡も祓川右岸の段丘縁辺部に集

中するが、史跡斎宮跡内では縁辺部から台地内に若干入った位置に塚山古墳群[10]（11）があり、削平を受けているが５世紀末以降の規模的に方形周溝墓の可能性があるものも発掘調査で確認されてはいるが、古墳と方形周溝墓と明確に分けることができなかった。

古墳では、多気町土羽にある５世紀前半に作られた権現山２号墳[11]が最も早く、滑石製坩や円筒埴輪が出土している。５世紀中頃の高塚１号墳[12]は全長75mの帆立貝式前方後円墳、神前山１号墳[13]は５世紀後半の帆立貝式前方後円墳で画文帯神獣鏡や鳥型瑟が出土した。

その後、６世紀になると、この付近の古墳は小型化・群集化し、各地に横穴式石室を持つ古墳が普及する。主なものには塚本古墳群[14]･坂本古墳群（12）･神崎山古墳群[15]（13）・大塚古墳群[16]（14）・河田古墳群[17]（15）・権現山古墳群（16）・高塚古墳群[18]（17）・上村池古墳群（18）・斎宮池古墳群[19]（19）・明星古墳群[20]（20）･曽根崎古墳群（21）･辰ノ口古墳群[21]（22）などがある。このうち、塚山古墳群は史跡斎宮跡の西側に所在する古墳群で、現存する古墳は17基からなる古墳群であるが、史跡斎宮跡の発掘調査で削平を受けた古墳が史跡東部[22]（23）まで確認されており、本来の古墳群はかなり広範囲に広がっているものと考えられる。

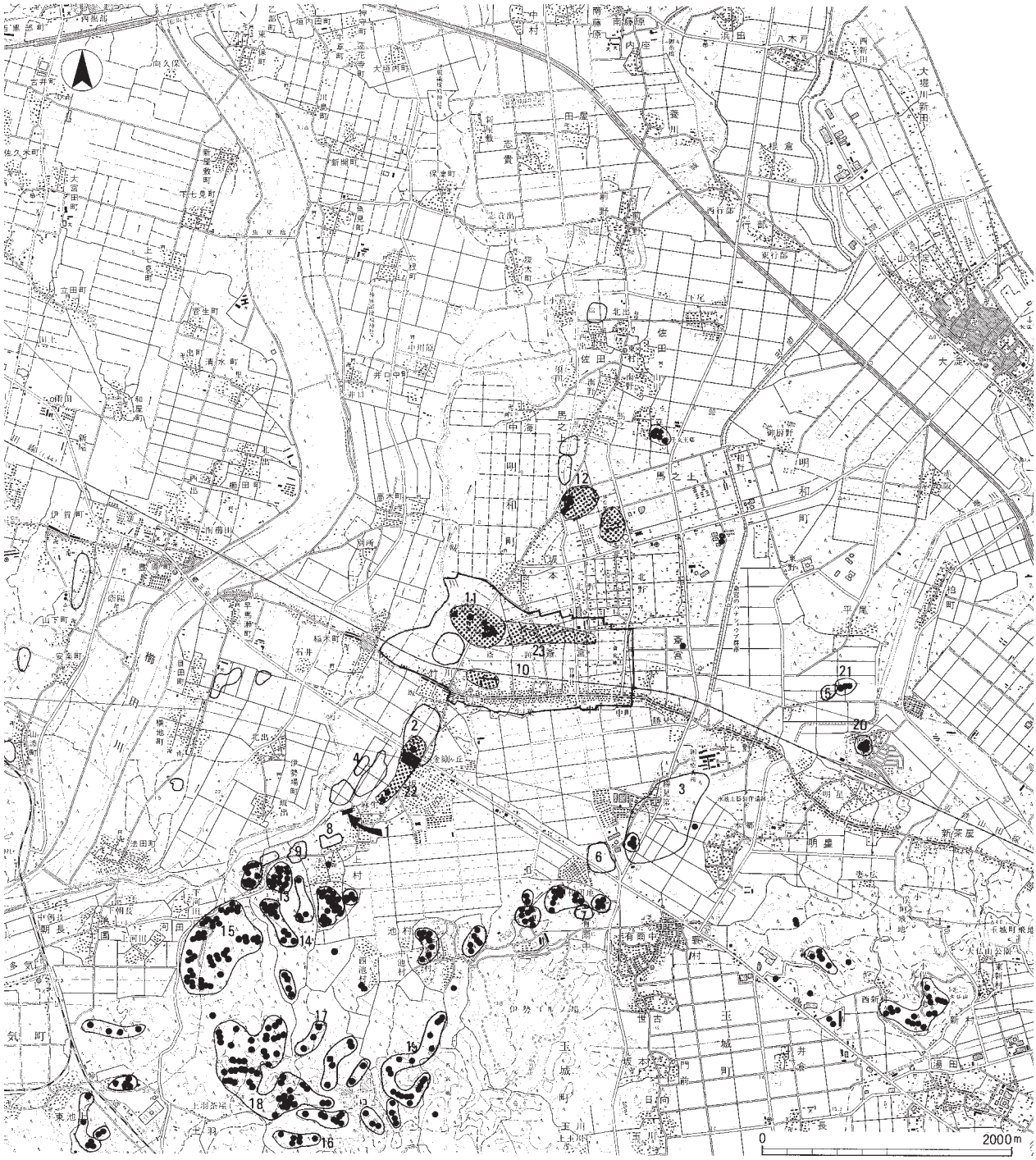
辰ノ口古墳群は、当遺跡の北側700mに位置し、北側から続く金剛坂遺跡と重複する古墳群で、昭和59年の調査に始まり、平成12年までに４次にわたる発掘調査が実施され、墳丘はすでに削平されているが、弥生時代の円形周溝墓や古墳時代後期の方墳などが10基以上確認されていると報告されている。遺跡の性格については本文Ⅴ章で再検証した。

これら周辺の古墳群のうち、発掘調査などで判明している主体部は、上村池周辺など多気・玉城の両町と境を接する丘陵地帯にある古墳群には、横穴式石室墳が多いのに対し、北側の台地一帯で判明している古墳の主体部は木棺直葬で、横穴式石室は確認されていないことが大きな特色となっている。

７世紀後半には､古墳が造営されなくなるものの、坂本古墳群の一角にある坂本１号墳[23]（25）は、全長31.4mの前方後方墳で、７世紀前半と考えられている。主体部からは、金銅装頭椎太刀が出土しており､史跡斎宮跡との関係から注目される遺跡である。

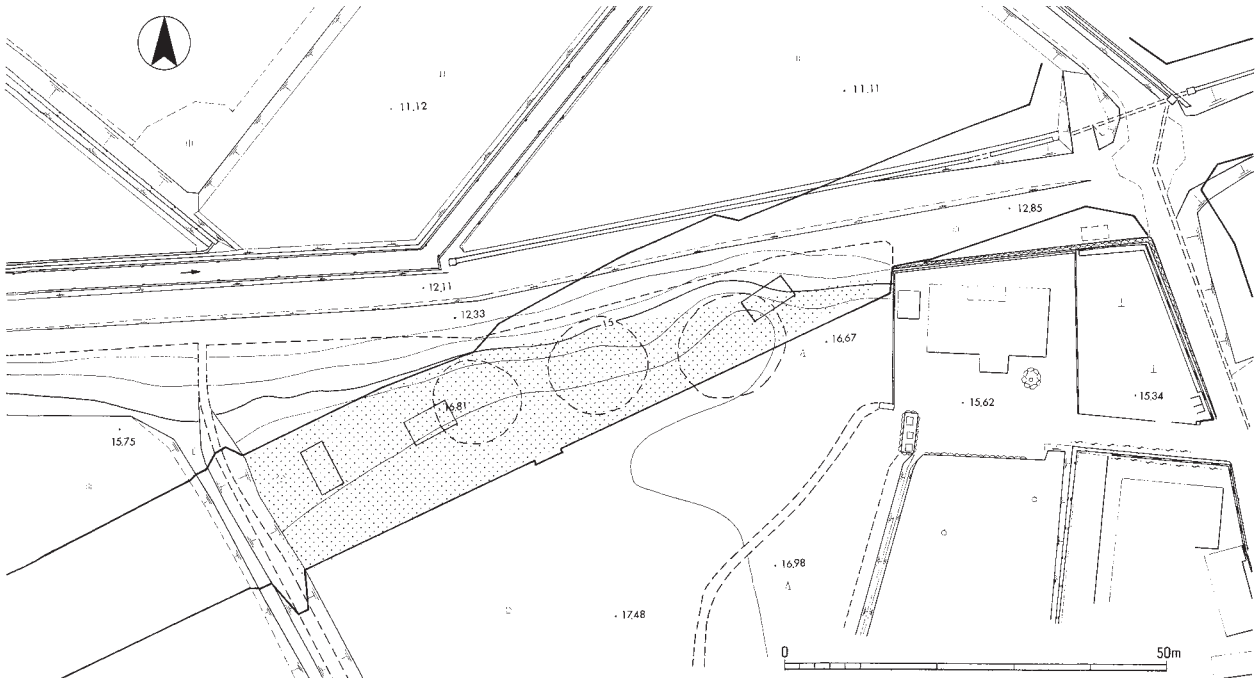
（註）

① 竹田憲治ほか『北野遺跡第５次発掘調査概報』三重県埋蔵文化財センター　1996年
② 中野敦夫「寺垣内遺跡」第２章第２節２『明和町史　史料編第１巻自然・考古』明和町史編さん委員会　2004年
③ 西村美幸､前川嘉宏『曽祢崎遺跡（第２次)･曽祢崎古墳群』三重県埋蔵文化財センター　1997年
④ 伊藤久嗣、伊勢野久好「堀田遺跡」『昭和55年度県営ほ場整備事業地域埋蔵文化財調査報告』三重県教育委員会1981年
⑤ 熊崎司「発シ遺跡群」第４章第２節７『明和町史　史料編第１巻自然・考古』明和町史編さん委員会　2004年
⑥ 金子智子『城堀遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2003年
⑦ 奥野実・西出孝『コドノＡ遺跡・コドノＢ遺跡（第１次）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1998年
奥野実・西出孝『コドノＢ遺跡（第２次・第３次）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター　2000年
⑧ 斎宮跡の方形周溝墓については、各年度の調査概要を参照のこと
⑨ 辻本泰宏『金剛坂里中遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター　2004年
⑩ 下村登良男「塚山古墳群」第３章第２節20『明和町史　史料編第１巻自然・考古』明和町史編さん委員会2004年
⑪ 下村登良男「河田古墳群周辺の古墳分布」『河田古墳群発掘調査報告Ⅲ』多気町教育委員会　1986年
⑫ 下村登良男「高塚１号墳」第３章第２節９『明和町史　史料編第１巻自然・考古』明和町史編さん委員会2004年
⑬ 下村登良男『神前山１号墳発掘調査報告』明和町教育委員会　1973年
⑭ 下村登良男「坂本古墳群」第３章第３節31『明和町史　史料編第１巻自然・考古』明和町史編さん委員会2004年
⑮ 下村登良男「神前山古墳群」第４章第２節２『明和町史　史料編第１巻自然・考古』明和町史編さん委員会2004年
⑯ 下村登良男「大塚古墳群」第３章第２節１『明和町史史料編第１巻自然・考古』明和町史編さん委員会2004年
⑰ 伊藤久嗣、吉水康夫『河田古墳群発掘調査報告』多気町教育委員会　1974年
⑱ 下村登良男「高塚古墳群」第３章第２節９『明和町史史料編第１巻自然・考古』明和町史編さん委員会2004年
⑲ 下村登良男「斎宮池古墳群」第３章第２節６『明和町史史料編第１巻自然・考古』明和町史編さん委員会　2004年
⑳ 下村登良男、奥義次ほか『明星古墳群発掘調査報告書』明和町教育委員会　1975年
㉑ 辰ノ口古墳群に関係する報告書は下記のとおりである。
・田村陽一ほか「金剛坂遺跡」『昭和59年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会1985年
・萩原義彦『金剛坂遺跡・辰ノ口古墳群（第２次）発掘調査報告書』三重県埋蔵文化財センター　1999年
・奥野実『金剛坂遺跡（第５次）辰ノ口古墳群（第３次）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター　2001年
㉒ 下村登良男「斎宮跡調査による検出古墳」第３章第２節21『明和町史 史料編第１巻 自然・考古』明和町史編さん委員会　2004年　第２図史跡内のスクリーントーンの範囲で古墳が検出されている。
㉓ ⑭と同じ



第２図　遺跡位置図（１：50,000）

第３図　発掘調査場所位置図（1：5,000）



第４図　調査区位置図（□は試掘坑）（1：1,000）

Ⅲ　遺　構

1　事前測量の結果及び層序

南西から北東に延びる台地縁辺部に位置し、調査区南西側は標高17mと高く、北東側に向かって緩やかに傾斜する。東端では標高約16.5mとなり、西北側の現在は水田となっている祓川の旧氾濫源へと急な傾斜で落ち込んでいく。台地縁辺部と水田の比高差は５mほどある。

前言でも述べたように、地表観察では墳丘の残る墳墓が４基確認でき、形状から円墳と判断したが、調査結果は後述するように方形周溝墓であることが判明している。

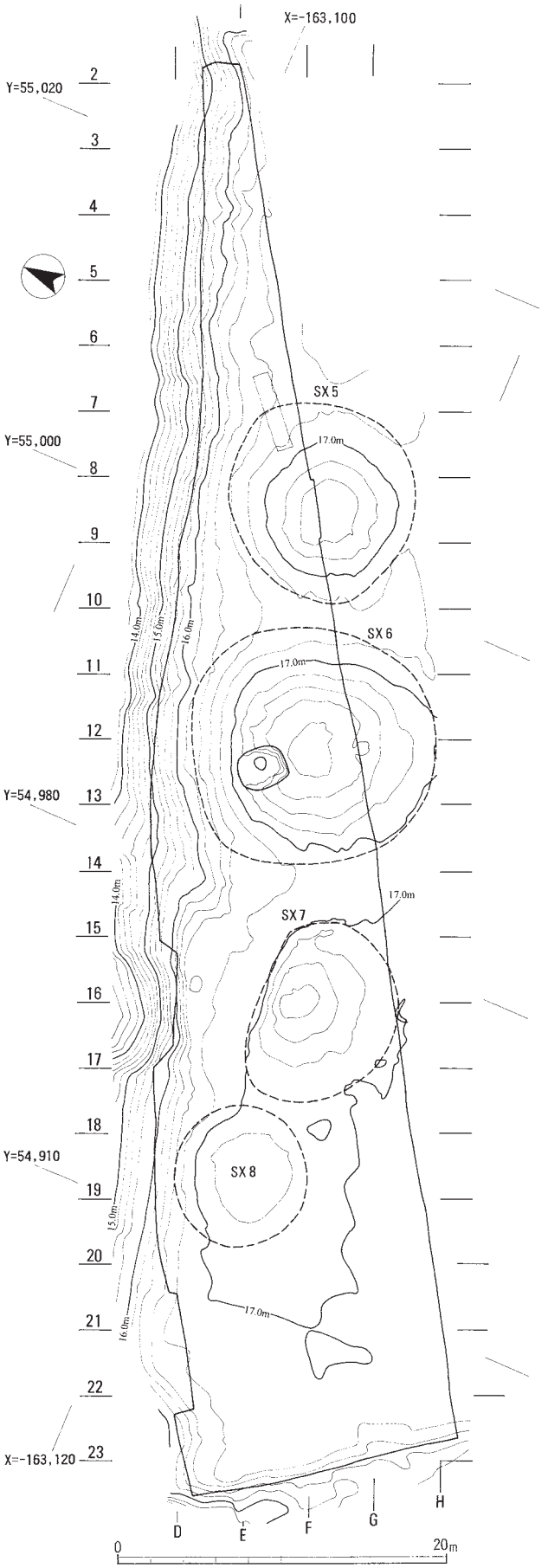
調査前の地形測量図については、方形として修正することができなかったため、当初のものを掲載する。調査結果を考えるとＳＸ６～８については、方形の痕跡が若干であるが残っているとも考えられる。ここでは、地形から読みとった古墳について当初の判断を記述する。

古墳の規模は、東側からＳＸ５は推定径11.6m、地表面の盛土の高さは0.8m、ＳＸ６は推定径15m、高さ1.2m、ＳＸ７は北側半分が削平されているが推定径11m、高さ0.7mとＳＸ５～７は墳丘の残りが非常に良い。西端のＳＸ８は、規模が最も小さく推定径８m、高さ0.4mである。

調査区設定は、道路中軸線あるいは座標に合わすことが多いが、ＳＸ５～７がほぼ一直線に並ぶため、関係を捉えるために３基の墳丘の中心を通るように軸線を通して、地区設定を行った。また、３基の古墳の畦畔については、東西畦畔を軸線に千鳥状に設け、各古墳の中心から南北方向の畦畔を設けて調査を行った。８号墳については、別途、７号墳との関係を見るため畦畔を斜めにも設けた。

層序　表土直下が遺構面で、斜面では表土の下に流れ出た堆積土が加わることになる。表土の厚さは概ね0.2mである。その下にある黒色土系の地山の下には黄褐色粘質土の地山が続く。この状況が当地域の基本層序である。

黒色土は、調査区東側の方形周溝墓の盛土下部で



第５図　調査前地形測量図（1:400）**及び地区設定**　破線は古墳推定

認められるもので、旧表土と思われる。遺構検出は、黄褐色粘質土層上面で行い、検出面の深さは表土から0.4 ～ 0.6mで、標高で表示すれば西端部で16.6m、中央で16.4m、東端のＳＸ５周辺で16.0mとなる。さらに東側調査区は斜面部にあたるため、遺構検出面は深くなっていき、表土からの深さは１m、標高15.4mとなる。

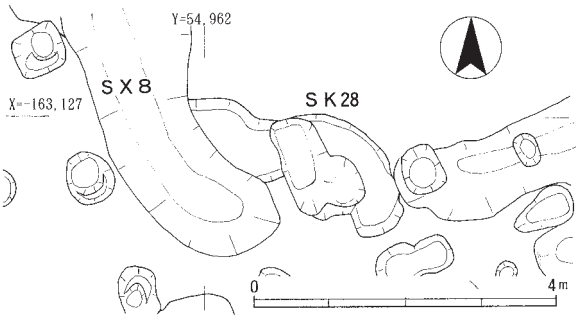
調査区全体の土層断面図は南壁で作成しているが、基本層序が表土直下が遺構検出面であるということや方形周溝墓の土層図と重複する場所が多いため、調査区全体を通した土層図としては掲載しないこととする。土層図については各方形周溝墓の土層図を参照されたい。

２　弥生時代の遺構

土坑ＳＫ28が１基あるだけであるが、調査区西側のＳＸ７．８の墳丘盛土内や溝の埋土から弥生時代前期の遺物（１～４・７～９）が若干出土している。出土する場所が集中することから、他の遺構が存在していたが、墳丘造営に際して壊されてしまった可能性が高い。

ＳＫ28　調査区南側のＳＸ８の墳丘盛土を除去した後の地山面で確認した土坑である。西側は方形周溝墓の溝で壊されており、南東側は方形周溝墓の陸橋ですでに掘削した土坑に繋がると思われる。幅１m、長さ３m以上、深さ0.15mと浅い土坑で、輪郭ははっきりとしない。

埋土中から弥生前期の甕（５）・壺（６）の破片が出土した。



第６図　ＳＫ28遺構平面図（１：100）

３　古墳時代初期の遺構

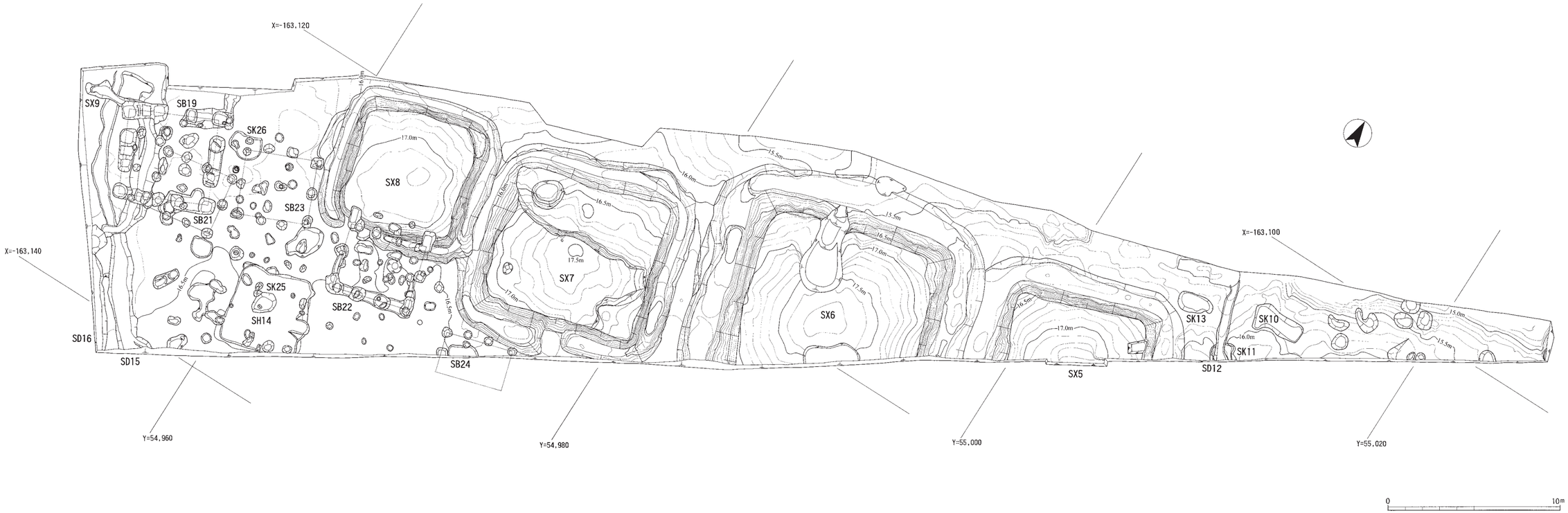
この時期の遺構には、方形周溝墓５基があるだけである。各方形周溝墓の詳細については後述するが、立地する全容について記述する。

墳丘盛土が確認できたＳＸ５～８は、検出が終了した後、墳丘を除去して下層の遺構検出を行った。この結果、地山面は黄褐色土粘質土で、北側での地山面は標高16.3m、南側で16.4mとほぼ水平となっている。この黄褐色土地山層の上には、黒色土層が0.3 ～ 0.5m堆積し、その上に各墳丘の盛土が盛られている。黒色土の上面は、ほぼ現状の地表面の標高とほぼ同じであることから、墳丘の造営される前のかっての地表面と考えられる。

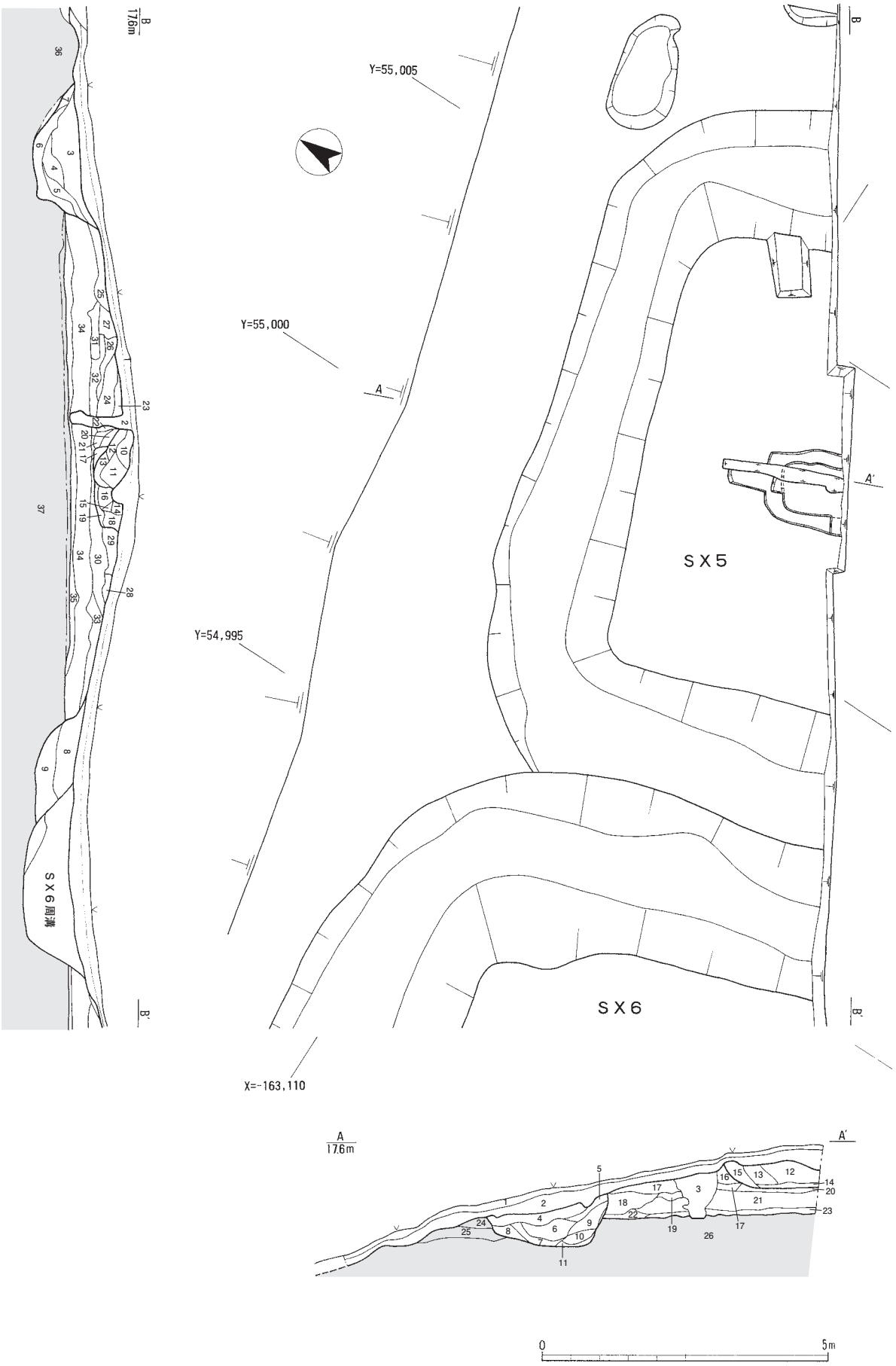
墳丘下層の黒色土は、遺物をほとんど含んでいないことから、旧表土面と想定できる。墳丘下層から出土した遺物には、ＳＸ７の地山直上の黒色土内から出土した弥生土器壺（８）があるだけである。このことから、方形周溝墓が造られるまでの当地域は、生活のあまり営まれない地域であったことが窺える。

墳丘盛土が残存している方形周溝墓については、主体部の残ることが予想された。各墳丘では、表土の厚さ0.1mほど下はすべて当時の盛土であることが判明したが、現況が竹林で竹根が密集していたため、主体部の検出に非常に手間取った。このため、墳頂部から畦畔を残して、水平に５センチほど掘削を繰り返して遺構検出を行った。この結果、各方形周溝墓の墓壙を確認することができた。また、方形周溝の溝から出土した遺物は、各方形周溝墓の出土場所の範囲が限られ、それぞれがほぼ同一個体で復元されるなど、遺物が埋葬された当時の状況を現しているものと考えられる。

なお、規模表の方形周溝墓の内々の径は、通常は墳丘が削平されているものの計測値であるが、織糸の場合は削平を受けていないため、墳丘上端の平坦面を計測値とした。このため数値が少なくなるが、他例と比較する上で参考値として上げる。以下、本文中では、計測値として使用するが、第７・８表には周溝外々についても数値を掲載する。



第７図　遺構平面図(1：200)



第８図　ＳＸ５遺構平面図（１：100）

1）ＳＸ５（第８図）

調査区の東端部にあり、東西規模は東側周溝と西側周溝外々で12.5m、墳丘の東南部は調査区外に延びる。残存する墳丘規模から見て、南北方向も東西方向と同規模と想定できる。

表土を含めた墳頂部の標高は17.6m、周溝の深さは東側で標高15.7m、西側は15.8m、最高部と溝底との比高差は約1.8mある。旧表土である黒色土から上の墳丘盛土の厚さは0.5mある。なお、試掘坑が東側周溝と墳丘にかけての位置で設定されているが、周溝上面まで掘削が及んでいなかった。

埋土の特徴　当初想定していた墳丘規模12mに対して、東西周溝の内々の径は8.0mであり、溝の内側の立ち上がりが、残存する墳丘のかなり内側に入り、墳丘盛土が周溝側へ流れ込んでいることが判明した。

墳丘部では、表土直下が墳丘盛土となる。周溝上面の遺構検出中に山茶椀など中世の土師器片が混入する場合もあったため、中世の時点までは周溝墓間が窪地として残っていたとも考えられ、土層断面図で見ると表土層が墳丘部では0.2mであるが、周溝墓間では0.3mと若干厚く堆積している。

また、ＳＸ６との関係を見るために地区割のＦラインに沿って土層用畦畔を残してあり、この土層観察によりＳＸ６の周溝がＳＸ５の周溝より新しいことを確認した。

墳丘盛土については、断面精査の結果、周辺部に厚さ0.2mの黒色土が混じる暗褐色土を墳丘内周囲に堤状に置き、その中に暗灰褐色土系の土を入れて墳丘を構築する方法と思われる。また、周溝を掘削した排土を墳丘に再利用するなら、土層断面に表れる層は旧表土である黒色土系の土層と地山である黄褐色系の粘質土がブロック状、ないしはレンズ状に堆積すると考えられるが、墳丘の盛土層は主に褐色系の単一の土層であるため、意識的に土質を選別したものと考えられる。

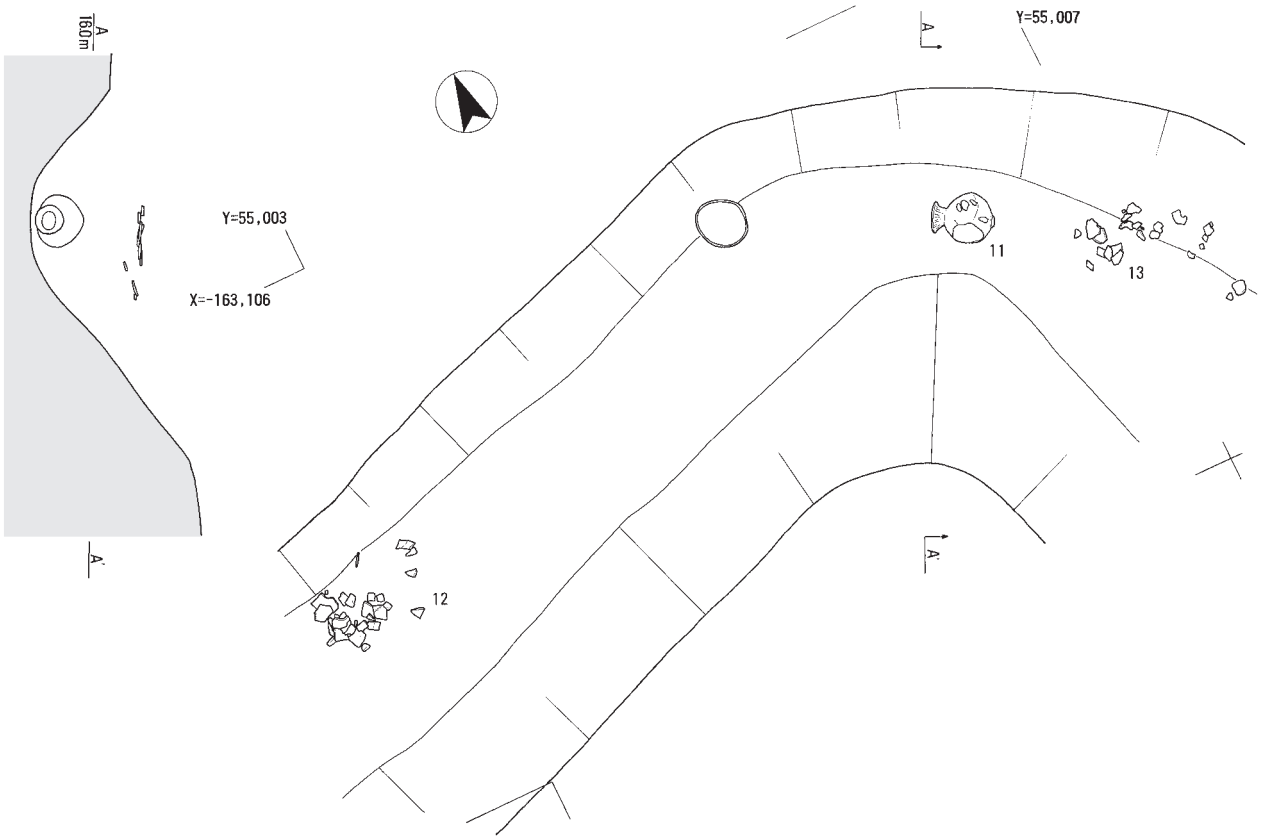
周溝の特色　遺構検出面からの深さは0.4mで、周溝の底面は平坦面を持ち、溝の断面形が逆台形を呈する。溝底からは急な傾斜で内側に立ち上がり、墳丘部を構成する。

西側の周溝は、ＳＸ６の東側周溝と一部重複して

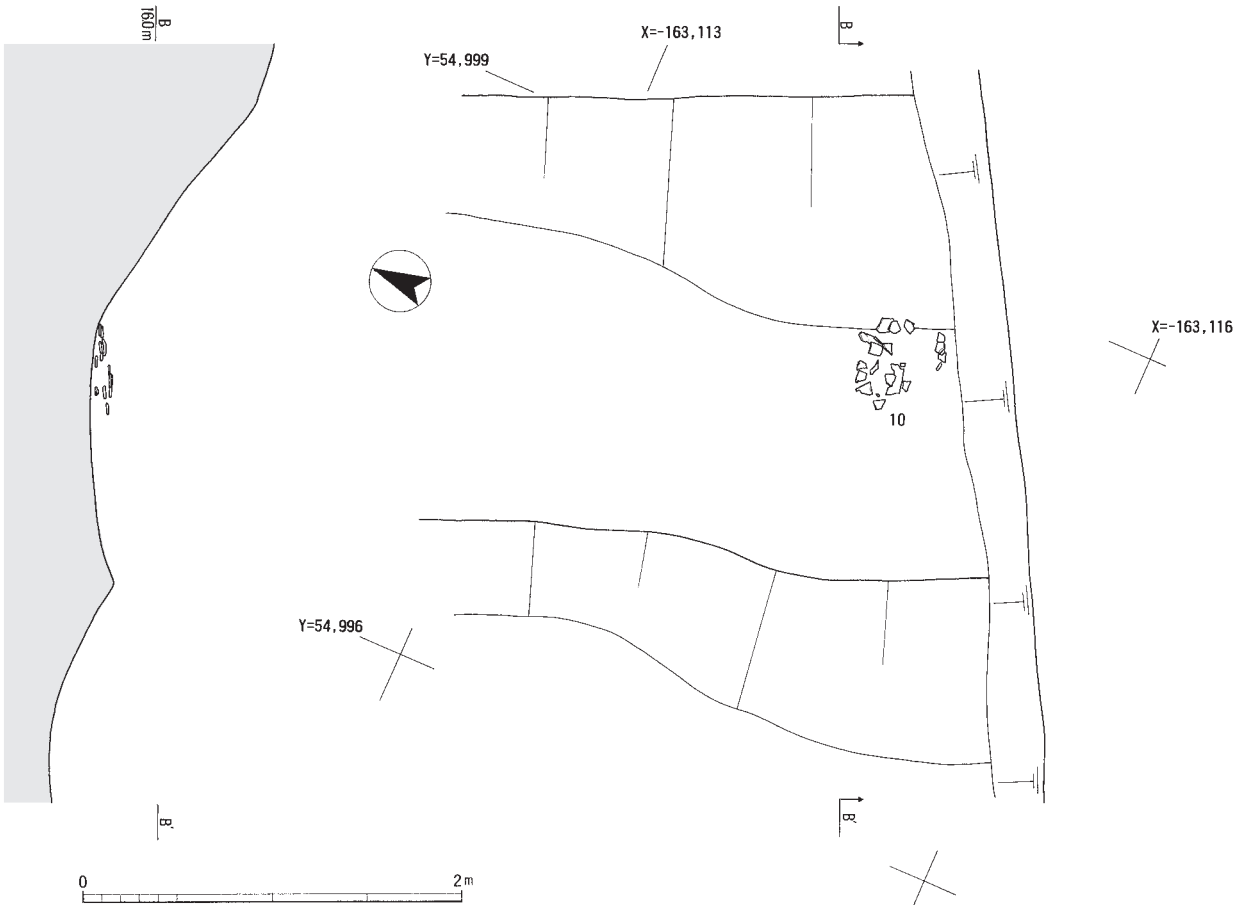
番号	ＳＸ５　周溝埋土及び墳丘（東西）土層名（第８図左）	備考
1	にぶい黄褐色土10YR5/4（竹の根多く含む腐葉土層）	表土
2	褐色土10YR4/4	表土
3	黒褐色土10YR3/1	東周溝
4	黒褐色土10YR2/2・褐色土粒10YR4/4少量含む（硬く締まる）	東周溝
5	黒色土10YR2/1・褐色土粒10YR4/4少量含む	東周溝
6	黒褐色土7.5YR3/1・黄褐色土10YR5/8ブロック含む（硬く締まる）	東周溝
7	黒褐色土10YR2/2	東周溝
8	黒褐色土10YR3/1・褐色土10YR4/4ブロック少量含む	西周溝
9	黒褐色土7.5YR3/1・黄褐色土10YR5/8ブロック含む（硬く締まる）	西周溝
10	褐色土7.5YR4/3（硬く締まる）	攪乱か
11	暗灰黄色土2.5Y5/2（硬く締まる）	攪乱か
12	明褐色土7.5YR5/6（硬く締まる）	攪乱か
13	明褐色土7.5YR5/6・黄褐色土10YR5/6混じる（硬く締まる）	攪乱か
14	にぶい黄褐色土10YR5/4・小礫含む	棺埋土
15	にぶい黄褐色土10YR5/4・黄褐色土10YR5/6・小礫含む	棺埋土
16	にぶい黄褐色土10YR5/3・黄褐色土10YR5/6・小礫含む	棺埋土
17	暗灰黄色土2.5YR5/2・黒色土10YR2/1混じる・小礫含む	棺裏込め
18	黄灰色土2.5YR4/1・小礫含む	棺裏込め
19	黄灰色土2.5YR4/1・黄褐色土10YR5/8ブロックと黒色土粒10YR2/1含む	棺裏込め
20	黄灰色土2.5YR5/1・黄褐色土10YR5/6ブロック混じる（硬く締まる）	盛土
21	暗灰黄色土2.5Y5/2・黒色土10YR2/1粒混じる（硬く締まる）	盛土
22	暗灰黄色土2.5YR4/2・黒色土10YR2/1ブロック含む	盛土
23	暗褐色土10YR3/3	盛土
24	褐色土10YR4/4・小礫含む（硬く締まる）	盛土
25	暗灰黄色土2.5YR4/2	盛土
26	にぶい黄褐色土10YR4/3	盛土
27	暗褐色土10YR3/4	盛土
28	黄灰色土2.5YR5/1・小礫混じり	盛土
29	にぶい黄褐色土10YR5/3・黒色土10YR2/1ブロック含む	盛土
30	黄褐色土10YR5/8・黒色土10YR2/1ブロックと小礫含む	盛土
31	にぶい黄褐色土10YR4/3・黒色土10YR2/1ブロック含む	盛土
32	暗褐色土10YR3/3・黄褐色土10YR5/6混じる	盛土
33	暗褐色土10YR3/3・黒色土10YR2/1の混合土	盛土
34	黒色土10YR2/1	旧表土
35	黒褐色土10YR3/2	旧表土
36	暗褐色粘質土10YR3/4	地山
37	黄褐色粘質土10YR5/6	地山

番号	ＳＸ５　周溝埋土及び墳丘（南北）土層名（第８図下）	備考
1	にぶい黄褐色土10YR5/4（竹の根多く含む腐葉土層）	表土
2	褐色土10YR4/4	表土
3	にぶい黄褐色土10YR5/4（締まり悪い）	攪乱
4	黒褐色土10YR2/2・小礫少量含む（硬く締まる）	北側周溝
5	黒褐色土10YR2/3・小礫少量含む（締まり悪い）	北側周溝
6	黒色土10YR1.7/1・黄褐色土粒10YR5/6含む（硬く締まる）	北側周溝
7	黒褐色土10YR2/2・黄褐色土10YR5/6混じり（硬く締まる）	北側周溝
8	黒褐色土10YR2/2・褐色土粒10YR4/6含む（硬く締まる）	北側周溝
9	黒褐色土10YR2/2・黄褐色土10YR5/6少量含む（締まり悪い）	北側周溝
10	黒色土5YR1.7/1（締まり悪い）	北側周溝
11	褐色土10YR4/4・黒色土10YR2/1と黄褐色土10YR5/6混じる（固く締まる）	北側周溝
12	にぶい黄褐色土10YR5/3・黄褐色土10YR5/6と小礫含む	棺埋土
13	にぶい黄褐色土10YR4/3	棺埋土
14	黄灰色土2.5YR4/1・黄褐色土10YR5/8ブロックと黒色土粒10YR2/1含む	裏込め
15	黄灰色土2.5YR4/1・黄褐色土10YR5/8ブロック含む	裏込め
16	にぶい黄褐色土10YR5/3・黒色土10YR2/1ブロック含む	盛土
17	暗褐色10YR3/3・黄褐色土10YR5/8	盛土
18	暗褐色土10YR3/3	盛土
19	暗褐色10YR3/3・褐色土10YR4/4と黒褐色土10YR2/2含む	盛土
20	黄褐色土10YR5/8・黒色土10YR2/1ブロックと小礫含む	盛土
21	黒色土10YR2/1	旧表土
22	黒褐色土10YR2/3	旧表土
23	褐色土10YR4/4	旧表土
24	褐色粘質土10YR4/4	地山
25	暗褐色粘質土10YR3/4	地山
26	黄褐色粘質土10YR5/8	地山

第１表　ＳＸ５ 東西・南北土層名



第９図　ＳＸ５東北隅周溝　遺物出土状況図（１：40）



第10図　ＳＸ５西側周溝　遺物出土状況図（１：40）

おり、西側周溝の西肩の一部は壊されている。また、北側は台地斜面となっているため、北側周溝の北肩は地山面が流れて低くなっているが、周溝として明確に確認することができた。

主体部　墳頂中央部にあり、本来確認できるはずの表土直下では検出できなかったため、少しずつ下げながら遺構検出を繰り返した。調査範囲が墳丘の北半分であるため、南北畦を残して調査を行った。その結果、墳頂部を表土から0.7m下げたところで墓壙が確認できた。墓壙は南北方向の墓壙と考えられ、東西幅1.35m、南側は調査区外に延びるために南北の長さは1.35mしか確認できていない。

また、墓壙の中においても主体部の検出を行ったが、墓壙内の埋土は墳丘盛土との判別が非常に困難であり、南北方向に残した土層断面や調査区南側土層断面を確認しつつ、墓壙内に東西方向のサブトレを併行して精査を行った。この結果、墓壙内に若干の土層の違いを認めることができたため、主体部と判断した。

主体部の規模は、東西0.9m、南北1.1m以上、深さは検出面から0.1mと浅い。土層断面から墓壙の深さは墳丘盛土内に収まり、墳頂の墓壙掘り込み面からの深さは0.8mあることが確認できた。墓壙及び主体部からは、遺物が出土していない。

遺物　（第９・10図）　遺構に伴う遺物は少なく、東側と西側周溝から土師器壺が４個体出土しており、供献されたものと考えられる。このほか、溝埋土の上層からは山茶椀（73・74）が出土しており、中世においても周溝が完全に埋没するに至っていない状況が読みとれる。

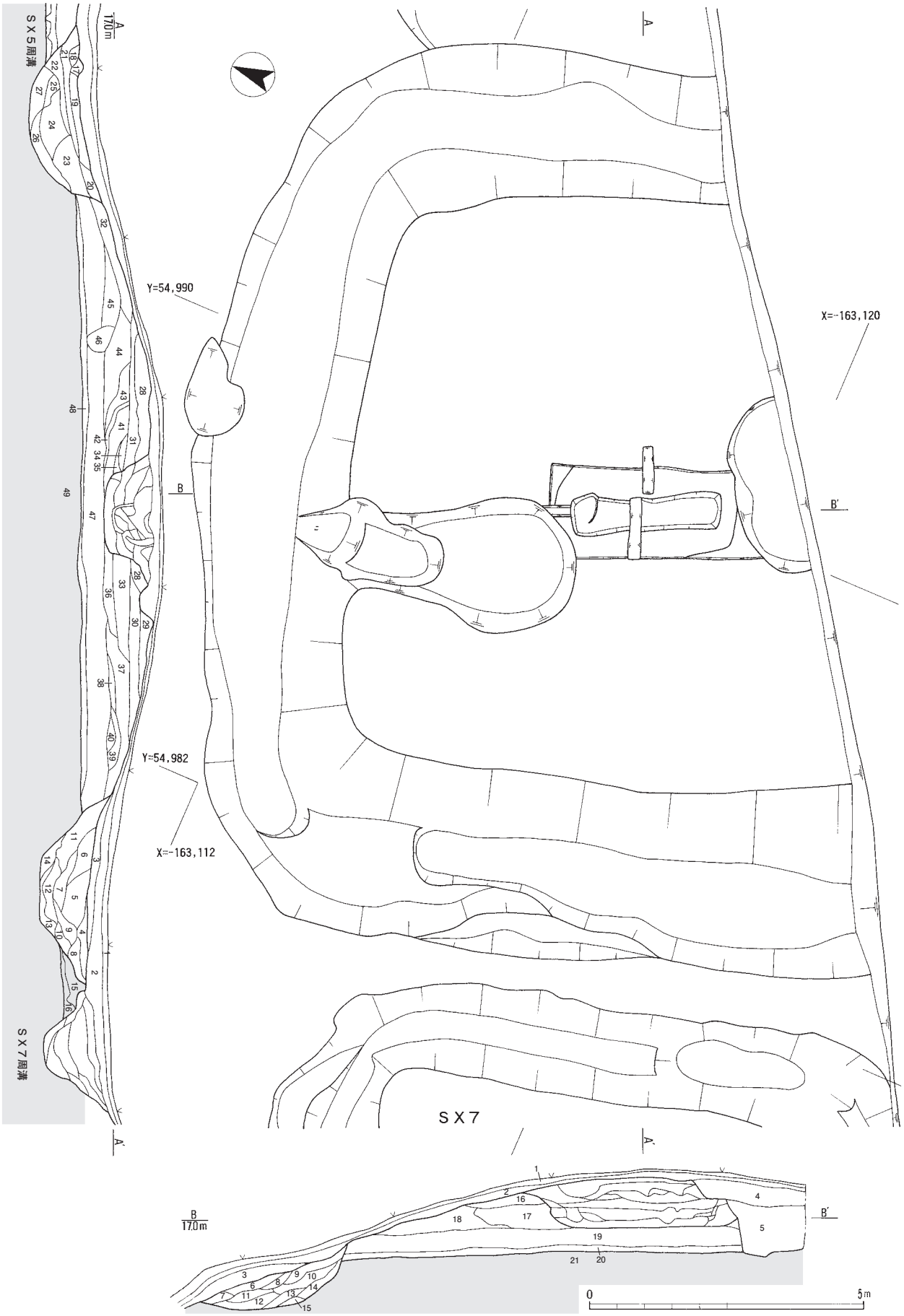
東側周溝内からは３個体出土した。（11）は周溝の東北隅で出土した壺である。口を西に向け、溝底の間には約0.1mの堆積土がある。横転しているものの、本来の現位置に近い位置を保っている可能性が高い。（13）は、（11）の東側の溝の上層からまとまって出土しており、周溝がかなり埋没した後の出土であることから墳丘から転落した遺物の可能性が高いものである。細片ではあったが二重口縁壺である。（12）も北側周溝の底近くから出土した。

西側周溝の調査区壁際からは（10）が出土した。溝の底直上で、細片となって散逸していた。

番号	ＳＸ６　周溝埋土及び墳丘（東西）土層名（第11図左）	備考
1	にぶい黄褐色土10YR5/4（竹の根多く含む腐葉土層）	表土
2	褐色土10YR4/6	表土
3	暗褐土10YR3/4	西側周溝
4	黒褐色土10YR2/3	西側周溝
5	黒褐色土10YR2/2（固く締まる）	西側周溝
6	黒褐色土10YR2/2	西側周溝
7	黒褐色土10YR2/3・黄褐色土10YR5/6少量含む	西側周溝
8	黒褐色土10YR2/2・褐色土10YR4/4混じり	西側周溝
9	黒褐色土10YR2/2	西側周溝
10	黒褐色土10YR2/2・褐色土10YR4/4少量含む	西側周溝
11	黒褐色土10YR2/3	西側周溝
12	黒褐色土10YR2/3・細粒砂と褐色土10YR4/4ブロック含む	西側周溝
13	黒褐色土10YR2/3・褐色土10YR4/4粒混じる（硬く締まる）	西側周溝
14	暗褐土10YR3/4（やや粒子が粗い）	西側周溝
15	暗褐色粘質土10YR3/4	地山
16	褐色粘質土10YR4/4	地山
17	暗褐色土10YR3/3・黄褐色土10YR5/6小礫混じり	東側周溝
18	黒褐色土10YR3/2小礫混じり	東側周溝
19	暗褐色土10YR3/3・黄褐色土10YR5/6混じり	東側周溝
20	黒褐色土10YR2/2	東側周溝
21	黒褐色土10YR2/2	東側周溝
22	黒色土10YR1.7/1（固く締まる）	東側周溝
23	黒褐色土10YR2/2・褐色土10YR4/4混じり	東側周溝
24	黒色土10YR2/1・褐色土10YR4/4小礫混じり（固く締まる）	東側周溝
25	黒色土10YR2/1・褐色土10YR4/4	東側周溝
26	黒褐色土10YR2/3・黄褐色土10YR5/6混じり	東側周溝
27	黒褐色土10YR2/3・褐色土10YR4/4混じり	東側周溝
28	黄褐土10YR5/6・暗褐色土10YR3/3ブロック少量含む	盛土
29	黄褐色土10YR5/6　（固く締まる）	盛土
30	暗褐色土10YR3/4・暗褐色土10YR3/3ブロック少量含む	盛土
31	褐色土10YR4/6・黄褐色土10YR5/6ブロック少量含む	盛土
32	褐色土10YR4/6	盛土
33	褐色土10YR4/4・黄褐色土10YR5/6の混合土	盛土
34	褐色土10YR4/4・黄褐色土10YR5/8ブロック少量含む	盛土
35	褐色土10YR4/4・黄褐色土１０YR5/8の混合土	盛土
36	黄褐色土10YR5/6・褐色土10YR4/4ブロック多く含む	盛土
37	褐色土10YR4/4・黒色土10YR2/1ブロック含む	盛土
38	褐色土10YR4/6・黒色土10YR2/1の混合土	盛土
39	暗褐色土10YR3/3・黒色土10YR2/1ブロック含む	盛土時の堤状盛土
40	暗褐色土10YR3/3・黒色土10YR2/1の混合土	盛土時の堤状盛土
41	暗褐色土10YR3/4・黄褐色土10YR5/8ブロック含む	盛土
42	暗褐色土10YR3/3・黒色土10YR2/1ブロック含む	盛土
43	暗褐色土10YR3/4・黄褐色土10YR5/8ブロック含む	盛土
44	褐色土10YR4/4・黄褐色土10YR5/8ブロック多く含む	盛土
45	暗褐色土10YR3/3・褐色土10YR4/6ブロック多く含む	盛土時の堤状盛土
46	褐色土10YR4/6　（締まり悪い）	攪乱（根）
47	黒色土10YR2/1	旧表土
48	黒褐色土10YR3/2	旧表土
49	黄褐色粘質土10YR5/6	地山

番号	ＳＸ６　周溝埋土及び墳丘（南北）土層名（第11図下）	備考
1	にぶい黄褐色土10YR5/4（竹の根多く含む腐葉土層）	表土
2	褐色土10YR4/6	表土
3	褐色土10YR4/6（締まり悪い）	表土
4	暗褐色土10YR3/3（締まり悪い）	攪乱
5	黒褐色土10YR2/2と黄褐色土10YR5/8の互層	攪乱
6	暗褐色土10YR3/4・褐色土10YR4/4混じり	北側周溝埋土
7	黒褐色土10YR3/2	北側周溝埋土
8	黒褐色土10YR2/3	北側周溝埋土
9	暗褐色土10YR3/3	北側周溝埋土
10	黒褐色土10YR2/3	北側周溝埋土
11	暗褐色土10YR3/3・褐色土10YR4/4混じり	北側周溝埋土
12	黒褐色土10YR3/3・黄褐色土10YR5/8少量含む	北側周溝埋土
13	暗褐色土10YR3/3・黄褐色土10YR5/8混じり	北側周溝埋土
14	黒褐色土10YR2/2・黄褐色土10YR5/8混じり	北側周溝埋土
15	黄褐色土10YR5/6小礫含む	北側周溝埋土
16	褐色土10YR4/6小礫含む	墳丘盛土
17	黄褐色土10YR5/6・黒色土10YR2/1ブロックを含む	墳丘盛土
18	褐色土10YR4/4・黒色土2/1ブロックを含む	盛土時の堤状盛土
19	黒色土10YR2/1	旧表土
20	黒褐色土10YR3/2	旧表土
21	黄褐色粘質土10YR5/6	地山

第２表　ＳＸ６ 東西土層名



第11図　ＳＸ６遺構平面図（１：100）

２）ＳＸ６（第11図）

今回検出した方形周溝墓の中で最も規模が大きいもので、ＳＸ５の西側に位置する。東西規模はＳＸ５同様に事前測量で計測した規模より小さくなり、東側周溝と西側周溝の溝外々で16.5m、墳丘南側は調査区外に延び､南北径は同規模程度と想定できる。墳頂部の標高は17.9m、溝の深さは東側で標高15.6m、西側で標高15.65m、最高部と溝底との比高差は約2.3mである。旧表土である黒色土上に盛られた墳丘盛土の高さは0.8mである。

墳丘の北側では、径３mほどの盗掘坑と考えられる窪地が墳丘斜面に残存しており、墳丘盛土下の旧表土である黒色土まで掘削が及んでいた。墳丘南側でも調査の結果、東西3.5m、南側は調査区外に延びる黒色土と黄褐色粘質土（地山）の互層となっている土坑を確認した。埋土内から近世の遺物が出土したことから、現代の攪乱坑と判断した。墳丘は、これらの盗掘坑及び攪乱坑により壊されていたが、後述する主体部の検出時には、攪乱坑等の壁面精査を行うことにより、主体部を検出する上で非常に参考となった。

埋土の特徴　当初想定していた墳丘規模15mに対して、東西の溝の内々の径は約11mであり、ＳＸ５同様に溝の立ち上がりがかなり内側に入り、墳丘盛土が周溝内に流れ込んでいることが判明した。

墳丘部は、表土直下が墳丘盛土であることが確認できた。周溝上面の遺構検出中に山茶椀など中世の土師器片が混入する場合もあったため、中世の時点までは溝が完没していない可能性も考えられる。５号墳より新しいことは周溝部に設けた東側土層断面で確認できたが、西側土層断面では、ＳＸ７の東側周溝と直接の切り合いがないため、新旧関係は不明であった。

墳丘盛土については、土層断面からＳＸ５同様の構築方法をとることが確認できた。黒褐色土の混じる暗褐色土系の土を墳丘内に沿って、堤状土塁を幅１m、高さ0.2 ～ 0.3m盛土し、その中に褐色系の土を入れて墳丘を構築する。

周溝の特色　遺構検出面からの深さは概ね0.7mと深く、断面形がＳＸ５同様に逆台形を呈し、急な傾斜で内側の墳丘へと立ち上がる。東側の周溝は、ＳＸ５の西側周溝より深い。

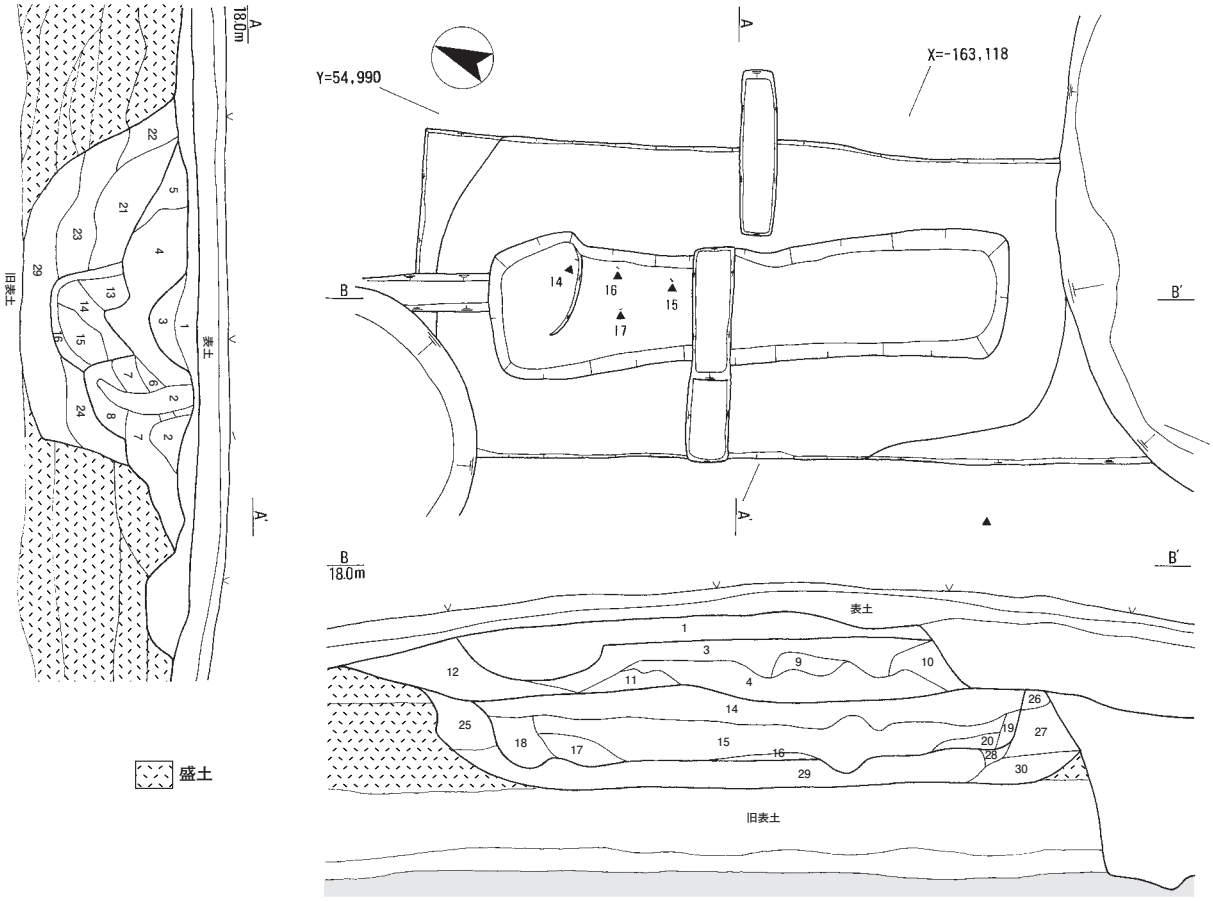
番号	ＳＸ６　主体部埋土　土層名（第12図）	備考
1	褐色土10YR4/4（締まり悪い）	表土（陥没土）
2	暗褐色土10YR3/3	攪乱（根）
3	褐色土10YR4/4と暗褐色土10YR3/3の混合土	陥没土
4	暗褐色土10YR3/3・褐色土10YR4/4ブロック少量含む	陥没土
5	褐色土10YR4/4・暗褐色土10YR3/3ブロック多く含む	陥没土
6	暗褐色土10YR3/3・褐色土10YR4/4ブロック多く含む	陥没土
7	褐色土10YR4/4・暗褐色土10YR3/3ブロック多く含む	陥没土
8	褐色土10YR4/6・暗褐色土10YR3/3ブロック少量含む	陥没土
9	暗褐色土10YR3/3	陥没土
10	暗褐色土10YR3/3と黄褐色土10YR5/8の混合土	攪乱（根）
11	褐色土10YR4/6　小礫（1cm）含む	陥没土
12	褐色土10YR4/4　小礫（１～5mm）含む	陥没土
13	褐色土10YR4/4　暗褐色土10YR3/3ブロック多く含む	棺埋土
14	褐色土10YR4/4・褐色土10YR4/6ブロック少量含む	棺埋土
15	褐色土10YR4/4・暗褐色土10YR3/3ブロック少量含む	棺埋土
16	暗褐色土１０YR3/3・褐色土10YR4/4ブロック少量含む	棺痕跡
17	褐色土10YR4/4と褐色土10YR4/6の混合土	棺埋土
18	褐色土10YR4/4	棺埋土
19	褐色土10YR4/6	棺埋土
20	褐色土10YR4/6・黄褐色土10YR5/8の混合土	棺埋土
21	褐色土10YR4/4・暗褐色土10YR3/3	棺裏込
22	褐色土10YR4/6（締まり強い）	棺裏込
23	褐色土10YR4/6・暗褐色土10YR3/3ブロック少量含む	棺裏込
24	暗褐色土10YR4/6・黄褐色土10YR5/6ブロック多く含み	棺裏込
25	黄褐色土10YR5/6	棺裏込
26	褐色土10YR4/4	棺裏込
27	褐色土10YR4/4・黄褐色土10YR5/8	棺裏込
28	暗褐色土10YR3/3・黒褐色土10YR2/2ブロック含む	棺裏込
29	黄褐色土10YR5/8・暗褐色土10YR3/3ブロック少量含む	棺底整地土
30	褐色土10YR4/4と黄褐色土10YR5/8の混合土	棺底整地土

第３表　ＳＸ６ 主体部土層名

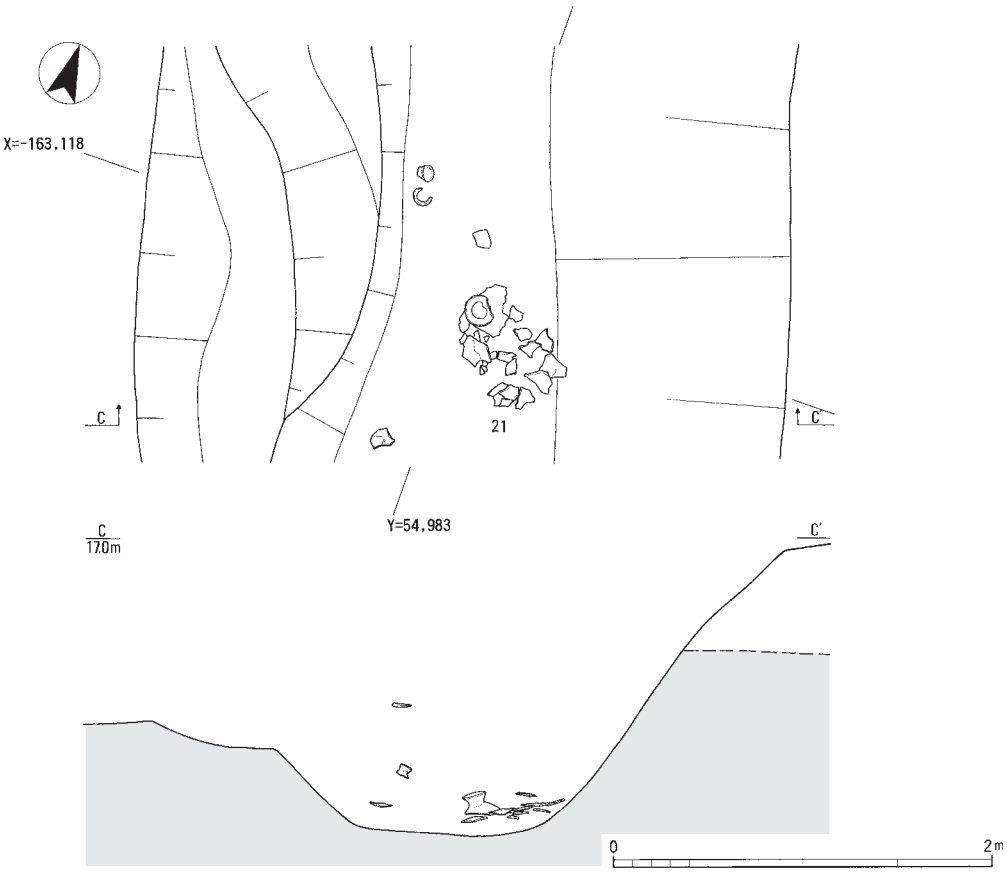
周溝検出時は、周溝外側の遺構検出面とほぼ同レベルで検出を行ったが、土層断面を見ると周溝の切り込み面はさらに上方に延び、切り込み面は表土下0.2 ～ 0.3mであることが確認できた、北側は台地斜面となっており、溝の外側の立ち上がりは低くなっている。

主体部　（第12図）　墳頂中央部で両端にある攪乱坑によって一部壊されている。南北長3.3m、東西幅1.8mの南北方向の墓壙を検出した。

墳丘上面での検出を試みたが、竹根などにより表土除去しただけでは困難と判断した。そのため、４分割で畦畔用土層を残して、平面を５㎝ずつ削り込んで遺構検出を数度試みた。0.6m下げたところで中央付近には黒褐色土が認められ、墓壙と思われるものの範囲を想定することができた。墓壙は、当初予想した南北畦畔から若干外れるため、南北の畦畔を西に0.5mずらして掘削を継続した。サブトレを先行して確認したところ、黒褐色土は平面と土層断面の検討から主体部が腐って上側の土が落ち込んできた陥没土と考えるのが妥当と判断した。



第12図　ＳＸ６主体部　遺構平面図（１：40）



第13図　ＳＸ６西側周溝　遺物出土状況図（１：40）

墓壙の検出は非常に困難であったが、陥没土が南北に延びることから、南北方向の軸線の主体部であることが想定できた。攪乱坑の断面精査、畦畔の土層断面精査を繰り返し行った結果、東西1.8m、南北幅3.3mの墓壙を確認するに至った。

墓壙内の埋土は、墳丘盛土との判別が非常に困難であり、東西・南北方向に残した土層断面を確認しつつ、土層断面用の畦畔に沿って入れたサブトレを併用して精査を行った。

この結果、東西トレンチ土層断面では内側に向かって暗褐色土が窪み状に認められ、平面精査でも墓壙の中央に細長くあることが確認できたため、陥没土の判断を裏付けた。

土層断面から墓壙の深さは墳丘盛土内に収まり、墳頂の墓壙掘り込み面からの深さは0.7mあることが確認できた。木棺は腐敗し、板の厚さなどは確認できなかったが、底面の下が緩いカーブを持っているため、組み合わせ式の木棺の可能性は低いと判断した。この後、墓壙内を一段下げて木棺の平面精査を行い、長さ2.75m、幅0.6mの主体部を検出した。平面精査でも小口部分は組み合わせの形態ではないと判断されること、断面で底面が丸く弧を描くことから割竹形の木棺と考えた。

主体部内部は４分割で掘り下げて精査した。この結果、北東部の中央に近い位置で管玉４点を出土したが、配置には規則性は認められず、原位置は保っていないものと考えられる。また、墓壙内の排土はすべて取り上げて洗浄を行った。この結果、４分割した東北部の埋土から管玉１点と小玉１点を確認することができた。

遺物（第12・13図） 主体部からの遺物は、碧玉製管玉６点（14 ～ 19）と硬玉製丸玉１点（20）があるだけでほかの遺物は出土していない。

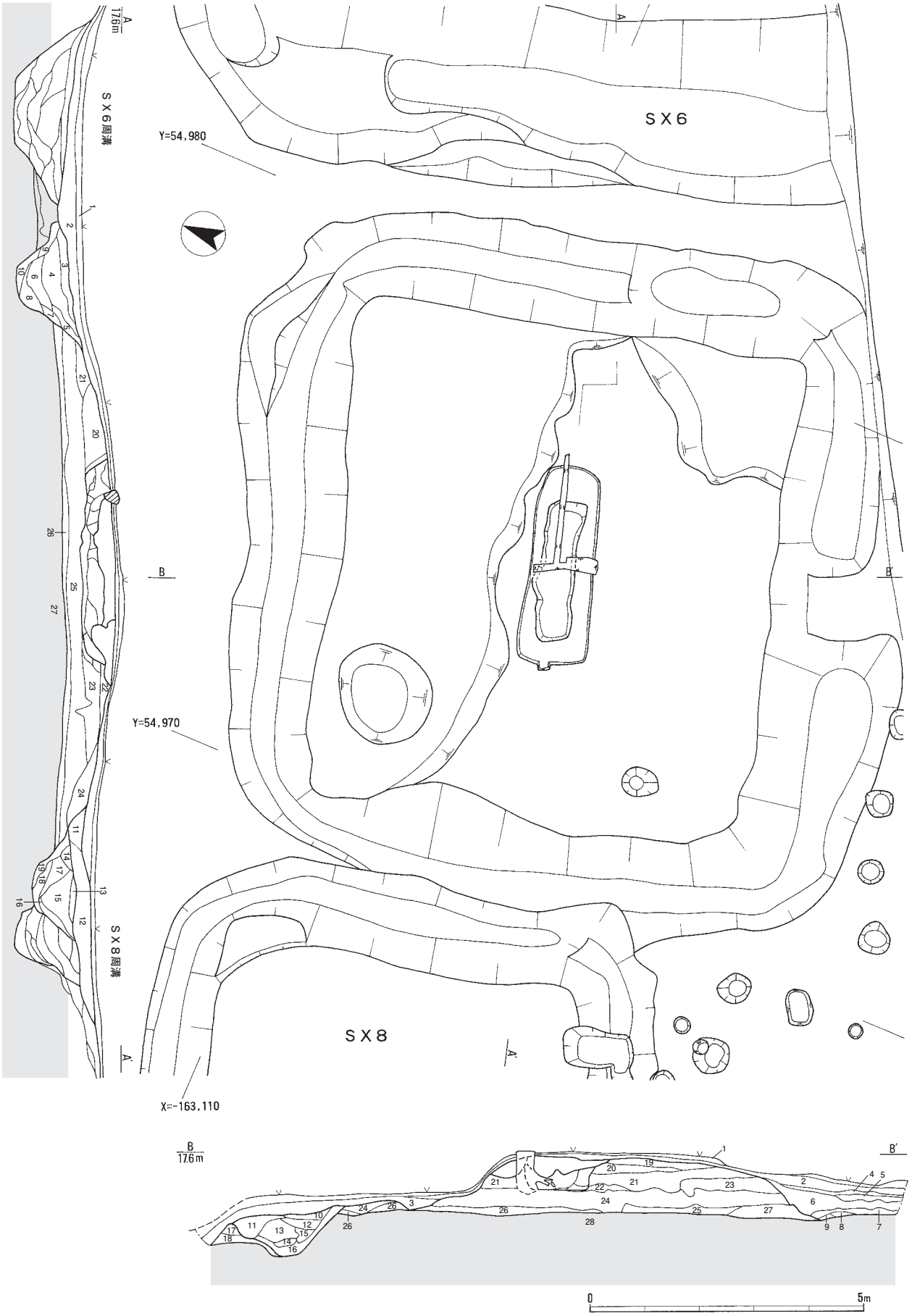
周溝内からの遺物は、西側周溝の底から土師器壺（21）が出土した。

溝埋土上層からは土師器鉢（63）･台付き甕（67）、須恵器器台（69）など古墳時代中頃のものから須恵器杯（68）のように奈良時代まで下がるものが少量出土している。なお、土師器甕（64・65）は奈良時代の範疇であろうか。

番号	ＳＸ７　周溝埋土及び墳丘（東西）土層名（第14図左）	備考
1	にぶい黄褐色土10YR5/4（竹の根多く含む腐葉土層）	表土
2	褐色土10YR4/6	表土
3	黒褐色土10YR2/3・褐色土10YR4/4混じる	東側周溝
4	黒褐色土10YR2/2・小礫少量含む	東側周溝
5	黒褐色土10YR2/2　黄褐色土10YR5/6少量含む	東側周溝
6	黒色土10YR2/1（固く締まる）	東側周溝
7	黒褐色土10YR2/2・黄褐色土10YR5/6少量含む（締まり悪い）	東側周溝
8	黒褐色土10YR2/2・褐色土10YR4/4混じる	東側周溝
9	黒褐色土10YR2/3・褐色土10YR4/4混じる	東側周溝
10	黒色土10YR3/1・褐色土10YR4/4混じる	東側周溝
11	褐色土10YR4/6（ややしまる）	溝上面埋没土
12	褐色土10YR4/6黒褐色土10YR3/3混じる	溝上面埋没土
13	黒褐色土10YR2/2・褐色土10YR4/4混じる	西側周溝
14	黒褐色土10YR2/2（硬くしまる）	西側周溝
15	黒褐色土10YR2/2・褐色土10YR4/4混じる（硬くしまる）	西側周溝
16	黒褐色土10YR2/2・褐色土10YR4/6混じる	西側周溝
17	黒褐色土10YR2/2・小礫含む	西側周溝
18	黒褐色土10YR2/2・褐色土10YR4/4混じる	西側周溝
19	黒褐色土10YR2/2・黄褐色土10YR5/6混じる	西側周溝
20	褐色土10YR4/4	墳丘盛土
21	暗褐色土10YR3/3・褐色土10YR4/4ブロック含む	盛土時の堤状盛土
22	暗褐色土10YR3/3・黄褐色土10YR5/8ブロック少量含む	墳丘盛土
23	褐色土10YR4/4・黄褐色土10YR5/6ブロックを含む	墳丘盛土
24	褐色土10YR4/6・黒色土10YR2/1の混合土	墳丘盛土
25	黒色土10YR2/1	旧表土
26	黒褐色土10YR3/2	旧表土
27	黄褐色粘質土10YR5/6	地山

番号	ＳＸ７　周溝埋土及び墳丘（南北）土層名（第14図下）	備考
1	にぶい黄褐色土10YR5/4（竹の根多く含む腐葉土層）	表土
2	褐色土10YR4/6	表土
3	暗褐色土10YR3/4（しまりない）	
4	黒褐色土10YR2/2・褐色土10YR4/4混じり（固く締まる）	
5	黒色土10YR1.7/1・褐色土10YR4/4少量含む	
6	黒色土10YR1.7/1・褐色土10YR4/4混じる	
7	黒褐色土10YR2/2・黄褐色土10YR5/6ブロック混じる	
8	暗褐色土10YR3/3	
9	暗褐色土10YR3/2	
10	黒褐色土10YR2/3（締まり悪い）	北側周溝
11	暗褐色土10YR3/4・黒褐色土10YR2/3混じる（固く締まる）	北側周溝
12	黒褐色土10YR2/2・褐色土10YR4/4混じる	北側周溝
13	黒色土10YR2/1・褐色土10YR4/4混じる	北側周溝
14	黒褐色土10YR2/2・黄褐色土10YR5/6混じる	北側周溝
15	黒褐色土10YR2/2・黄褐色土10YR5/6と褐色土10YR4/4混じる	北側周溝
16	黒褐色土10YR2/2・黄褐色土10YR5/6混じる（固く締まる）	北側周溝
17	暗褐色土10YR3/4（固く締まる）	北側周溝
18	暗褐色土10YR3/4・黄褐色土10YR5/6混じる	北側周溝
19	黄褐色土10YR5/6	盛土
20	暗褐色土10YR3/3	盛土
21	褐色土10YR4/6	盛土
22	褐色土10YR4/4・黄褐色土10YR5/6と黒褐色土10YR2/2ブロック含む	盛土
23	褐色土10YR4/4・黒色土10YR2/1ブロック含む	盛土時の堤状盛土
24	黒色土10YR2/1	旧表土
25	暗褐色土10YR3/4	旧表土
26	暗褐色土10YR3/4・黄褐色土10YR5/6	旧表土
27	黄褐色土10YR5/6・黒色土10YR2/1混じる	旧表土
28	黄褐色粘質土10YR5/6	地山

第４表　ＳＸ７ 東西・南北土層名



第14図　ＳＸ７遺構平面図（１：100）

３）ＳＸ７（第14図）

ＳＸ６の西側に位置し、北側墳丘が削平されている方形周溝墓である。

南北規模は、北側周溝と南側周溝外々で13.0m、東西規模は北側周溝と南側周溝外々で12.3mで、南側中央部は溝が途切れて陸橋となる。墳頂部の標高は17.6m、溝の深さは東側で16.7m、西側で16.6m、最高部と溝底との比高差は約１mである。西側に位置するＳＸ８とは周溝が一部重複している。ＳＸ８との関係を確認するため、斜方向に土層畦畔を残しており、断面精査からＳＸ７が新しいことを確認した。

北側墳丘の盛土部分はすでに削平されており、東西に残る墳丘の断面精査により中央部に主体部の痕跡と思われるものが確認できた。また、墳丘中央部には樹木が２本残存しており、表土を除去した段階で根に絡むように土師器壺（28）が横転した状況で顔を覗かせていた。

ＳＸ６の主体部を精査中であったため、ＳＸ７でも同様に主体部の検出が予想されたが、樹木があることから、困難な作業になるものと想定できた。

埋土の特徴　当初想定していた墳丘規模11mに対して、調査で判明した東西の溝内々の径は約10mであり、ＳＸ５同様に溝の立ち上がりが内側に入り、墳丘盛土が周溝内に流れ込んでいることが判明した。遺構検出は、墳丘部で表土直下は墳丘盛土であることが確認できた。

ＳＸ８より新しいことは西側周溝部に斜方向に設けた土層断面で確認できたが、東側にある土層断面ではＳＸ６との関係は直接の切り合いがないため不明であった。

墳丘盛土については、旧地表面上に約0.5mあることが確認できた。ＳＸ５同様の構築方法をとるものと思われるが、堤状盛土は東・南土層断面で確認できたが、西側では確認できていない。東側では幅1.2m、高さ0.3m、南側では幅1.8m、高さ0.3mの堤状土塁が確認でき、その中に褐色土系の土を入れて墳丘を構築する。なお、北側の墳丘は削平を受けているため、盛土は残っていなかった。

周溝の特色　遺構検出面からの周溝の深さは概ね0.8mで、断面形が逆台形を呈し、内側の墳丘の残りが良くないものの急な傾斜である。東側の周溝は、ＳＸ６の西側周溝より浅く、北側は台地斜面となっており、溝の外側の立ち上がりは低くなっている。また、南側周溝は、中央が途切れており、陸橋となることが確認できた。

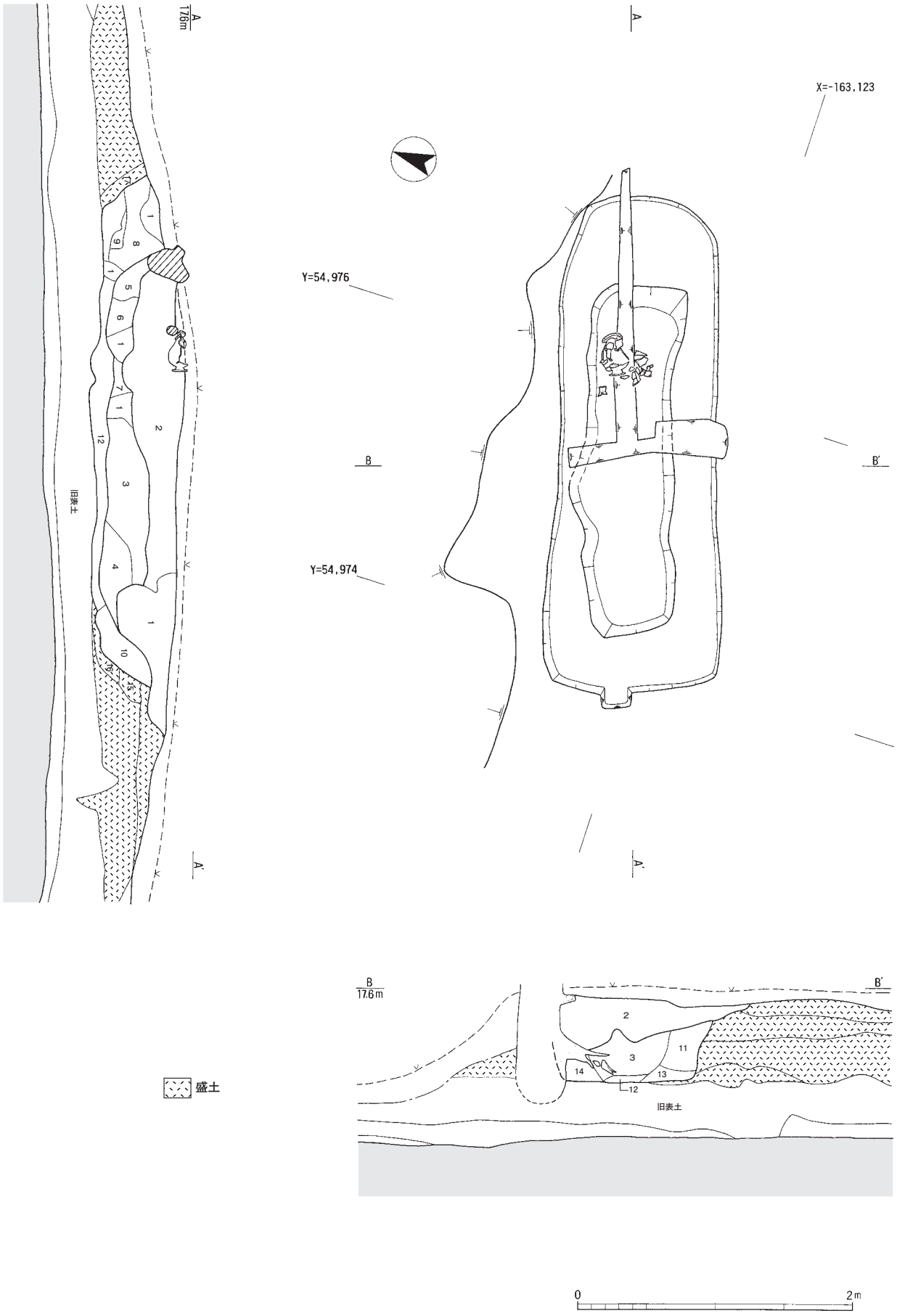
番号	ＳＸ７　主体部埋土　土層名（第15図）	備考
1	暗褐色土10YR3/3（締まり悪い）	攪乱
2	暗褐色土10YR3/3	陥没土
3	暗褐色土10YR3/3・黄褐色土10YR5/8と黒褐色土10YR2/2ブロックを含む	棺埋土
4	褐色土10YR4/4	棺埋土
5	褐色土10YR4/4・黄褐色土10YR5/8ブロック少量含む	棺埋土
6	褐色土10YR4/4・暗褐色土10YR2/2ブロック少量含む	棺埋土
7	褐色土10YR4/4	棺埋土
8	褐色土10YR4/4（しまり弱い）	棺裏込
9	黄褐色土10YR5/6	棺裏込
10	暗褐色土10YR3/3・黄褐色土10YR5/8と黒褐色土10YR2/2と黄褐色土10YR5/8ブロック含む	棺裏込
11	褐色土10YR4/4・黄褐色土10YR5/8ブロック多く含む	棺裏込
12	暗褐色土10YR4/4・黒褐色土10YR2/2と黄褐色土10YR5/8ブロック少量含む	棺底整地土
13	暗褐色土10YR4/4（硬くしまる）	棺底整地土
14	暗褐色土10YR4/4・黄褐色土10YR5/8ブロック多く含む	棺底整地土
15	暗褐色土10YR3/4	盛土
16	黒褐色土10YR2/2	盛土
17	暗褐色土10YR3/3・黒褐色土10YR2/2の混合土	盛土

第５表　ＳＸ７ 主体部土層名

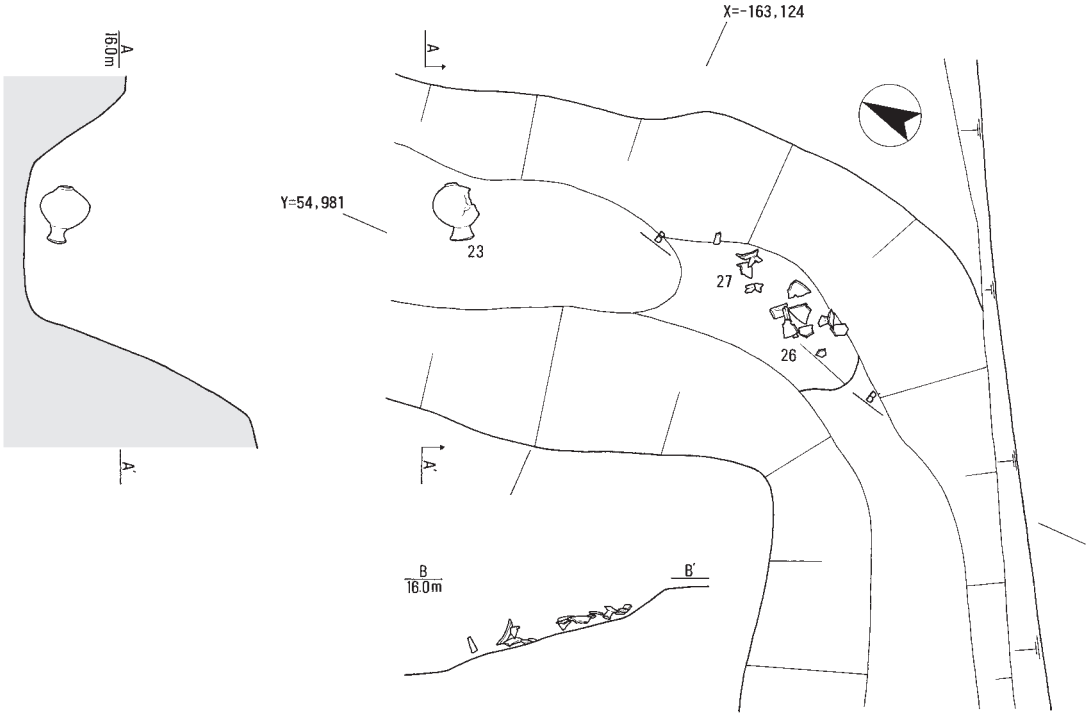
主体部　（第15図）　墳丘の現状は、北側半分が削平を受け、墳丘中央に切り株が２本残っていた。墳丘上面の表土を除去しただけで、切り株の周辺で土師器壺、高杯の破片が集中して顔を除かせており、壺については１個体が横に転倒して上半部がなくなっている状況であった。（第18図参照）

墳丘北側が削平されている断面を精査したところ、東西方向に延びる墓壙埋土と思われる土層がおぼろげながら確認できたが、土層の識別が困難なこと、樹木切り株が中央に２本残ることから、遺構検出が困難であった。

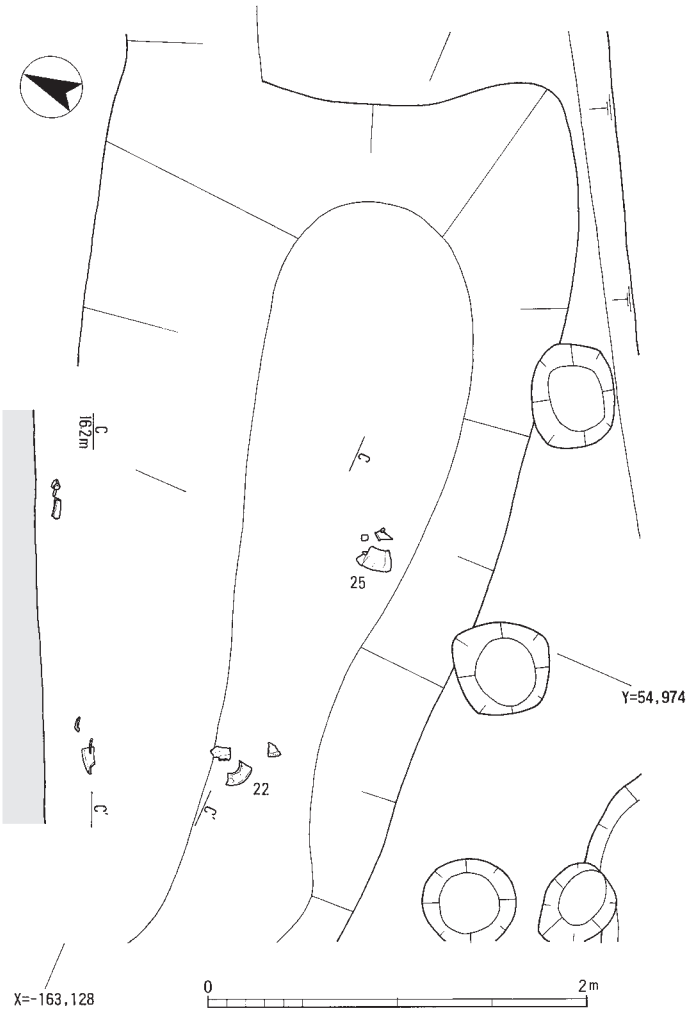
主体部が判明していなかったが、遺物周辺の埋土を確認したところ、遺物を中心に東西に細長く黒褐色土が認められた。この土層のあり方は、ＳＸ６での主体部陥没土である暗褐色土の状況と類似するため、主体部の棺が腐って、上側の土が落ち込んできた陥没土の可能性が高いと判断し、表土近くで確認できた遺物は、主体直上の埋葬に伴う遺物ではないかと考えた。また、主体部が確認できた後の土層断面でも陥没土が木棺内まで落ち込んでいる状況を示しており、陥没土上面に



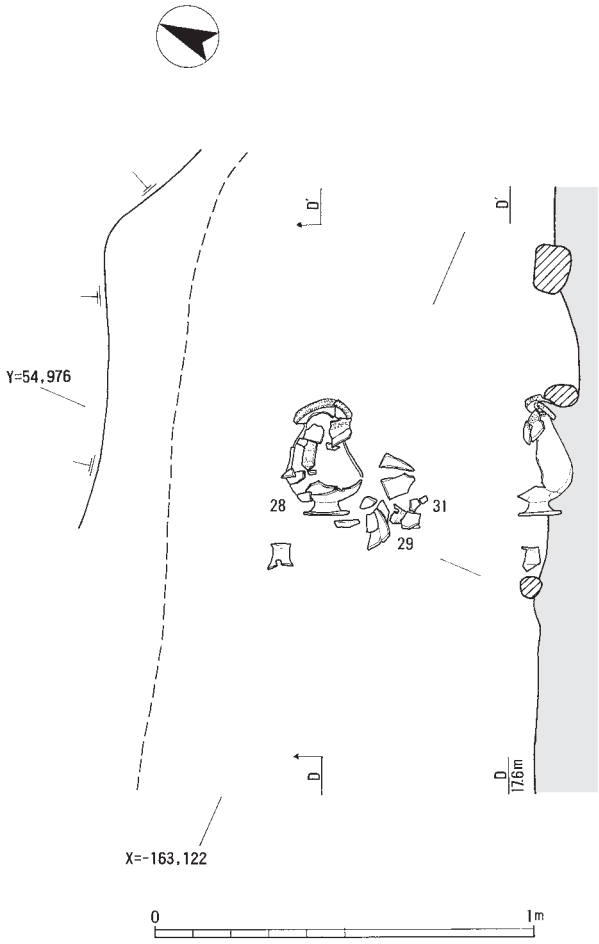
第15図　ＳＸ７主体部　遺構平面図（１：40）



第16図　ＳＸ７東南隅周溝　遺物出土状況図（１：40）



第17図　ＳＸ７南側周溝　遺物出土状況図（１：40）



第18図　ＳＸ７主体部直上　遺物出土図（１：20）

遺物が置かれていたことが確認できた。

６・７号墓同様に四分割で畦畔を残しながら、確認を行った結果、墓壙の検出は非常に困難であったが、削平を受けた断面に一部墓壙と思われる堆積が認められることから、東西方向の軸線の主体部であることが想定できた。断面精査、畦畔の断面精査を繰り返し行い、幅1.1 ～ 1.3m、東西の長さ3.6mの墓壙を確認することができた。

墓壙内の埋土は、墳丘盛土との判別の困難さや樹根・竹根により土層の確認が困難であったが、東西方向に残した土層断面や西側土層断面を確認しつつ、土層断面用の畦畔に沿って入れたサブトレを併行して精査を行った。

この結果、東西土層断面の中央に暗褐色土が認められ、上から落ち込む陥没土とも矛盾しないと判断した。土層断面から墓壙の深さは墳丘盛土内に収まり、墳頂の墓壙掘り込み面からの深さは0.5mあることが確認できた。木棺は腐敗していたため、板の厚さなどはＳＸ６同様に確認できなかったが、主体部底面が緩いカーブを持っているため、ＳＸ６同様に組み合わせ式の木棺の可能性は低いと考え割竹形木棺と判断した。

主体部の検出は、墓壙内を一段下げて木棺の平面精査を行い、長さ2.55m、幅0.6 ～ 0.75mの主体部を検出した。

平面精査でも木棺の小口部分は組み合わせの形態ではないこと、木棺の底面が丸く弧を描くことから、割竹形の木棺と判断した。主体部内部は４分割で掘り下げ、排出した土もすべて洗浄を行ったが、主体部内からの遺物は、ほとんどない。

遺物　主体部直上の埋葬に伴うと考えられる供献用の遺物と周溝の埋土から出土した遺物がある。

主体部直上に供献された遺物（第18図）は、全体像が復元できる土師器壺（28）・高杯（29）のほか、壺（30）や高杯脚の破片（31・32）があり、多くの器種が供献されていたことが窺える。壺（28）は横転していたため上半部が散逸していた。

周溝から出土したものには、東側周溝底（第16図）から完形の土師器壺（23）、その南側では押しつぶされた状況で高杯（26・27）、南西隅周溝（第17図）から陸橋にかけての溝底からは土師器壺（22）・高杯（25）などがある。

４）ＳＸ８（第19図）

ＳＸ７の西側にある最も小形な方形周溝墓である。当初は、墳丘規模径８ｍと想定し、四分割による畦畔を残して周溝の検出を行った。南北方向の畦畔はさらに南に延ばして、調査区を横断する形で設けたが、西側での畦畔沿いに開けたサブトレでは予定位置では周溝が検出されず、内側にかなり入ったところで確認することができた。この結果、南北畦畔は墳丘中心を通っていないことが明らかとなったため、主体部確認時及び墳丘立ち割時は南北畦畔を設定し直して調査を行った。

墳丘の最頂部は標高17.3mである。南北規模は南北の溝内々の径で７ｍ、東西周溝内々の径で6.5mとほぼ正方形に近い墳形を呈し、南辺の西よりに陸橋部が設けられる。

溝の深さは、東側で海抜15.8m、西側で16.2m、最高部と溝底との比高差は約1.5mである。東側に位置するＳＸ７とは周溝が重複することが予想され、ＳＸ７とＳＸ８の重複関係を確認するために設けた斜方向の土層断面により、ＳＸ８が古いことを確認した。

埋土の特徴　当初想定していた墳丘規模８ｍに対して、南北の溝の内々の径は約7.0mであり、ＳＸ５～７同様に溝の立ち上がりがかなり内側に入り、墳丘が削平を受けていることが判明した。

墳丘部では、検出前の墳頂部の標高は、17.3mと周辺の地表より約0.2m高いだけで、全体に削平を受けていることが予想された。このため、墳丘は残存していないと考えていたが、表土直下には墳丘盛土が残っていた。

墳丘は旧表土上面に盛土されており、墳丘盛土の厚さが0.3mであることが確認できた。墳丘の盛土方法については、薄いため他の方形周溝墓ほど明確に識別できなかった。

周溝の特色　遺構検出面からの周溝の深さは、深いところで1.7mと他の方形周溝墓と比較して深くなっている。断面形が逆台形を呈し、内側の傾斜は急で墳丘へと立ち上がる。

東側の周溝は、ＳＸ７の南側より深く、北側は台地斜面となっているため、溝の外側の立ち上がりは低くなっている。また、南側周溝は、掘立柱建物Ｓ

Ｂ22の北側柱列と重複しており、当初は、柱穴を確認しないで掘り下げていた。西よりで周溝が途切れており、陸橋となる。

主体部　（第20図）　地表面は竹根が墳丘全面を覆って密集していたため、遺構検出が困難であったが、墳頂中央部で残りの悪い浅い墓壙を確認することができた。

表土を除去すると褐色土系の盛土が確認できたため、主体部の残存が期待された。４分割で0.2mほど掘り下げたが、明確に墓壙を認識することができなかった。このため、畦畔に沿ってサブトレを入れて、旧地表面である黒色土まで下げた。この結果、盛土は0.3mとわずかしか残存していないことが確認できた。

畦畔の断面精査と平面精査を繰り返して行い、表土から0.2mほど下げた段階で墳丘中央付近に東西に広がる黄褐色粘土と黒色土がまだらに入る混土層を確認することができた。明確に主体部と断定できる墓壙ではないが、位置から見て墓壙と判断し、主体部は大半が削平を受け、墓壙埋土の下部がわずかに残存しているものではないかと推定した。

この範囲を墓壙として掘り下げた結果、墓壙は非常に浅く深さ0.05m、幅1.7m、東西の長さ3.25mの東西方向の墓壙であることを確認したが、棺跡は検出できなかった。

土層断面から墓壙の深さは、墳丘盛土内に収まり、墳頂の墓壙掘り込み面からの深さは0.2mあることが確認できた。墓壙内部は４分割で掘り下げたが、遺物は出土していない。

遺物　（第21・22図）　遺物は、南西隅周溝内の溝底から土師器高杯（33）、陸橋部東側の溝底直上から土師器壺（35）、北東隅周溝内では底面から0.2mほど上で横転した土師器壺（37）が出土した。出土状況から、供献用の遺物と考えられる。

このほか、墳丘上面精査中に、弥生時代前期の遺物数点（１～４・７・８）と古墳時代後期から奈良時代にかけての遺物数点が出土した。

土師器杯（70）、須恵器杯蓋（72）は奈良時代の前半に、土師器杯（71）は奈良時代より下る可能性が高い。これらの遺物は、南側にある掘立柱建物が建てられた時期と関係する可能性も若干残る。

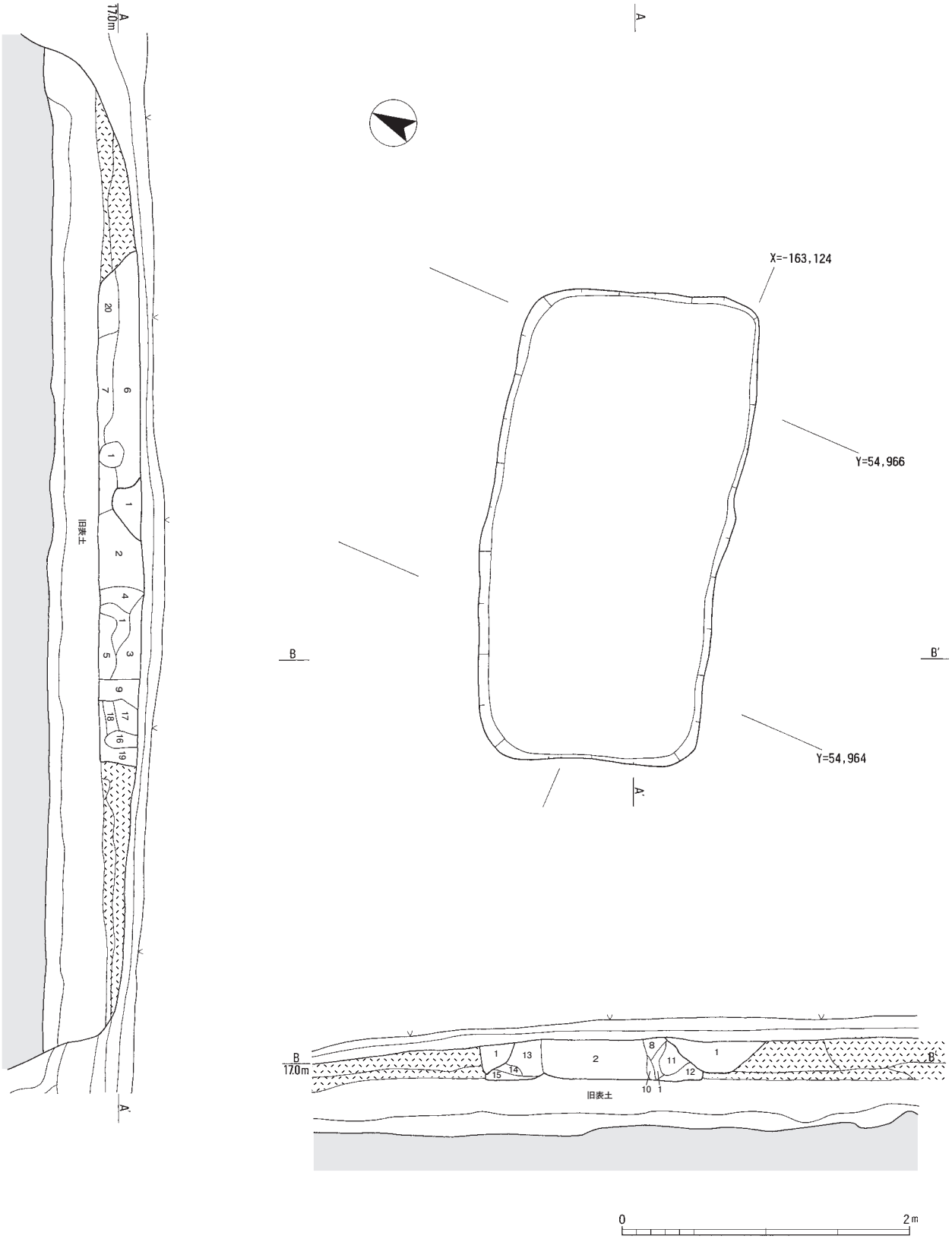
番号	ＳＸ８　周溝埋土及び墳丘（東西）土層名（第19図左）	備考
1	にぶい黄褐色土10YR5/4（竹の根多く含む腐葉土層）	表土
2	褐色土10YR4/6	表土
3	黒褐色土10YR2/3	溝上埋没土
4	黒褐色土10YR2/2	西側周溝
5	黒褐色土10YR2/2　褐色土10YR4/4少量含む	西側周溝
6	黒褐色土10YR2/2　黄褐色土粒10YR5/6・褐色土10YR4/4含む	西側周溝
7	黒褐色土10YR2/3　褐色土10YR4/4ブロック多く含む	西側周溝
8	黒褐色土10YR2/3　褐色土10YR4/4多く含む	西側周溝
9	黒褐色土10YR2/3　黄褐色土10YR5/6混じる	西側周溝
10	黒褐色土10YR2/2　褐色土粒10YR4/4少量含む	東側周溝
11	黒褐色土10YR2/2　黄褐色土粒10YR5/6・小礫少量含む	東側周溝
12	黒褐色土10YR2/2　褐色土粒10YR4/4少量含む	東側周溝
13	黒褐色土10YR2/2　黄褐色土粒10YR5/6少量含む	東側周溝
14	黒色土10YR2/2　褐色土10YR4/4混じる（硬く締まる）	東側周溝
15	黒褐色土10YR2/2　（硬く締まる）	東側周溝
16	黒褐色土10YR2/2　黄褐色土10YR5/6ブロック含む	東側周溝
17	黒褐色土10YR2/2　褐色土10YR4/4多く含む	東側周溝
18	にぶい黄褐色土10YR4/3	盛土
19	黒褐色土10YR2/2	盛土
20	褐色土10YR4/4　黄褐色土10YR5/8ブロック少量含む	盛土
21	黒色土10YR2/1	旧表土
22	黒褐色土10YR2/3　黒色土10YR2/1混じり	旧表土
23	黄褐色粘質土5/8	地山
24	黒褐色土10YR2/2	旧表土
25	褐色土10YR4/4　黒褐色土10YR3/2含む	地山

番号	ＳＸ８　周溝埋土及び墳丘（南北）土層名（第19図下）	備考
1	にぶい黄褐色土10YR5/4（竹の根多く含む腐葉土層）	表土
2	褐色土10YR4/6	表土
3	黒色土10YR2/1　褐色土10YR4/4混じり	南側周溝
4	黒褐色土10YR2/2　黄褐色土10YR5/6少量含む	南側周溝
5	黒褐色土10YR2/2　黄褐色土10YR5/6少量含む（硬く締まる）	南側周溝
6	黒色土10YR2/1　褐色土10YR4/4混じり	南側周溝
7	黒褐色土10YR2/2　黄褐色土10YR5/6	南側周溝
8	黒褐色土10YR2/2　褐色土10YR4/4多く含む	南側周溝
9	黒褐色土10YR2/2　褐色土10YR4/4ブロック混じる（硬く締まる）	南側周溝
10	黒褐色土10YR2/3　黄褐色土粒10YR5/6粒混じる	南側周溝
11	黒褐色土10YR2/3　黄褐色土粒10YR5/6粒混じる	南側周溝
12	黒褐色土10YR2/2　褐色土10YR4/4混じり（硬く締まる）	北側周溝
13	黒褐色土10YR2/3・褐色土10YR4/4混じり	北側周溝
14	黄褐色土10YR5/6・黒褐色土10YR2/3混じり	北側周溝
15	褐色土10YR4/4（締まり弱い）	攪乱
16	暗褐色土10YR3/3（締まり弱い）	盛土
17	褐色土10YR4/6・黄褐色土10YR5/8ブロック多く含む	盛土
18	黒褐色土10YR2/2	盛土
19	暗褐色土10YR3/3	盛土
20	暗褐色土10YR3/3	土坑
21	黒色土10YR2/1	旧表土
22	暗褐色土10YR2/3と黒色土10YR2/1の混合土	旧表土
23	黄褐色土10YR5/8	地山
24	暗褐色土10YR3/4・黄褐色土10YR5/6混じり	溝
25	暗褐色土10YR3/3	溝
26	黒褐色土10YR2/3	旧表土
27	褐色粘質土10YR4/4	地山

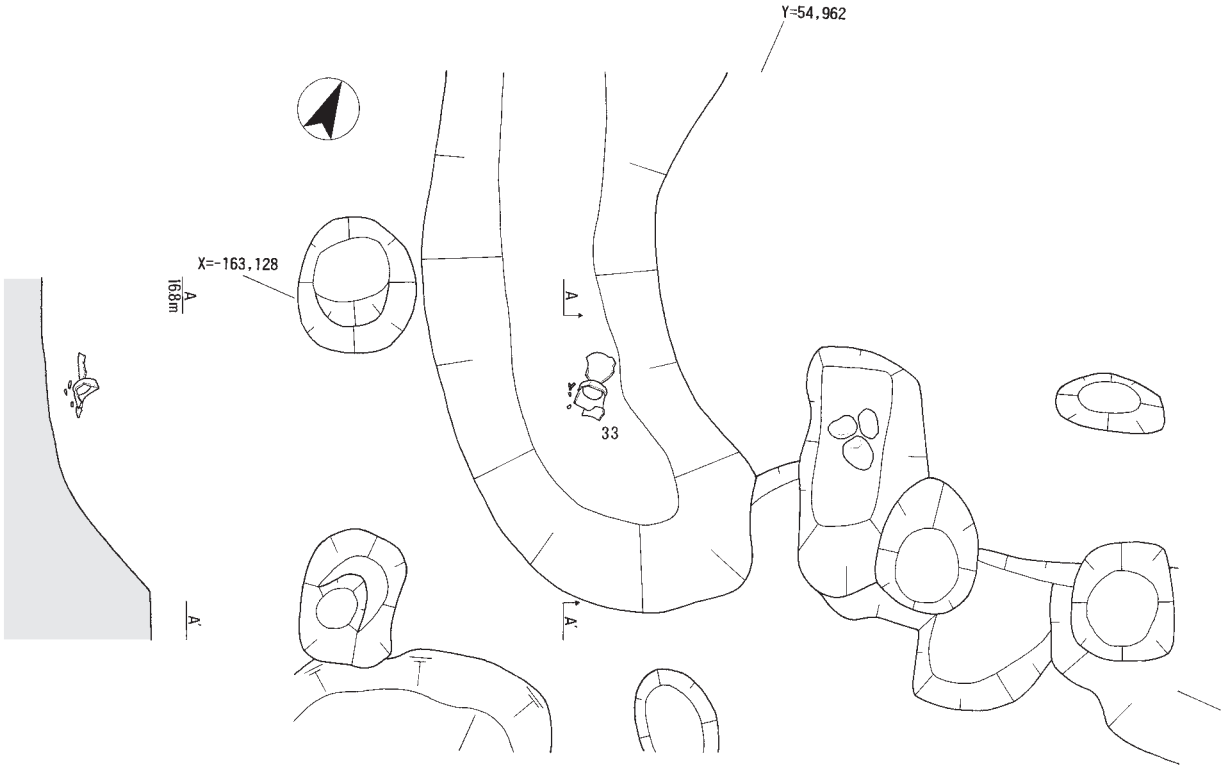
番号	ＳＸ８　主体部埋土　土層名（第20図）	備考
1	褐色土10YR4/4・黄褐色土10YR5/8ブロック含む	攪乱
2	暗褐色土10YR2/2と褐色土10YR4/4の混合土	棺内埋土
3	褐色砂質土10YR4/4	棺内埋土
4	褐色土10YR4/4	棺内埋土
5	暗褐色土10YR3/3と黄褐色土10YR5/8の混合土	棺内埋土
6	にぶい黄橙色土10YR6/4	棺内埋土
7	黄褐色土10YR5/6と黒褐色土10YR2/2の混合土	棺内埋土
8	褐色土10YR4/4	棺内埋土
9	暗褐色土10YR3/3	棺痕跡？
10	黒褐色土10YR1/3	棺痕跡？
11	暗褐色土10YR3/4（締まり良）	裏込め土
12	黄褐色土10YR5/8・黒褐色土10YR2/2の混合土	裏込め土
13	褐色土10YR4/4・黄褐色土10YR5/8と黒色土10YR1/2ブロック含む	裏込め土
14	にぶい黄褐色土10YR4/3	裏込め土
15	黒褐色土10YR1/2・暗褐色土10YR2/3の混合土	裏込め土
16	黒褐色土10YR3/2	裏込め土
17	褐色土10YR4/4	裏込め土
18	浅黄橙色土10YR8/4と黄褐色土10YR5/8の混合土	裏込め土
19	黒褐色土10YR3/2	裏込め土
20	黒褐色土10YR2/2・にぶい黄橙色土10YR6/4ブロック含む	裏込め土

第６表　ＳＸ８ 土層名

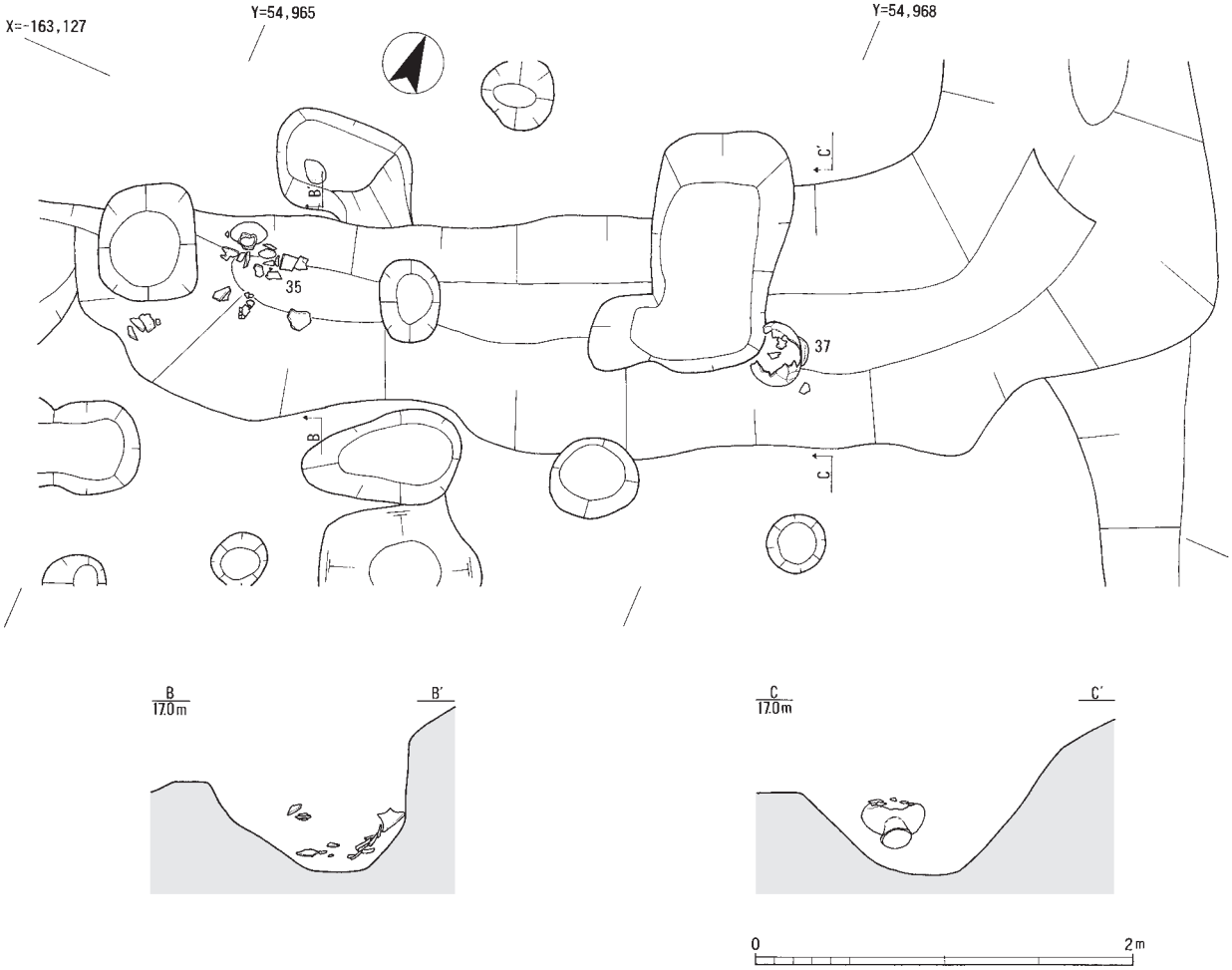
第19図　ＳＸ８遺構平面図（１：100）



第20図　ＳＸ８主体部　遺構平面図（１：40）



第21図　ＳＸ８西側周溝　遺物出土状況図（１：40）



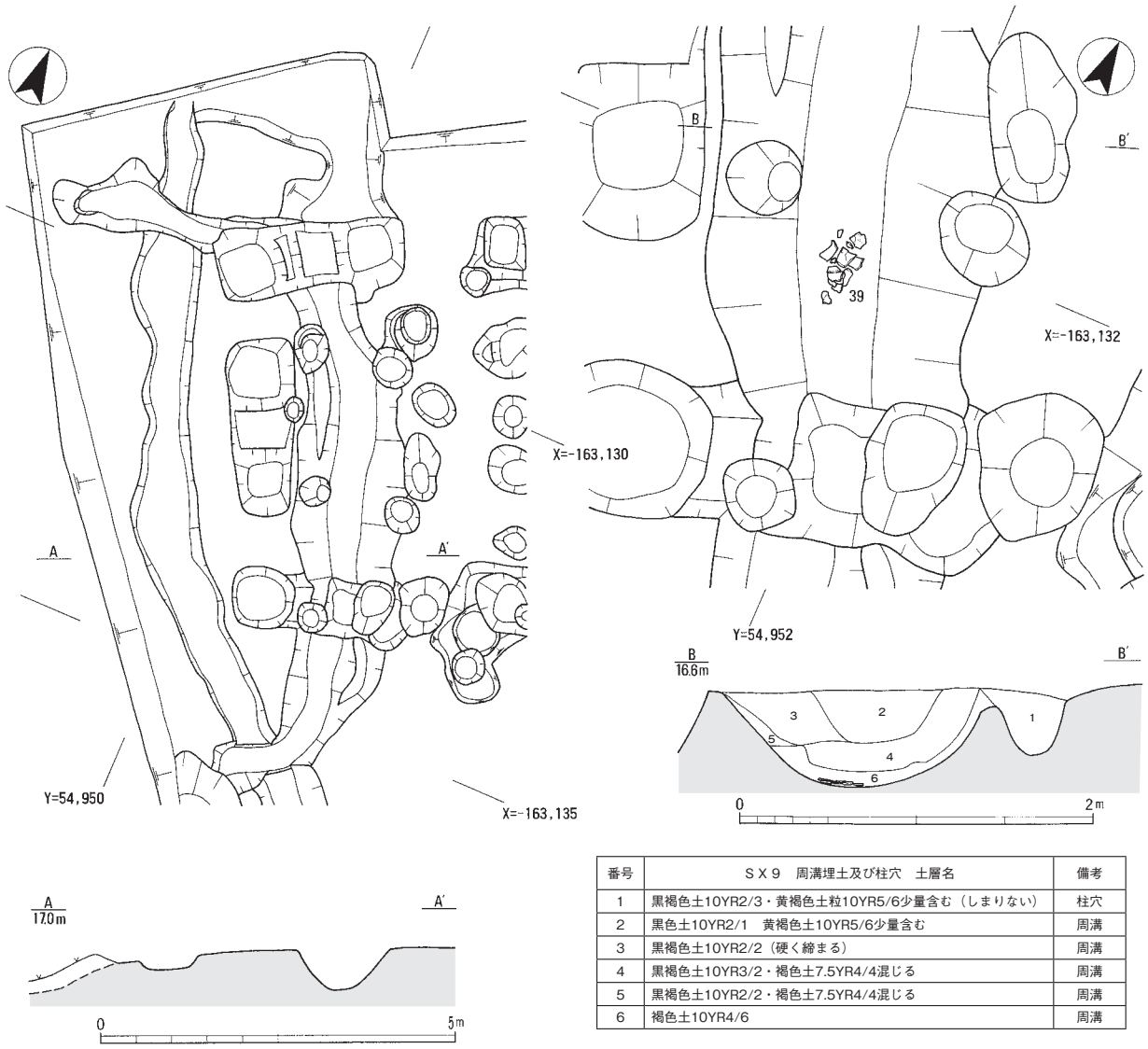
第22図　ＳＸ８南側周溝　遺物出土状況図（１：40）

5）ＳＸ９（第23図）

調査区の西端にある地表面からの観察では確認できていない。東側の周溝と北側周溝及び南側周溝は、一部を検出しただけで、さらに西に延びる方形周溝墓である。南北規模は溝内々で6.5mある。東側周溝は、南端が西に若干折れ曲がっているが、溝底が浅くなってきており、その先端については確認できていない。西側は、里道によって壊され、さらに西側は大規模な削平を受けているため、当地区から西側は残っていない。また、墳丘はすでに削平を受けており、盛土や旧表土は確認できなかった。この削平は近・現代のものではなく、後述する奈良時代と考えられる掘立柱建物がすでに建てられていることから見ても、奈良時代にはすでに削平されていたことが窺える。

周溝の特色　東側周溝の深さは、遺構検出面から0.5mと深いが両端に向かって浅くなっており、北側の深さは0.15m、南側は0.05mしかない。断面はＵ字形を呈する。

遺物　東側周溝中央付近の溝底から細片となった土師器壺（39）が出土しただけで、ほかに遺物は出土していない。



番号	ＳＸ９　周溝埋土及び柱穴　土層名	備考
1	黒褐色土10YR2/3・黄褐色土粒10YR5/6少量含む（しまりない）	柱穴
2	黒色土10YR2/1　黄褐色土10YR5/6少量含む	周溝
3	黒褐色土10YR2/2（硬く締まる）	周溝
4	黒褐色土10YR3/2・褐色土7.5YR4/4混じる	周溝
5	黒褐色土10YR2/2・褐色土7.5YR4/4混じる	周溝
6	褐色土10YR4/6	周溝

第23図　ＳＸ９遺構平面図（１：100）**・遺物出土図**（１：40）

4　古墳時代後期の遺構

この時期の遺構には、竪穴住居ＳＨ14、土坑ＳＫ10・13がある。

竪穴住居ＳＨ14（第24図）　調査区西側のＳＸ８の南側に位置する東西4.5m、南北4.7mの竪穴住居である。深さは東側で0.2mと浅く、東壁中央にカマドがある。遺物は少なく６ｃ代の可能性が高い。

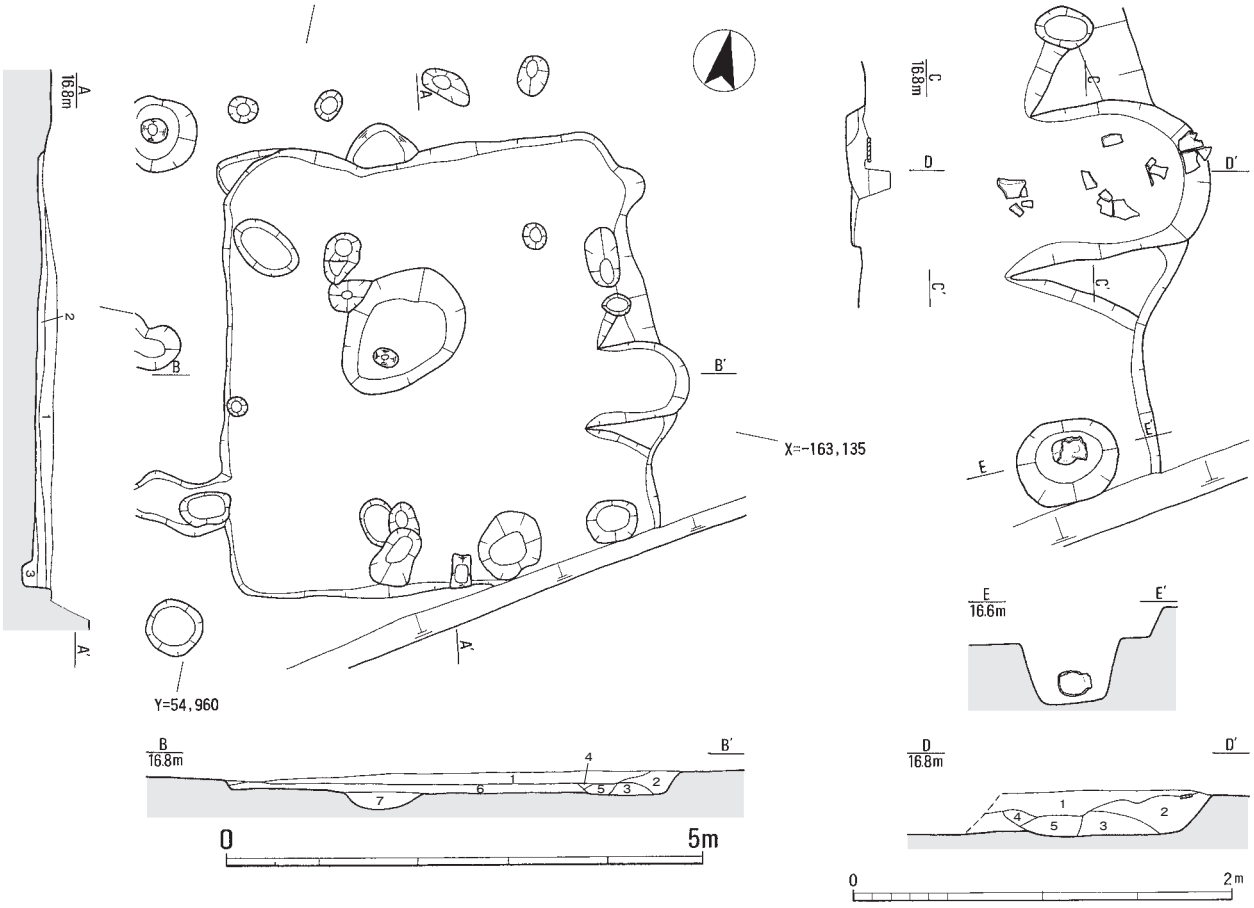
遺構埋土は黒褐色土で、四分割で畦畔を残して掘削を行った。この土層観察によれば埋土は大きく２層に分かれているが、カマドの埋土との関係から下層は貼床の可能性が高い。また、中央で確認した土坑は貼り床よりも古いことが確認できたが、遺物が出土していないことから､時期の詳細は不明である。

東辺部中央には、造りつけのカマドが設けられており、煙道部が長さ0.2mほど東辺外側に突出する。

カマドは残りがあまり良くないが、両袖部が若干残り、内側から土師器甕（57）、甑（58・59）などが出土した。

貯蔵穴は、カマド東側の竪穴住居内南東隅にある南北0.4m、東西0.5m、深さ0.3mの楕円形土坑である。内部からは、ほぼ完形の土師器甕（54）が出土した。

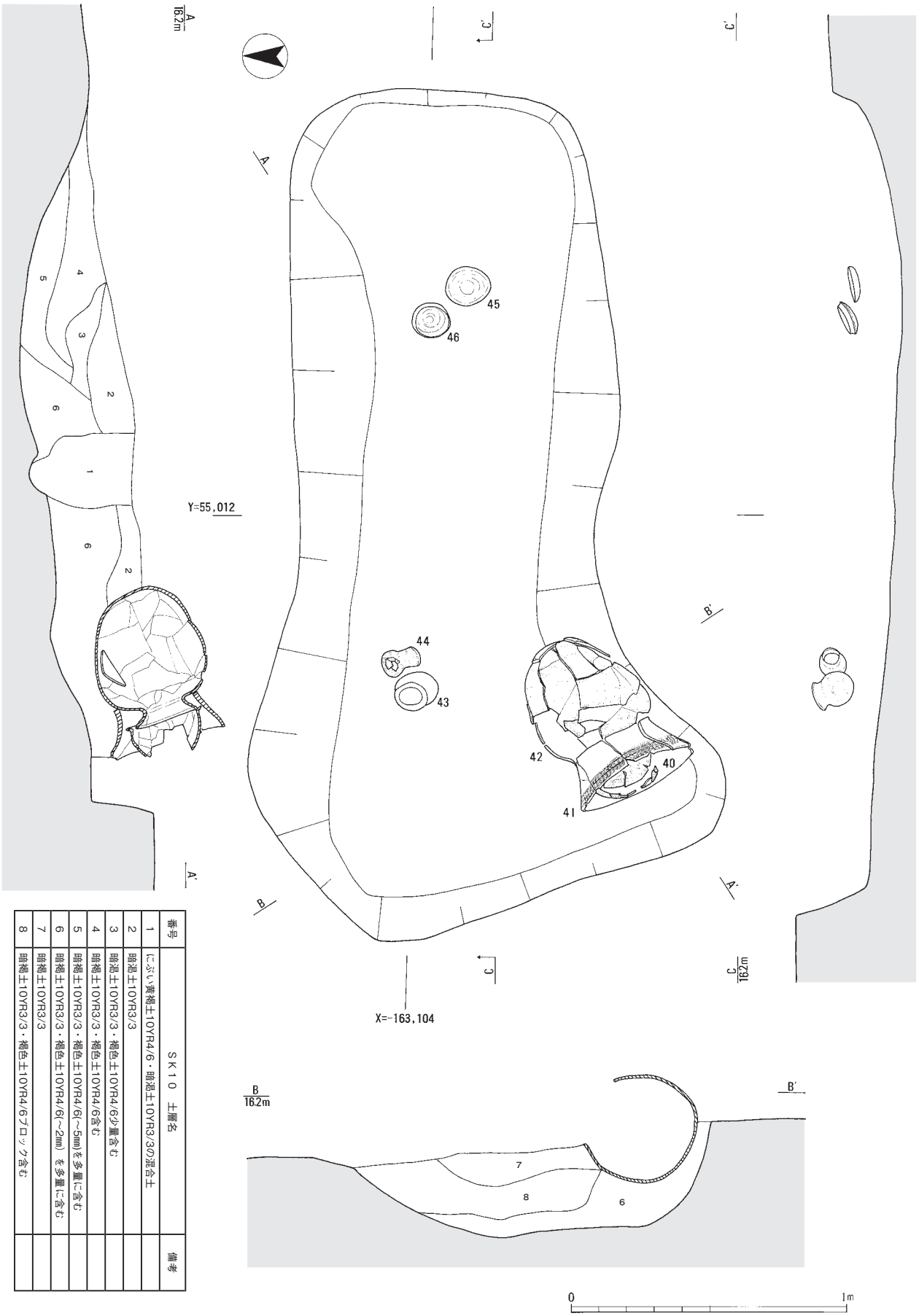
支柱穴と考えられる柱穴は、北側の２カ所で確認できたが、南側では確認できていない。北側のものについても明確な柱穴とは断定できないため、支柱穴は伴わない可能性が高い。また、周溝についても確認できなかった。



番号	ＳＨ14　土層名	備考
1	黒色土10YR2/1・褐色土7.5YR4/4少量含む（しまりない）	埋土
2	褐色土10YR4/4・赤褐色土粒少量含む	カマド
3	暗褐色土10YR3/3・褐色土・赤褐色土粒含む	カマド
4	黒褐色土10YR2/3	カマド

番号	ＳＨ14　土層名	備考
5	暗褐色土10YR3/4・褐色土7.5YR4/4混じる（しまる）	カマド
6	黒褐色土10YR2/2・黄褐色土混じり（固くしまる）	貼り床
7	黒褐色土10YR2/2	SK25
8	にぶい黄褐色土10YR4/3	地山

第24図　ＳＨ14遺構平面図（１：80）及び遺物出土状況図（１：40）



番号	ＳＫ１０　土層名	備考
1	にぶい黄褐土10YR4/6・暗褐土10YR3/3の混合土	
2	暗褐土10YR3/3	
3	暗褐土10YR3/3・褐色土10YR4/6少量含む	
4	暗褐土10YR3/3・褐色土10YR4/6含む	
5	暗褐土10YR3/3・褐色土10YR4/6(～5mm)を多量に含む	
6	暗褐土10YR3/3・褐色土10YR4/6(～2mm)を多量に含む	
7	暗褐土10YR3/3	
8	暗褐土10YR3/3・褐色土10YR4/6ブロック含む	

第25図　ＳＫ10遺構平面図（１：20）

土坑ＳＫ10（第25図）　ＳＸ５の東側約５ｍのところにある土坑である。当初、東側の調査範囲は、方形周溝墓ＳＸ５の東側の６ラインで止めており、偶然この壁面に後述する須恵器甕の口縁端部（41：以下、Ａとする）と中に土師器甕の底部（40:以下、Ｂとする）が露出した。このことにより、遺構の存在を把握することができ、破壊を最小限にとどめることができた。

須恵器甕の口縁部上端の高さは、遺構検出面より0.2m上で、表土からの深さは0.2mにあたる。土層断面精査の結果、遺構の掘り込み面は、黄褐色粘質土の遺構検出面から0.2m上の褐色粘質土であることが確認できたが、平面精査は根っ子などで条件が悪いため、黄褐色粘質土層まで下げて平面確認を行った。

平面形を確認するために残りの東側調査を行った結果、土層断面に見えた須恵器甕の口縁部は、大型の須恵器甕の胴部をはずした口縁部であることが判明した。また、これらの下から、横転した完形の須恵器甕（42：以下、Ｃとする）を新たに確認した。出土状況から、須恵器甕（Ｃ）の体部上半に、胴をはずした須恵器甕（Ａ）の口縁部を被せ、さらに須恵器甕（Ｃ）の口縁部に土師器鍋（Ｂ）逆さまにして蓋をした様子で、（Ａ）と（Ｂ）の順序については逆も考えられる。

このような状況から、須恵器甕に土師器鍋を蓋として被せた土器棺であることが想像される。

須恵器甕（Ｃ）は、土圧でヒビが入っており、体部上方の破片が一部中に落ち込んでいた。また、須恵器甕の内部からは埋葬に伴う遺物はなく、中に詰まっていた土壌もすべて洗浄したが、人骨等は検出できなかった。

これらの須恵器甕、土師器甕の時期は断定はしかねるが、概ね７世紀前半のものと考えて間違いはないだろう。

土器棺の埋められた遺構については、当初は小規模なものを想定していたが、遺構検出の結果、土坑の規模は幅1.1m、長さ3.0m、深さ0.5mのＳＫ13同様に東西方向の長方形土坑で、土器棺の置かれた西南部が0.4mほど膨らんでＬ字状を呈することを確認した。

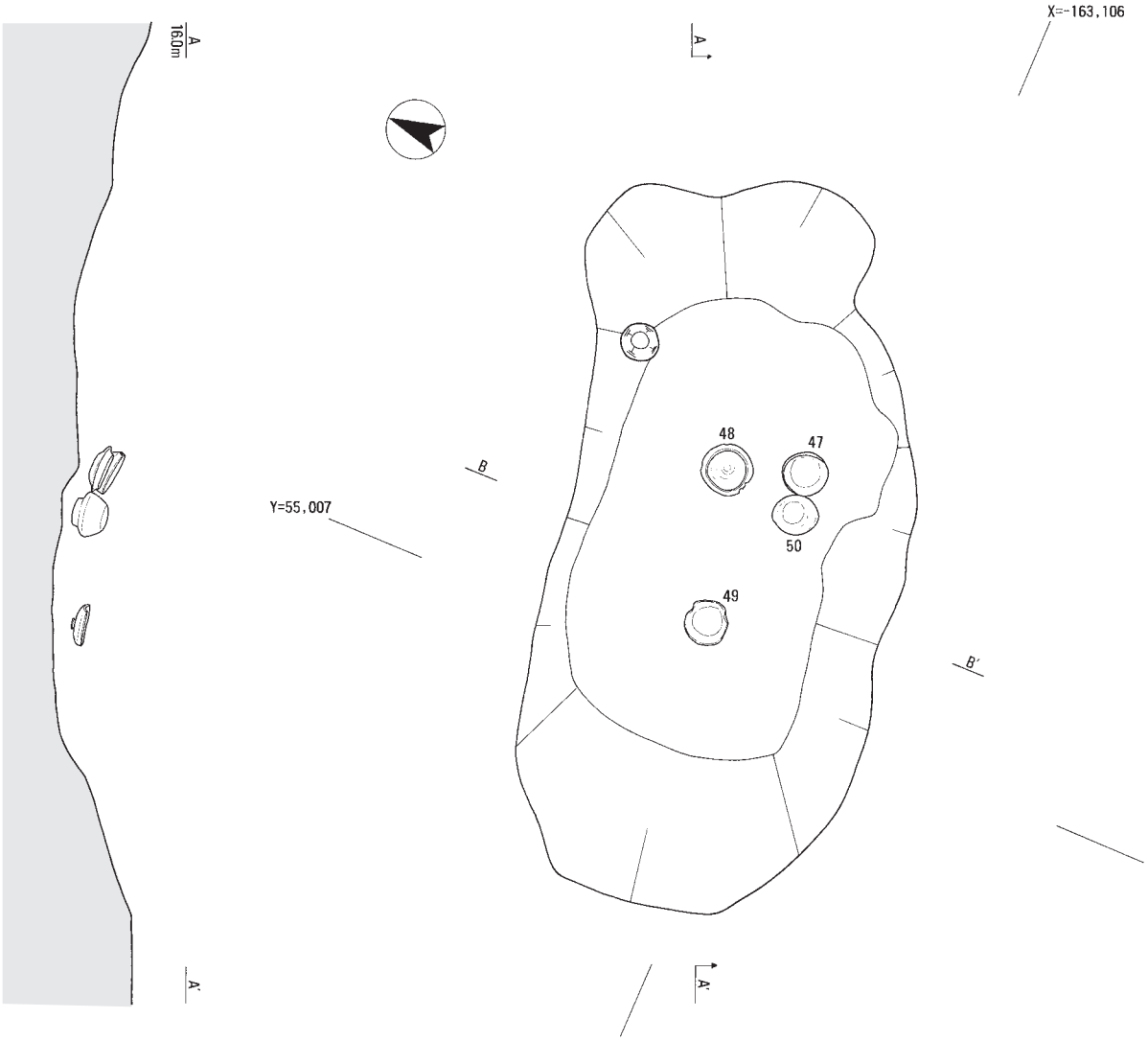
平面形から見て東西方向の長方形土坑の東南部に土器棺が重複する状況であったが、不自然な形態から遺構の重複する可能性も考えられた。当初検出した６ラインから西はすでに掘削を行っていたため、四分割によって残した東西方向の土層は不完全なものとなった。須恵器甕の底面は土坑の底から0.15m上に位置しており、長方形土坑と同一の遺構とは判断しかねた。当初は別の遺構の可能性も考えて、重複関係がないかと精査を行ったが、平面形及び土層断面には明確な遺構の切り込みラインを確認することができなかった。このため、残る可能性として須恵器甕を置くために掘削した深さと甕の置かれた深さがほぼ一致することも考えたが、膨らんだ掘形は須恵器甕の位置にも続いていることから、大きな掘り形と土器棺の膨らんだ掘形は同一の遺構と判断するしかなかった。

土器棺の北東側では、土師器壺（44）・甕（43）が土坑西側、須恵器杯（46）・杯蓋（45）が土坑中央でも東よりで出土した。主体部等は確認できなかったが、これらの遺物は置かれた状況を呈しており、埋納された遺物と考えられる。概ね７世紀前半に比定でき、土器棺の時期とほぼ同じ頃である。

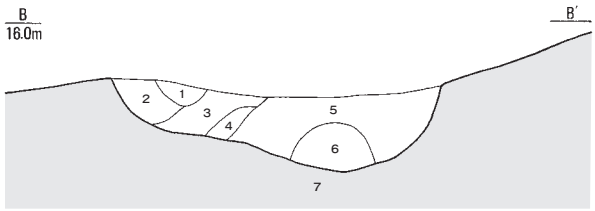
なお、口縁のみの須恵器甕をなぜ必要としたかについては、その理由は不明であるが、須恵器甕（Ｃ）と土師器鍋（Ｂ）を組み合わせた時、土師器鍋の口径が広いため、横にした時に土師器鍋が外れることが想定できよう。このため、外れないように布などを被せ、外れないように口縁のみの須恵器甕（Ｃ）を重石として利用したと考えられるのではないだろうか。

土坑ＳＫ13（第26図）　調査区東端にあるＳＸ５北側周溝の北西部に位置する幅1.1m、長さ2.1m、深さ0.3mの東西方向に細長い土坑である。土坑内の底面に近い位置では、ほぼ完形の須恵器が４点出土した。このほかの遺物はほとんど出土しないことから埋葬用の土坑の可能性が高い。

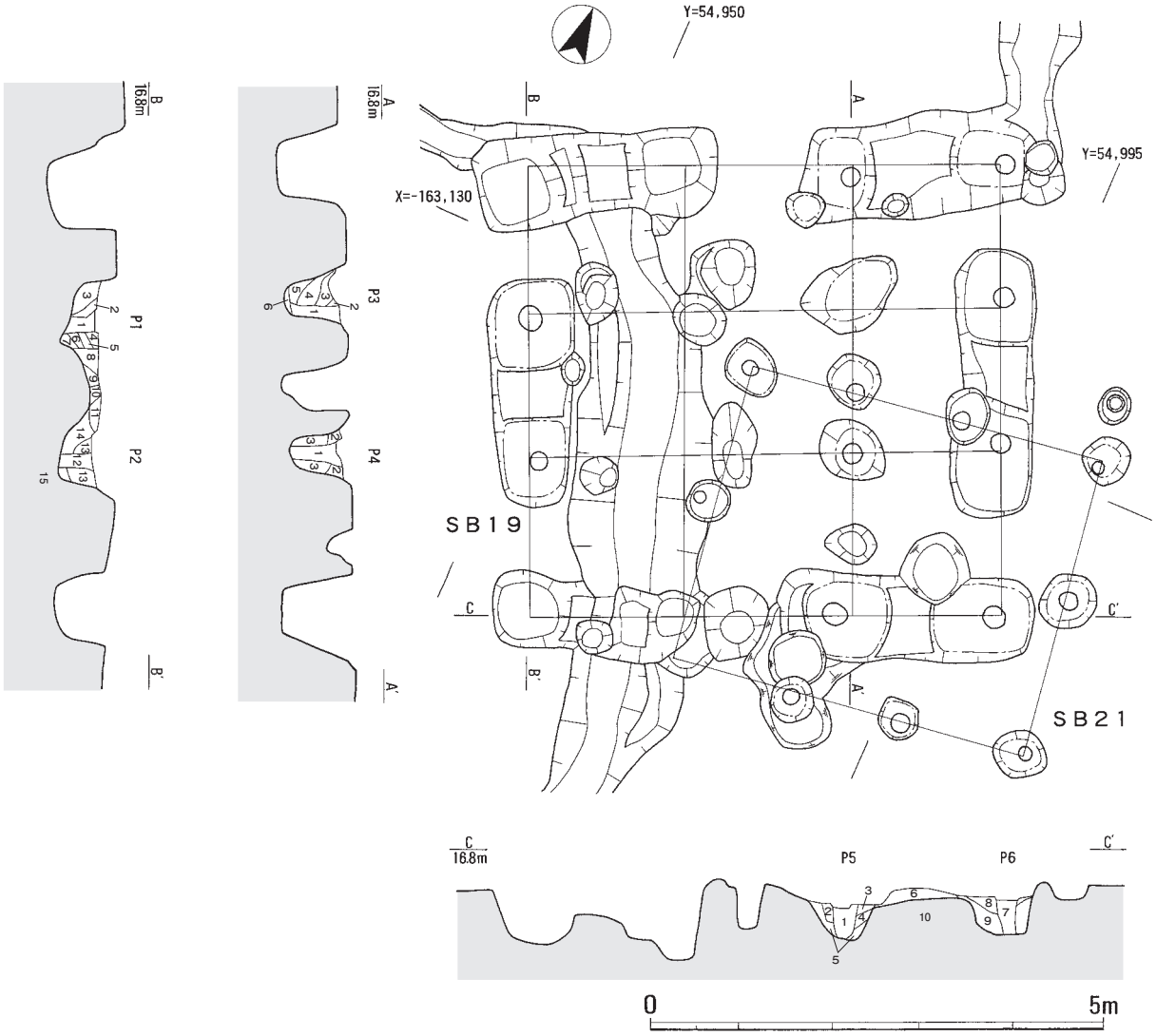
なお、須恵器の出土状況は、蓋（47・49）・短頸壺（50）は逆さに、杯身（48）は正立に置かれていた。須恵器から見て６世紀後半の遺構である。



番号	ＳＫ１３　土層名	備考
1	黒褐色土10YR2/2	
2	オリーブ褐色土2.5Y4/6・黒褐色土混じり	
3	黒褐色土10YR2/3	
4	オリーブ褐色土2.5Y4/6・黒褐色土混じり	
5	黒色土10YR2/1	
6	黄褐色土2.5Y5/4・黒褐色土混じり	
7	黄褐色土2.5Y5/4	地山



第26図　ＳＫ13遺構平面図（１：20）



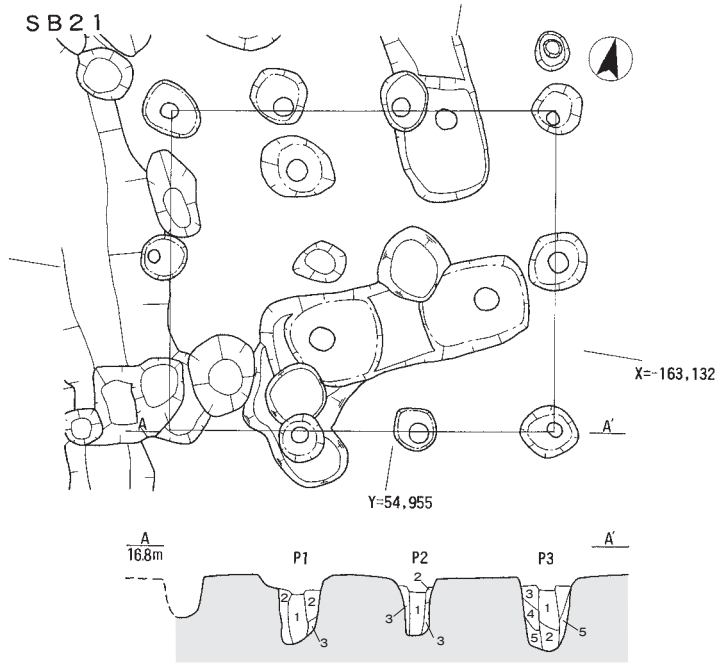
番号	ＳＢ19　P1・2	備考
1	褐色土10YR4/4黄褐色土粒・黒色土粒多く含む	柱痕跡
2	褐色土10YR4/4（しまりがない）・黄褐色土混じり	柱掘形
3	暗褐色土（しまりがない）10YR3/3・黄褐色土混	柱掘形
4	黒褐色土（しまりがない）10YR3/2	柱掘形
5	黒褐色土10YR3/2・黄褐色土ブロック混じり	柱掘形
6	暗褐色土（しまりがない）10YR3/3	柱掘形
7	暗褐色土10YR3/3・黄褐色土と黒色土粒混じり	柱掘形
8	黒褐色土10YR2/3・黄褐色土粒多く含む	柱痕跡
9	暗褐色土（しまらない）10YR3/3・黄褐色土粒多く含む	柱掘形
10	黒褐色土10YR3/2・黒色土粒混じり	柱掘形
11	暗褐色土10YR3/3（しまらない）・黄褐色粒・黒色土多く含む	柱掘形
12	暗褐色土10YR3/4（しまらない）	柱掘形
13	褐色土10YR4/4（しまる）・黄褐色土混じり	柱掘形
14	黄褐色土10YR5/6（しまる）	柱掘形
15	黄褐色粘質土10YR3/6	地山

番号	ＳＢ19　P3	備考
1	暗褐色土10YR3/3・黒褐色土・黄褐色土粒混	柱痕跡
2	黒褐色土10YR2/3・褐色土多く含み	柱掘形
3	黄褐色土10YR5/6・暗褐色土多く含む	柱掘形
4	黒褐色土10YR2/3・黄褐色土混	柱掘形
5	黄褐色土10YR5/6	柱掘形
6	黄褐色粘質土10YR5/6	柱掘形

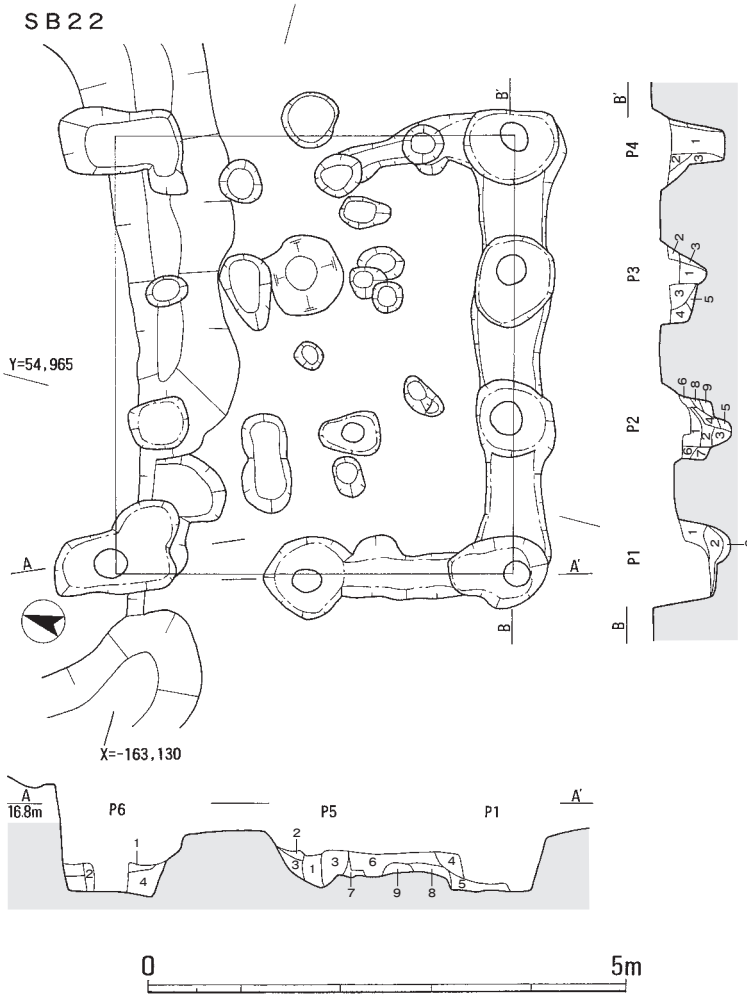
番号	ＳＢ19　P5・6	備考
1	黒褐色土10YR2/2しまった土・褐色土10YR6/4混じる	柱痕跡
2	暗褐色10YR3/3	柱掘形
3	黒褐色土10YR3/2	柱掘形
4	黒褐色土10YR3/2・褐色土10YR4/6混じる	柱掘形
5	暗褐色10YR3/3・黄褐色土粒10YR5/6混じり	柱掘形
6	褐色土10YR4/6・黒色土10YR2/1と暗褐色土10YR3/2混じり	柱掘形
7	黒褐色土10YR2/2しまった土・褐色土10YR6/4少量含む	柱痕跡
8	暗褐色土10YR3/3・褐色土粒10YR6/4混じる	柱掘形
9	黒褐色土10YR3/2・褐色土10YR4/6混じる	柱掘形
10	黄褐色粘質土10YR5/6	地山

番号	ＳＢ19　P4	備考
1	暗褐色土10YR2/2・黄褐色土・褐色土粒混	柱痕跡
2	暗褐色土10YR3/4（しまる）・黒色土含む	柱痕跡
3	暗褐色土10YR3/4・黄褐色土多く含む	柱掘形

第27図　ＳＢ19遺構平面図（1：80）



P番号	土層番号	ＳＢ２１　柱穴　土層名	備考
1	1	暗褐色土10YR3/3・黄褐色土ブロック含む	柱痕跡
	2	暗褐色土10YR3/3·黄褐色土ブロック多く含む	柱掘形
	3	暗褐色土10YR3/3・黄褐色土10YR5/8ブロックの混合土	柱掘形
2	1	黒褐色土10YR2/2・黄褐色粘質土ブロック多く含む	柱痕跡
	2	黒褐色土10YR2/2·黄褐色土ブロック多く含む	柱掘形
	3	黒褐色土10YR2/2・黄褐色土の混合土	柱掘形
3	1	黒褐色土10YR2/2・黄褐色土粒混じり	柱痕跡
	2	黒褐色土10YR3/2・赤色土混じり	柱掘形
	3	黒褐色土10YR3/2・黄褐色土ブロック混じり	柱掘形
	4	黒褐色土10YR2/3・茶褐色土粒混じり	柱掘形



P番号	土層番号	ＳＢ２２　柱穴　土層名	備考
1	1	黄褐色土10YR5/8·暗褐色土10YR3/3の混合土	柱掘形
	2	褐色土10YR4/6・黄褐色土ブロック・黒褐色土ブロック少量含む	柱掘形
	3	黄褐色土10YR5/8·黒褐色土10YR2/2の混合土	柱掘形
2	1	暗褐色土10YR3/3·黄褐色土ブロック少量含む	柱痕跡
	2	黄褐色土10YR5/8・暗褐色土・黒褐色土ブロック含む	柱痕跡
	3	暗褐色土10YR3/3·黄褐色土ブロック多く含む	柱痕跡
	4	暗褐色土10YR3/3·黄褐色土ブロック多く含む	柱掘形
	5	黒褐色土10YR2/2	柱掘形
	6	暗褐色土10YR3/3・黄褐色土ブロック含む	柱掘形
	7	暗褐色土10YR3/3と黄褐色土10YR5/8の混合土	柱掘形
	8	黄褐色土10YR5/8（地山ブロック）	柱掘形
	9	黒褐色土10YR2/2・10YR2/3の混合土・黄褐色土ブロック少量含む	柱掘形
3	1	暗褐色土10YR3/3・黄褐色土ブロック含む	柱痕跡
	2	暗褐色土10YR3/3·黄褐色土ブロック少量含む	柱掘形
	3	暗褐色土10YR3/3·黒褐色土ブロック少量含む	柱掘形
4	1	暗褐色土10YR3/3·黄褐色土ブロック微量含む	柱痕跡
	2	暗褐色土10YR3/3・黄褐色土・黒褐色土ブロック少量含む	柱掘形
	3	黄褐色土10YR5/8・黒褐色土少量含む	柱掘形
6	1	黒褐色土10YR2/2・暗褐色土10YR3/3ブロック含む	柱痕跡
	2	黒褐色土10YR2/2・黄褐色土ブロック混じり	柱掘形
	3	黒褐色土10YR2/2	柱掘形
	4	暗褐色土10YR3/3と黄褐色土10YR5/8の混合土	柱掘形

	土層番号	ＳＢ２２　Ｐ１・５　土層名	備考
	1	黒褐色土10YR2/3・黄褐色土粒含む	柱痕跡
	2	黒色土10YR2/1・黄褐色土粒少量含む	柱掘形
	3	黒褐色土10YR2/3・黄褐色土ブロック含む	柱掘形
	4	黒褐色土10YR2/2・褐色土ブロック含む	柱掘形
	5	黒褐色土10YR2/2・褐色土ブロック少量含む	柱掘形
	6	黒褐色土10YR2/2・黄褐色土ブロック多く含む	溝埋土
	7	黒褐色砂質土10YR2/2・褐色土ブロック含む	溝埋土
	8	黒褐色土10YR2/3・黄褐色土10YR5/6の混合土	溝埋土
	9	黒褐色土10YR2/2・黄褐色土の混合土・黄褐色土ブロック多く含む	溝埋土

第28図　ＳＢ21・22遺構平面図（１：80）

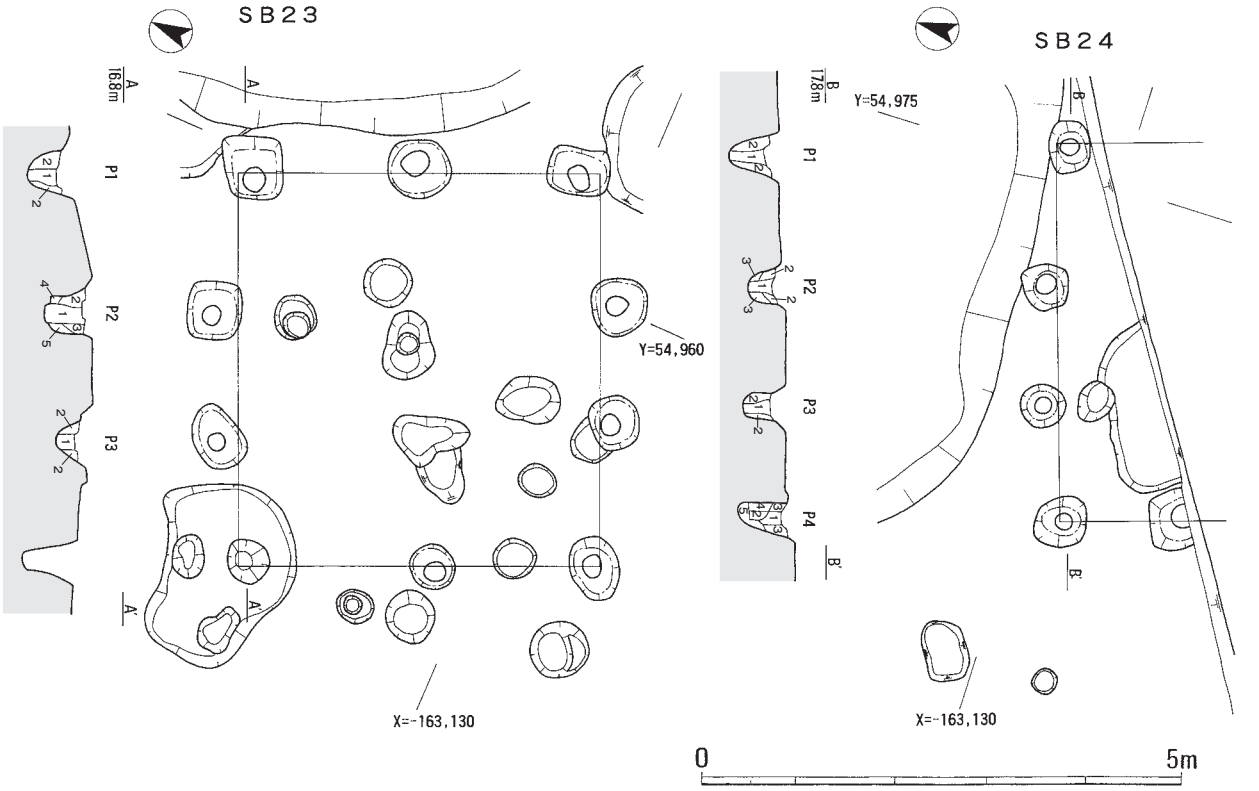
5　奈良時代の遺構

今回調査区南側で検出した掘立柱建物５棟は、柱穴から出土した遺物がほとんどないため、時期決定が困難である。出土した遺物は、古墳時代後期のものが大半で、時期が遡る可能性も否定できないが、後述する倉庫などの柱掘形が「溝持ち」である点や、周辺調査区で出土した遺物には奈良時代前半の須恵器（68・72）があり、奈良時代に遺構の存在した可能性は高いと考えられるため、ここでは建物群を奈良時代として一括して記述する。

ＳＢ19（第27図）　調査区の西端にあるＳＸ９と重複する３間×３間の総柱建物である。北側と南側の柱掘形は２カ所ずつまとめて掘るいわゆる「布掘り」の柱掘形である。西側と東側は、両端の柱掘形が北側と南側ですでに布堀されていることから中間の２本の柱掘形を布掘りとする。

柱掘形の規模は、長さ2.5 ～ 3.0m、幅0.8 ～ 1.0mの溝状の掘形で、底は両端が方形状に一段落ち込む。深さは両端の柱位置にあたる場所が深いもので遺構面から1.0mあり、その間は浅くなっており深さ0.3mを測る。

土層断面から、溝状に全体を浅く掘り込み、埋めた後に柱位置にあたる場所で掘り込んでいる状況が



Ｐｉｔ番号	土層番号	ＳＢ２３　柱穴　土層名	備考
1	1	黒褐色土10YR2/2・黄褐色土少量含む	柱痕跡
	2	黒褐色土10YR2/2·黄褐色土ブロック多く含む	柱掘形
2	1	黒褐色土10YR2/2·黄褐色土ブロック少量含む	柱痕跡
	2	黒褐色土10YR2/2	柱掘形
	3	黄褐色土10YR5/8	柱掘形
	4	黒褐色土10YR2/2・黄褐色土ブロック含む	柱掘形
	5	黄褐色土10YR5/8・黒褐色土混じる	柱掘形
3	1	黒褐色土10YR2/2・暗褐色土ブロック含む	柱痕跡
	2	黒褐色土10YR2/2·黄褐色土ブロック少量含む	柱掘形

Ｐｉｔ番号	土層番号	ＳＢ２４　柱穴　土層名	備考
1	1	黒褐色土10YR2/2	柱痕跡
	2	黒褐色土10YR2/2・黄褐色土混じり	柱掘形
2	1	黒褐色土10YR2/2	柱痕跡
	2	黒褐色土10YR2/2・黄褐色土ブロック混じり	柱掘形
	3	黒褐色土10YR2/2・黄褐色土粒混じり	柱掘形
3	1	暗褐色土10YR3/3・黄褐色土ブロック混じり	柱痕跡
	2	暗褐色土10YR3/3・黄褐色土粒混じり	柱掘形
4	1	暗褐色土10YR3/3・にぶい黄橙色土混じり	柱痕跡
	2	暗褐色土10YR3/3・黒褐色土・褐色土ブロック混じり	柱掘形
	3	にぶい黄橙色土・黒褐色土ブロック混じり	柱掘形
	4	暗褐色土10YR3/3・黒褐色土ブロック混じり	柱掘形

第29図　ＳＢ23・24遺構平面図（１：80）

見て取れる。束柱は、径0.7mの円形で、深さ0.8mと小型である。柱穴内からの遺物は、ほとんど出土していない。

なお、ＳＤ17として取り上げた須恵器杯身(60)は、当初、方形周溝墓ＳＸ９（ＳＤ17）と柱掘形とを区別できず掘り下げたもので、遺物の年代から掘立柱建物の遺物と考えられる。ＳＸ９と重複する建物はＳＢ19・21の２棟があり、いずれのものと確定はできないが、ＳＢ19の可能性が高い。掘立柱建物の一時期を示すものと考えられ、奈良時代としている掘立柱建物の時期を飛鳥時代まで遡らさなければならない可能性がある。

ＳＢ21（第28図）　ＳＢ19と重複する３間×２間の東西棟で、ＳＢ19より新しい。柱掘形の大きさは径0.7mの円形で、深さは0.8mである。

遺物はほとんど出土していない。

ＳＢ23（第29図）　ＳＢ21の東側にある３間×２間で、柱掘形の大きさは、概ね径0.7mの円形である。四隅の柱穴の深さは、遺構面から0.7mと、他の柱穴が0.5mであることと比較しても深い。

南北柱列３間の中間柱２カ所の柱位置は、両端の柱位置より柱掘形１個分の0.3mほど突出している。柱通りが直線上に並ばないため、通常なら建物と認定し難いものである。遺構密度が薄く、他の掘立柱建物と重複していないため、掘立柱建物と認定した。このような柱位置から上部構造を考えると、突出した２柱穴から上に延びる柱は屋根まで延びるものではなく、梁材を支え、中間に支え柱を建てて棟木を載せるものではないだろうか。屋根材を載せる位置が長方形となるようにあつらえた簡易な掘立柱建物と思われる。

柱間は桁行き２間、梁行き３間の南北棟で、柱間寸法は、桁行き1.9m、梁行き1.4mである。

ＳＢ22（第28図）　ＳＸ８の南側にある３間×２間の東西棟である。柱掘形の大きさは径1.2mの隅丸方形で、深さは約0.8mである。

南側柱列は溝と重複し、布掘りの可能性も考えたが、溝は東西両端で北に折れ曲がり、柱掘形が新しいことを確認した。溝は別個の遺構の可能性もあるが、位置が柱位置と重複することからなんらか関係があったものと考えなければならないが、性格は不明である。

北側柱列はＳＸ８の南側周溝と重複しており、建物南側のような溝と重複していたのかは、掘削時には確認できなかった。また、北側柱列の両端部の柱掘形は、さらに北側に柱掘形が延びており、この掘形が別の建物になるかは確認できていない。

ＳＢ24（第29図）　ＳＸ７の南側にあり、北側柱列３間分を検出した。南側は調査区外に延び、ＳＢ23同様に梁行き３間×桁行き２間の南北棟である可能性が高い。柱掘形の大きさは、径0.6mの隅丸方形で、深さは0.6mである。

ＳＢ23同様に北側柱列の中間の柱位置は柱一つ分西に突出しており、ＳＢ23を確認していないならば建物と認定しない柱通りである。

６　その他の遺構

南北溝３条と土坑２基がある。

ＳＫ11　調査区東側にあり、ＳＤ12より古い。幅1.4m、深さ0.2mで調査区南側に延びる。遺物は出土していないが、ＳＫ10・13のような古墳時代の土坑の可能性が高い。

ＳＤ12　調査区東端にある幅0.5m、深さ0.3mである。埋土は褐色土で、中世の遺構の可能性が高い。

ＳＤ15　調査区西端にある幅1.4m、深さ0.4mで、埋土は褐色土である。南端での東への膨らみは、土坑と重複しているものと考えられる。遺物は中世の陶器甕（62）があり、本来の溝の時期と思われるのに対し、須恵器杯（61）は奈良時代の重複する土坑の遺物と考えられる。

ＳＤ16　ＳＤ15の西にあり、南側は溝の東肩のみを確認した。北側は調査区外に延びる。幅0.5m以上、深さは0.3mである。遺物はなく、西側にある地道と同じ方向であるため、時期的に新しい可能性がある。

ＳＫ26　調査区西側にある掘立柱建物ＳＢ23より古い。東西2.4m、南北1.7m、深さ0.2mの楕円形を呈する。遺物は出土していないが、埋土から弥生時代前期の可能性が高い。

Ⅳ　遺　物

今回の調査で出土した遺物は、コンテナで17箱（重量42.2kg）と調査面積に対して遺物の出土量が非常に少ない。特に包含層出土としているものでも、遺構や周溝埋土上層からの出土と考えられるものが多く、いわゆる包含層出土遺物は表土などに含まれたものが多い。また、方形周溝墓の遺構に伴う遺物は、混入した遺物は少なく、埋葬に伴う当時の状況が反映されていることが大きな特色といえる。

1　弥生時代の遺物

この時期の遺物の出土量は少ないが、概ね弥生時代前期のものである。

遺構のところでも述べたように調査区西端にあるＳＸ８墳丘下には、当概期のＳＫ28が検出され甕（５・６）が出土したほか、周辺のＳＸ７・８墳丘盛土内（１・２・７・９）や周溝内（３・４）から弥生時代前期の遺物が出土している。

蓋（１）は、穿孔が頂部中心位置から外れるため、２カ所穴をあけるもの思われる。（２～４）は壺で（２・４）は壺の体部最大付近で沈線が巡る。（５～７）は甕の破片で、（５・６）はＳＫ28から出土した。

壺（８）は、ＳＸ７の墳丘下の旧表土除去時点で確認した。旧表土除去後の面では遺構が確認できなかったが、旧表土の深さより浅い遺構の可能性が高い。体部最大径が40cmほどになると思われる大型品で、頸部には２条の沈線が巡る。

2　古墳時代初期の遺物

ＳＸ５　遺物は、すべて周溝内から出土したもので、体部最大径が28cm前後となる土師器壺４点（10～13）がある。

壺（10）は内弯しながら上方に延びる口縁部、壺（11･12）は外弯しながら外側に延びる口縁部を持つ。壺（10）の体部外面上端には、上から直線文・刺突文・直線文が施され、最下段の直線文は一カ所が羽状に垂れ下がる。壺（11）は体部最大径が下半にある算盤状を呈する。壺（12）の口縁内部には、図示した約１/３の範囲にのみ刺突文が施され、その内側には竹管文５カ所残存しており、刺突文の範囲よりさらに狭い範囲となる。体部上端には上から直線文・刺突文・直線文の文様帯が施される。

（13）は、二重口縁を持つ壺である。口縁部から底部片まで出土しているが、器壁が薄く細片となっていたため、接合できなかった。口縁端部外面には粘土紐を縦方向に３本貼り付けているが、口縁端部外面に施されている箇所はいくつあるか不明である。体部上端には、上から直線文・刺突文を千鳥状に３段・直線文一条が確認できる。

これら３個体の壺は、内面に残る調整方法から、３段階に成形されていたと考えられる。この成型方法は、他の壺においても同様に読みとることができ一般的な成型方法であったと思われる。第１段階は、底部から体部最大径下部まで作り、内面はハケメで調整する。次に最大径の下から体部全体の２/３ほどまで粘土を載せて、接合部内面はナデやハケメなどで接合面を平滑にし、最後に頸部まで粘土紐を積み上げながら内面をナデと指オサエで成形し、最後に口縁部を貼り付ける。

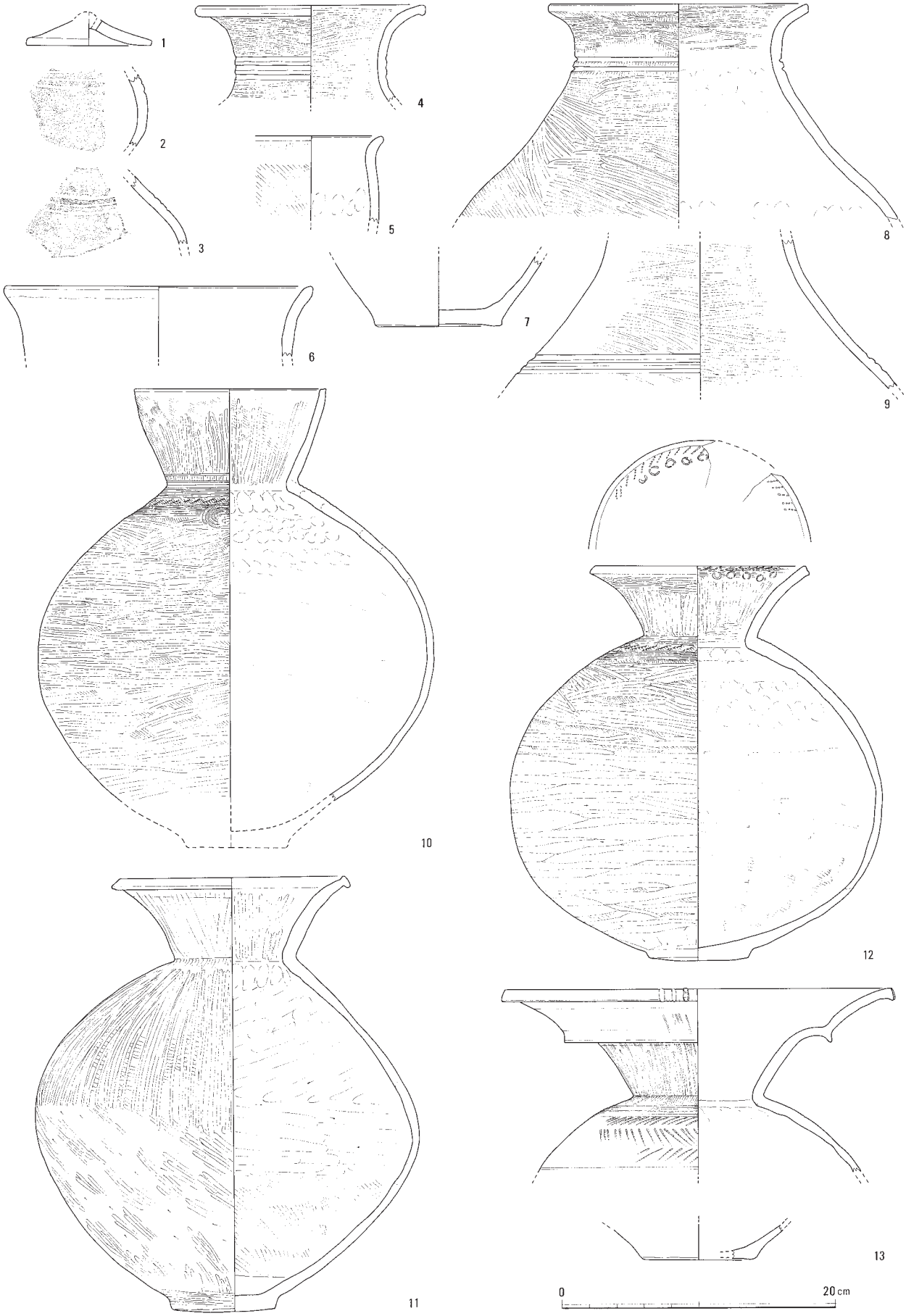
ＳＸ６　出土した遺物は少なく、主体部から管玉６点・丸玉１点と西側周溝内から土師器壺（21）がある。

壺（21）は体部最大径がやや下方にある算盤場を呈するもので、口縁内部に刺突文・直線文・刺突文、口縁端部外面に刺突文が施される。

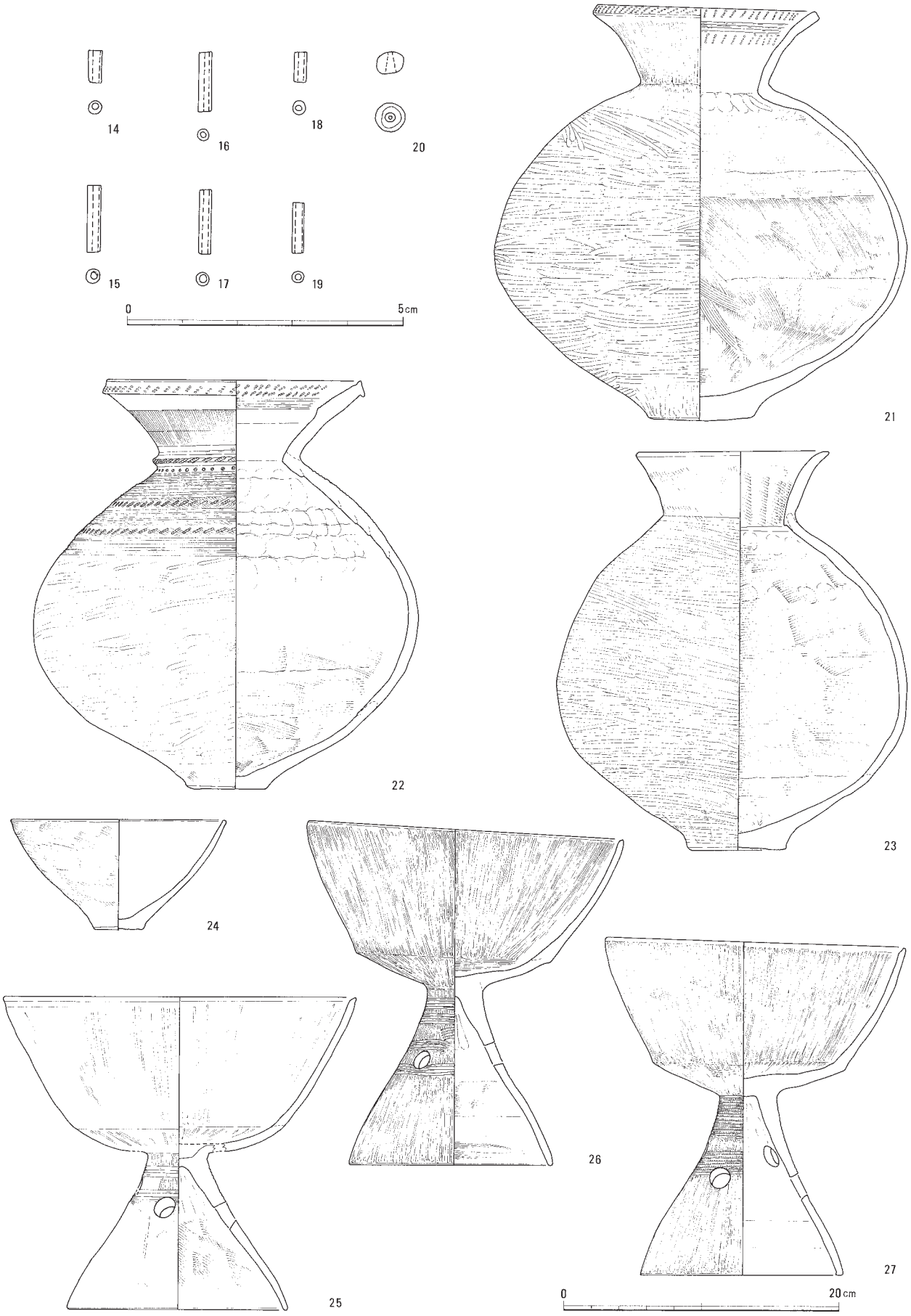
主体部内から出土した石製品には管玉、丸玉がある。管玉は、径が2.5mm前後で、長さ９～12mmと長いもの（15～17・19）の４点と長さ５～６mmの短いもの（14･18）がある。いずれも碧玉製である。丸玉（20）は径５mmの硬玉製である。

ＳＸ７　周溝から出土した遺物には、壺（22・23）、鉢（24）、高杯（25～27）があり、主体部上に置かれた埋納に伴う遺物には、加飾壺（28）・壺（30）、高杯（29・31・32）がある。

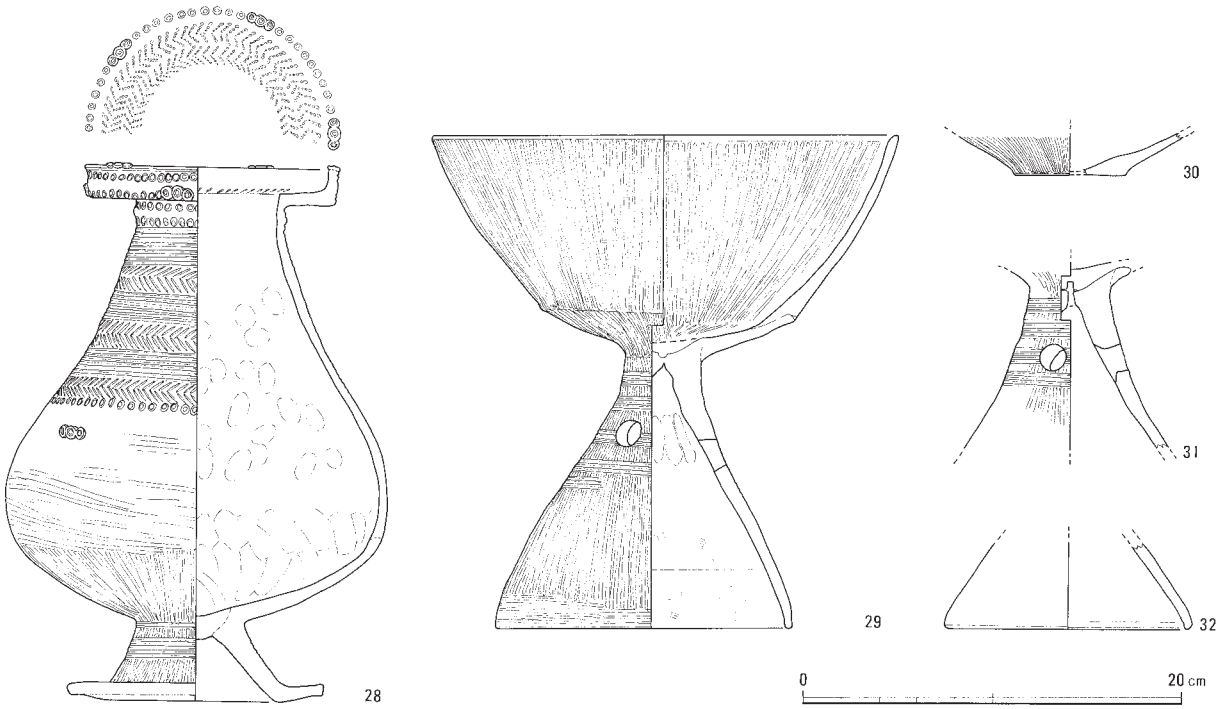
壺（22）は頸部に凸帯を貼り付け、凸帯の上半に刺突文、下半に竹管文を施す。体部上端に上から直線文２段・刺突文・直線文・刺突文・直線文の文様



第30図　出土遺物実測図（1）　弥生土器（1～9）、ＳＸ５（10～13）



第31図　出土遺物実測図（２）（14 ～ 20は原寸）　ＳＸ６（14 ～ 21）、ＳＸ７（22 ～ 27）



第32図　出土遺物実測図（３）　ＳＸ７主体部直上（28 ～ 32）

帯で口縁部内面には刺突文２段・直線文を施す。口縁内部の直線文の下は強くナデられて段を作る。(23) は文様が施されない。

高杯（25 ～ 27）は、杯の口縁部の長さが広く垂直に立ち上がるものである。杯底部内面はほぼ水平で、脚部が接合される。脚部の透かしは三方向で、その上に一穴穿たれるもの（27）がある。

鉢（24）は、中型甕体部下半部の成形と同じで、上端が軽くヨコナデされて口縁部となる。

加飾壺(28) は､口縁部が屈曲して短く立ち上がり、下膨れの体部に、短い脚がつく。口縁端部は上面に面を持ち、竹管文を施すほか、円形浮文（連結した三つの円形浮文でそれぞれに竹管文を施す。以下、円形浮文と表記する）を５カ所に貼り付ける。垂直に立ち上がる口縁部外面にも上端と側面下端に竹管文を施し、後者の円形浮文は端部上面の円形浮文間に相当する位置に貼り付ける。頸部には凸帯を貼り付け、凸帯の上半と下半に竹管文を施す。体部には上から直線文２段・千鳥状に刺突文・直線文・千鳥状に刺突文・直線文・千鳥状に刺突文・竹管文の文様帯を施し、さらに竹管文の下方に円形浮文を口縁端部上面と同じ位置で５カ所貼り付ける。口縁部内面には千鳥状に４段刺突文を施す。

高杯（29）は、脚部に三方透かしを施す。

ＳＸ８　壺（34 ～ 38)、高杯（33）など、最も多くの個体数が出土した。

壺（34）は、口縁部が短く内弯しながら立ち上がるもので、甕の形態と見間違えるものであるが、体部外面にヘラミガキが施されることから壺とした。

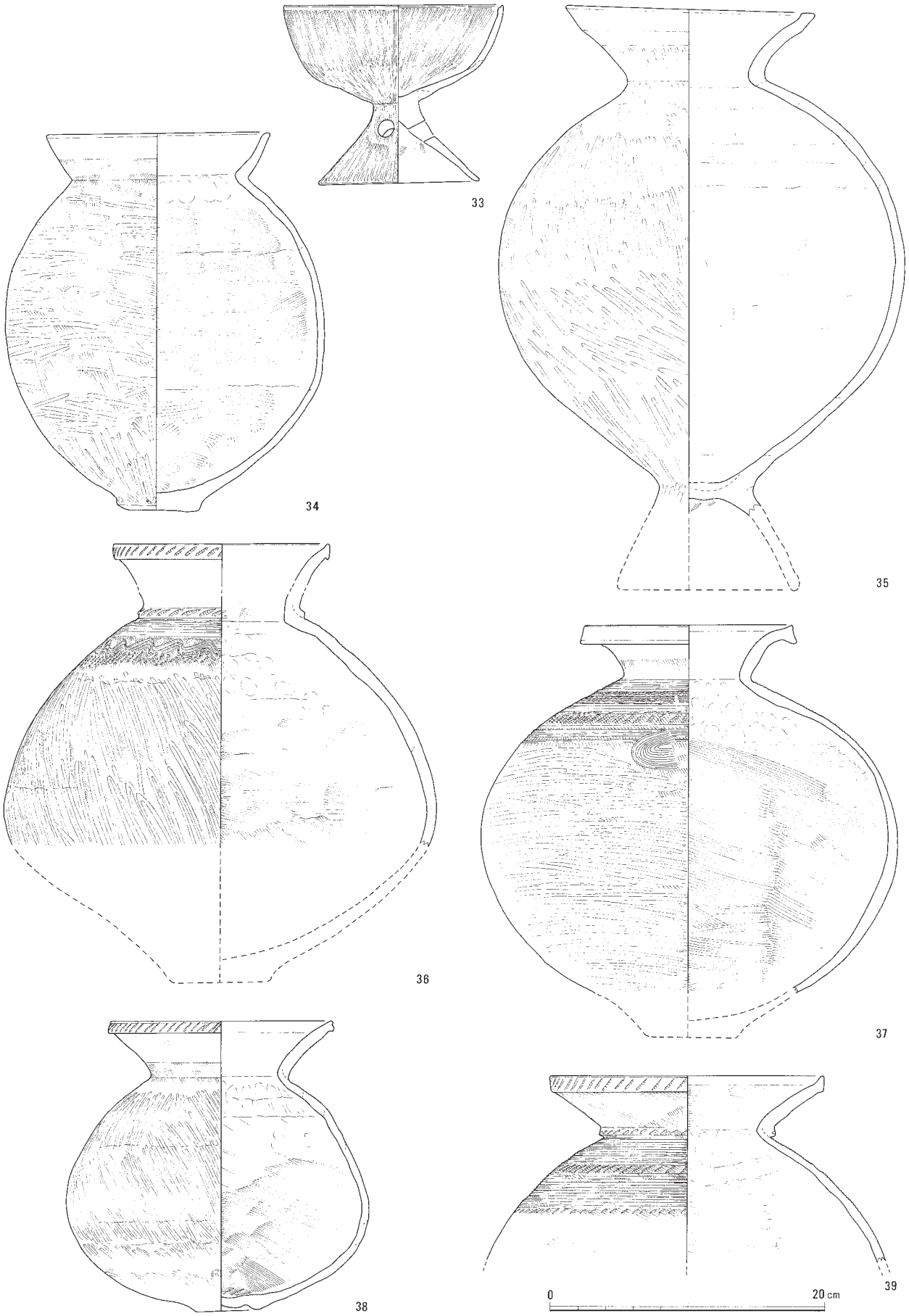
壺（35）は、口縁部が強くナデられて端部が内弯する。体部外面に縦方向のヘラミガキが施され、底部には脚の痕跡が一部残る。

壺（36）は、頸部に凸帯が貼り付けられ凸帯上半に刺突文が施される。体部上半には上から直線文２段・羽状文・刺突文が、口縁部外面にも刺突文が施される。

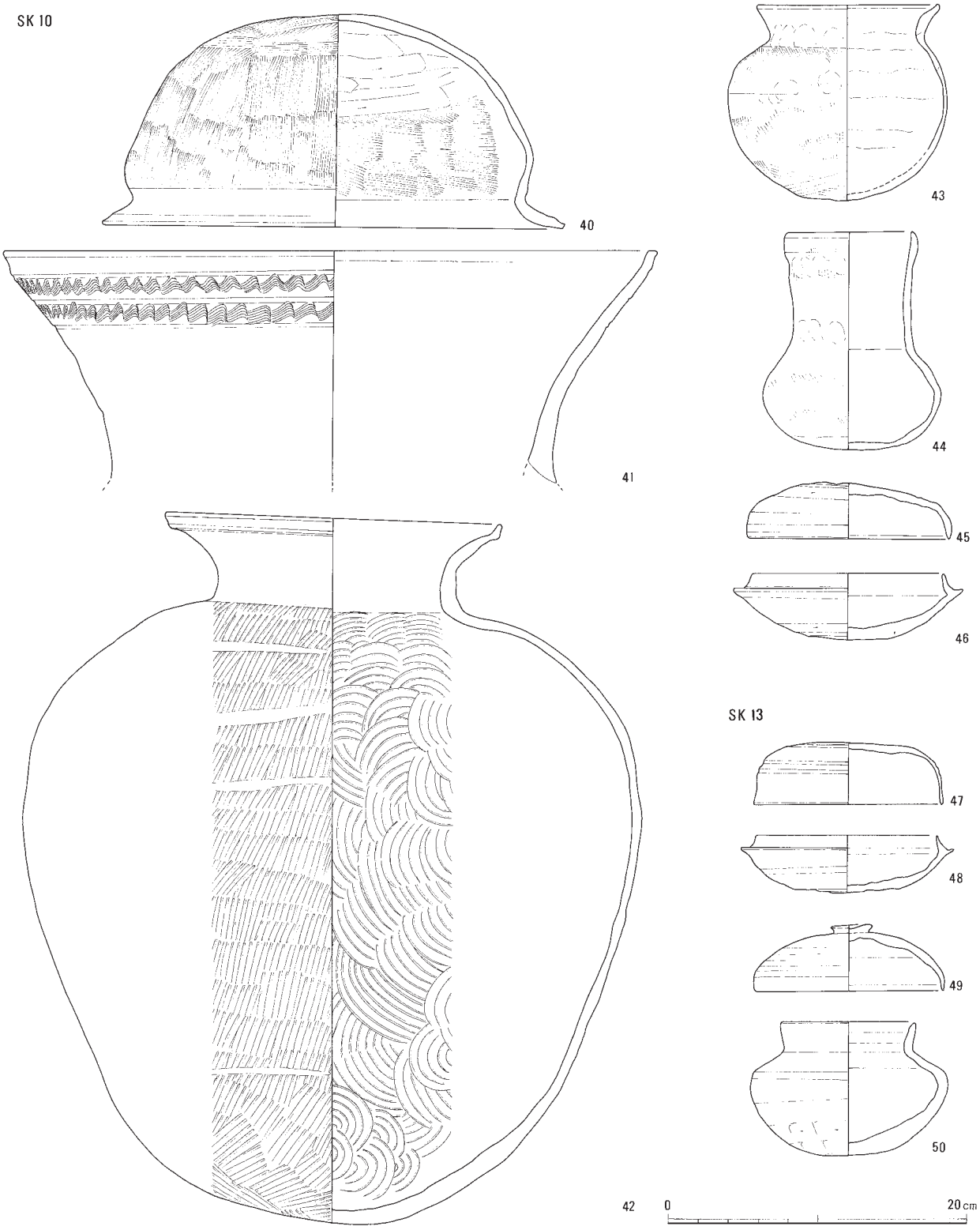
壺（37）は、外反する口縁を持つ。口縁端部が垂下する。体部上半に上から直線文・羽状文直線文・刺突文・直線文が施され、最後の直線文には羽状に垂れ下がる。

壺（38）は、外上方に延びる口縁部で、最大径が体部下半にある算盤状を呈する。口縁端部外面に刺突文が施される。

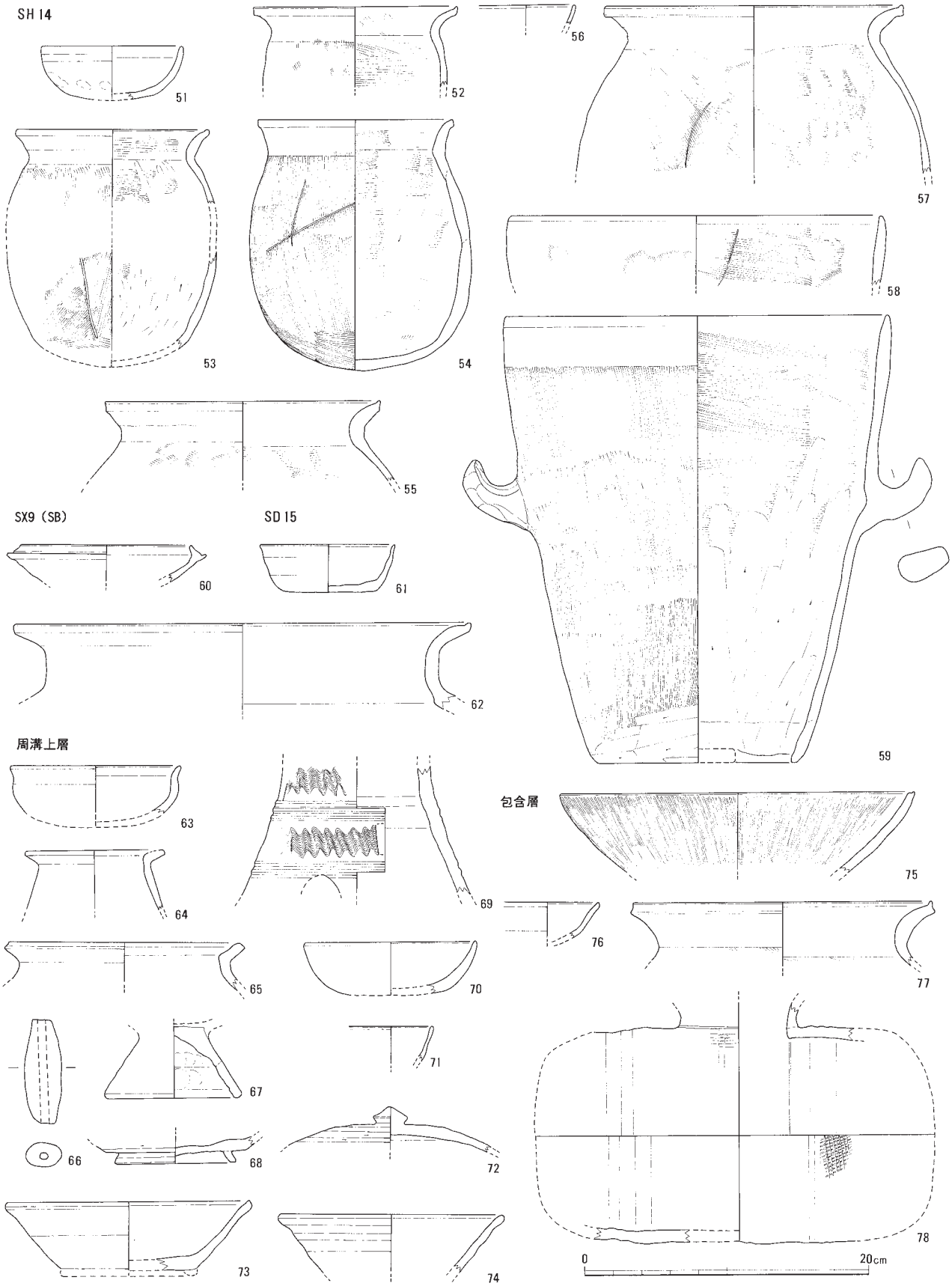
ＳＸ９　遺物は少なく、壺（39）しかない。口縁端部はつまみ上げられて､外面に刺突文が施される。頸部に凸帯が貼り付けられて凸帯上半に刺突文が施される。体部上半には、上から直線文２段･刺突文･直線文２段・刺突文が施される。



第33図　出土遺物実測図（4）　ＳＸ８（33～38）、ＳＸ９（39）



第34図　出土遺物実測図（５）　ＳＫ10（40～46）、ＳＫ13（47～50）



第35図　出土遺物実測図（6）　ＳＨ14（51～59）、ＳＢ（60）、ＳＤ15（61・62）、周溝上層（63～74）、包含層（75～78）

３　古墳時代後期以降の遺物

ＳＫ10　出土した遺物には、土器棺として使用された土師器甕（40)、須恵器甕（41・42）があるほか、土師器甕（43)・壺（44)、須恵器杯蓋（45)・杯身（46）がある。

土師器のうち、甕（40）は、外反する口縁部に丸い体部がつく、鍋というべきものかもしれない。(43)は小型の体部の丸い甕である。壺（44）は長く延びる口縁部に小振りの体部がつく。外面にはハケメが施されているが、残りが悪い。

須恵器甕（41）は、口径約44cmの大型品の口縁部である。口縁端部は強くナデられて内弯する。頸部上半外面には、羽状文が２条巡る。(42）は、器高48cm、体部最大径43cmの中型甕で、口縁部がつまみ上げられ外面に面を持つものである。杯蓋（45）は、口縁部と天井部の境の稜線がなくなり丸くなる。杯身（46）は、口縁部の立ち上がりが短く、端部は丸く収められる。底部外面のヘラケズリの範囲は狭い。須恵器杯類は、形態から６世紀末の年代が与えられる。

ＳＫ13　出土した遺物には、須恵器杯蓋（47・49)・杯身（48)・壺（50）がある。

須恵器杯蓋（47）は長く延びる口縁部を持ち、扁平な天井部を持つ。杯身（48）は、口縁部と天井部の境の稜線がなくなり丸くなる。ＳＫ19出土の須恵器杯身（46）と同時期のものと思われる。杯蓋（47）は摘みを持つ。口縁部と天井部の境は不明瞭である。壺（50）は、短く立ち上がる口縁部に底の浅い体部を持つ小型の壺である。底部外面にはヘラケズリが施される。

ＳＨ14　遺物の出土量は少なく、土師器杯（51)・甕（52・53）のほか、貯蔵穴から（54・55)、カマド内から（56 ～ 59）が出土した。

土師器杯（51）は口縁部のみヨコナデされる在地の土師器である。(52 ～ 54)は体部の丸い中型の甕。(55･57）は、長胴の甕。(58･59）はコシキで、(59)には底部に板状の桟の痕跡が残る。

須恵器は細片が出土しており、カマド内から杯の小片（56）が出土している。

これら遺物について、時期の詳細は不明であるが、７世紀代の年代の可能性が高い。

ＳＢ19　ＳＤ17から須恵器が１点出土した。この溝はＳＸ９の周溝で掘立柱建物柱ＳＢ19とも重複している。当初は同一に掘削していたため、ＳＢ19の年代の一端を示す可能性が高いと判断してここにＳＢ19として掲載する。出土時の状況が不明なため、断定はできないので参考資料とする。

須恵器杯身（60）は口径10cmの小型品で、口縁部の立ち上がりは短い。７世紀前半の年代を与えることができる。

ＳＤ15　出土した遺物には須恵器杯(61)・陶器甕(63)があり、中世のものと思われる。須恵器杯身(61)底部外面はヘラ切りされるもので、８世紀前半のものと思われる。

ＳＤ15は、里道に沿っているため新しい遺構と考えられ、ＳＤ15南部東側が膨らんでいるため、古い土坑の遺物が混入した可能性も考えられる。

周溝上層出土土器　周溝の埋土上層から出土したものは次のとおりである。

ＳＸ５の墳丘ないし周溝からは（73･74)、ＳＸ５・６間の周溝からは（68・69)、ＳＸ６・７間の周溝からは（63 ～ 67)、ＳＸ８の墳丘ないし周溝からは(70 ～ 72）が出土した。

６世紀の須恵器器台(68)、土師器鉢(63）７世紀末から８世紀初頭の須恵器杯(68･72)、土師器杯(71)は平安時代（９世紀)、13世紀の山茶椀（73・74）と時期幅がある。

なお、土師器杯(70・71)・須恵器蓋(72）は、ＳＸ８南側の掘立柱建物群が集中する場所（Ｆ18・Ｆ19・Ｅ19地区）からの出土である。須恵器蓋（71）は宝珠摘みであることから７世紀後半から８世紀初頭のものと思われる。このほか、平安時代まで下ると考えられる土師器杯（71）のほか、同時期の包含層出土の土師器杯（76）も周辺（Ｇ20地区）から出土しており、周辺に７世紀から平安時代の遺構が存在する可能性は指摘できる。

包含層出土土器　包含層出土とした遺物は少なく、コンテナで１/２箱に満たない。

土師器甕（77）は、出土した場所から見て、竪穴住居ＳＨ14に伴うものと考えられる。

Ⅴ まとめ

今回の調査の大きな成果は、古墳時代の方形周溝墓５基を検出し、このうち３基は墳丘を伴うことが上げられる。周辺の調査でも弥生時代前期から古墳時代の方形周溝墓が確認されており、時代などの判断について統一的な視点で、再整理を行い、織糸遺跡の方形周溝墓が周辺地域の中でどのような位置をしめるか、方形周溝墓群の動向を検討してみる。なお、参考文献については、第Ⅱ章の註を参考のこと。

１　金剛坂遺跡

金剛坂遺跡は、三重県を代表する弥生時代前期の遺跡である。祓川右岸の台地縁辺部にあり、南側の標高15mで北側に向かって低くなる。遺跡の範囲は、南北850m、東西170 ～ 350mに広がる大規模な遺跡で、南側では辰ノ口古墳群と重複する。昭和46年から平成12年度までに６次にわたる発掘調査が実施されているが、遺跡の実態については良く判っていなかった。ここでは、これまでの調査成果について問題点を再検討してみる。なお、ここでの遺構番号については、Ⅵ章で再整理した遺構番号を使用する。

１）第２次調査トレンチ及び第３次調査

方形周溝墓は、北端の第２次調査（森田地区）で弥生時代中期のＳＸ109、弥生時代後期のＳＸ103・105 ～ 108 の５基が検出された。このほか、２次トレンチ調査ではＡ～Ｆトレンチまで設定して調査が行われて、県道に近いＢトレンチでは溝１条（弥生時代前期）と方形周溝墓６基、北端のＤトレンチからは弥生時代後期の方形周溝墓１基、奈良時代の竪穴住居２棟が検出されている。この間のＡ・Ｃトレンチから古代の遺構が若干検出されているだけである。このトレンチで全体を網羅できないが金剛坂遺跡として広がる遺跡範囲のうち、南北の中間の遺構密度は薄いことが予想される。

Ｂトレンチの方形周溝墓のうち時期の判明するものは、５世紀末から６世紀初頭にかけての須恵器杯身２点を出土したＳＸ308しかない。このほかの方形周溝墓からは、弥生時代前期の壺や甕の細片しか出土していないが、埋葬に伴う遺物とは考えられず、混入品と思われる。

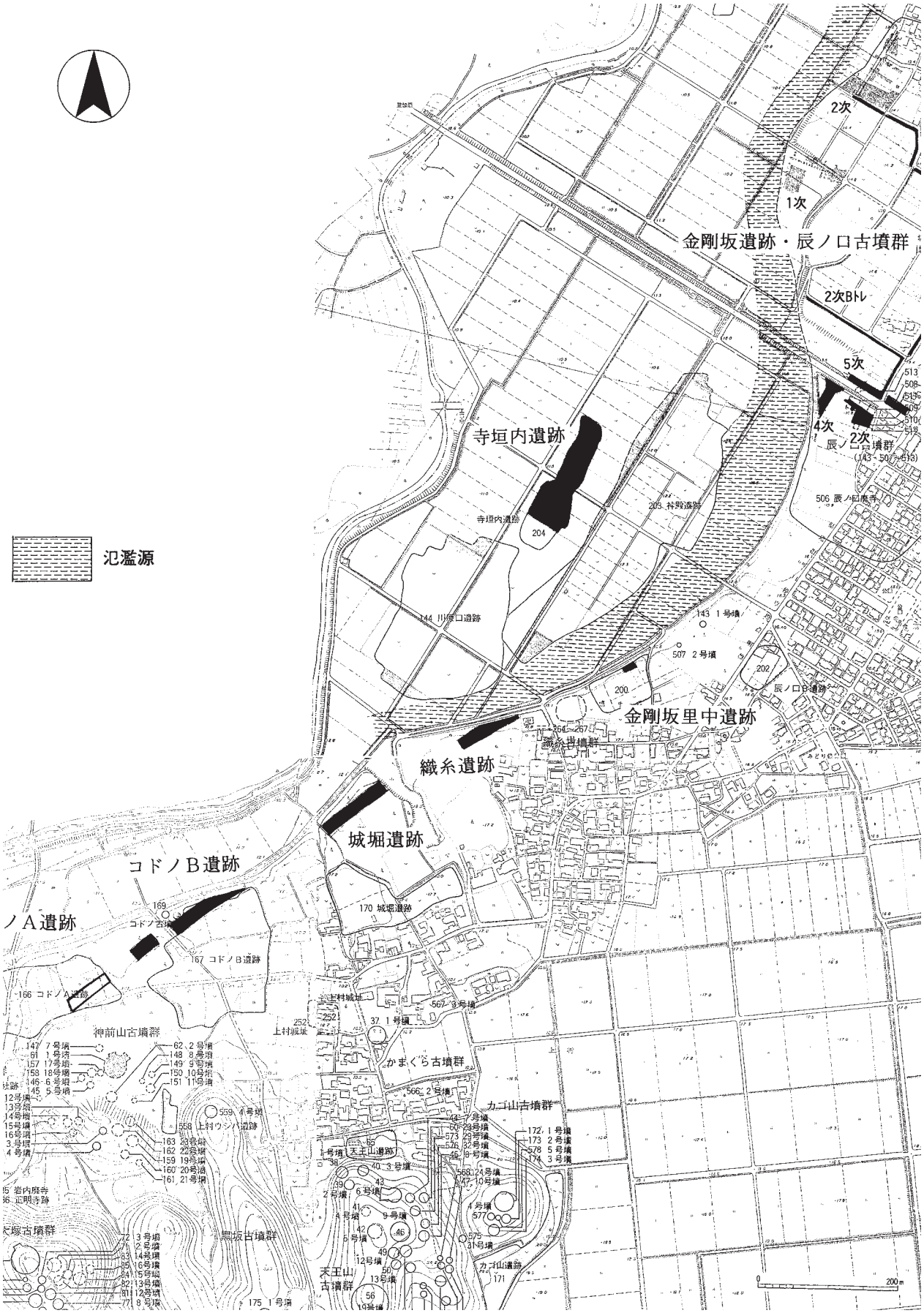
ＳＸ304は弥生時代前期のＳＤ305より新しく、ＳＸ307より新しい。ＳＸ303・308 ～ 310は配置から考えて方形に巡る溝と考えた。また、第３次調査区は、Ｂトレンチの北側に位置し、方形周溝墓が１基確認されている。これらの方形周溝墓は、復元した配置図（第37図）を見ると重複が少なく、計画的に造営されたことが窺える。時期は明確ではないが、６世紀前後の古墳群と考えてもいいのではないだろうか。

２）第５次調査の再整理

第５次調査は県道の北側に平行する調査区で、弥生時代前期の方形周溝墓ＳＸ３・６・７の３基、14号墳１基を検出したと報告している。報告の中ではＳＸ３（503）は、ＳＸ６（506）より新しく、ＳＸ７（507）はＳＸ６より新しく、いずれも弥生時代前期の遺物しか出土していないことから弥生時代前期の遺構としている。また、ＳＤ10（510）・11（511）を14号墳の周溝として調査区外に延びると報告した。この調査成果についても、周辺の第２次Ｂトレンチなど周辺遺構との関係から見て、考え直す必要があると思われ、以下、検討を加えた結果を記述する。

ＳＸ506　弥生時代前期の遺物しか出土してしていないが、いずれも細片であり、埋葬に伴う供献用土器とは考えられないことから混入品と見るべきであろう。また周溝は東に延びており、南北方向の周溝は14号墳とした西側溝ＳＸ510と方向が合うことから東西幅約16mの方形周溝と考えることができる。ＳＸ510からは土師器高杯や須恵器甕などが出土しており、６世紀代の方墳と考えるべきであろう。

ＳＸ507　溝幅は、ＳＸ506が2.4m、ＳＸ507が1.7mで、ＳＸ507はＳＸ506より新しいとされており、北側土層断面には溝幅から考えると二つの遺構埋土が表れるはずであるが、長さ３mの単一溝の断面しか確認できていない。断面に表れた溝は長さから斜方向の延びるＳＸ506の埋土と考えられ、ＳＸ506が



第36図　周辺遺跡調査位置図（1：8,000）

新しいことが土層図から読みとれる。出土した遺物は、弥生時代前期の細片しかないことから混入の可能性が高いが、詳細な時期については保留する。

ＳＸ503　出土した遺物は弥生時代前期の甕・壺の小片のため、供献された遺物とは考え難く混入の可能性が高い。また、ＳＸ506と重複がありＳＸ506より新しいとされている。ＳＸ506についても古墳の周溝と再検討できることや、南側の第２次調査でも規模の小さな古墳が確認されていることから、同様の遺構の可能性が高い。

14号墳　西周溝としたＳＤ510は、ＳＸ506に繋がる可能性が高いことは前述した。東側周溝としたＳＤ511は調査区の外に延びるとされるが、東側に位置する第２次調査Ｂトレンチでは続きが確認されていない。このため、調査区の東側にあるＬ字状のＳＤ512に繋がると考えるのが妥当と判断できる。ＳＤ511からはＳＤ510の土師器高杯に類似する遺物が出土しており、６世紀代の一辺約17mの方墳と考えられる。

ＳＸ501　弥生土器の細片が出土することから、時期の詳細は不明であるが弥生時代の遺構としてある。これについても積極的に時期を遡らせる必要性はなく、供献時の遺物が少ないことから、周辺の遺物が混入したものとも考えられる。

このように見てみると、弥生時代前期として報告した方形周溝墓は、重複がほとんどないことから計画的に造営された古墳と考えられ、南側の辰ノ口古墳群と一連で造営された古墳群の可能性が高い。

なお、第２次調査（辰ノ口地区）のＳＤ203、第５次調査のＳＸ507、第４次調査のＳＤ407は、弥生時代前期の細片となった遺物しか出土していないことから、混入の可能性が高いと考えられるが、この３条の溝は、古墳と重複していることから、弥生時代の遺構の可能性も捨て去ることはできない。ここで注目されるのは、第２次調査ＢトレンチのＳＤ305が上げられる。ＳＤ305は大きく弧状に曲がり、弥生時代前期の環壕の可能性が高い。溝の方向から３条の溝のどれかに繋がっていく可能性もあり、南側に集落が広がることが予想される。

以上のような６次の調査から、全体が網羅できている訳ではないが、遺構の分布状況の大まかな傾向を窺がうことができる。

当地域で最初に集落が構成されたのは縄文時代で第１次調査区周辺が該当する。弥生時代前期の遺構は、第１次調査区でも若干確認できるが、その中心は第２次ＢトレンチＳＤ305から南側にあるものと想定できる。ＳＤ305は検出延長20mが南側に向いて楕円状に巡っており、続きは確定できていないが環壕の可能性が高いものである。また、溝の南側の標高は最も高くなっており、竪穴住居は確認されていないものの当概期の土坑などが検出されている。このように周辺から弥生時代前期の遺構・遺物が多く確認されることとから、集落の中心部が存在した可能性が高く、古墳の周溝へ弥生時代前期の遺物が混入する一因となっている。

弥生時代後期では､北側の河岸段丘縁辺部へ移り、引き続き方形周溝墓が造営されている。この後、当遺跡では、古墳時代中期まで遺構が確認されなくなり、古墳時代中期に遺跡範囲南側で辰ノ口古墳群が造営されるようになる。

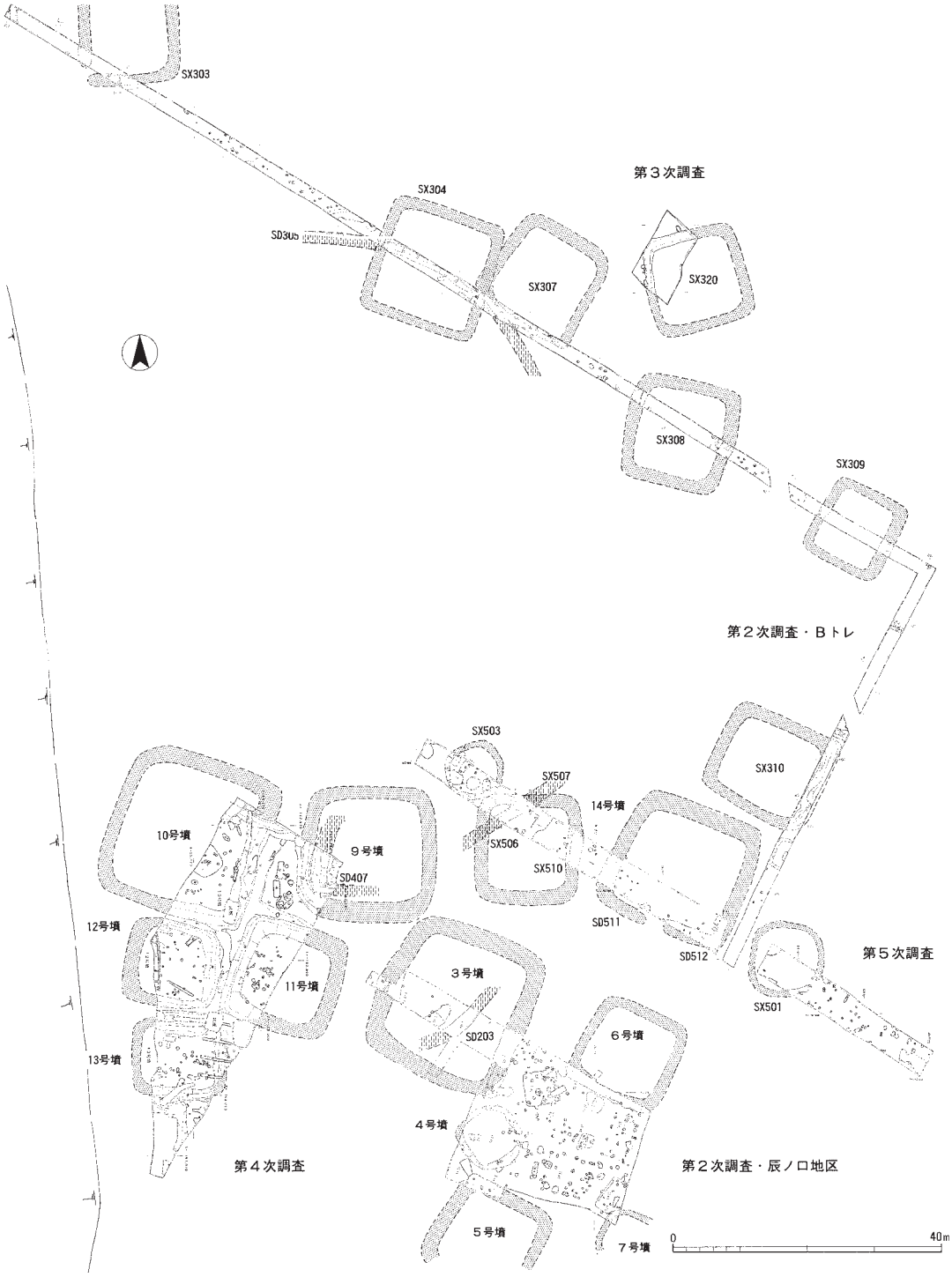
２　織糸遺跡南側の遺跡

当遺跡の南側では城堀遺跡、コドノＢ遺跡で方形周溝墓が確認されている。

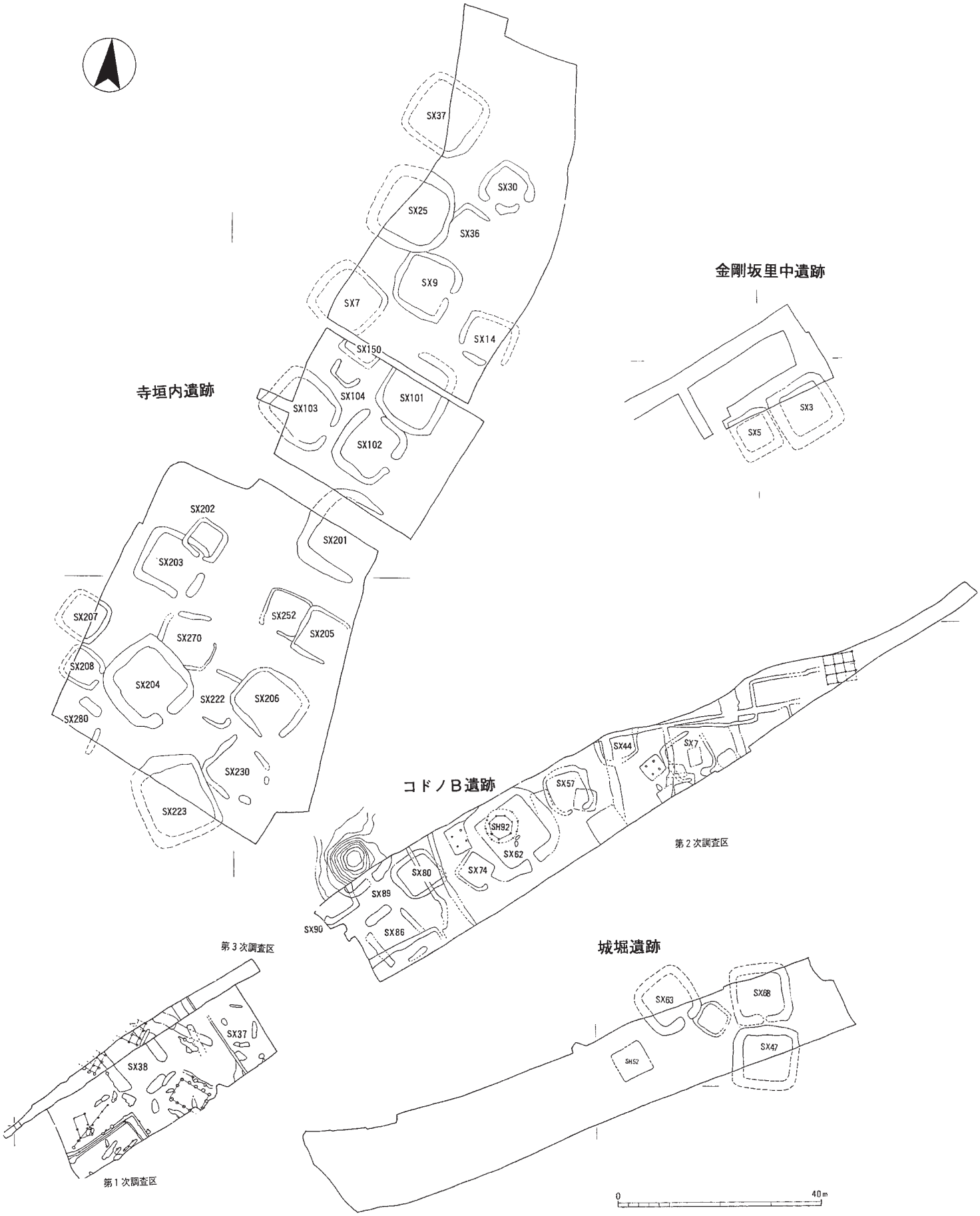
コドノＢ遺跡では３次にわたる調査が実施され、弥生時代前期の方形周溝墓２基、中期２基、後期～古墳初５基、古墳時代初期１基が検出されている。

前期とした２基のうちＳＸ37は四周隅が途切れるもので、出土した遺物は弥生時代前期の細片しかない。第１次調査では、弥生時代前期としたＳＸ38も同様の出土状況のため前期の遺構としたが、第３次調査の結果から弥生時代中期へと年代の変更をしている。このことから見ても、弥生時代前期の細片となった遺物は、混入の可能性が高く、ＳＸ37も弥生時代中期へと年代を引き下げるものである。ＳＸ86は、中期としたＳＸ37・38同様に周溝の四周隅が途切れるもので、出土した遺物には弥生時代前期の細片しかない。遺物は、細片が多いことから、埋納に伴うとは考えられず､混入と見るべきものであろう。同様の形態の方形周溝墓が集中することから、造営年代が近接する可能性が高い。

注目できる遺構には、盛土を伴う方形周溝墓ＳＸ



第37図　周辺遺跡遺構略図・金剛坂遺跡（１：1,000）



第38図　周辺遺跡遺構略図・寺垣内遺跡ほか（１：1,000）

89がある。墳丘は路線外のため調査を行っていないが、織糸遺跡の方形周溝墓と類似する点から見ても興味深い。Ｓ字状甕が出土していることから古墳時代初期のものと考えられる。

このほか、重複する方形周溝墓ＳＸ62・74とＳＸ89・90があることから、弥生時代中期とは別に継続して造営されたことが判る。前者は、報告によれば弥生時代後期から古墳時代初めの時期として括られている。重複関係は不明であるが、ＳＸ62から出土した遺物の中に腸抉柳葉式の鉄鏃が出土したこと、後述のＳＸ89の規模に類似することから古墳時代初期の遺構とされた。後者のうち、ＳＸ90は古墳時代初期のＳＸ89より古く、少量出土した細片から弥生時代中期としているが､供献時の遺物とは考え難く、弥生時代後期まで下る可能性が高い。このように、周溝から出土した遺物に供献時のものがなく、ＳＸ89もＳＸ62と同時期になる可能性も考えられよう。

当遺跡においても、方形周溝墓は大きく２時期に分けられている。まず、四隅が途切れるもの３基が弥生時代中期に出現し、一端中断されて古墳時代初期に造営されていると考えられる。

３　織糸遺跡西面の沖積平野

織糸遺跡から見下ろす位置にある祓川右岸の沖積平野には、寺垣内遺跡・川原口遺跡・神殿遺跡が位置する。３遺跡は別名称であるが、本来は一群を形成する遺跡群と思われる。ほ場整備を行う以前の地形を見ると県道南側では、これらの遺跡が所在する東側では周辺より約１ｍ低い水田が台地縁辺に沿って連綿と続いている。この痕跡（第36図）は、織糸遺跡西部を北進している祓川に滑らかに繋がることから、織糸遺跡西部で折れ曲がっている現祓川のかつての旧河道と考えられるものである。この旧河道の移動した年代については不明であるが、低地帯は当初の河道の痕跡を示しているものと想定できる。

３遺跡のうち、寺垣内遺跡では弥生時代中期から数が少なくなるが古墳時代初期までの方形周溝墓によって墓域を形成しており、一時期途絶えるが６世紀になって竪穴住居などが確認され住居域になっていく。また、墓域は時期によって異なり、弥生時代中期は南側を中心としているのに対して、弥生時代後期・古墳時代初期と、北側に広がっていく。

弥生時代の住居域は明らかではないが、西側に位置する川原口遺跡が寺垣内遺跡の方形周溝墓を葬った弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落跡である可能性が高い。

４　織糸遺跡と周辺方形周溝墓について

織糸遺跡で方形周溝墓の大きな特色は、古墳時代初期に造営された墳丘を伴う方形周溝墓ということである。コドノＢ遺跡では、調査区外であるが約１ｍの墳丘盛土を持つＳＸ69が類例として上げられる。この２遺跡ともに立地条件を見てみると、祓川の沖積平野を見下ろす明野原台地縁辺にあることが注目される。さらに、金剛坂里中遺跡でも古墳時代初期の周溝のみの方形周溝墓２基が確認されており、立地条件が同じことから墳丘を伴っていた可能性が高いといえる。このように古墳時代初期に台地縁辺部に突如として墳丘を伴う方形周溝墓が表れることが、当地域の特色といえる。

当地域では、弥生時代前期に出現した金剛坂遺跡を拠点とする集落がコドノＢ遺跡、織糸遺跡へと周辺に広がっていき、中期には台地北側の斎宮跡や、沖積平野部で寺垣内遺跡、粟垣内遺跡へと拡大し、後期においても金剛坂・寺垣内・コドノＢ遺跡では継続して遺構が確認されている。

織糸遺跡の方形周溝墓を造営した集落跡は、台地のさらに東側に求めることも可能だが、あくまでも水が恒常的に利用できる祓川の沖積平野部に求めるべきと思われ、同時期の寺垣内遺跡でも方形周溝墓が数例確認されており、立地を異にする方形周溝墓が同時併存していることとなる。

織糸遺跡の方形周溝墓は下から見上げさせることを狙った立地となっており、前面の沖積平野を意識した、いわば平野を威圧する方形周溝墓といえ、寺垣内遺跡の集団墓内の方形周溝墓とは、性格の異なるものである。このことは集団の中から突出した権力者の出現といえるではないだろうか。

なお、台地縁辺に出現した方形周溝墓は、５世紀代に辰ノ口古墳群、神前山古墳群、斎宮跡内の塚山古墳群へと繋がり、この中での有力者が神前山１号墳を造営したものと考えられる。

遺跡名	次数	地区	種類	遺構番号	形状	規模（外径）		規模（内径）		陸橋	溝幅	溝深さ	時期	遺物	年度	備考
						東西	南北	東西	南北							
金剛坂遺跡	1	坂垣内	SX	14	方	12.0 ×		×				0.44	弥生後		1971	
金剛坂遺跡	1	坂垣内	SX	25	方	×		×	7.0		1.4		不明		1971	東側は他の溝と重複
金剛坂遺跡	1	坂垣内	SX	26	方	10.2 ×	10.8	7.8 ×	8.0		1.2	0.46	弥生後		1971	
金剛坂遺跡	1	坂垣内	SX	30	方	11.8 ×		9.2 ×			1.4		不明		1971	
金剛坂遺跡	1	坂垣内	SX	31	方	12.2 ×	12.0	10.0 ×	10.2		1	0.34	弥生中		1971	31・32は重複
金剛坂遺跡	1	坂垣内	SX	32	方	13.4 ×	13.2	10.4 ×	10.8		1.6	0.2	弥生中		1971	31・32は重複
金剛坂遺跡	1	坂垣内	SX	36	方	11.4 ×	11.4	8.6 ×	8.4		1.4	0.2	弥生中		1971	
金剛坂遺跡	2	森田	SX	102	方	×		9.0 ×			1.5	0.17	不明	弥	1974	
金剛坂遺跡	2	森田	SX	103	方	×		×					弥生後	弥壺	1974	L字状の溝・規模不明
金剛坂遺跡	2	森田	SX	104	方	×		9.0 ×	9.0				弥生中	弥壺	1974	
金剛坂遺跡	2	森田	SX	105	方	12.0 ×	13.0	8.3 ×	8.7	北西隅	2.3	0.45	弥生中	弥壺・高杯	1974	
金剛坂遺跡	2	森田	SX	106	方	4.8 ×	5.0	3.8 ×	3.0		0.9	0.2	弥生後	弥高杯	1974	
金剛坂遺跡	2	森田	SX	107	方	×		7.3 ×	7.3	北西隅	1.6	0.35	弥生後	弥壺	1974	
金剛坂遺跡	2	森田	SX	108	方	10.8 ×	9.0	7.8 ×	7.0	南西隅	1	0.2	弥生後	弥壺	1974	
金剛坂遺跡	2	辰ノ口	古墳	4号墳	方	9.1 ×	9.5	7.0 ×	7.2	東南隅	1.6	0.35	古墳後	土・埴	1974	SD13、７世紀の遺物があるが、古墳後の可能性高い
金剛坂遺跡	2	辰ノ口	古墳	6号墳	方	14.0 ×		×			1.8	0.35	古墳後？	土・須・埴	1974	SD4、７世紀の遺物があるが、古墳後の可能性高い
金剛坂遺跡	2	辰ノ口	古墳	5号墳	方	×		×				0.45	古墳後	埴	1974	SD５
金剛坂遺跡	2	辰ノ口	古墳	7号墳	方	×		×			1	0.4	古墳後	須	1974	SD6、７世紀の遺物があるが、古墳後の可能性高い
金剛坂遺跡	2	辰ノ口	古墳	3号墳	方	23.0 ×		16.2 ×			3.8	0.8	古墳後	土・須・埴	1974	SD7・8
金剛坂遺跡	2	辰ノ口	SX	303	方	×		×			1.6～2	0.6	古墳後	弥生	1974	Ｂトレンチ
金剛坂遺跡	2	辰ノ口	SX	304	方	18.8 ×		15.4 ×			1.7	0.9	古墳後	弥生	1974	Ｂトレンチ
金剛坂遺跡	2	辰ノ口	SX	307	方	17.0 ×		－ ×			1	0.3	古墳後		1974	Ｂトレンチ
金剛坂遺跡	2	辰ノ口	SX	308	方	17.2 ×		13.0 ×			2.2	0.6	古墳後	６世紀初	1974	Ｂトレンチ
金剛坂遺跡	2	辰ノ口	SX	309	方	13.6 ×		×			1.6～2	0.5	古墳後	遺物なし	1974	Ｂトレンチ
金剛坂遺跡	2	辰ノ口	SX	310	方	×	15.3	×			1.6以上	0.6	古墳後		1974	Ｂトレンチ
金剛坂遺跡	2	辰ノ口	SX	311	方	×	4.9	×	3.9		0.4	0.4	鎌倉	山茶椀	1974	Ｂトレンチ
金剛坂遺跡	2	辰ノ口	SX	312	方	×		×			1.2	0.3	弥生中	壺２個体	1974	Ｅトレンチ
金剛坂遺跡	3	辰ノ口	SX	320	方	×		×			1.6	0.2	古墳後		1993	
金剛坂遺跡	4	辰ノ口	SX	407	方	×		×			2.5	0.6	古墳後？	弥	1997	遺物は混入の可能性あり。報告では方形周溝に入れていない
金剛坂遺跡	4	辰ノ口	古墳	９号墳	方	×		×			1.8	0.35	古墳後	須・埴	1997	SD23須恵器は７世紀
金剛坂遺跡	4	辰ノ口	古墳	10号墳	方	×	18.6	×	14.0		3	1	古墳後	土・須・埴	1997	SD13、須恵器は６世紀後半
金剛坂遺跡	4	辰ノ口	古墳	11号墳	方	×	16.1	×	11.5		3	0.8	古墳後	須	1997	SD28、混入が多いが６世紀代
金剛坂遺跡	4	辰ノ口	古墳	12号墳	方	×	12.4	×	9.8		2.2	0.7	古墳後？		1997	SD38、遺物は弥生前期のもの、明確な時期は不明
金剛坂遺跡	4	辰ノ口	古墳	13号墳	方	×	12.2	×	9.2		1.8	0.5	古墳後？		1997	SD49、遺物は弥生前期のもの、明確な時期は不明。13号墳までの名称は報告書で使用
金剛坂遺跡	5	辰ノ口	SX	503	円	8.9 ×		7.5 ×			0.9	0.5	古墳後？		1999	報告では弥生前期としているが遺物は混入の可能性が高い
金剛坂遺跡	5	辰ノ口	SX	506・510	方	16.0 ×		11.5 ×			2.4	0.56	古墳後？		1999	報告では弥生前期としているが、弥生前期の遺物は混入か。14号墳の西のＳＤ10を東の周溝とした。
金剛坂遺跡	5	辰ノ口	SX	507	方	×		×			1.7	0.54	不明		1999	報告では弥生前期としているが、弥生前期の遺物は混入か
金剛坂遺跡	5	辰ノ口	SX	511・512	方	×		16.8 ×			2.4	0.54	古墳後		1999	14号墳東のSD11を西の周溝とした。
寺垣内遺跡	1	Ｆ地区	SX	7	方	－ ×	－	－ ×	－		1.2	0.8	古墳初期		1985	Ｌ字状の溝・東北部のみ
寺垣内遺跡	1	Ｆ地区	SX	9	方	12.2 ×	12.2	9.5 ×	9.1	東中央	1.5	0.5	弥生後期		1985	
寺垣内遺跡	1	Ｆ地区	SX	14	方	(8.0) ×	9.5	－ ×	7.2	西南隅	1.1	0.5	弥生後期		1985	東半は調査区外
寺垣内遺跡	1	Ｆ地区	SX	25	方	－ ×	16.0	－ ×	11.7	南中央	2.5	0.9	古墳初期		1985	西半は調査区外
寺垣内遺跡	1	Ｆ地区	SX	30	方	9.5 ×	10.0	7.0 ×	7.0	東・南中央	2.5	0.5	弥生後期		1985	
寺垣内遺跡	1	Ｆ地区	SX	36	方	－ ×	－	－ ×			1.1	0.4	弥生後期		1985	Ｌ字状の溝・SX２５と重複
寺垣内遺跡	1	Ｆ地区	SX	37	方	－ ×	－	－ ×	－		2.4	0.9	古墳初期		1985	
寺垣内遺跡	1	Ｆ地区	SX	101	方	13.2 ×	12.8	10.6 ×	9.6	西北隅	1.7	0.5	弥生後期		1986	
寺垣内遺跡	1	Ｆ地区	SX	102	方	12.5 ×	13.5	9.0 ×	10.0	西北隅・東中央	2	1.1	弥生後期		1986	
寺垣内遺跡	1	Ｆ地区	SX	103	方	15.0 ×	13.3	11.5 ×	10.0	東中央	1.8	0.6	弥生後期		1986	
寺垣内遺跡	1	Ｆ地区	SX	104	方	6.0 ×	－	4.4 ×	－		0.8	0.5	古墳初期		1986	］状の溝・南部のみ

第７表　織糸織遺跡周辺の周溝墓と古墳（1）

遺跡名	次数	地区	種類	遺構番号	形状	規模（外径）			規模（内径）			陸橋	溝幅	溝深さ	時期	遺物	年度	備考
						東西		南北	東西		南北							
寺垣内遺跡	2	F地区	SX	201	方	(14.0)	×	17.0	—	×	12.5	東南隅	3	1.2	弥生中期		1986	東溝は他の南北溝と重複
寺垣内遺跡	2	F地区	SX	202	方	7.9	×	7.7	5.4	×	5.5	南中央	1.2	0.6	弥生後期		1986	SX203より新
寺垣内遺跡	2	F地区	SX	203	方	13.7	×	12.1	10.2	×	9.2	東辺北・東南隅	1.8	1.1	弥生中期		1986	SX202と重複
寺垣内遺跡	2	F地区	SX	204	方	16.4	×	15.8	11.2	×	11.0	東中央	2.6	0.8	弥生後期		1986	
寺垣内遺跡	2	F地区	SX	205	方	9.0	×	10.1	7.5	×	8.1	不明	1.2	0.6	弥生中期		1986	東溝は他の南北溝と重複
寺垣内遺跡	2	F地区	SX	206	方	14.1	×	12.9	11.5	×	9.5	東南隅	1.8	0.6	弥生後期		1986	SX222と重複
寺垣内遺跡	2	F地区	SX	207	方	—	×	9.1	—	×	7.0		1.1	1.1	弥生後期		1986	西側は調査区外
寺垣内遺跡	2	F地区	SX	208	方	(6.5)	×	7.4	—	×	5.5	東中央	1	0.7	弥生後期		1986	
寺垣内遺跡	2	F地区	SX	222	方	7.4	×	—	5.7	×	—	東中央	1.2	0.5	弥生後期		1986	西溝は不明
寺垣内遺跡	2	F地区	SX	223	方	(15.0)	×	(12.0)	—	×	—		3.2	0.5	弥生後期		1986	南半は調査区外
寺垣内遺跡	2	F地区	SX	230	方	12.0	×	12.4	9.5	×	10.2	西北隅	1.3	0.3	弥生後期		1986	竪穴と重複。
寺垣内遺跡	2	F地区	SX	252	方	9.4	×	8.9	—	×	—		0.9	0.4	弥生中期		1986	
寺垣内遺跡	2	F地区	SX	270	方	11.5	×	11.0		×			1.2	0.1	弥生後期		1986	
寺垣内遺跡	2	F地区	SX	280	方	(10.0)	×	(6.5)	—	×	—	四周隅	2	0.9	弥生後期		1986	竪穴と重複。北・東溝
神殿遺跡	2	D地区	SX		方		×			×			1.4	0.7	弥生後期	台付壺１点	1986	南西部のみ
金剛坂里中遺跡			SX	3	方	11.2	×	—	8.0	×	—	不明	2.3	0.4	古墳初期		2003	長頸壺
金剛坂里中遺跡			SX	5	方	8.5	×	—	—	×	—	不明		0.3	古墳初期		2003	溝幅1.4m以上
城堀遺跡			SX	47	方	13.0	×	—	9.8	×	—	不明	2.2	0.7	古墳初期	壺	2003	68・47の間の溝は共有していると記載されているが別個と考えられ、重複関係は不明。
城堀遺跡			SX	63	方	11.0	×	—	7.5	×	—	南中央	2.3	0.56	古墳初期	壺・高杯	2003	
城堀遺跡			SX	68	方	11.5	×	—	7.8	×	—	南中央	2.1	0.57	古墳初期	壺	2003	南中央陸橋部は大半が後世のSD76と重複しているが、存在する可能性が高い
城堀遺跡			SX		方	6.2	×	—	4.8	×	—	不明	0.8		時期不明		2003	東南部は奈良の竪穴と重複。南辺の溝は浅く一部を検出。報告書では遺構番号がないが形態から方形周溝としたが、要検討すべき
コドノ遺跡	2		SX	86	方	11.9	×	9.6	9.6	×	7.3	四周隅	1.2	0.3	弥生中		2000	前期の細片遺物が多いが、混入の可能性が高い→中期
コドノ遺跡	2		SX	90	方	7.8	×		6.0	×		西側	1	0.3	古墳初期		2000	SX89より古。遺物は弥生中期だが、混入の可能性が残る。西側の陸橋も地形が傾斜しているため、削平され陸橋でない可能性が高い
コドノ遺跡	2		SX	7	方	8.9	×	9.3	8.4	×	7.7	西北隅・南中央	0.8	0.24	古墳初期		2000	SH33・35より古
コドノ遺跡	2		SX	44	方	8.6	×		6.8	×		南中央	1.1	0.19	古墳初期		2000	
コドノ遺跡	2		SX	57	方	8.9	×	9.0	6.9	×	7.2	南中央	1.14	0.44	古墳初期	壺１個体	2000	
コドノ遺跡	2		SX	62	方	15.2	×	15.8	10.8	×	11.2	南中央	2.7	0.6	古墳初期	壺３個体	2000	SX74と重複、関係は不明
コドノ遺跡	2		SX	74	方	6.8	×		5.5	×	5.5	南中央	0.9	0.13	古墳初期		2000	SX62より古
コドノ遺跡	2		SX	80	方	9.3	×	8.4	7.0	×	6.8		1.4	0.33	古墳初期	Ｓ字カメ	2000	南辺中央溝重複・陸橋ありか
コドノ遺跡	2		SX	89	方		×		10.0	×		南中央	2.1	0.4	古墳初期		2000	路線外に墳丘　（１ｍ）残る。南側の溝のみ掘削。Ｓ字カメ？
コドノ遺跡	1		SX	37	方		×	8.2		×	6.8	四周隅	1.1	0.2	弥生中		2000	西側の溝は未。北側の溝も浅く規模的に別遺構の可能性あり。前期の細片遺物が少量混入か→中期。
コドノ遺跡	1・3		SX	38	方	12.2	×		7.6	×		四周隅	2.5	0.4	弥生中		2000	前期の遺物が多かったが、３次調査で中期の遺物少量出土
織糸遺跡			SX	5	方	12.5	×		8.0	×			2.5	0.4	古墳初期		2004	６号墳より古、盛土・主体部
織糸遺跡			SX	6	方	16.5	×		11.0	×			2.8	0.7	古墳初期	管玉６点、丸玉１点	2004	５号より新、盛土・主体部
織糸遺跡			SX	7	方	13.0	×	12.3	10.0	×	8.0	東中央	2	0.8	古墳初期	主体部上に加飾壺	2004	８号より新、盛土・主体部
織糸遺跡			SX	8	方	9.5	×	9.3	6.5	×	7.0	東南隅	1.5	1.7	古墳初期		2004	７号より古、盛土・主体部
織糸遺跡			SX	9	方		×	8.0		×	6.5		1.5	0.5	古墳初期		2004	コ状に溝を検出

第８表　織糸織遺跡周辺の周溝墓と古墳（２）

Ⅵ　周辺の遺構について

織糸遺跡の前面に広がる祓川の沖積平野は、ほ場整備に伴なって昭和60・61年に調査が実施されている。明和町遺跡地図によれば、寺垣内遺跡（調査時の旧称・寺垣内遺跡Ｆ地区）、神殿遺跡　（調査時の旧称・神殿遺跡Ａ～Ｃ地区・寺垣内遺跡Ｃ地区）、川原口遺跡（調査時の旧称・寺垣内遺跡Ａ・Ｂ・Ｅ地区）がある。

これらの３遺跡は、字名が異なるため別遺跡としているが、旧祓川の自然堤防と考えられる微高地上にある一連の遺跡と考えるべきであろう。

ここでは、方形周溝墓の確認された寺垣内遺跡について、遺構と遺物の概要を掲載する。また、織糸遺跡北方に広がる金剛坂遺跡についても、方形周溝墓が多数検出された第２次トレンチ調査の成果を再整理し、織糸遺跡と比較するための資料として掲載する。

1　寺垣内遺跡

寺垣内遺跡は、昭和60・61年の２カ年にかけて県営ほ場整備に伴なって約6,200㎡の発掘調査を実施した。対象地は、海抜約14mの祓川右岸の自然堤防上に位置する。

土層は、表土・床土が厚さ0.4mあり、その下層の黄褐色粘質土層が中世の遺構面である。黄褐色粘質土は厚さ0.2～0.3mあり、その下層の黄褐砂質土が弥生時代および奈良時代の遺構検出面である。

検出した遺構は、大きく分けて３時期に分けられる。弥生時代中期・後期から古墳時代前期にかけての方形周溝墓群、飛鳥時代から奈良時代を中心とするの竪穴住居や掘立柱建物群、鎌倉時代から中世までの集落跡である。

検出した遺構の遺構番号は、北側調査区・中央調査区・南側調査区の３地区に分けて、それぞれが付与されていた。この番号は、遺跡全体の通し番号として整理してなく、かつては現地説明会で簡略した遺構番号も与えられていた。再報告にあたっては、昭和60年調査（北側調査区）は遺構番号１～100番まで、61年調査の道路北側の遺構（中央調査区）は101番～、道路南側の遺構（南側調査区）を201番からとして、新しい遺構番号を付与した。

現地説明会・明和町史等で一部報告された遺構番号があるが、今回の遺構番号を正式番号とする。以下、主な遺構と遺物について記述するが、その他の遺構については、遺構一覧表を参照されたい。また、方形周溝墓の配置については、第38図に記してあるので参照のこと。

1）弥生時代中期の遺構と遺物

この時期の遺構は、南側調査区に集中しており、方形周溝墓ＳＸ201・203・205・222・252・270の６基の方形周溝墓がある。ＳＸ203以外のものは10m前後の規模を有するのに対して、ＳＸ201が約17mと突出した規模である。またＳＸ222は出土した遺物が少なく断定できないが、配置や方向から見て同時期の可能性が高い。

ＳＸ201　中央調査区と南調査区の道路を挟んで検出した。東側の周溝について中世の溝に壊されているため不明であるが、東側周溝の両端が陸橋部と思われる。溝幅は２ｍから広いところで３ｍで、深さは約1.2mである。

出土した遺物は、コンテナで約１箱あるが、図示できるものは少ない。広口壺（33）は、南東隅の溝底から出土した。算盤玉形の体部ではなく、やや丸みを持つ体部であることから中期でも新しい様相を持つ。広口壺（32）は口縁部を欠損するが算盤玉形の体部を持ち、体部には文様帯を施す。

ＳＸ203　ＳＸ201の西側に位置し、ＳＸ202より古い。ＳＸ201同様に東側周の溝両端が陸橋部である。東側周溝中央の溝底からは、ほぼ完形の広口壺（38）・受口状口縁細頸壺（40）、西側周溝の南側から広口壺(39）が出土した。

出土した遺物は、コンテナで約１箱ある。広口壺（38）は体部外面に簾状文・波状文・直線文の文様帯を持ち、口縁部内面に刺突文を２条、口縁端部外

第39図　寺垣内遺跡遺構平面図（1：300）

第40図　寺垣内遺跡遺構平面図(1：300)

面にも波状文を施す。受口状口縁細頸壺は体部外面に縦方向に大きくうねらす波状文を施す。(41) は受口状口縁を持つ鉢で、体部外面に刺突文と簾状文のほか、口縁部内外面に刺突文を施す。

ＳＸ205　ＳＸ201の南東にある東側周溝は、中世の溝によって壊されている。

遺物は、コンテナで３箱出土したが図示できたものは少ない。北側周溝の中央部から壺の体部（74）が出土した。

ＳＸ222　ＳＸ205の南側にあり、ほかの遺構と重複して壊されており、北側周溝とＬ字状の南側周溝の一部しか確認できていない。遺物も少量出土しただけである。

ＳＸ252　ＳＸ205の西側に隣接する南側周溝端が陸橋となる。出土した遺物は少ないが、ほぼ完形の広口壺（99）が南側周溝内の端から出土した。頸部外面に簾状文、体部外面に直線文・最下段に波状文を施す。体部下半のヘラミガキは文様帯の施工後に施している。口縁部内面に刺突文、端部外面に波状文を施すなど装飾性が強い。

ＳＸ270　ＳＸ252の南西にある。四周が途切れた形で当初は別個の遺構として掘削した。深いところで0.4mあるが、四周は浅くて削平されたか、四周隅が当初から陸橋とされていたかは不明である。

遺物は少なく、西側周溝内から甕（100）が出土した。体部外面はハケメのあと下半部にヘラミガキを施し、ハケメの下にはタタキの痕跡と思われる凹凸が残る。

２）弥生時代後期の遺構と遺物

この時期の遺構は、方形周溝墓ＳＸ９・101～103・202・204・206～208・223・230など11基の方形周溝墓があり、南側調査区に出現した方形周溝墓が北側調査区まで墓域が広がる様子が見て取れる。なお、ＳＸ14は出土した遺物がないため、時期を決定できないが、近接するＳＸ９やＳＸ101と方向的に類似することから、弥生時代後期の可能性がある。

ＳＫ276・289、ＳＤ136などからも当概期の遺物が出土している。集落域とは考えられないため、なんらかの埋葬に関係する遺構かと思われる。

ＳＸ９　北側調査区南側にある東側周溝の中央に陸橋が設けられる。

主な遺物には、直口壺（２）、広口壺（３・５～７）、袋状太頸壺（８）があり、（９）は細頸壺の可能性が高い。

ＳＸ101　調査区北側中央にある。北側周溝は他の遺構と重複しており、明瞭ではないが、北西隅に陸橋が設けられる可能性が高い。

遺物は、東側周溝の溝底に並んだ状況で出土した。これらは細頸壺（20・23・24）で、(20) には頸部に直線文が施され、縦方向に波状文が１カ所残る。体部の膨らみ方は中期の特色である算盤玉状に近いため後期でも古い時期と考えられる。

ＳＸ102　ＳＸ101の南周溝と一部周溝が重複し、土層観察によりＳＸ102が新しいことを確認した。北西隅と東側中央に陸橋が残る。

出土した遺物には、広口壺（25～28）がある。

ＳＸ103　ＳＸ102の西側に位置する。一部西側にトレンチを拡張して規模を明らかにした。東側中央に陸橋を設ける。遺物は少なく、図化できたものは器台（29）だけである。

ＳＸ202　南側調査区北西に位置する。ＳＸ203より新しく、南側中央に陸橋を設ける。遺物は少なく、図化できたものは甕（34）、広口壺（35）がある。

ＳＸ204　調査区南西部にある比較的規模の大きな方形周溝墓である。東側中央に陸橋を設ける。

出土した遺物は、北西隅周溝から細頸壺（52）・広口壺（53）、陸橋南側周溝から広口壺（50・51）・直口壺（55）・高杯（62）がある。

ＳＸ206　ＳＸ204の東側に位置する。北東部が竪穴ＳＨ220と重複しているため、この部分の陸橋の有無は不明だが、南東隅に陸橋が設けられる。

遺物は、南西隅から広口壺（79）が出土した。

ＳＸ207　ＳＸ204の西側に位置する。東半分を検出しただけで、調査区外に延びる。

遺物は、周溝南側から広口壺（80）が出土した。

ＳＸ208　ＳＸ207の南側に位置する。西半分は調査区外に延び、東側中央に陸橋を設ける。

遺物は、南側周溝中央から直口壺（82・83）が出土した。

ＳＸ223　ＳＸ204の南東側に位置する。南半分は調査区外に延びるため、陸橋部は不明である。

遺物は、東側周溝中央底から広口壺（88・90）・台付甕（96）、北側周溝底から直口壺（86・87）が出土した。

ＳＸ230　ＳＸ206の南側に位置する。東北部を竪穴住居ＳＨ225と重複しており、周溝の深いところが床面に土坑状に残っていた。また、周溝東南部も深いところだけ土坑状に検出でき、埋土から壺（98）が出土した。このように東側は削平を受けており、周溝の深い位置しか残っていないことから、東側中央に陸橋が設けた形の可能性が高い。壺（97）は、周溝南側のＳＨ228と重複している位置の出土で、取り上げ時は竪穴出土としてあったが、方形周溝に伴なう遺物と考えた。

ＳＸ280　ＳＸ204の西側に位置する四周の途切れた方形周溝墓で、北側と東側周溝を検出した。北側周溝はＳＨ227と重複している。

出土した遺物には、北側周溝底から広口壺（102）・直口壺（101・104）があるが、直口壺（103）は出土位置から見て重複する竪穴住居ＳＨ227に伴なう可能性が高い。

ＳＫ276　南側調査区ＳＸ204の東側周溝の内側にある土坑で、ＳＫ275との重複関係は不明であるため、遺物はＳＫ276として掲載する。当初は竪穴住居の可能性も考えられたが、明瞭な範囲は確認できていないため、性格は不明と言わざるえない。

ＳＫ289　南側調査区南東隅にある溝や土坑などが重複している中の遺構であるが、重複関係は不明である。壺（117）が出土した。

ＳＤ136　中央調査区北西部にあるＳＸ104と103の間で検出した。弧状に巡るため方形周溝の可能性も残る。ほぼ完形の高杯（116）が１点出土した。

３）古墳時代初期の遺構と遺物

この時期の遺構は、中央調査区から北側調査区にかけて確認され、ＳＸ７・25・32・37・104・150など方形周溝墓６基が確認された。方形周溝墓の造営された最終の時期で、北側が墓域の中心となる。

ＳＸ７　北側調査区南西にあり、ＳＤ２と重複しており、東北部のみ検出した。

出土した遺物は、土師器鉢（1）がある。

ＳＸ25　ＳＸ７の北側にあり、西半部は調査区外に延びる。ＳＸ９・36より新しい。

出土した遺物は、南側周溝からＳ字状口縁甕（13）や二重口縁壺（16）がある。（16）は体部片も多量に残っていたが、器壁が薄いため復元することが出来なかった。

ＳＸ32　ＳＸ25東側周溝の東側にある径0.6m、深さ0.2mの円形土坑で、ほぼ完形の土師器壺（17）が出土した。性格は不明であるが、土坑墓の可能性が高い。

ＳＸ37　ＳＸ25の北側にあり、北側はＳＤ50などで壊されており、東南部の周溝のみを確認した。出土した遺物は、壺（19）がある。

ＳＸ104・150　中央調査区西北部にあり、それぞれ南半分の周溝をＵ字状に確認しただけである。遺物はほとんど出土していないが、周辺方形周溝墓群の隙間を埋めていることから、新しい時期の一群と考え、古墳時代初期の遺構とした。

４）古墳時代中～後期の遺構と遺物

当概期の遺構は少なく、ＳＨ111・214しかない。

ＳＨ111　中央調査区の南西部にあり、ＳＨ129やＳＫ110と重複する。明確に分離できなかったが、西側のＳＨ129が新しく、東側に突出するものがＳＨ111である。北壁中央部にカマドを設け、周辺から土師器甑(162）や須恵器直口壺（163）が出土した。須恵器から６世紀初頭の時期が与えられる。

なお、ＳＫ110から出土した遺物は土師器鉢（238・239）甕（240・241）があり、鉢から見て７世紀前半の時期と思われる。またＳＨ129出土遺物のうち、須恵器杯（164）は、奈良時代の遺物と考えられるのに対して、土師器杯（165 ～ 172）は９世紀後半の遺物で集中して出土したことから、他の遺構が重複している可能性が高い。

ＳＨ214　ＳＨ111の東側に位置する北側のみ確認した。出土した遺物は少ないが、須恵器高杯（184）から６世紀前半の遺構と考えた。

５）飛鳥時代～奈良時代の遺構と遺物

ＳＢ24・45・46、ＳＨ8・13・18・29・31・39・41・209・211・219・220・225・229・231・232、ＳＦ28・42、ＳＫ8・60・110、ＳＤ106・107と遺構数

が多くなる。

掘立柱建物は、遺物が出土していないことから時期を断定することは困難であるが、当概期の遺構の可能性が高い。掘立柱建物は、ＳＢ24・45・46の３棟が北側調査区で確認されている。遺構が多数重複していることから、見落としている可能性は否定できない。いずれも柱掘形は径0.8mほどであり、中世まで下る遺構とは考えられない。棟方向が揃ってなく、規則性は認められない。

竪穴住居は、他の遺構と重複してしているものが多く、良好な形で残存していない。また、時期的に７世紀前半代から８世紀代までと時期幅があるが、遺物が少ないこともあり、明確な時期決定をすべての竪穴住居で行っていない。７世紀中頃から後半にかけての暗文が施された杯類が出土した竪穴住居は北側調査区のものが目立つ。南側の調査区の竪穴住居からは、時期が奈良時代を中心とするものが出土する傾向にある。

これら当概期の遺物は、斎宮跡で出土した土器類と類似しており、特に土師器では斎宮跡ではあまり出土していない７世紀中頃の暗文の施された杯類もあることから、斎宮成立の問題を考える上で興味深い資料である。

ＳＨ31　北側調査区中央にあり、西側は調査区外に延びる。７世紀中頃の暗文の施された土師器高杯（147）や杯(146）が出土した。

ＳＨ221　南側調査区にあるＳＸ204と重複する。出土した遺物には、須恵器杯蓋（190）・杯身（191）や土師器杯（192 ～ 194・198 ～ 200）・鉢（195 ～ 197）が出土し、７世紀前半に比定できる。

ＳＤ106　ＳＤ中央調査区の中央東側にある東西溝で幅0.6m、深さ0.2m、長さ14mほど検出した。後述するＳＤ107に向かっているが、重複関係はなく、鋭角に交差すると思われるため、道路の機能を有していたかは不明である。

飛鳥時代から奈良時代初期にかけての土師器、須恵器を整理箱で約３箱出土した。須恵器には返りの残る杯蓋（248）や返りのない杯蓋（249）などがあり、７世紀末から奈良時代初頭の時期が与えられる。土師器杯（251 ～ 254）は、暗文の施されており斎宮跡で出土する飛鳥時代から奈良時代初頭のものと類似している。

ＳＤ107　中央調査区から南側調査区にかけて、ほぼ南北方向に延びる南北溝である。幅0.6 ～ １m、深さ0.4mで、延長50mにわたり検出した。

遺物は、飛鳥時代から奈良時代初期にかけての須恵器・土師器など整理箱で２箱出土した。須恵器鉢（294・295）は鉄鉢で底が平らな古い形態を持つ。土師器杯類は暗文の施されたものが少量出土した。小片なものが多いが、７世紀末～奈良時代初頭の範疇で収まるものかも知れない。

ＳＦ81・82　北側調査区にある壁面が焼けている遺構で、形態から見て土器焼成坑と思われる。

６）中世の遺構と遺物

主な遺構には、ＳＥ21・22・122・123・233・234、ＳＫ277、ＳＤ２・50・52などのほか、特殊な遺構にはＳＸ126・127がある。

掘立柱建物は、根石を伴なう柱穴が検出面上面で検出され掘立柱建物の存在は予想はされていたが、遺構検出が困難なことから検出面を下げたため、建物として確認できていない。

溝は多く検出されており､小規模な溝からＳＤ２・50の様に大規模なものまである。南側調査区で北側にある中央を南北に流れるＳＤ240は、中央で西に折れ曲がり、東側にもＳＤ260がありことから、溝の配置に規則性が窺える。また、ＳＤ２は北側調査区南側にある東西溝で、西端が途切れる。北側約45m離れた位置にあるＳＤ50の出土した遺物も、13世紀代のものが中心であることから、同時併存していたと考えられ、建物群は不明だが集落を取り囲む溝と考えられる。

ＳＸ126　中央調査区南西隅に位置する。幅0.85m、長さ2.7mの楕円形で深さ0.2mある。底は平らではなく、両端と中央が0.2mほど窪んでいる。南端の窪みには常滑の甕が逆さに据えられており、他の窪みにも甕が据えられていた可能性が高い。

ＳＸ127　ＳＸ126の南にあり北端が重複する。幅0.8m、長さ2.2mほどで、南端は径1.1mの円形と膨らんでいる。両端は窪み、南端にはＳＸ126同様に常滑の甕が逆さに据えられていた。

記号	遺構番号	地区		遺構名	時代	形状	長さ（南北）m	幅（東西）m	溝幅 m	深さ m	陸橋・カマド	備考
SK	1	U	9		中世		3.4	2.6		0.6		
SD	2	T·U	5～13	ＳＤ１	中世				4～4.5	1.5		
SD	3	T·U	5	ＳＤ１	中世以降				0.6	0.2		
SD	4	U	5	ＳＤ２	中世以降				0.4	0.4		
SD	5	U	6	ＳＤ２					0.3	0.25		
SK	6	S·T	5	ＳＤ２	奈良	円形		4.6		1.7		SX７より新
SX	7	S	6	ＳＤ１	古墳前	方形周溝			1.2	0.8		東北部のみ
SH	8	R·S	6	ＳＢ１	飛鳥	隅丸方形				0.5		
SX	9	P～S	8～10	ＳＤ１	弥生後	方形周溝	12.9	12.2	1.1～1.5	0.6	東辺中央	
SH	10	Q	10	ＳＢ１	飛鳥							SH10～13重複しており、測定値を明確にできない
SH	11	R	9·10	ＳＢ２	飛鳥							
SH	12	R	10	ＳＢ１	飛鳥							
SH	13	R	10	ＳＢ１	飛鳥							
SX	14	R·S	11～13	ＳＤ１	弥生後	方形周溝	9.5	８以上	1.1	0.5	南西隅	
SE	16	Q	11	ＳＥ１	鎌倉	円形	3.8	2以上		1.3		SE17より古
SE	17	Q	12	ＳＥ１	鎌倉	方形	4	4		1.6		
SB	18	P	11·12	ＳＢ１	飛鳥	方形	4.5	6		0.4		
SK	19	P	10	ＳＫ１	鎌倉	方形	2.7	2.1		0.4		SK20より新
SK	20	P	11	ＳＫ２	鎌倉	方形		1.8		0.2		
SE	21	N・O	11	ＳＥ１	鎌倉	円形	5.4	5.5		0.8		石組
SE	22	N・O	8～10	ＳＫ１	中世	方形	8.3	8.2		1.2		石組
SD	23	Q	8	ＳＤ１	弥生	方形周溝？			0.6	0.1		SD35より古、
SB	24	P·Q	7·8	ＰＩＴ	奈良	総柱	4.8	4.2		0.5		3間×3間の総柱
SX	25	M～O	6·7	ＳＤ１	古墳前	方形周溝		16	2.5	0.7		
SK	26	Q	8	ＳＫ１	中世	楕円	2.5	1.2		0.5		
SD	27	M～Q	5·6	ＳＤ１	中世				0.7～1.2	0.6		SX25より新
SH	28	L·M	7	ＳＢ１	飛鳥	長方形	4.2	5.3		0.3		
SH	29	M	9·10	ＳＢ１	飛鳥	長方形	4.2	5.2		0.3		SX30より新
SX	30	K·L	8～10	ＳＤ１	弥生後	方形周溝		16	2.5	0.5		
SH	31	M	5·6	ＳＢ１	飛鳥	長方形	4.2	2.5以上		0.1		SX25より新
SX	32	N	7	ＳＸ１	古墳前	円形	0.6	0.6		0.2		土坑墓
SH	33	M	9	ＳＢ１	飛鳥		3.2以上	3.8		0.2		SB29より古
SD	35	P	7～10	ＳＤ１	中世	蛇行する溝	15		0.2～0.6	0.2		東側が深い
SX	36	M	8	ＳＤ１	弥生後	方形周溝			1.1	0.4		SX25と重複
SX	37	J·K	6	ＳＤ１	古墳前	方形周溝			2.4	0.9		
SH	38	N	11	ＳＢ１	奈良	方形	3.6以上	4		0.3		SE21より古
SH	39	L	11	ＳＢ１	飛鳥	長方形				0.2		SH39・40重複
SH	40	L	11	ＳＢ１	奈良	長方形	5	3.5		0.2		
SH	41	J·K	10	ＳＢ１	飛鳥	方形	3.8	3.6		0.2		
SK	42	J	11	ＳＫ１	奈良	長方形	1.5	1.7以上		0.2		
SK	43	J	8	Ｐ１	弥生	円形		0.7		0.25		SD50より古
SD	44	M・N	11	ＳＤ１						0.3		西辺のみ
SB	45	K～M	10～12	ＰＩＴ	奈良	東西棟	8.8	4.6		0.35		４×２
SB	46	K·L	7·8	ＰＩＴ	奈良		3.6	3.6		0.5		２×２
SD	50	I·J	4～11	ＳＤ１	中世				3～5	1.1		
SH	51	K	5	ＳＢ１	奈良	方形	3.3以上			0.1		
SK	52	N	12	ＳＫ１		楕円	1.7	2.2	1.2	0.8		SH38より新
SD	53	Q	9	ＳＤ１	弥生	方形周溝？			0.9	0.35		SK54より古
SK	54	Q	9	ＳＫ１	中世	楕円	1.4	2		0.25		
SD	56	F～I	4·5	ＳＤ１	中世					0.6		
SD	57	I	7	ＳＫ１	中世			3.8	1.1	0.3		
SD	58	H	8	ＳＤ１	中世			1～1.7		0.5		
SK	59	E	8	ＳＫ１		楕円		2.2		0.9		
SK	60	E	7	ＳＫ１	飛～奈	不定形	２以上	6		0.3		
SK	61	F	7	ＳＫ１	中世	楕円	1.6	2		0.2		SK62より新
SK	62	F	7	ＳＫ２		楕円	1.5	1.2		0.2		
SK	63	E	8	ＳＫ２		円形	1.2	1.3		0.5		
SK	64	E	8	ＳＫ１		楕円	1.8	2.5		0.4		
SK	67	F	9	ＳＫ１	飛～奈	方形	3.2	3.2以上		0.5		
SK	68	G	10	ＳＫ３	中世	楕円	2	２以上		0.4		SK68～７０明確に分離できない
SK	69	G	10	ＳＫ２	中世					0.2		
SK	70	G	9·10	ＳＫ１	中世					0.35		
SK	71	H	9	ＳＫ２	中世	楕円	1.4	1.7		0.7		SK71～73は一連の溝か
SK	72	H	9	ＳＫ１	中世	不定形	1.1			0.5		
SK	73	H	10	ＳＫ１	中世	楕円	0.8	1.5		0.35		
SK	74	F	8	ＳＫ２		楕円	1.4	2.2		0.4		
SK	75	G	8	ＳＫ３	中世	方形	1.9	1.9		0.45		
SK	77	G	8	ＳＫ１	中世	円形	1.2	1.2		0.5		
SK	78	H	8	ＳＫ１	中世		1.8以上	3		0.5		
SH	80	G	7	ＳＢ１	奈良	方形	3.3	3		0.4		
SF	81	G	6	ＳＦ１	奈良		２以上	2.3		0.6		

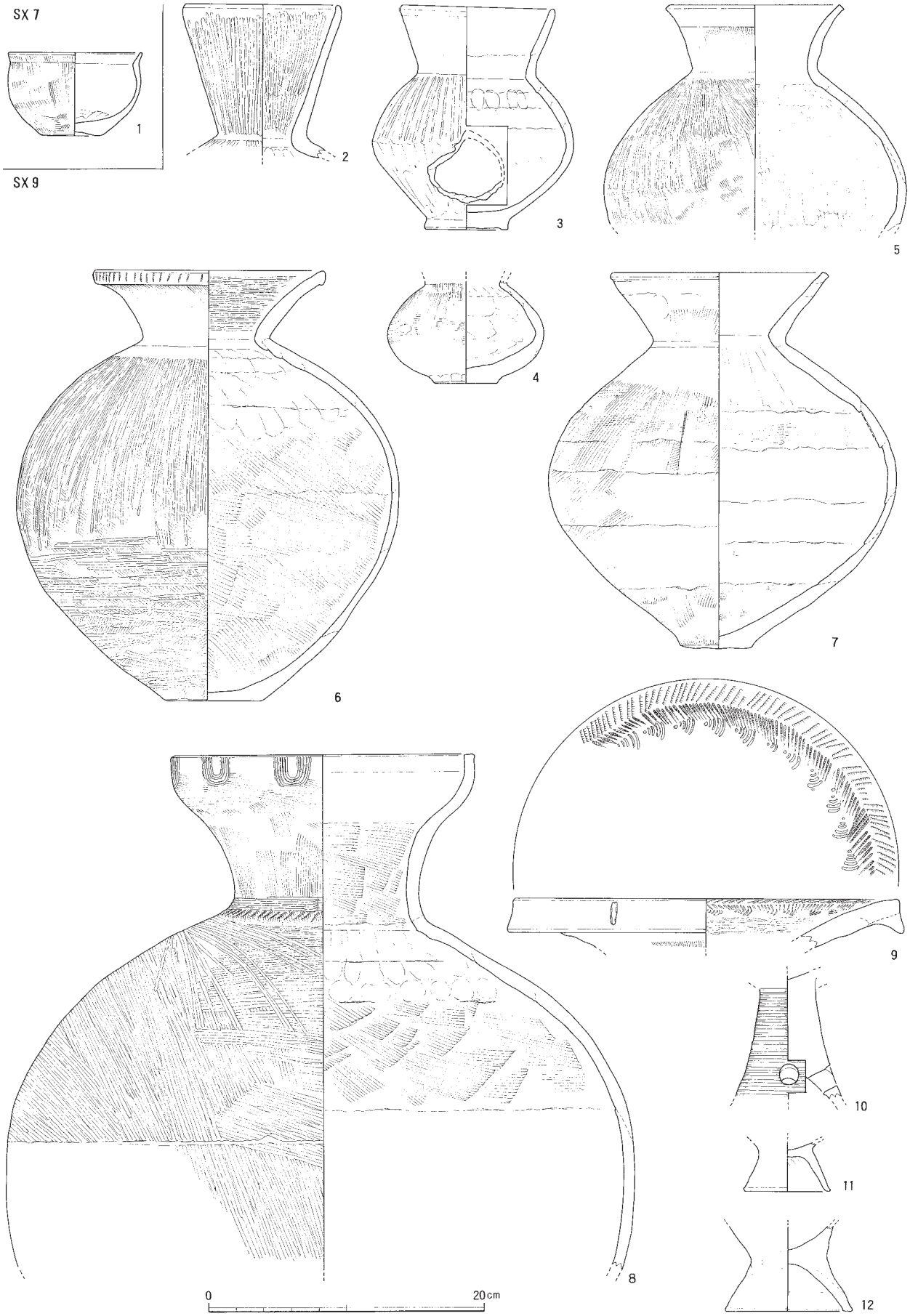
第９表　寺垣内遺跡遺構一覧表（１）

記号	遺構番号	地区		遺構名	時代	形状	長さ（南北）m	幅（東西）m	溝幅 m	深さ m	陸橋・カマド	備考
SF	82	H	6	ＳＦ1	奈良		３以上	2.3		0.2		
SK	83	H	5	ＳＫ１	奈良	方形	３以上	2.5以上		0.2		
SX	101	ｱ～ｴ	６～９	ＳＤ１	弥生後前	方形周溝	13.2	12.8	0.7～1.7	0.5	西北隅	
SX	102	ｴ～ｷ	６～９	ＳＤ２	弥生後後	方形周溝	13.5	12.5	1.5～2.0	1.1	西北隅・東中央	SX101より新
SX	103	ｴ～ｷ	３～５	ＳＤ1～５	弥生後後	方形周溝	13.3	15	1.5～1.8	0.6	東中央	
SX	104	ｳ	4･5	ＳＤ１	古墳前	方形周溝	6		0.8	0.5		
SK	105	ｸ	5	Ｐ１	弥生	方形	0.6以上	0.6		0.2		SX104より古
SD	106	ｴ	７～10	ＳＤ１	奈良初				0.6	0.2		
SD	107	ｲ～ｷ	３～８	ＳＤ１･2	奈良初				0.6～1	0.4		
SH	108	ｸ	4	ＳＫ１	奈良	方形	2.3以上	2.8以上		0.2		
SH	109	ｳ	4	ＳＫ２	奈良	方形	4	２以上		0.2		
SK	110	ｸ	6	ＳＫ１	飛鳥	楕円	1.7	1.2以上		0.6		SH129・SK111より新
SH	111	ｸ	6･7	ＳＫ２	古墳中	方形	３以上	3.7		0.3	北辺中央	
SH	112	ｸ	7･8	ＳＢ１	奈良	方形	３以上	４以上		0.1		
SH	113	ｸ	9	ＳＫ２	奈良	隅丸	3	2.3		0.2		
SK	115	ｲ	4	ＳＫ１	弥生	円形	1.8	1.8		0.4		
SK	116	ｴ	5	ＳＫ１	鎌倉	方形	1.8	1.6		0.05		
SK	117	ｵ	5	ＳＫ１	鎌倉	方形	1.8	1.7		0.15		
SH	118	ｵ	6	ＳＫ１	鎌倉	方形	2.2	3		0.2		SH119より新
SH	119	ｵ	6･7	ＳＫ1･2	鎌倉	方形	3.7	3		0.2		SK139より新
SH	120	ｶ	5	ＳＫ２	鎌倉	方形	2.1	2.5		0.3		
SK	121	ｵ	7･8	ＳＫ1･2	鎌倉	方形	3	2.2		0.3		
SE	122	ｵ･ｶ	10	ＳＥ１	鎌倉	楕円	7.1	6.5		2.7		石組
SE	123	ｸ	7･8	ＳＥ１	鎌倉	円形				0.4以上		0.4mまで・未掘
SD	124	ｵ～ｷ	3･4	ＳＤ１	鎌倉				1.8	0.7		SH108より新
SD	125	ｲ～ﾃ	11	ＳＤ１	鎌倉				４以上	0.9		
SX	126	ｶ	4	ＳＫ１	中世	楕円	2.5	1				常滑甕
SX	127	ｷ	4	ＳＫ２	中世	楕円	2.5	1.2				常滑甕
SD	128	ｳ～ｷ	10･11	ＳＤ１	鎌倉				0.7	0.3		
SH	129	ｷ･ｸ	6	ＳＢ１	奈良	方形	３以上	3		0.4		平安の遺構と重複か
SD	132	ｱ･ｳ	3	ＳＤ１･2	中世				0.4～0.6	0.3		SD107より新
SK	133	ｲ	5	ＳＫ１	弥生	方形	１以上	1.5		0.2		SX150より古
SK	134	ｲ	7	ＳＫ１	中世	楕円	1.2	2.2		0.45		
SD	136	ｳ	5･6	ＳＤ１･2	弥生				0.5	0.35		
SK	137	ｳ	9	ＳＫ１	中世	不定形	1.1	1		0.1		SX101より新・古銭
SK	138	ｳ	10	ＳＫ１		楕円	1.2	2.3		0.4		
SK	139	ｴ･ｵ	6	ＳＫ１･4	奈良	方形	0.8以上	1.5		0.35		SB119より古
SD	140	ｴ･ｵ	9	ＳＤ１･2	飛～奈				0.8	0.2		SD106より古
SK	141	ｴ	10	ＳＫ１		不明				0.1		SD128より古
SK	142	ｵ	9	ＳＫ１		不定形	3.4	3.2		0.2		SE122より古
SK	143	ｶ	5	ＳＫ１		楕円	0.7	2.1		0.15		
SK	144	ｷ	5	ＳＫ１	中世	楕円	2.3	0.9		0.35		
SK	145	ｷ	5	ＳＫ２	中世	長方形	0.7	1.7以上		0.15		SK144より古
SK	147	ｷ	9	ＳＫ１	飛～奈	隅丸方形	1.7以上	1.5以上		0.1		SB113より古
SD	148	ｸ	5	ＳＤ１					0.7	0.2		
SX	150	ｲ	3･5	ＳＤ１	弥生	方形周溝	2.5以上	8	1	0.3		
SX	201	ｺ･ｻ	７～10	ＳＤ１	弥生中後	方形周溝	17	14以上	3	1.2		
SX	202	ｽ･ｾ	２～４	ＳＤ１	弥生	方形周溝	7.7	7.9	0.8～1.2	0.6	南辺中央	SX203より新
SX	203	ｾ～ﾀ	１～４	ＳＤ１･2	弥生中後	方形周溝	12.1	13.7	1.1～1.8	1.1	東南隅・東辺北側	
SX	204	ﾃ～ﾆ	２～６	ＳＤ１	弥生後後	方形周溝	15.8	16.4	1.7～2.6	0.8	東辺中央	
SX	205	ｽ～ﾀ	9･11	ＳＤ１･2	弥生中後	方形周溝	10.1	９以上	0.8～1.2	0.6		東辺溝不明
SX	206	ﾁ～ﾄ	８～12	ＳＤ１･2	弥生後前	方形周溝	12.9	14.1	1.8	0.6	南東隅	
SX	207	ﾃ･ﾄ	1	ＳＤ１	弥生後前	方形周溝	9.1		1.1	1.1		
SX	208	ﾅ	1･2	ＳＤ１	弥生後中	方形周溝	7.4	6.5以上	0.7～1	0.7	東辺中央	
SH	209	ｺ	7･8	ＳＢ１	飛鳥	長方形	5以上	5.5		0.3		
SH	210	ｺ･ｻ	6	ＳＢ２	飛～奈	方形	3.2	3.7		0.5		
SH	211	ｺ･ｻ	6	ＳＢ１	奈良	方形	5	4.8		0.2		SB210より古
SH	212	ｼ	6･7	ＳＢ１	飛～奈	方形	4.8	4.9		0.3		
SH	213	ｼ･ｽ	8･9	ＳＢ１	飛～奈	方形	4.2	3		0.35		SH213・214重複
SH	214	ｽ	8	ＳＫ１	古墳中	方形	4.3	4.2		0.15		SH213・214重複
SH	215	ｽ	5･6	ＳＢ１	飛～奈	方形	4.5	4		0.2	西壁中央	
SH	216	ｺ	4	ＳＢ１	飛～奈	方形	5以上	7.4		0.2		SD240より古
SH	217	ﾄ	1	ＳＢ１	飛～奈	方形	3.4	3.4		0.1		
SH	218	ﾁ	6	ＳＫ１	飛～奈	方形	3	2以上		0.1	東壁中	
SH	219	ｽ･ｾ	10･11	ＳＫ１	奈良	方形	4以上	4.5以上		0.2		
SH	220	ﾁ･ﾂ	11	ＳＢ１	奈良	方形	4	4.8		0.4		
SH	221	ﾃ･ﾄ	6･7	ＳＢ１	飛鳥	方形	6.4	5.5		0.2	西壁中央	SXより新
SX	222	ﾃ～ﾅ	8･9	ＳＤ１	弥生	方形周溝		7.4	1.2	0.45	東辺中央	
SX	223	ﾇ･ﾈ	７～９	ＳＤ１	弥生後前	方形周溝	12以上	15以上	1.1～3.2	0.5		

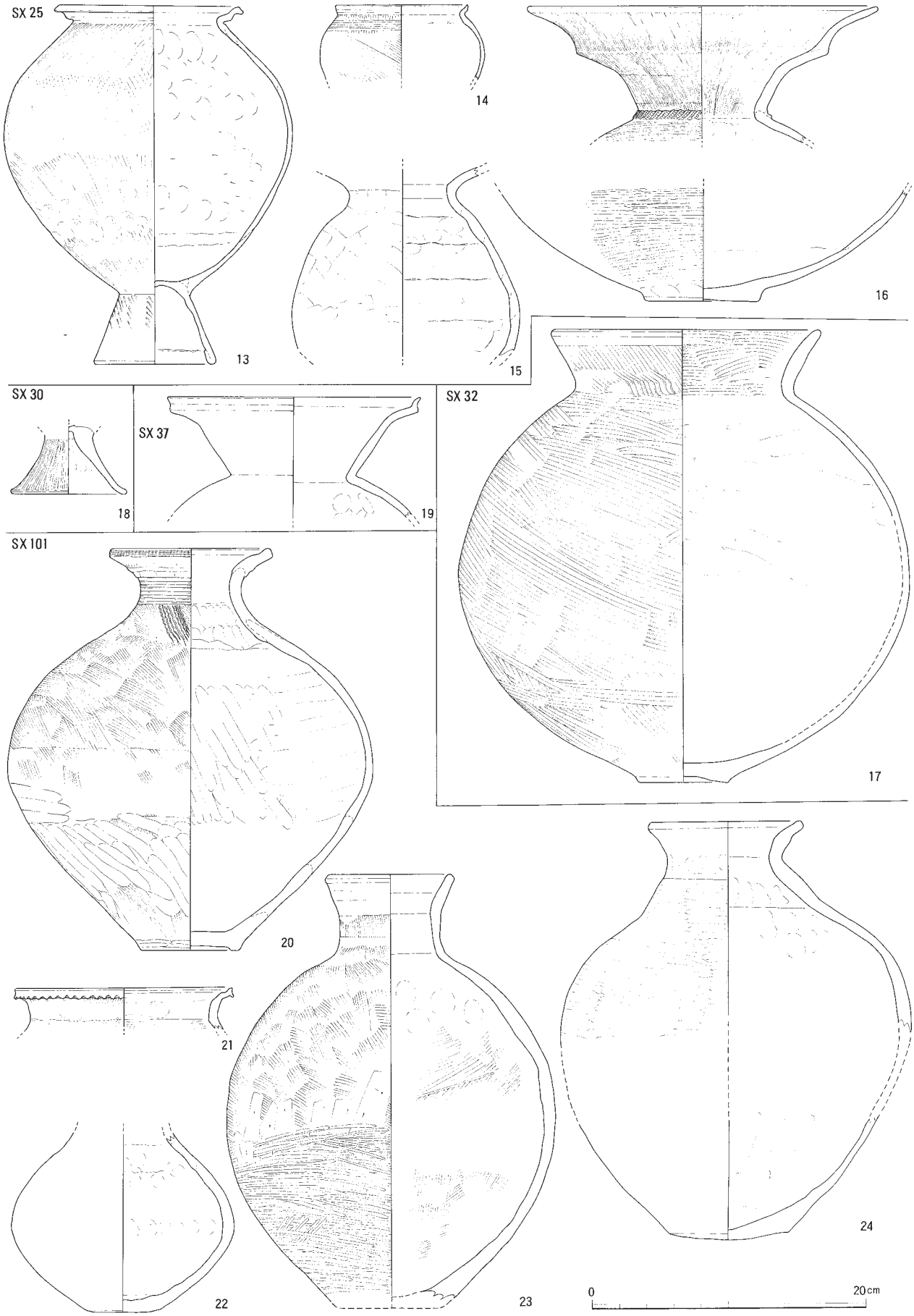
第10表　寺垣内遺跡遺構一覧表（２）

記号	遺構番号	地区		遺構名	時代	形状	長さ（南北）m	幅（東西）m	溝幅 m	深さ m	陸橋・カマド	備考
SH	224	ﾄ･ﾅ	10･11	ＳＢ１	奈良	方形	6.2	5.5		0.3		
SH	225	ﾅ･ﾆ	12･13	ＳＢ１	奈良	方形	6.2	5.7		0.3	北壁中央	
SH	226	ﾇ･ﾈ	6	ＳＢ１	飛～奈	方形	6.6	5以上		0.1		
SH	227	ﾇ･ﾈ	２～４	ＳＫ１･2	奈良	方形	5.4	5.6		0.35		
SH	228	ﾇ･ﾈ	10･11	ＳＢ１	飛～奈	方形	4.6	4		0.2		
SH	229	ﾇ	12･13	ＳＢ１	飛～奈	方形	3.9	3.6		0.3		
SX	230	ﾅ～ﾈ	9･10	ＳＤ１	弥生後	方形周溝	12.4	12	１～1.3	0.3	西北隅	東側周溝浅く部分的の残る
SH	231	ﾃ	12･13	ＳＢ１	奈良	方形	5.7	5		0.3	東辺中央	
SH	232	ﾃ	12	ＳＢ２	奈良	不定形	3.6	3.8		0.4		
SE	233	ｻ･ｼ	1･2	ＳＥ１	鎌倉	隅丸方形	7.5	8		1.3以上		石組・未掘
SE	234	ﾆ	11	ＳＥ１	鎌倉	楕円	7.2	6.6		1以上		
SK	235	ｺ	3	ＳＫ１		楕円	1.1以上	1.9		0.3		
SK	236	ｺ	7	ＳＫ１	弥生	方形	3.1	2.9		0.65		SX201より古
SD	238	ｺ･ｻ	10	ＳＤ１･2	鎌倉				2.5以上	0.6		
SD	239	ｽ～ﾃ	11～13	ＳＤ１	中世				2以上	0.5		
SD	240	ｻ～ﾂ	１～５	ＳＤ１	鎌倉				2.3	0.7		
SK	241	ｻ	4	ＳＫ２	鎌倉	円形	2.1	2		0.6		
SK	242	ｼ	2	ＳＫ１	鎌倉	楕円	1.8	0.9		0.4		SE233より新
SH	243	ｼ	3	ＳＫ２	弥生	八角形？		3.9		0.2		SE233より古
SK	244	ｼ	3	ＳＫ１	飛～奈	楕円	2.2	1.9		0.1		
SD	245	ｼ	6	ＳＤ１	中世	楕円	2.1	1.1		0.2		
SK	246	ｼ	10	ＳＫ１	鎌倉	方形	1.9	2		0.25		
SK	247	ｽ	0	ＳＫ１		楕円	0.9	2		0.2		
SD	248	ｽ	1･2	ＳＤ１･2	中世				0.7	0.3		
SK	249	ｽ	1	ＳＫ１	中世	方形	1.7	1.7		0.3		
SK	250	ｽ	1	ＳＫ２		楕円	1	1.4		0.4		
SK	251	ｽ	3	ＳＫ１		方形	2.3	1.7		0.2		
SX	252	ｽ	7･8	ＳＤ１	弥生中後	方形周溝	8.9	9.4	0.7～0.9	0.4	南辺西側	
SD	254	ｽ	10	ＳＤ１					0.5	0.2		
SK	255	ｾ	4	ＳＫ１	飛～奈	楕円	1.3	1.5		0.35		
SK	256	ｾ	5	ＳＫ１		円形	1.6	1以上		0.15		SD240より古
SD	257	ｾ	7･8	ＳＤ１･2	中世				1.4	0.3		３条ほどの溝重複
SK	258	ﾀ	4	ＳＫ２		楕円	2以上	2.6		0.4		
SD	260	ﾀ	６～８	ＳＤ１					1	0.2		方形周溝の可能性高い
SK	261	ﾁ	2	ＳＫ１		楕円	2.2	1.1		0.1		
SK	262	ﾁ	3	ＳＫ１	中世	楕円	3.5	1.5		0.25		SD240より新
SX	263	ﾂ	2	ＳＤ１	弥生	方形周溝	10.1		1.6	0.4		方形周溝の北側周溝か
SX	265	ﾂ	8	ＳＤ２	弥生	方形周溝			1.2	0.4		北側の東西溝遺物無し。 方形周溝か
SK	266	ﾂ	8	ＳＫ１	鎌倉	方形	2.5	2.8		0.2		
SK	267	ﾂ	9	ＳＫ１	鎌倉	方形	2	2.1以上		0.15		ＳＫ266より古
SH	268	ﾂ	9･10	ＳＢ１	奈良	不定形	3.7	3.7		0.3		
SH	269	ﾂ	12	ＳＢ１	飛～奈	不定形	5.4以上	2.5以上		0.2		SB232より古
SX	270	ﾃ	6	ＳＤ１	弥生中	方形周溝	11	11.5	0.8～1.2	0.1	四周隅	SD259・264・270で方形周溝
SK	271	ﾃ	10	ＳＫ１	中世か	方形	2.5	1.5		0.2		SK268より新
SD	272	ﾄ	3	ＳＤ１					1	0.3		SX204より新・方形周溝か
SK	273	ﾅ	2	ＳＫ１	中世	楕円	1.7	2		0.2		
SD	274	ﾅ	2	ＳＤ３	弥生	方形周溝？			1.3	0.1		方形周溝か
SK	275	ﾅ	5	ＳＫ１	弥生	長方形	1.2	2.2		0.2		
SK	276	ﾅ	5	ﾔﾖｲ	弥生	不定形	3	4.2		0.15		
SK	277	ﾆ	9	ＳＫ１	鎌倉	楕円	4.2	2.1		0.3		
SK	278	ﾆ	8	ＳＫ１		不定形	1.5以上	2.7		0.2		
SK	279	ﾆ	13	ＳＫ１	中世	楕円	2.4	1.9		0.15		
SX	280	ﾇ･ﾈ	２～４	ＳＤ1･2	弥生後	方形周溝	6.5以上	10以上	2	0.7	四周隅	
SK	281	ﾇ	10	ＳＫ１	飛～奈		2.3以上	1.3		0.15		SB228より新、SE234より古
SD	283	ﾇ	12	ＳＤ１	飛～奈					0.3		
SK	284	ﾇ	13		飛～奈					0.45		遺物無し
SD	285	ﾇ	13	ＳＫ3･4	飛～奈					0.2		
SK	286	ﾈ	12･13	ＳＫ１	飛鳥	隅丸方形	3.5以上	6以上		0.3		
SK	287	ﾉ	9	ＳＫ１		隅丸方形	１以上	5.3		0.1		
SD	288	ﾈ	5	ＳＤ１					1.6	0.25		
SK	289	ﾈ	5	ＳＫ１	弥生	隅丸方形	1.5以上	5以上		0.25		
SK	290	ｿ	0	ＳＫ１		隅丸方形	3	1.4以上		0.2		
SK	291	ｿ	9	ＳＫ１		方形	2.8	1.5以上		0.1		
SK	292	ｿ	11	ＳＫ１	飛～奈	隅丸方形	4.5	1.7以上		0.25		
SD	293	ﾀ	0	ＳＤ１					0.9	0.1		
SK	294	ﾀ	4	ＳＫ１		不定形	1.8	1.5以上		0.4		

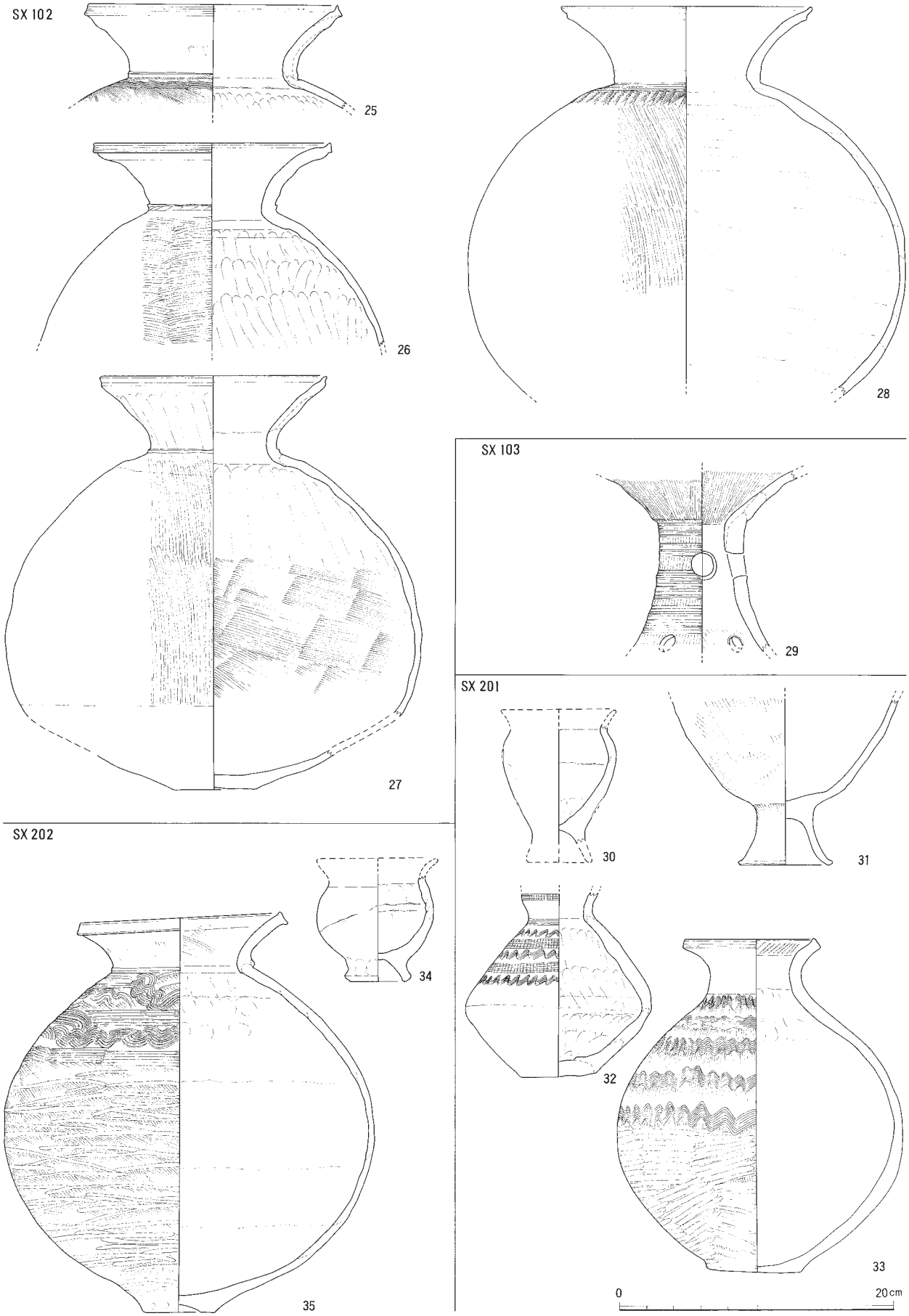
第11表　寺垣内遺跡遺構一覧表（３）



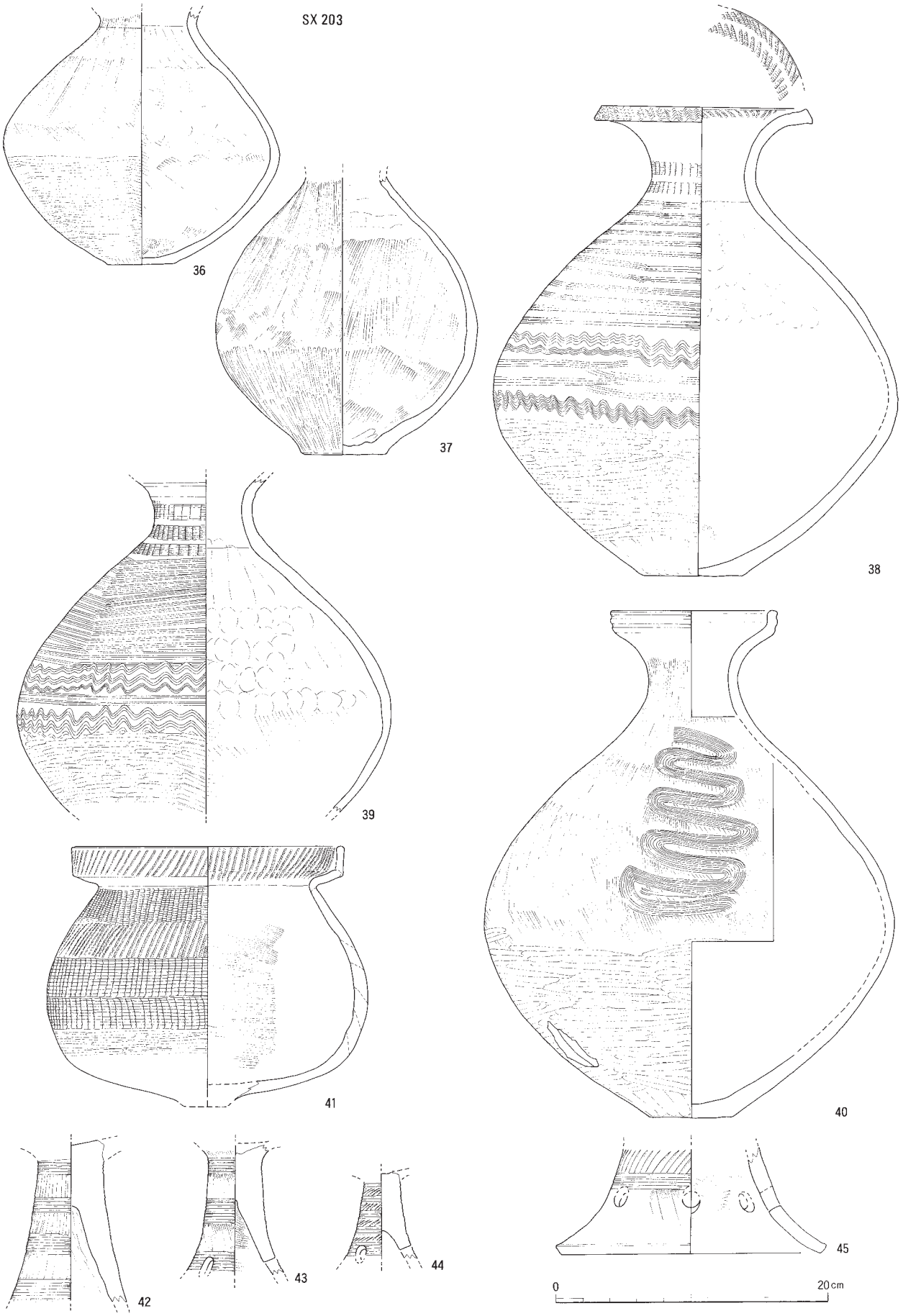
第41図　寺垣内遺跡遺物実測図（1）



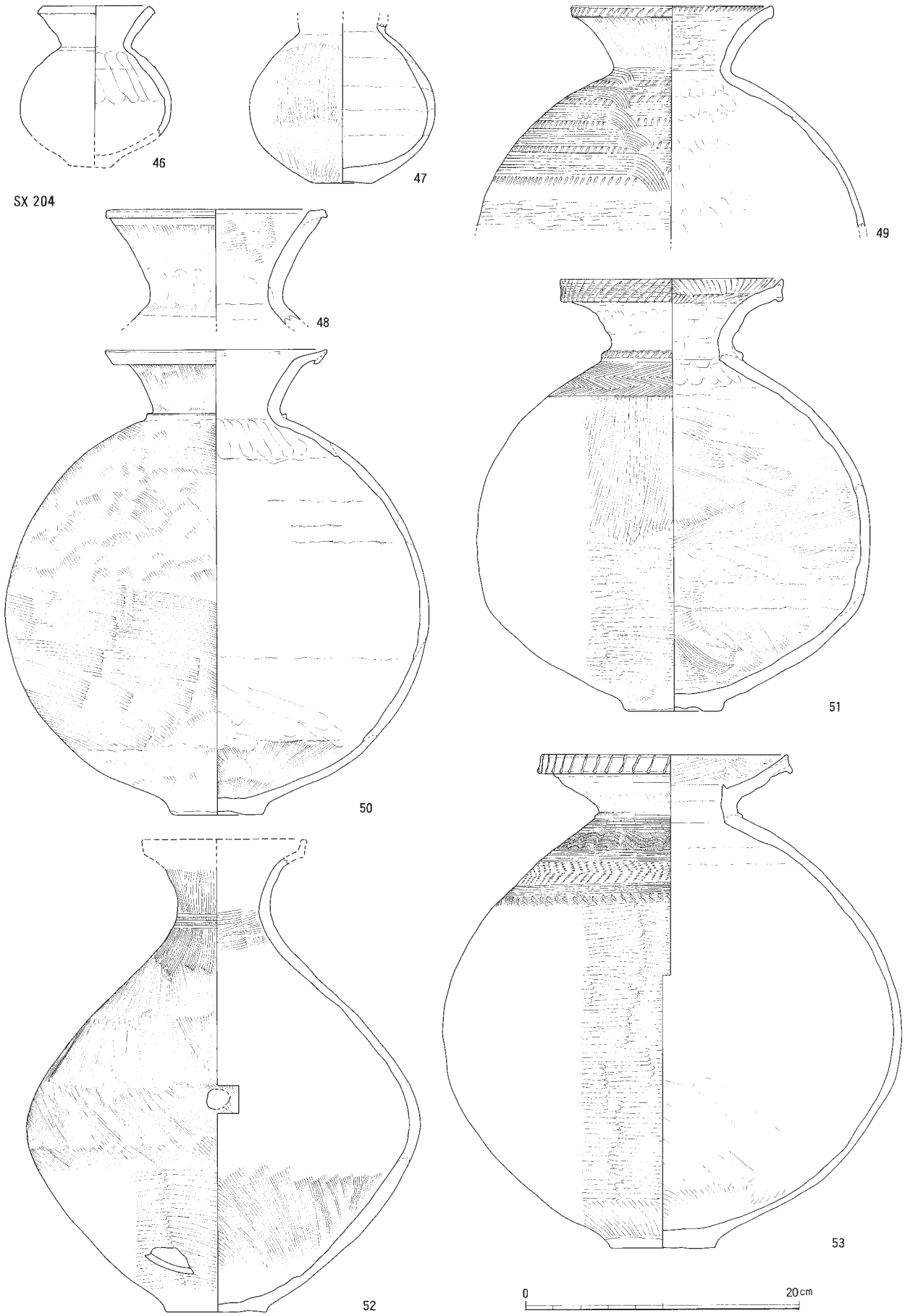
第42図　寺垣内遺跡遺物実測図（2）



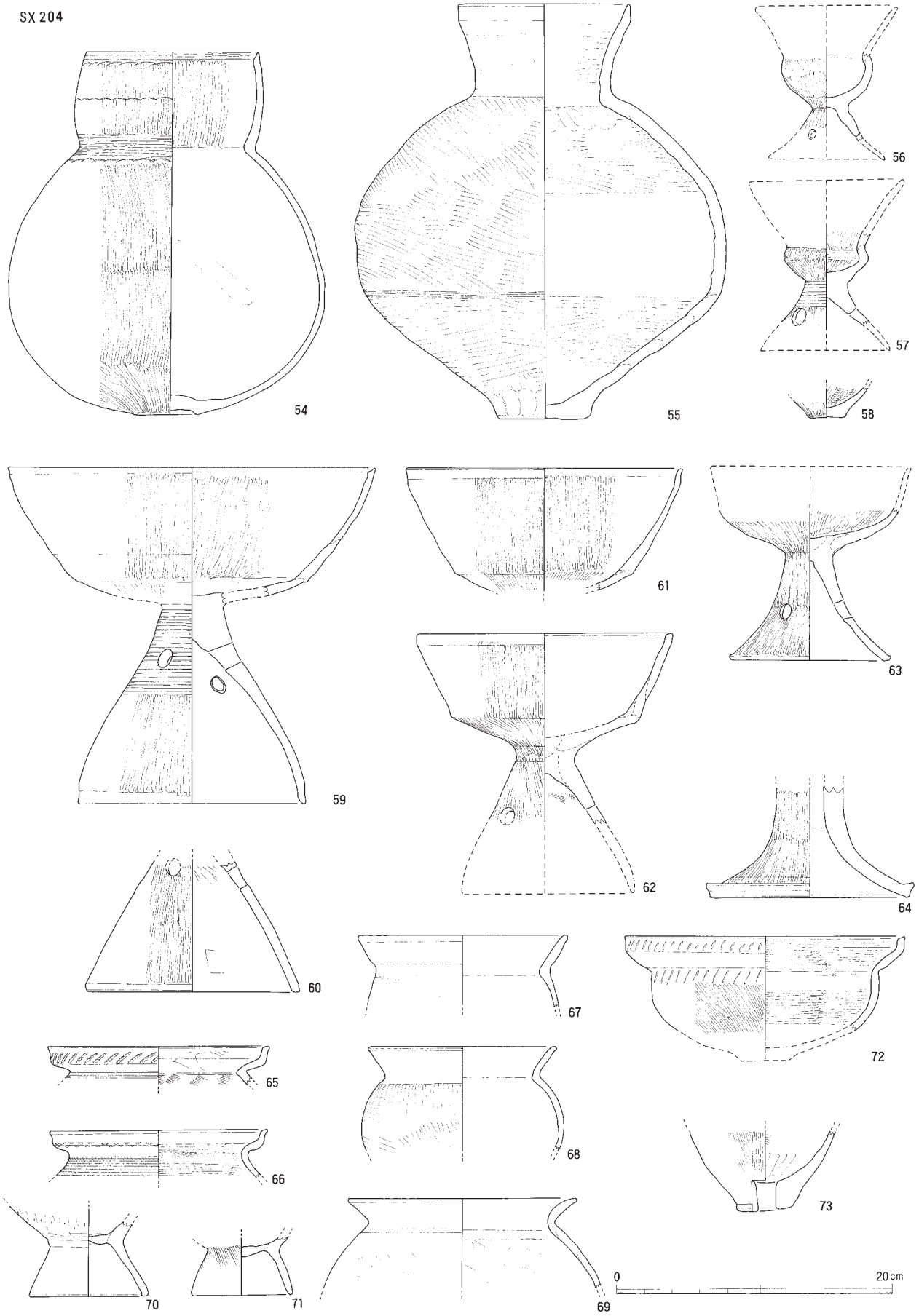
第43図　寺垣内遺跡遺物実測図（3）



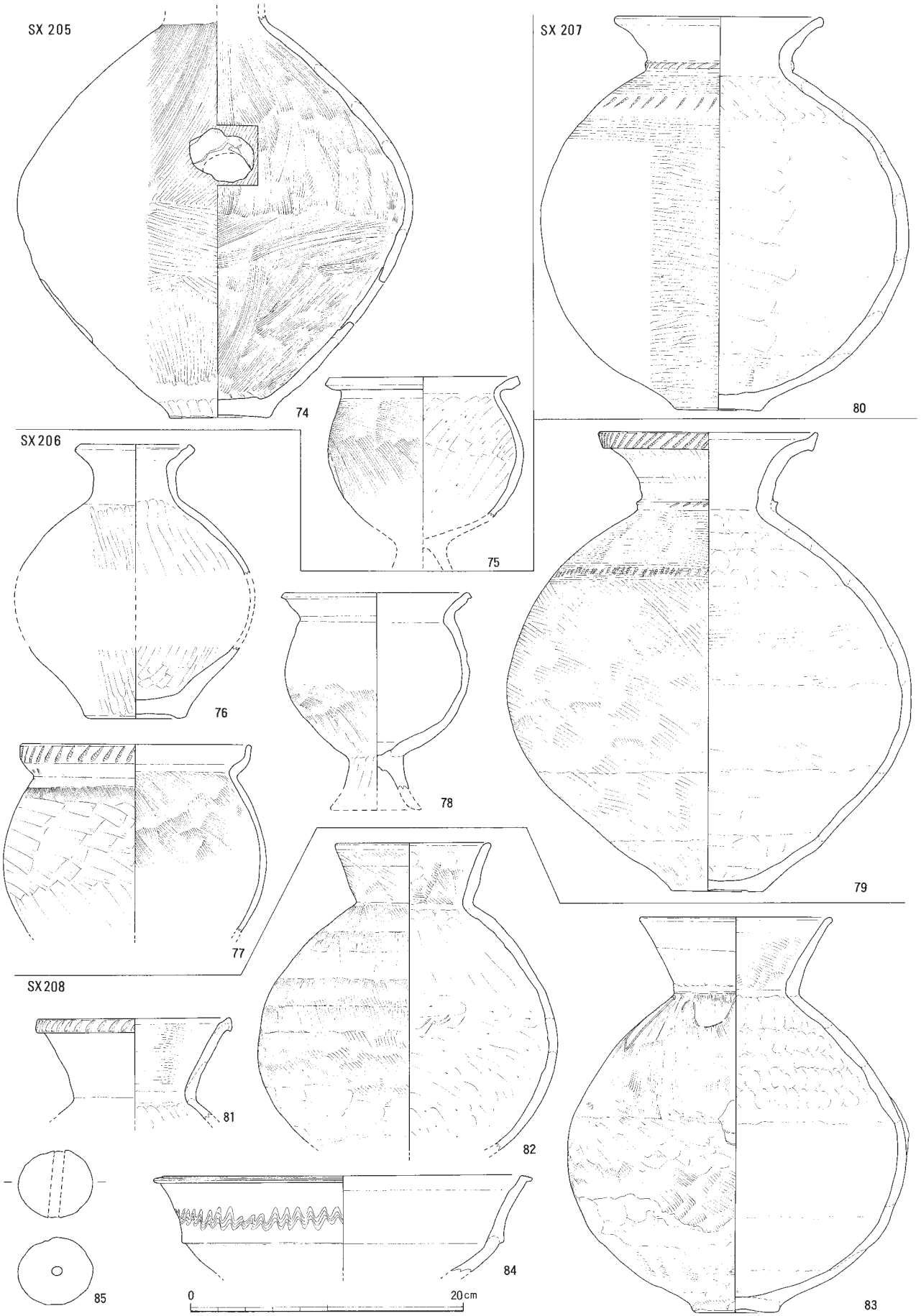
第44図　寺垣内遺跡遺物実測図（4）



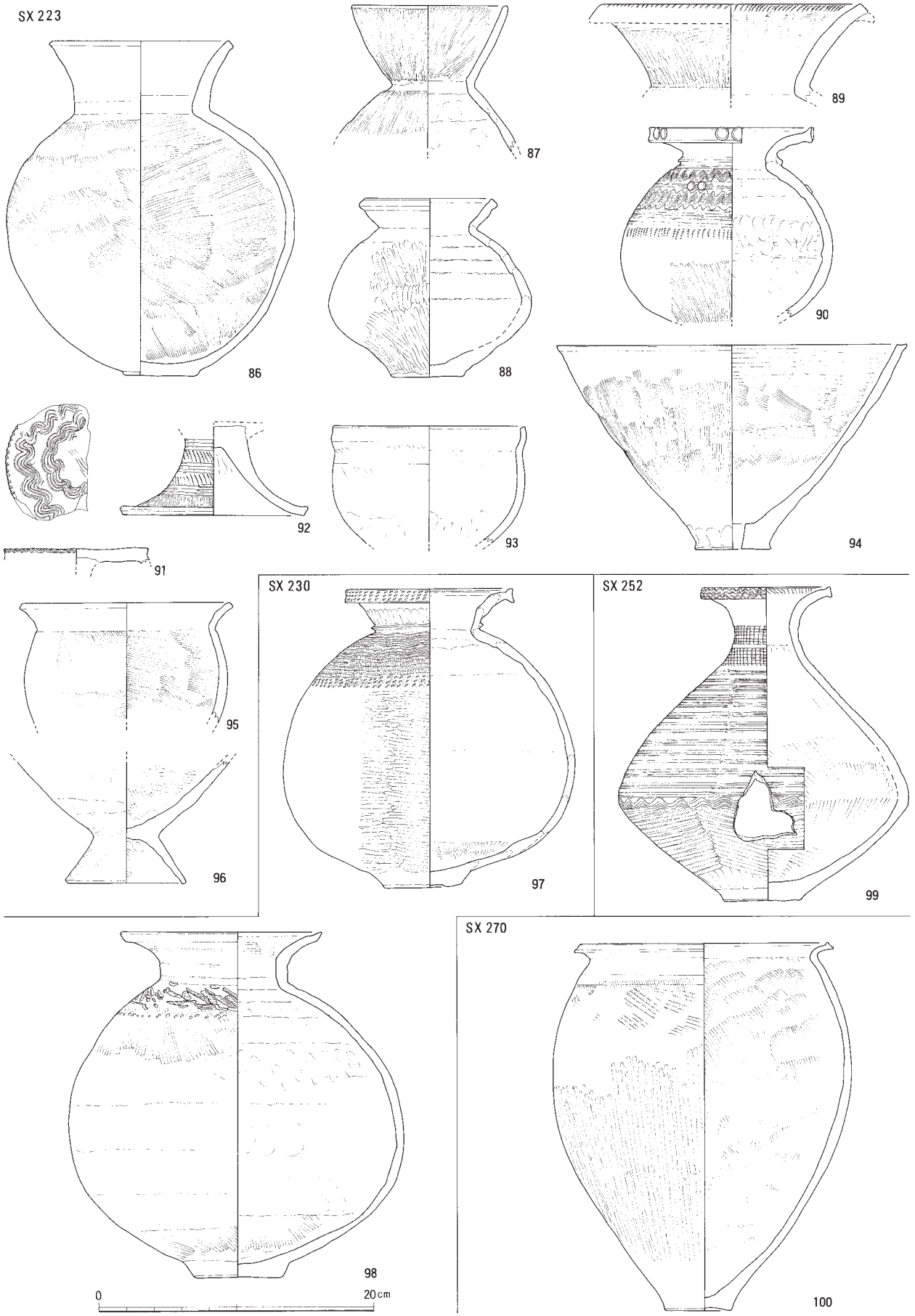
第45図　寺垣内遺跡遺物実測図（5）



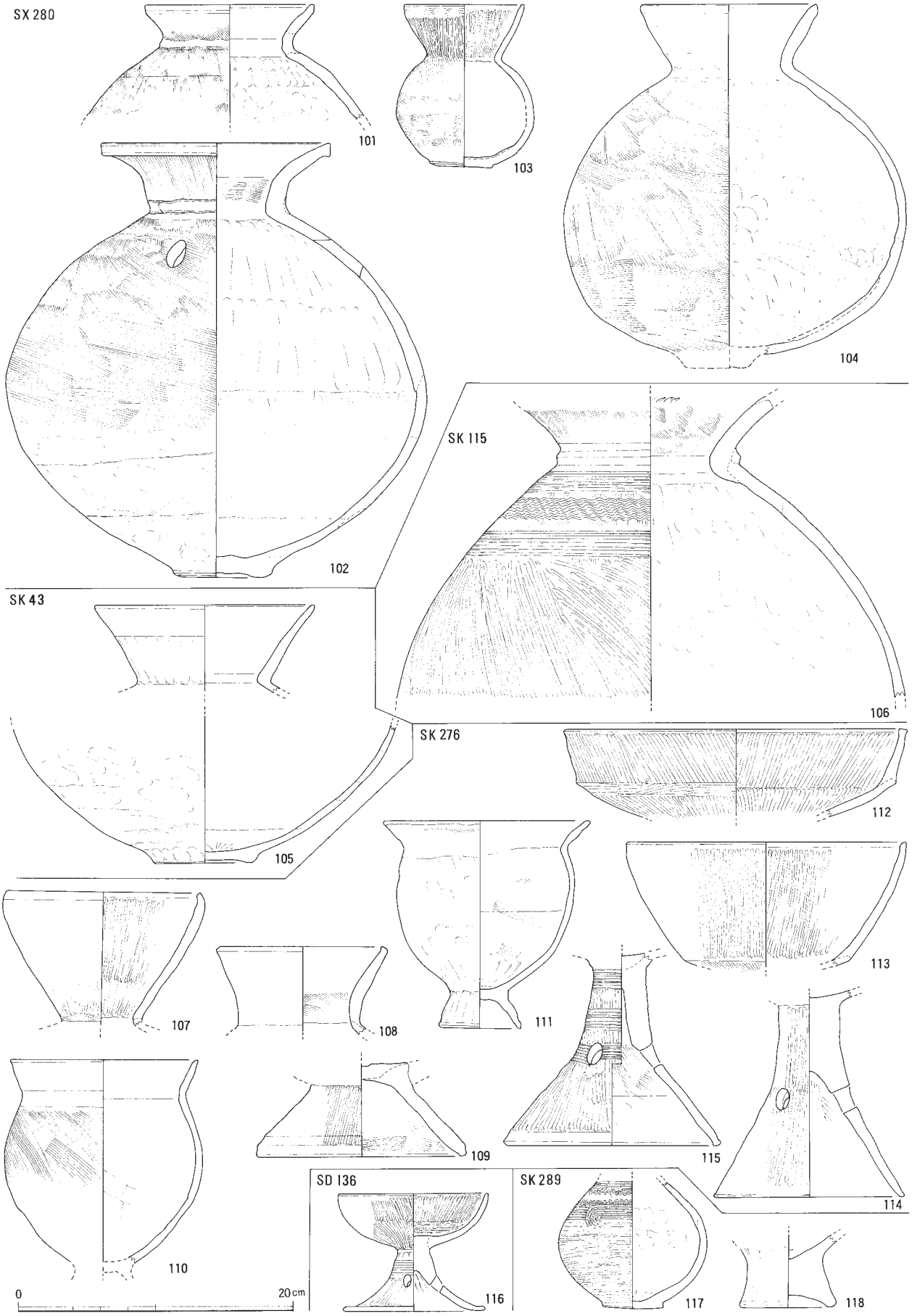
第46図　寺垣内遺跡遺物実測図（6）



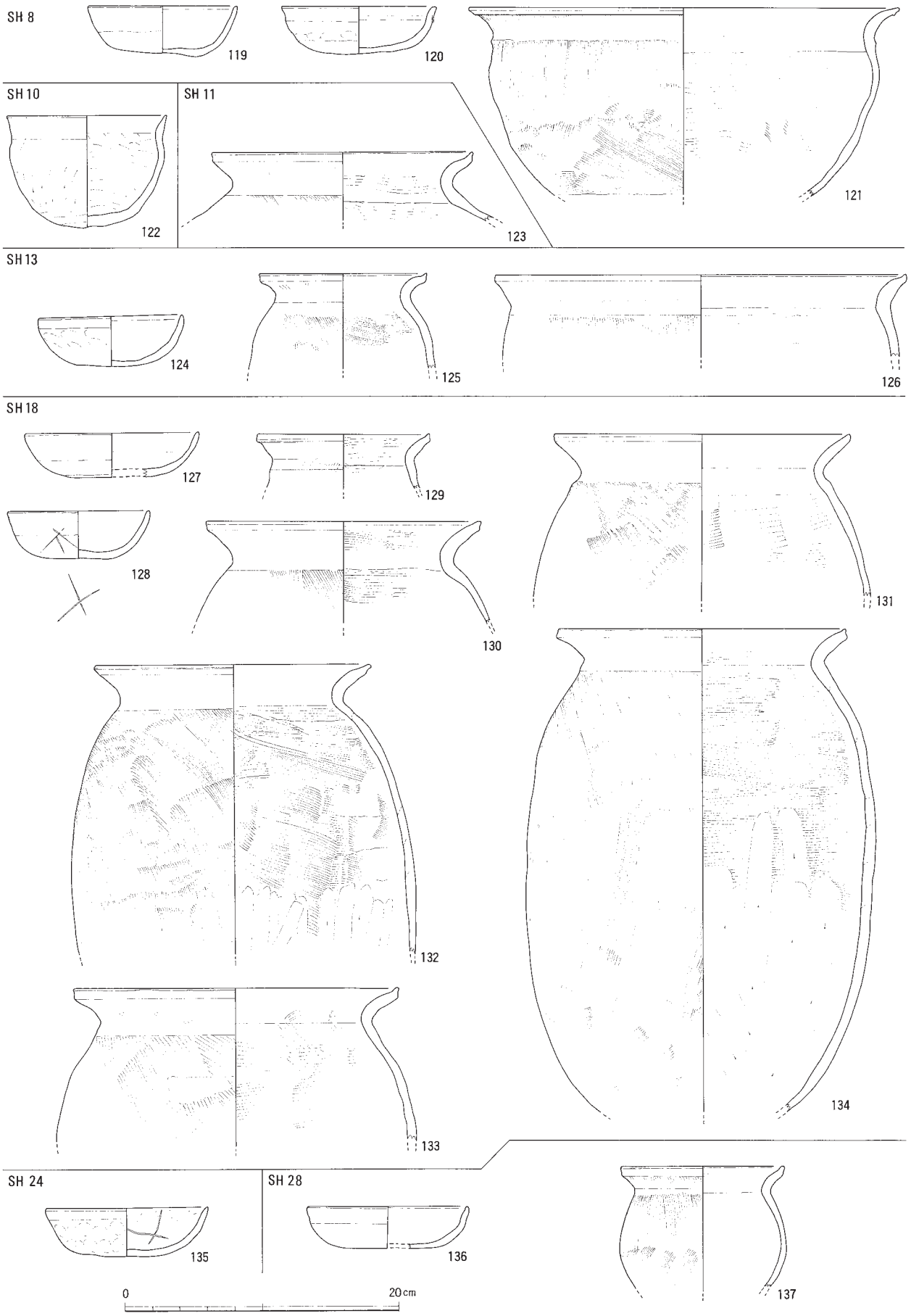
第47図　寺垣内遺跡遺物実測図（7）



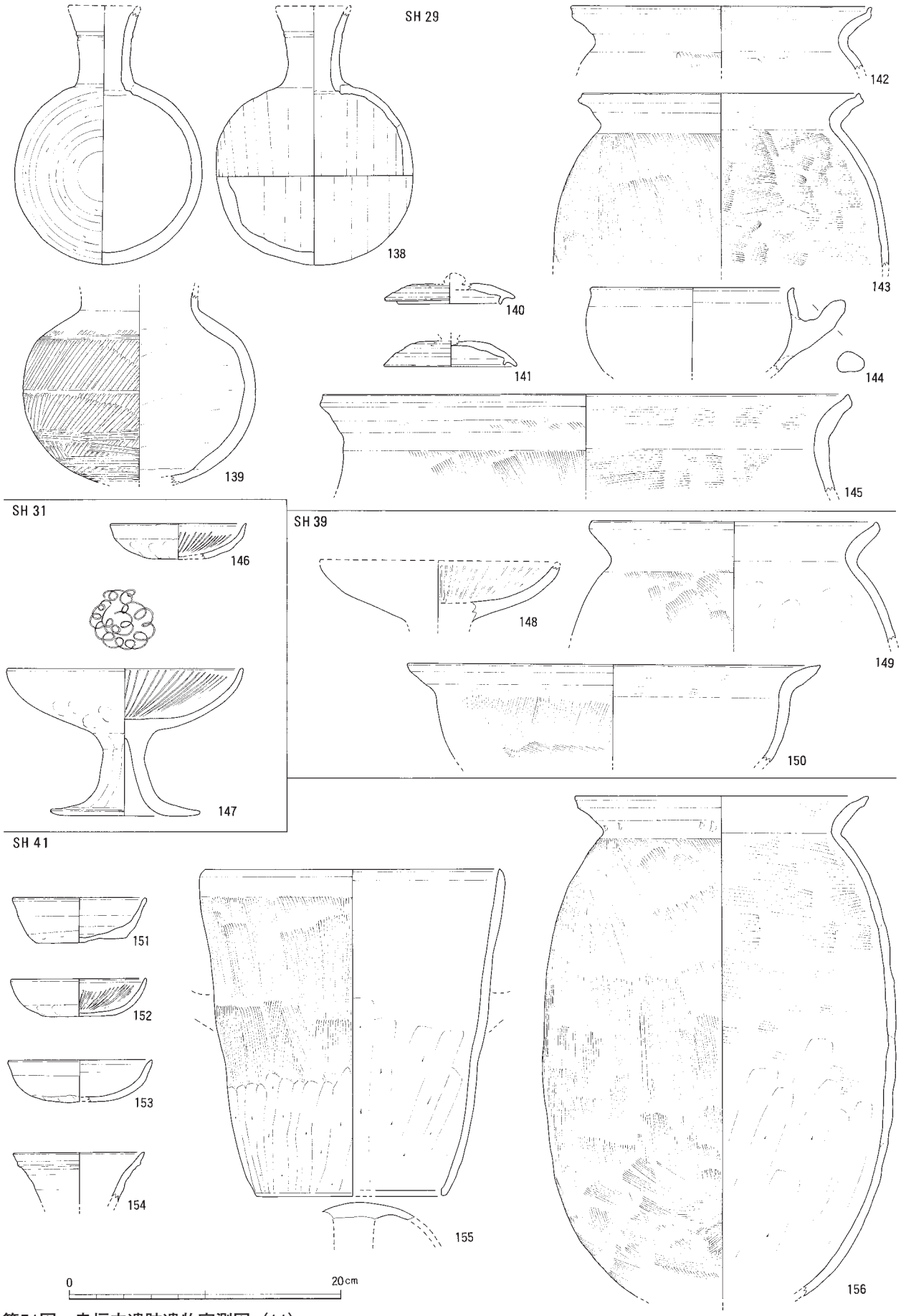
第48図　寺垣内遺跡遺物実測図（8）



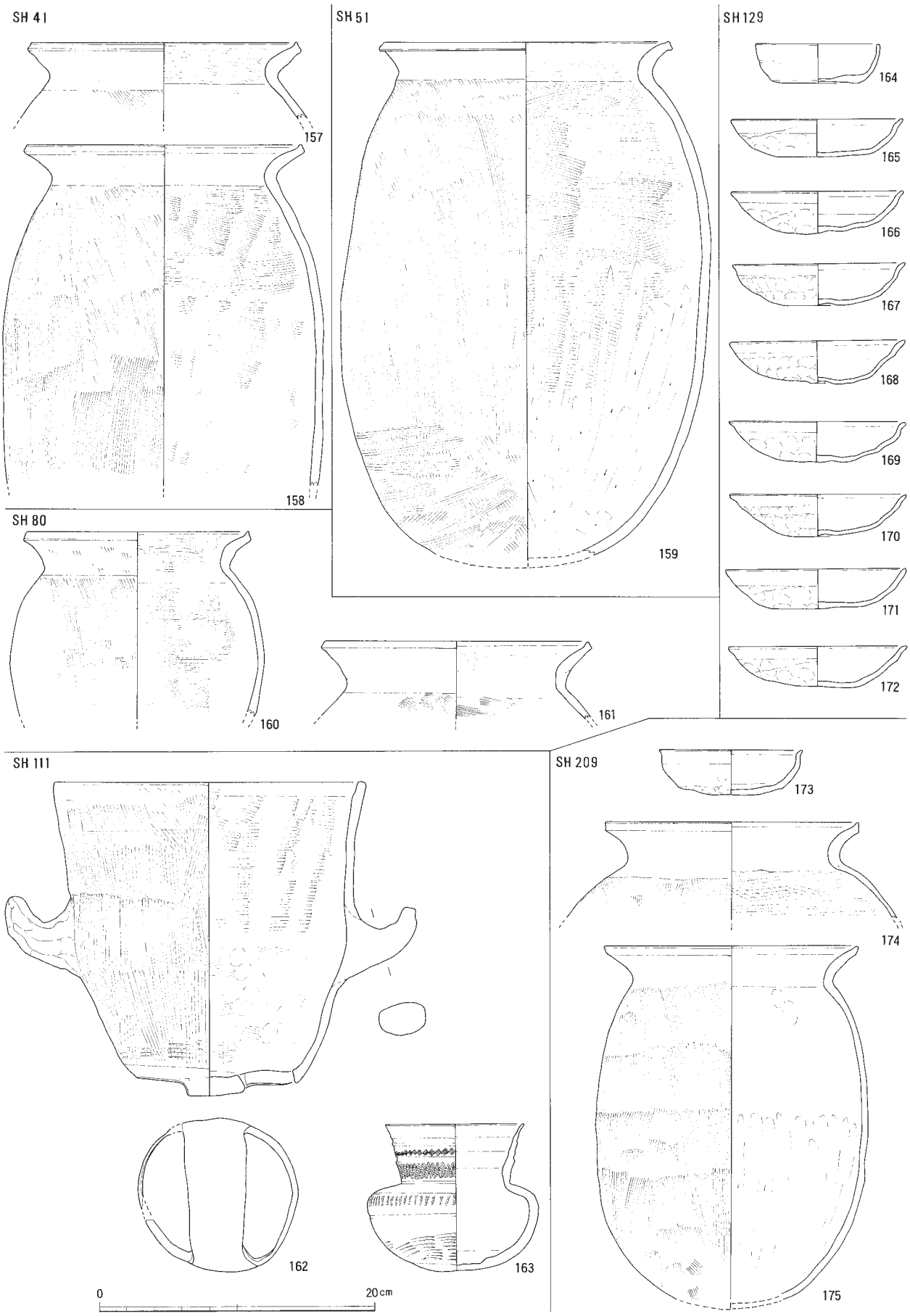
第49図　寺垣内遺跡遺物実測図（9）



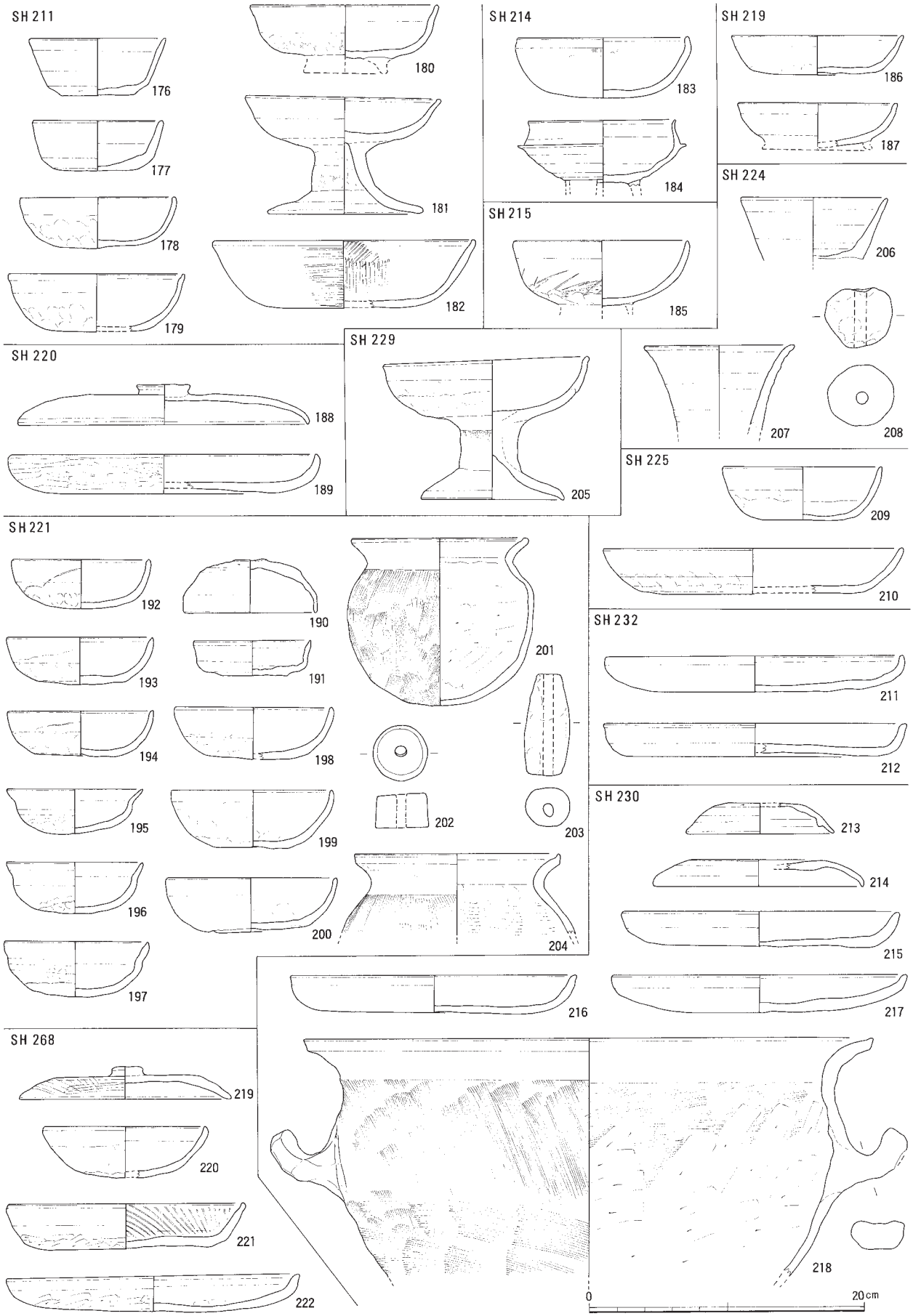
第50図　寺垣内遺跡遺物実測図（10）



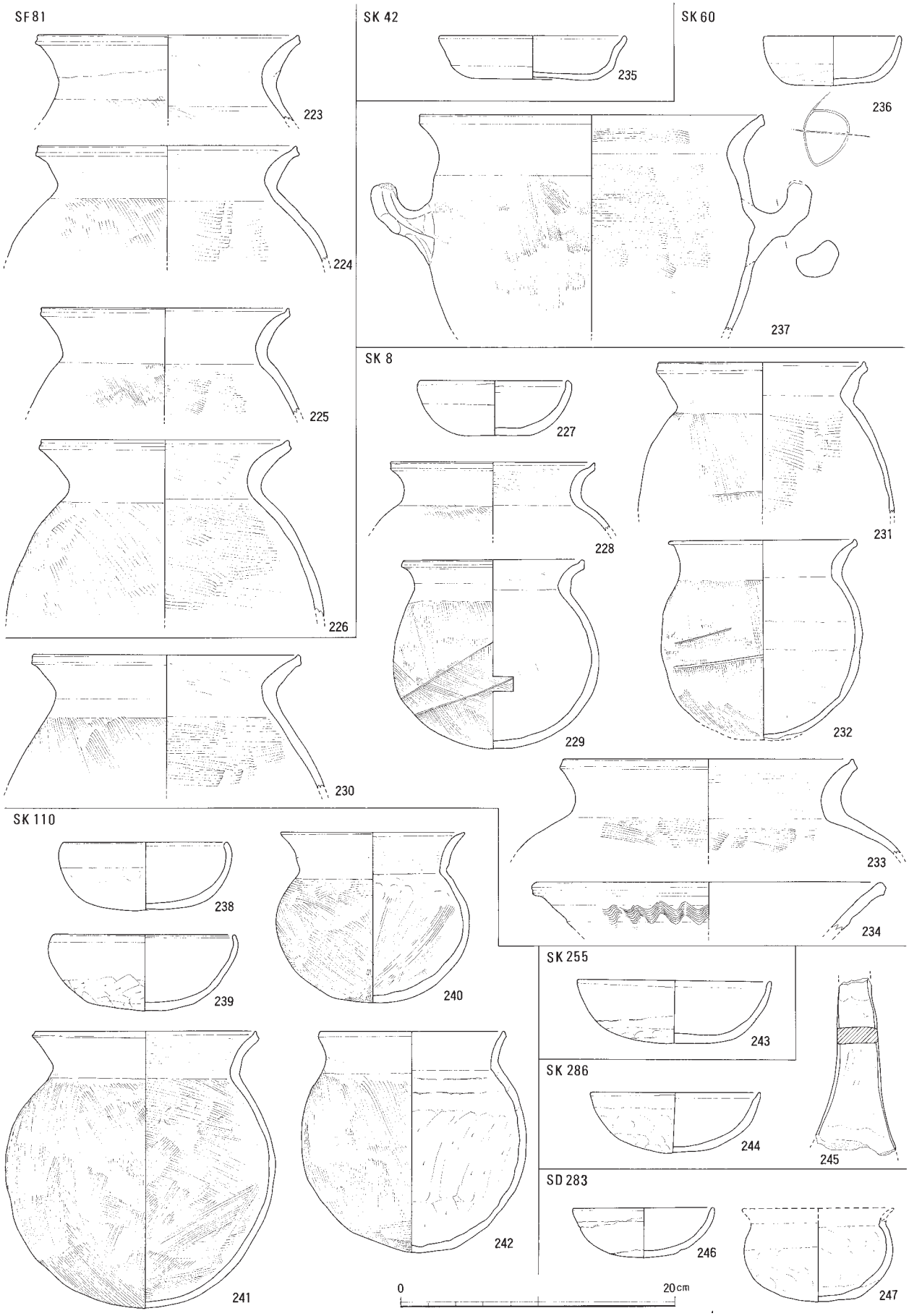
第51図　寺垣内遺跡遺物実測図（11）



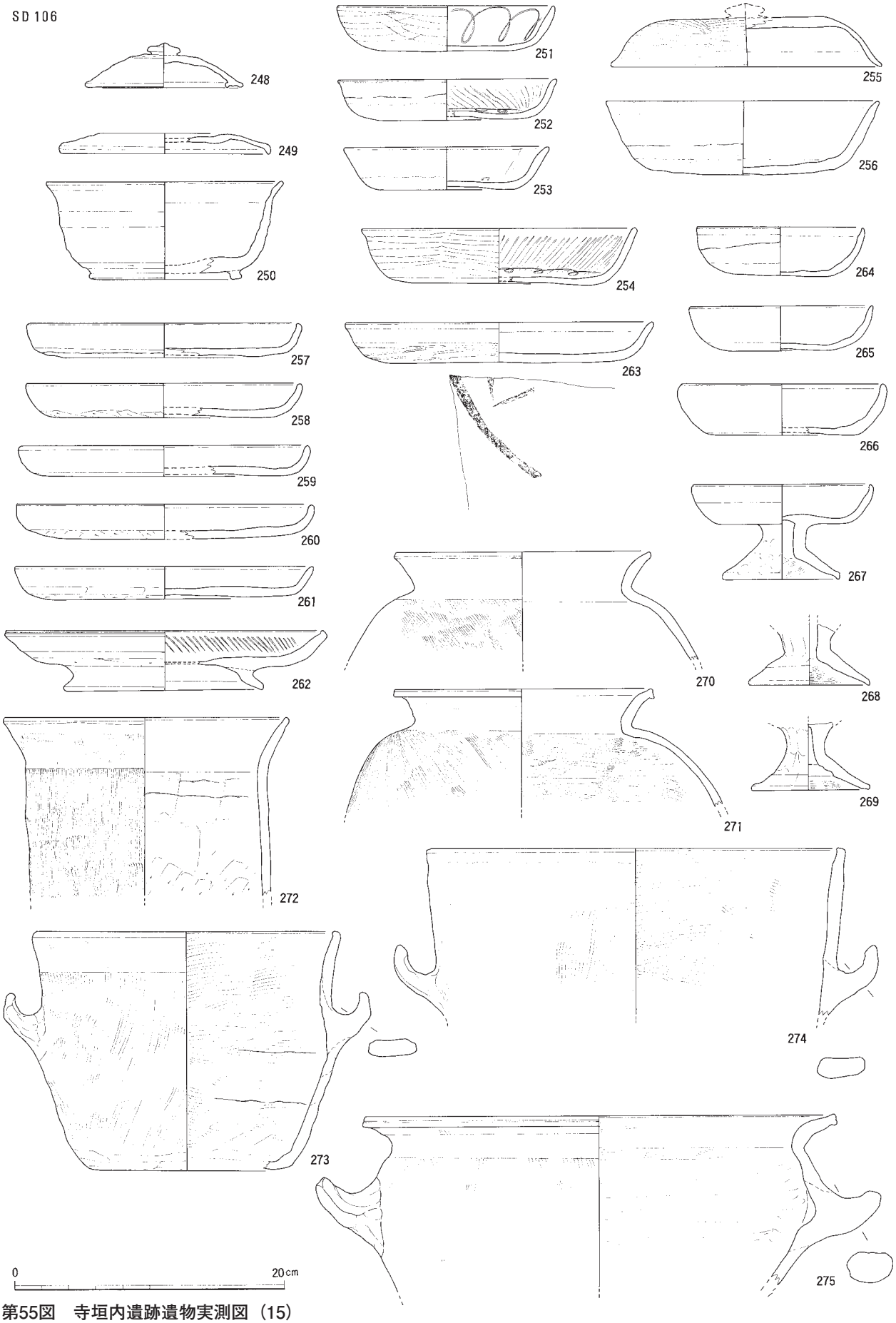
第52図　寺垣内遺跡遺物実測図（12）



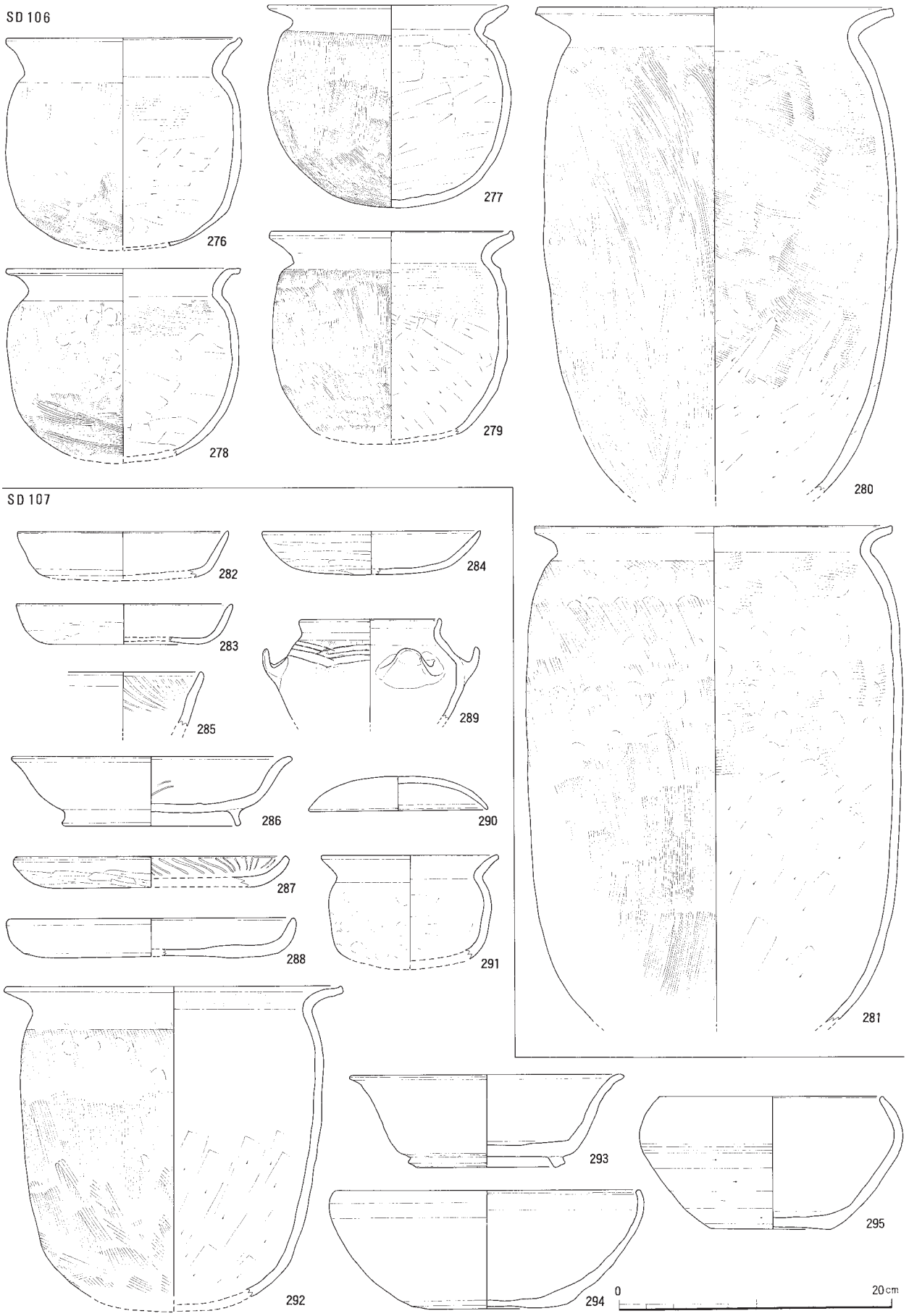
第53図　寺垣内遺跡遺物実測図（13）



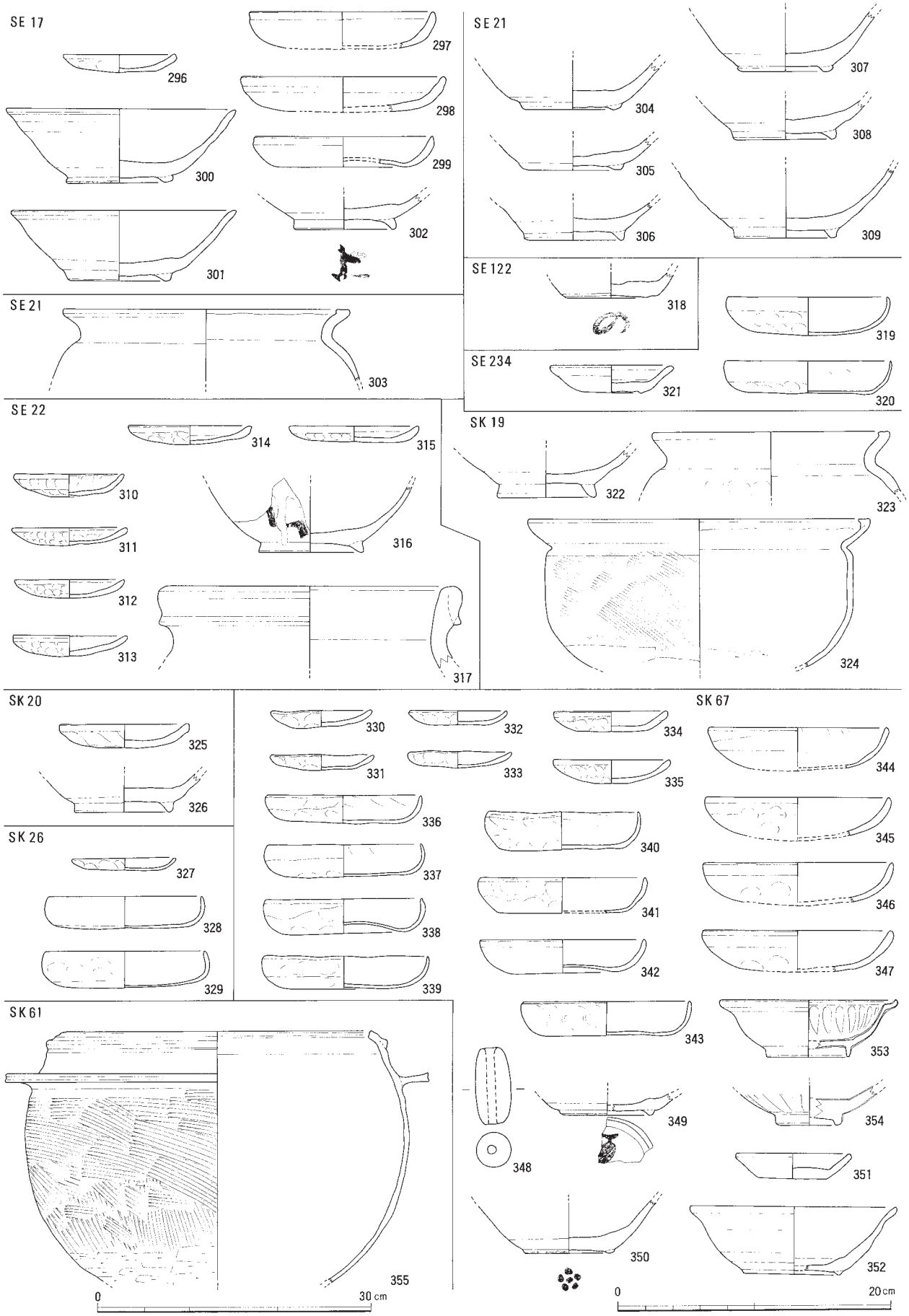
第54図　寺垣内遺跡遺物実測図（14）



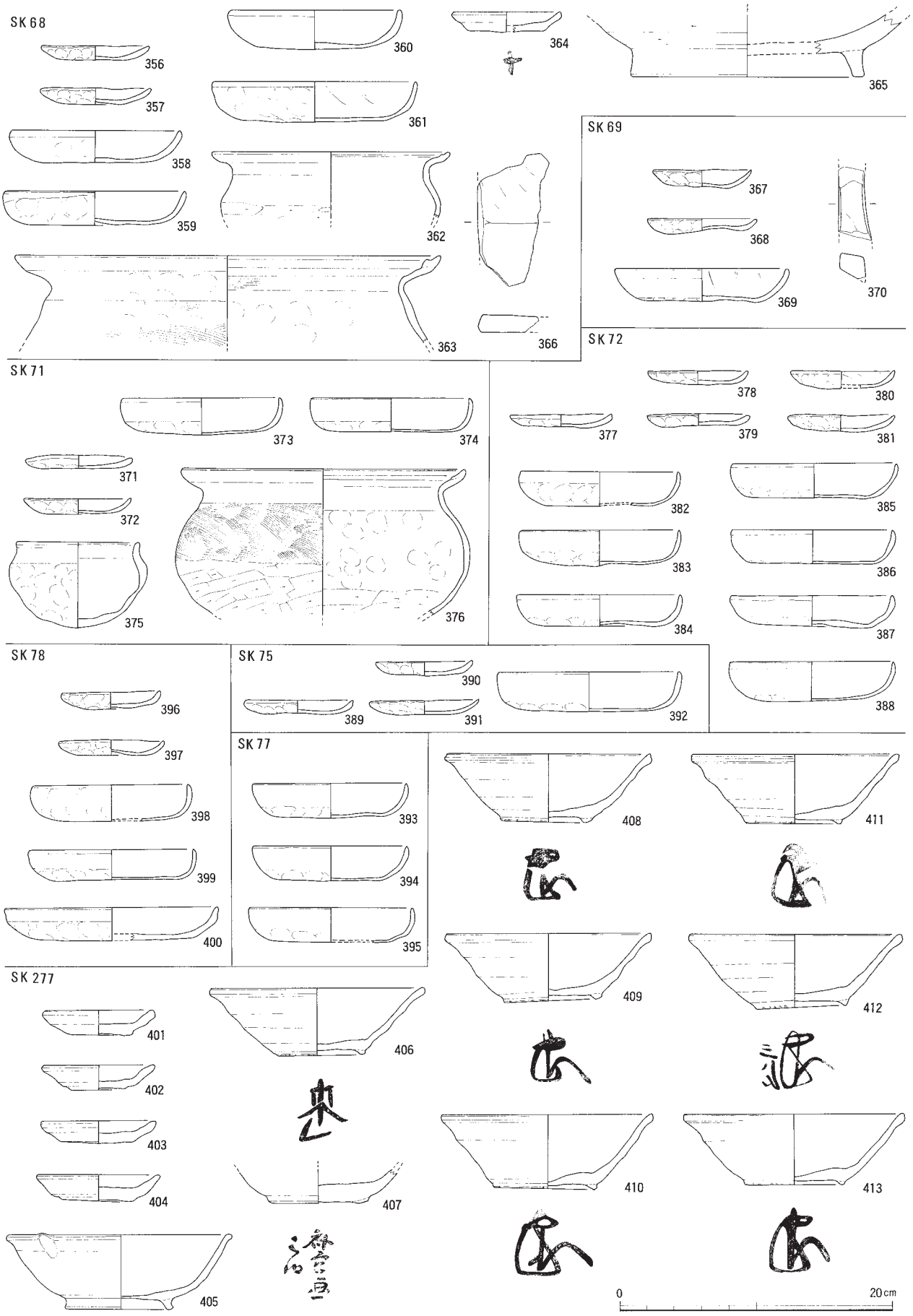
第55図　寺垣内遺跡遺物実測図（15）



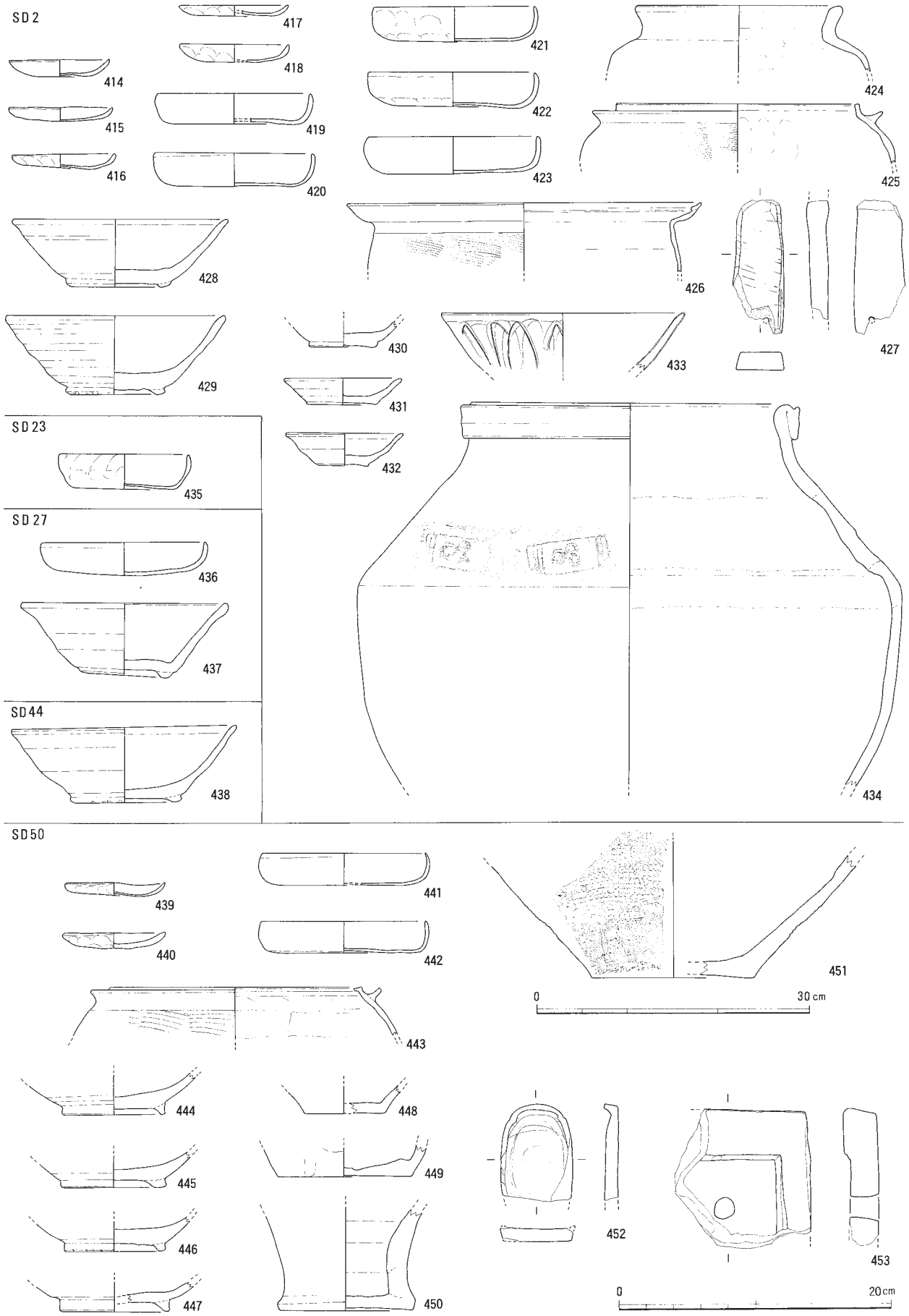
第56図　寺垣内遺跡遺物実測図（16）



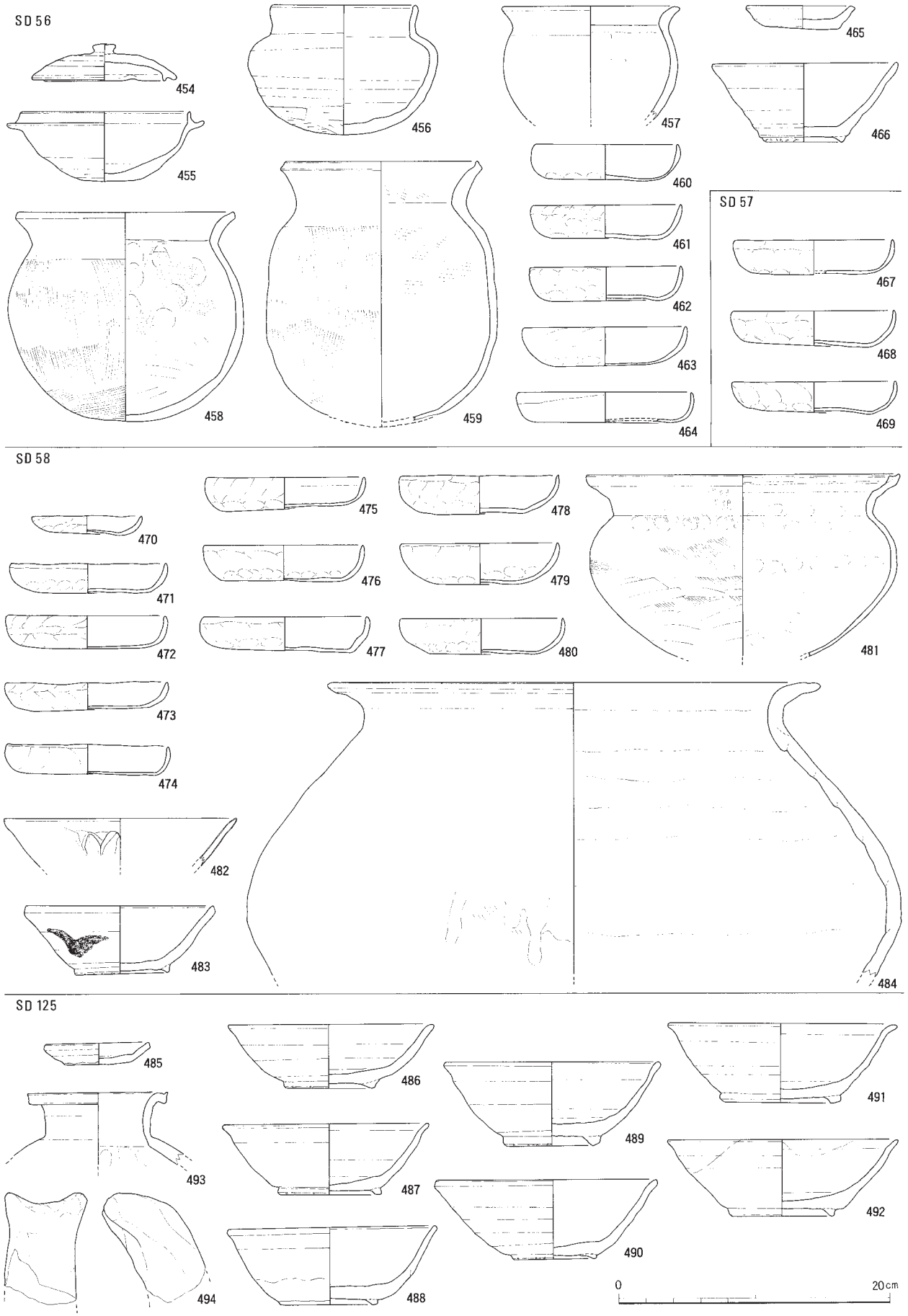
第57図　寺垣内遺跡遺物実測図（17）



第58図　寺垣内遺跡遺物実測図（18）



第59図　寺垣内遺跡遺物実測図（19）（1：4，434・451は1：6）



第60図　寺垣内遺跡遺物実測図（20）

2　金剛坂遺跡

金剛坂遺跡は、祓川右岸の明野原台地と呼ばれる洪積台地西端部の標高14 ～ 15mに位置する。祓川の沖積平野が西接し、平野との比高差は北側で３m、南側では６mほどある見晴らしの良い立地である。

遺跡範囲は南北約850m、東西約170 ～ 350mの広大な遺跡で、金剛坂字森田・坂垣内・辰ノ口・古垣内に所在する。これまで実施された６次にわたる調査は、字名によって区分されているが、遺跡を通した遺構番号が付与されていないため、下記のとおり遺構番号を設定し直すこととする。

また、ここでは第２次調査トレンチ調査および第３次調査成果について記述する。

次数	年度	地区	旧遺構番号	新遺構番号
1	昭和45年	坂垣内	1 ～ 53	1 ～ 53
2	昭和59年	森田	1 ～ 13	101 ～ 113
		辰ノ口	1 ～ 17	201 ～ 213
		トレンチ		301 ～ 319
3	平成５年	坂垣内		320
4	平成９年	辰ノ口	1 ～ 64	401 ～ 464
5	平成11年	辰ノ口	1 ～ 13	501 ～ 513
6	平成12年	辰ノ口		601 ～

第12表　金剛坂遺跡調査一覧

（地区＝字界については明和町遺跡地図（昭和63年）に詳細図が示されているので参照のこと。）

1）第２次トレンチ調査の遺構と遺物

調査区は、Ａトレンチ～Ｆトレンチまで約1,800㎡の調査区を設定しており、地区については第３図発掘調査場所位置図にトレンチの位置を示した。

基本層序は、耕土・床土・黄褐色粘質土層で、遺構検出面は地山層である黄褐色粘質土層で、地表からの深さは概ね0.4mほどである。

Ａトレンチ

坂垣内地区から古垣内地区に跨る県道多気停車場斉明線西側で南北に設定したトレンチである。検出した遺構は、ＳＫ301・ＳＤ302しかない。

ＳＫ301は南北2.5m、深さ0.8m、ＳＤ302は幅0.6 ～ 1.2m、深さ0.2mで、いずれの遺構も出土した遺物は少ないが、奈良時代に比定できる。

Ｂトレンチ

辰ノ口地区の県道鳥羽松阪線北側にあり、東端が南に折れ曲がるＬ字状のトレンチである。遺構・遺物が最も多く確認された。

ＳＸ303　トレンチ西端にある遺構で、南北方向の溝と東西方向の溝で、方形周溝墓と考えた。溝の幅は1.6 ～ 2.0mで、深さ0.6mで、弥生時代前期の蓋(1・2)が出土しているが、混入品と思われる。

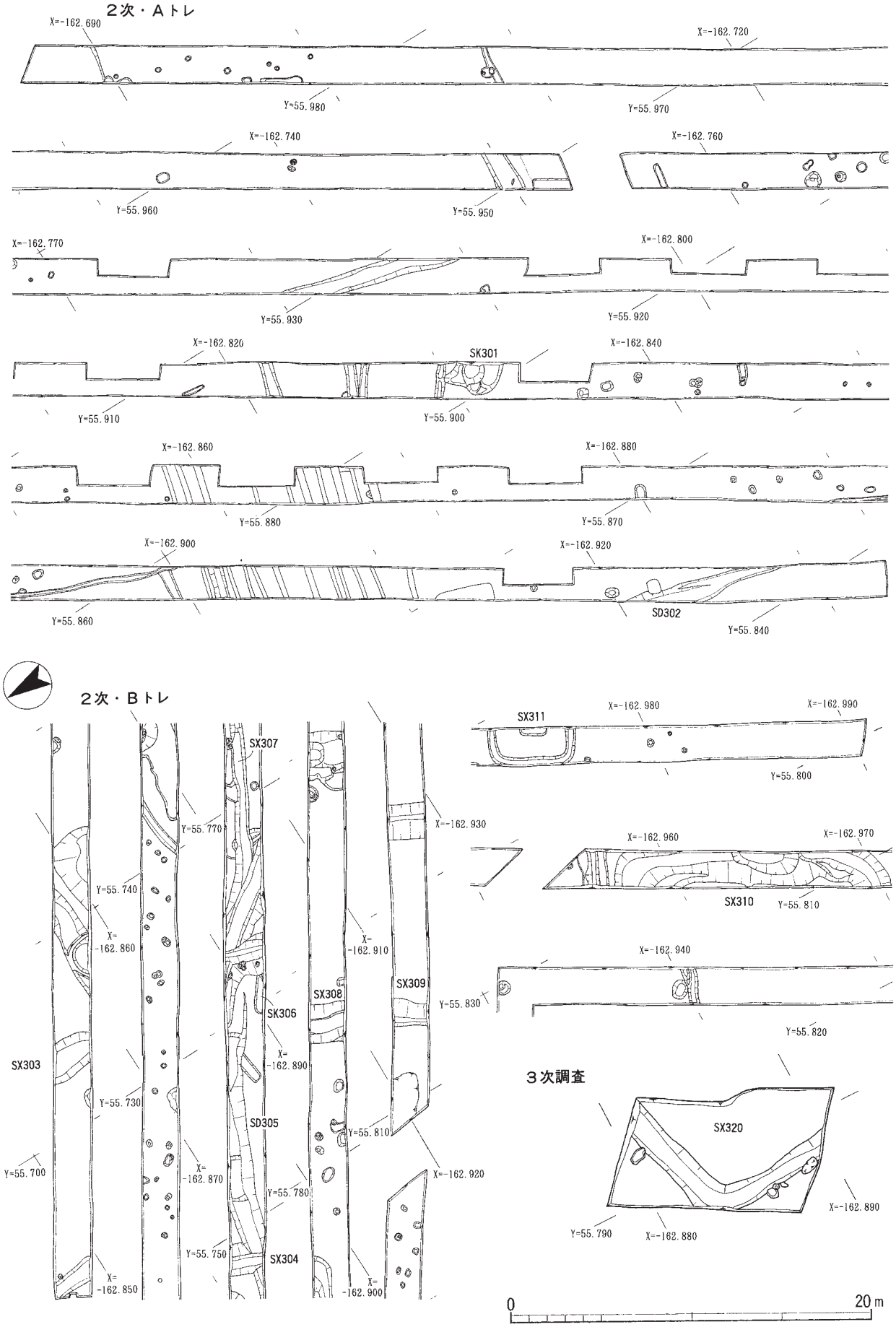
ＳＸ304　東西トレンチ中央にある南北方向の溝で、同規模の２条の溝を方形周溝墓とした。溝は幅1.7m、深さ0.9mで、東西方向の溝ＳＤ305より新しい。出土した遺物は少なく壺（３～７）･甕（８・９）が出土しているが、ＳＤ305の遺物が混入した可能性が高く、時期の断定は出来なかった。

ＳＤ305　ＳＸ304と重複する東西溝で、南側に向かって弧状に巡るものと思われる。溝幅は1.6m、深さ1.0mと、底の平らな逆台形の溝である。

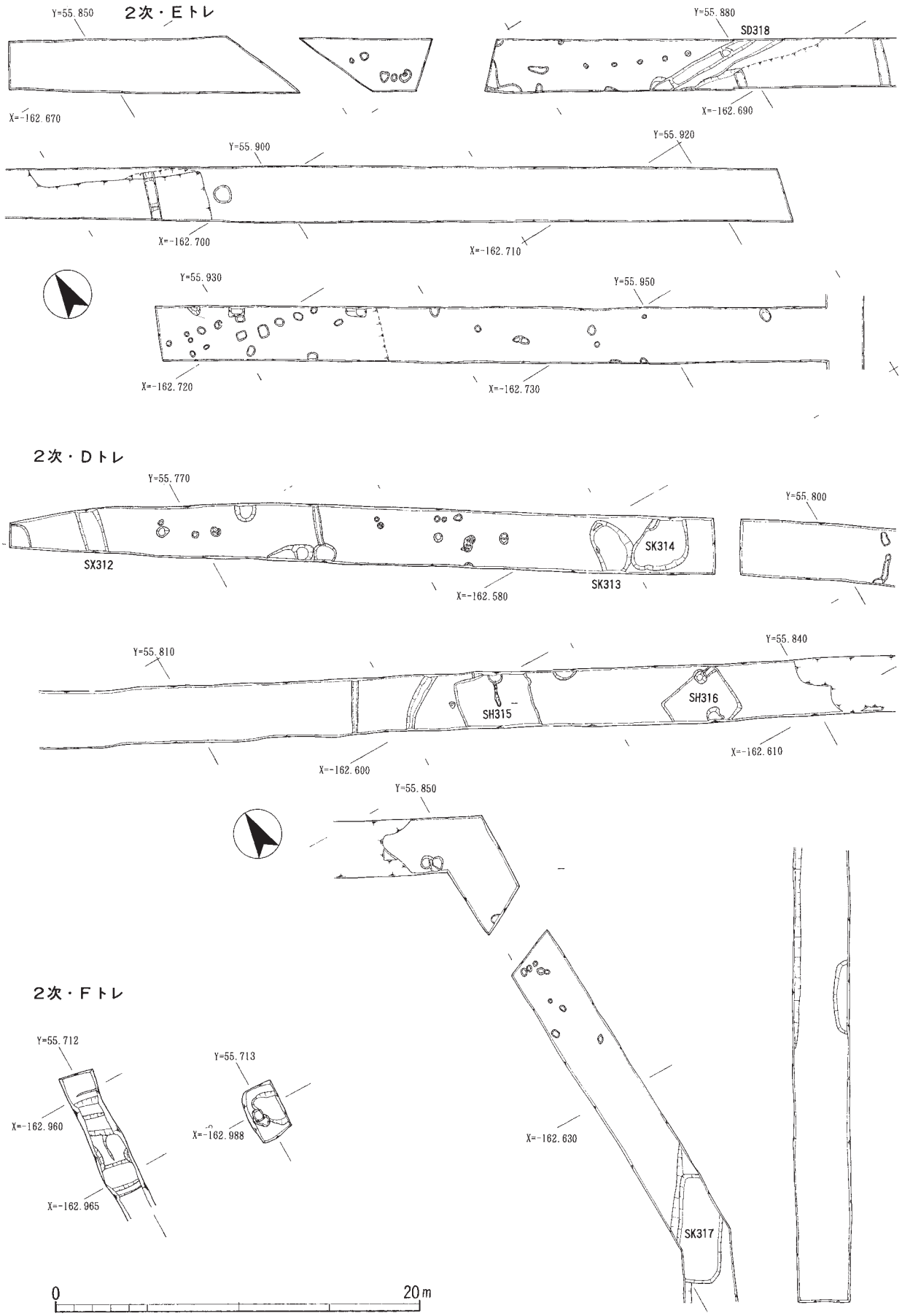
遺物には、弥生土器蓋（10 ～ 14）、壺（15 ～ 23）、甕（27 ～ 38）があるほか、匙型土製品(24)が注目される。壺は広口壺になるもので、頸部にヘラ描き沈線が施されるものが多い。甕は口縁部の外反が弱く頸部がややすぼまり、体部がわずかな膨らみを持つ。頸部は壺同様の手法が見られ、ケズリ出し突帯を行うもの（31・34）は少なく、ヘラ描沈線のものが主流をしめるが、無文のもの（27）もある。口縁端部には刺突文が施されるものが多い。

匙型土製品（24）は、６㎝ほどの体部に把手を片側に付けたもので、把手は先端が欠けている。外面は丁寧に磨き、朱の痕跡も一部残ることから、祭祀に使用されたと考えられる。

ＳＫ306　ＳＸ304の東側の周溝と重複する。幅は0.4m以上、長さ2.0m以上の東西に細長い土坑である。深さ0.2mと浅いが、７個体の蓋（39 ～ 45）のほか甕（46･47）が出土した。(39）は口径５㎝ほどの小型品で、摘みは中央が穿孔されている。(44）は外縁に沿って長さ８mm楕円形の浮文が残っている。貼り付けた痕跡などから３個１単位で８カ所巡らされていたと推定できる。(45）は凸帯を外縁に沿って２条、頂部にも凸帯を巡らせて、刺突文をそれぞれに施している。



第61図　金剛坂遺跡遺構平面図（1）（1：300）



第62図　金剛坂遺跡遺構平面図（2）（1：300）

ＳＸ307　ＳＸ304東側周溝の東に位置する幅1.0m、深さ0.3mの溝である。溝の東端は溝幅が0.7mと細くなり折れ曲がって北側に延びる。西側はＳＸ304・ＳＤ305と重複しており、北側土層面での観察から、東西幅を16.6mに復元した。ＳＤ305より新しく、ＳＸ304より古い。

出土した遺物は、弥生時代前期の壺・甕が多かったが、鉢（48）が新しい遺物として図化できた。胎土が粗雑なことから精製土器の鉢ではなく、在地の製品である。形態から見て、古代の範疇に入ると考えられるが、混入の可能性も残る。

ＳＸ308　ＳＸ307の東側にある同一方向を取る溝２条を方形周溝墓の周溝と考えた。東西幅は17.2mに復元できる。溝の規模は類似し、溝幅2.2m、深さ0.6mで、出土した遺物は少ないが、東側周溝からほぼ完形の須恵器杯２点（49・50）が出土した。須恵器から見て６世紀初頭の時期が与えられる。

ＳＸ309　ＳＸ308の東にあるほぼ同一方向を取る溝２条をＳＸ308同様に方形周溝墓の周溝と考えた。東西幅は13.6mに復元できる。西側の溝幅1.6m、深さ0.6m、東側周溝の幅2.0m、深さ0.5mである。遺物は出土していない。

ＳＸ310　南北トレンチの中央で検出した南北溝で、溝の両端が西側に折れ曲がることから南北の長さを15.3mの方形周溝墓と推定した。南北溝の東肩は調査区外に延び、溝幅は1.6m以上、深さ0.6mとしか判断できない。また、遺物は出土していないため、時期は不明である。

ＳＸ311　ＳＸ310の南側にある幅0.4m、深さ0.4mの溝で、東西方向にＵ字状に巡って東側へと延びることから、方形に巡ると推定できる。南北の長さは4.8mである。調査区東壁際には、南北1.5m、東西0.3m以上、深さ0.5mの土坑がある。位置から見て主体部とも考えられるが、土坑から山茶椀２個体（51・52）出土していることから、鎌倉時代の遺構となる。

中央の墓壙が細長いことから土葬の可能性が高く、上部構造は削平されて不明だが、方形周溝は土葬した周囲を明示する溝とも考えられる。

Ｃトレンチ

南北方向のＤトレンチの南延長上に設定されたが、遺構は検出されなかった。

Ｄトレンチ

第１次調査区の南側にある東西方向のトレンチで東側が南に50mほど延びる調査区で、方形周溝墓１基、竪穴住居２棟が検出された。

ＳＸ312　トレンチ西端にある幅1.2m、深さ0.3mの溝を方形周溝墓の東側周溝と考えた。弥生土器壺が２個体出土している

ＳＨ315　トレンチ中央にある東西4.2m、南北３m以上、深さ0.3mの竪穴住居で、北壁註中央にカマドを設ける。出土した遺物は比較的多く、奈良時代前半に比定できる。

ＳＨ316　ＳＨ315の東にある東西3.6m、南北3.1m、深さ0.2mである。出土した遺物は少ないが須恵器杯（78）があり、奈良時代前半に比定できる。

ＳＫ313・314　ＳＨ315の西側にある楕円形を呈する土坑で、深さ0.2mある。出土した遺物は少ないが、中世の範疇であろう。

ＳＫ317　ＳＨ316の東側に位置する南北3.0m、東西1.2m、深さ0.6mの南北に細長い土坑である。土師器鍋（79）が出土した。

Ｅトレンチ

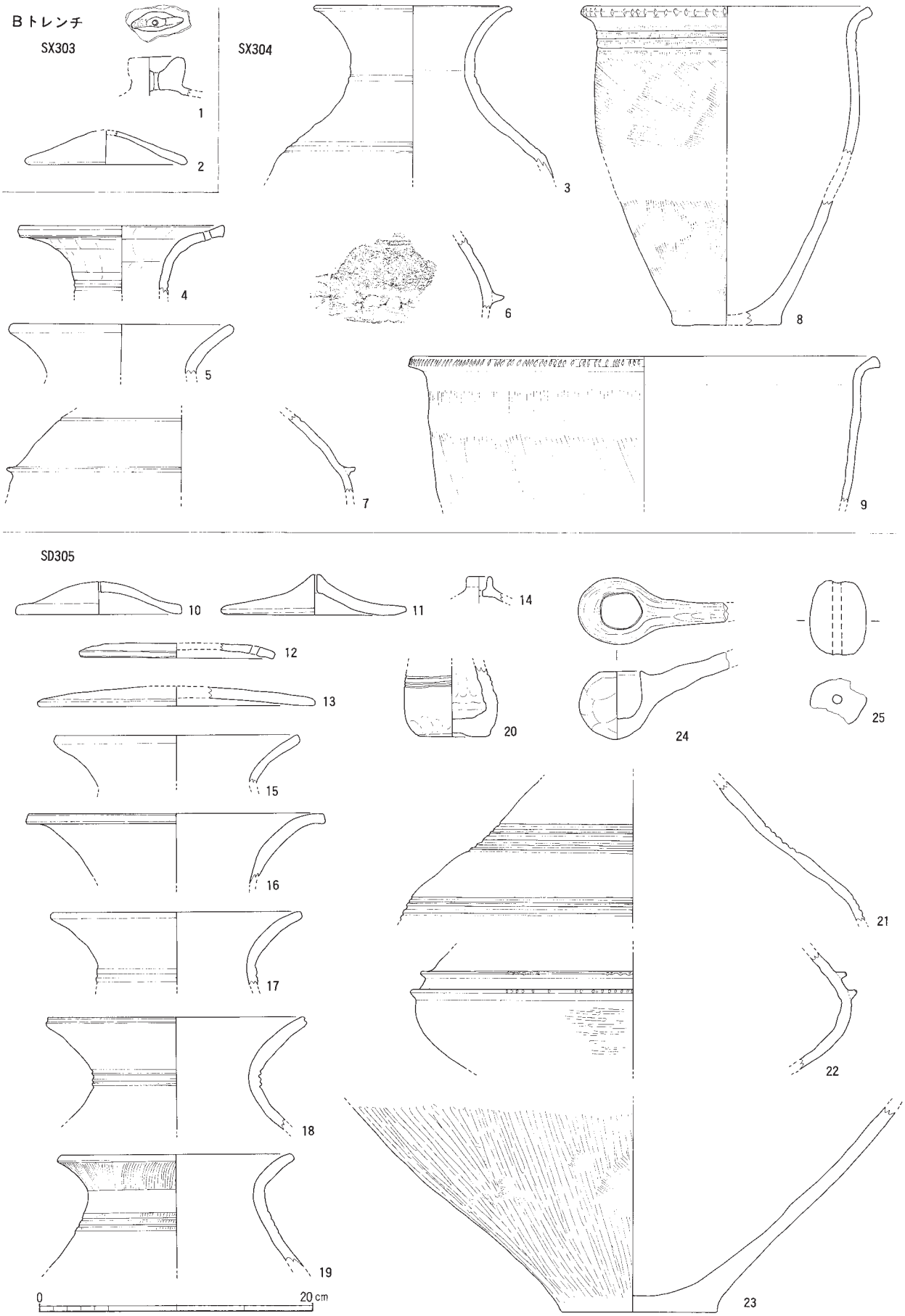
遺跡北東部に位置する東西方向のトレンチで、中央付近で幅0.7m、深さ0.5mの東西方向に流れる溝ＳＤ318を確認した。出土した遺物は少ないが、土師器皿（61）から奈良時代の遺構とした。

Ｆトレンチ

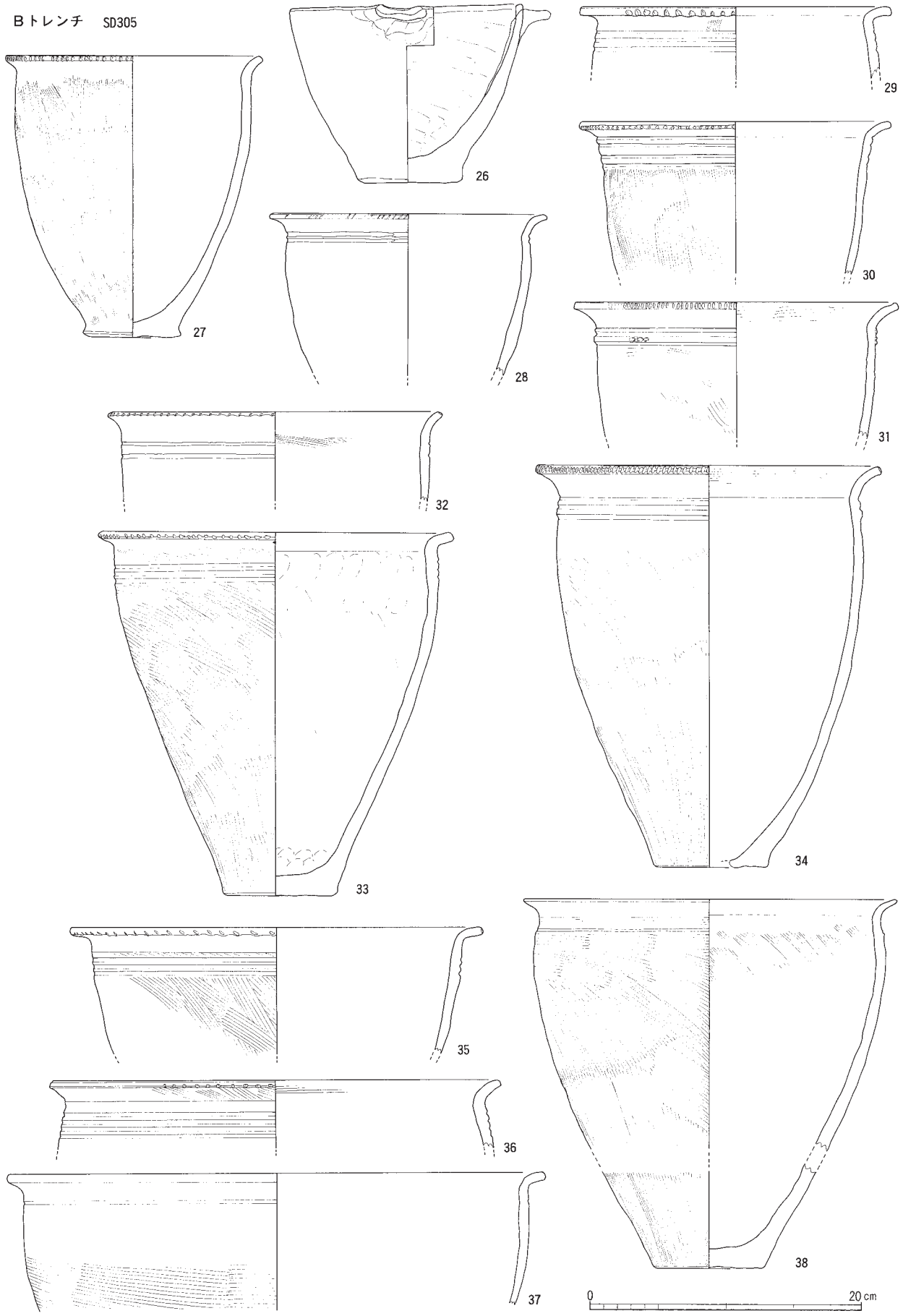
県道鳥羽松阪線の南側で台地縁辺部にそって設定した。弥生時代の遺物が出土しているが、明確な遺構とは判断できなかった。

２）第３次調査の遺構と遺物

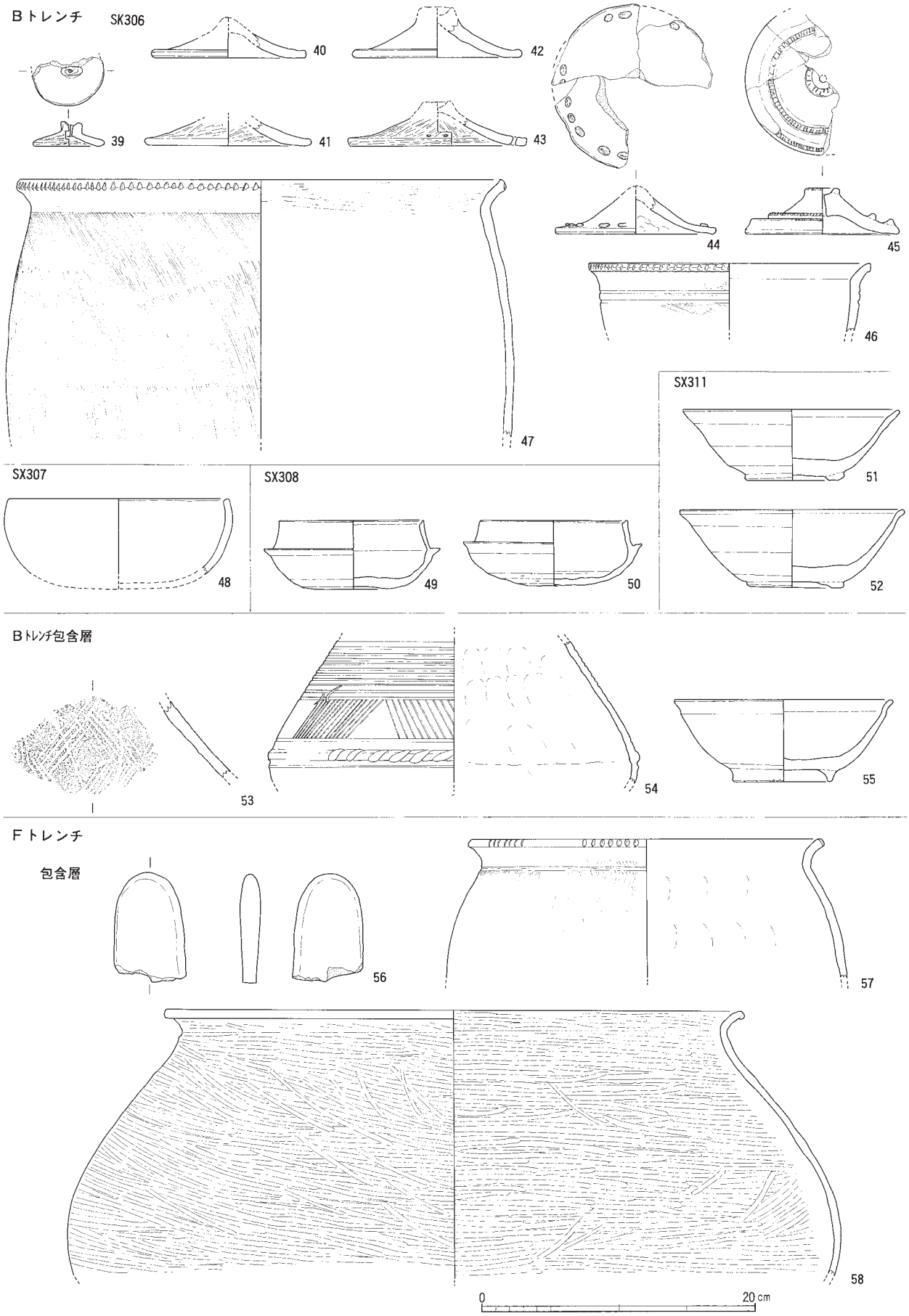
第２次調査Ｂトレンチの中央北側で、防火水槽建設に伴なう調査で、約70㎡の調査を行い、方形周溝墓１基を検出した。ＳＸ520は、Ｌ字状に巡る溝で、幅1.6m、深さ0.2mの規模である。周溝から出土した遺物は、弥生時代前期の土器類に混じって土師器片も数片認められることから、古墳時代の遺構と思われるが時期の詳細は不明である。



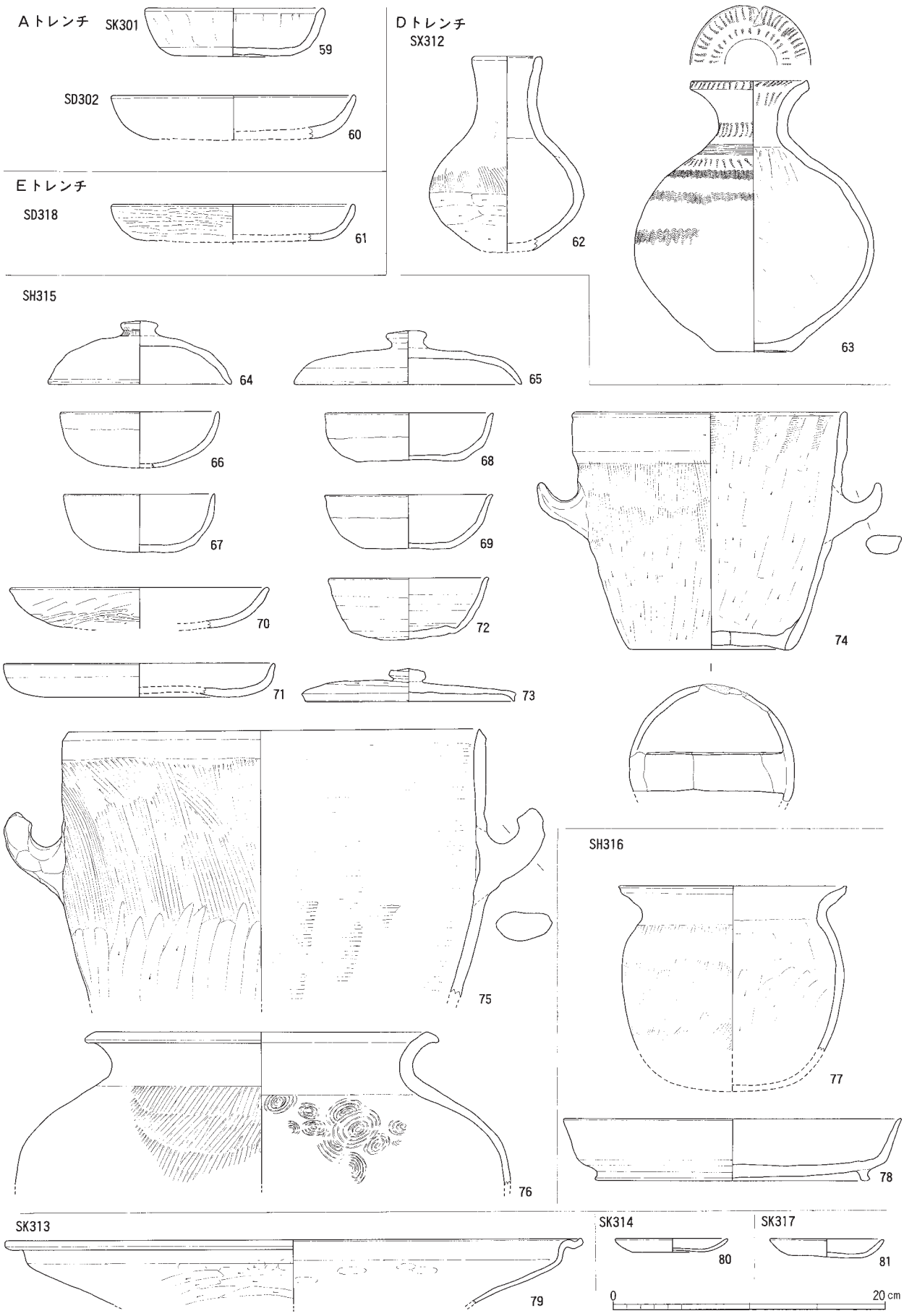
第63図　金剛坂遺跡遺物実測図（1）



第64図　金剛坂遺跡遺物実測図（2）



第65図　金剛坂遺跡遺物実測図（3）



第66図　金剛坂遺跡遺物実測図（4）

報告番号	登録番号	質	器種	地区	出土遺構	層位及び取上げNo.	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法	胎土	色調	残存	特記事項
1	3003	弥生土器	蓋	E 19	SX 8	封土中	9.2			外：ナデ 内：天井部ナデ＋指オサエ	粗（～2.5mmの砂粒多く含む）	にぶい橙 7.5YR7/4	1／2	天井部に穿孔
2	2904	弥生土器	壺	E 19	SX 8					外：ヘラ描き沈線３条マメツ 内：体部ナデ	密（～2.5mmの砂粒多く含む）	にぶい褐 7.5YR5/4	小片	
3	3004	弥生土器	壺	E 19	SX 8	周溝				外：体部ヘラミガキ→ヘラ描沈線３条 内：体部ヘラミガキ	密（～2.5mmの砂粒く含む）	にぶい赤褐 5YR5/4	小片	
4	2901	弥生土器	壺	D 20	SX 8	周溝	16.8			外：タテハケ（１２本/cm)→口縁ヨコナデ→ミガキ・ヘラ描沈線３条 内：口縁ヨコナデ→横方向のミガキ	密（～2mmの砂粒多く含む）	にぶい橙 7.5YR6/4	1／6	
5	3002	弥生土器	甕	E 19	SK 28					外：タテハケ（5～6本/cm)→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	粗（～3.0mmの砂粒多く含む）	にぶい黄褐 10YR5/3	小片	
6	2902	弥生土器	壺	E 19	SK 28		22.6			口縁部内外－ヨコナデ	粗（～4mmの砂粒多く含む）	にぶい橙 7.5YR6/4	1／12	
7	3001	弥生土器	壺	E 19	SX 8				9.2	マメツのため調整不明	粗（～2.5mmの砂粒多く含む）	橙2.5YR6/6	底部完存	
8	2903	弥生土器	壺	F 16	SX 7	墳丘下旧耕土	19.1			外：タテハケ（７本/cm）→ヨコ方向のミガキ→ヘラ描沈線２条　口縁部・ヨコナデ→ヨコ方向の粗いミガキ 内：体部ナデ・指オサエ→口縁ヨコナデ→ヨコ方向のミガキ	密（～2mmの砂粒多く含む）	にぶい黄橙 10YR6/4	1／6	
9	3005	弥生土器	壺	E 19	SX 8	封土中				外：ヨコ方向のミガキ→頸部ヘラ描沈線２条・体部外ヘラ描沈線３条 内：体部ヨコ方向のミガキ、	密（～2.5mmの砂粒含む）	橙5YR6/6	頸部 1／2	
10	1101	土師器	壺	F 10	SX 5	周溝No.12	14.0			外：体部タテハケ→口縁斜ハケ（７本/cm)→体部ヨコ方向のミガキ・口縁タテ方向のミガキ→体部上端櫛描直線文（８本/1.4cm)＋刺突文＋櫛描直線文、 内：体部工具ナデ→口縁斜ハケ→タテ方向のミガキ	密（～1.5mmの砂粒含む）	橙5YR6/6	1／4	最大径28.8㎝
11	301	土師器	壺	E 8	SX 5	周溝下層	17.4	31.6	7.0	外：タテハケ→口縁ヨコナデ→タテ方向のミガキ 内：体部下半斜ハケ（５本/cm)→上半ナデ・指オサエ→口縁部・ヨコナデ→タテ方向のミガキ	密（～0.5mmの砂粒含む）	にぶい黄橙 7.5YR6/4	ほぼ完形	体部外面に黒斑
12	101	土師器	壺	E 8	SX 5	周溝下層、No.7～9	16.0	28.8	7.2	外：・タテハケ→口縁ヨコハケ→口縁タテ方向のミガキ・体部ヨコ方向のミガキ→体部上端に櫛描直線文＋刺突文＋櫛描直線文 内：体部下半ヨコハケ→上半ナデ・オサエ→口縁部・ヨコナデ→タテ方向のミガキ→刺突文・半裁竹管文	やや密	7.5YR7/6	ほぼ完形	口縁端部に朱彩
13	501	土師器	壺	E 7	SX 5	周溝	28.6			外：底部ナデ→体部上半タテハケ→櫛描直線文（９本／cm)→刺突文千鳥に３条＋櫛描直線文→口縁ヨコナデ→頸部タテ方向のミガキ→端部タテ方向の粘土紐貼り付け（３本１単位） 内：底部ナデ→体部上半ナデ・指オサエ→口縁ヨコナデ	やや密	橙5YR6/6	1／8	上と下は直接接合せず
14	1202	石製品	管玉	E 12	SX 6	棺内No.1	6.0	2.3	重量4.0g					
15	1203	石製品	管玉	E 12	SX 6	棺内No.2	12.5	2.5	重量12.5g					
16	1204	石製品	管玉	E 12	SX 6	棺内No.3	10.9	2.6	重量10.5g					
17	1205	石製品	管玉	E 12	SX 6	棺内No.4	11.8	2.4	重量10.0g					
18	1206	石製品	管玉	E 12	SX 6	棺内No.6	5.7	2.4	重量4.0g					
19	1207	石製品	管玉	E 12	SX 6	棺内１区	9.3	2.2	重量5.5g					
20	1208	石製品	小玉	E 12	SX 6	棺内１区	5.0	4.0	重量20.5g					
21	201	土師器	壺	E 13	SX 6	周溝No.11	15.8	29.0	7.3	外：体部タテハケ→口縁ヨコナデ→体部ヨコ方向のミガキ・口縁タテ方向のミガキ→端部刺突文 内：体部下半タテハケ→上半ヨコハケ（７～８本／cm）→口縁部・ヨコナデ→刺突文＋櫛描直線文＋刺突文	やや密	7.5YR7/4	口縁 1/12・体部完存	
22	601	土師器	壺	F 16	SX 7	周溝No.1～3	19.0	29.7	6.0	外：体部タテハケ（８本/cm)→口縁ヨコナデ→突帯貼付→体部ヨコ方向のミガキ→体部上半に竹管文＋櫛描直線文＋刺突文・口縁端部に刺突文・凸帯に刺突文 内：体部下半斜ハケ（6本/cm）→上半ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ→口縁刺突文２条＋櫛描直線文	密	橙5YR6/6		
23	1001	土師器	壺	F 14	SX 7	周溝No.7	14.0	29.0	7.0	外：底部ヘラケズリ→体部斜ハケ（６本/cm)→口縁ヨコナデ→体部ヨコ方向のミガキ 内：体部ヨコハケ（６～８本/cm）→上半オサエ→口縁ヨコナデ	やや密（１～２mmの砂粒含む）	浅黄橙 10YR8/3	ほぼ完形	体部外面下半に黒斑
24	1402	土師器	鉢	E 14	SX 7	周溝No.8	15.8	8.0	3.8	外：底部ナデ？→体部斜ハケ（８本／cm)→口縁ヨコナデ 内：体部内－ナデ→口縁ヨコナデ	やや密（～2.0mmの砂粒含む）	橙5YR6/6	ほぼ完形	
25	701	土師器	高杯	F 16	SX 7	周溝No.4	25.7	22.8	16.1	外：杯部・口縁ヨコナデ→タテ方向のミガキ　脚部・タテハケ→端部ヨコナデ→タテ方向のミガキ→櫛描直線文（４本／cm)２条 内：杯部・口縁ヨコナデ→タテ方向のミガキ　脚部・上半ナデ→下半斜ハケ→端部ヨコナデ	密（～2.5mmの砂粒含む）	にぶい黄橙 7.5YR6/4	1／3	透かし三方＋1

第13表　織糸遺跡遺物観察表（１）

報告番号	登録番号	質	器種	地区	出土遺構	層位及び取上げNo.	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法	胎土	色調	残存	特記事項
26	1401	土師器	高杯	F 14	S X 7	周溝No.5	23.1	25.0	14.9	外：杯部・口縁ヨコナデ→タテ方向のミガキ　脚部・タテハケ→タテ方向のミガキ→櫛描直線文（５本／0.9cm）４条 内：杯部・口縁ヨコナデ→タテ方向のミガキ　脚部・上半ナデ→下半斜ハケ（８本／cm)→ナデ	密（～1.0mmの砂粒含む）	橙5YR6/6	1／2	透かし三方
27	901	土師器	高杯	F 14	S X 7	周溝No.6	21.8	24.6	14.4	外：杯部・口縁部・斜ハケ→ヨコナデ→タテ方向のミガキ　脚部・タテハケ→ミガキ→櫛描直線文４条 内：杯部・口縁ヨコナデ→タテ方向のミガキ　脚部・ナデ→端部ヨコナデ	やや密	橙5YR6/6	1／2	透かし千鳥に二段
28	401	土師器	壺	E 15	S X 7	墳頂部No.9	13.4	20.2	13.5	外：体部下端タテ方向→中位ヨコ方向のミガキ・上半竹管文の間に櫛描直線文（６本1.2cm）＋刺突文を交互に施す・中位に円形浮文３×５方向・口縁上端－竹管文＋円形浮文３×５、口縁－竹管文２条・円形浮文３個×５　脚部タテ方向のミガキ→櫛描直線文２条 内：体部下半ナデ→上半指オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ→口縁刺突文千鳥に４条　脚部ナデ・オサエ	やや密（～0.3mmの砂粒多く含む）	にぶい黄褐7.5YR5/4	4／5	体部外面に黒斑・浮文に朱彩残る
29	801	土師器	高杯	E 15	S X 7	墳頂No.9・10・13	24.6	26.0	15.7	外：杯部・口縁ヨコナデ→タテ方向のヘラミガキ　脚部・タテハケ→タテ方向のミガキ→櫛描直線文（４本／0.8cm)４条 内：杯部口縁ヨコナデ→タテ方向のミガキ　脚部・上半ナデ→下半斜ハケ→ナデ	密（～2.5mmの砂粒含む）	にぶい橙7.5YR6/4	1／4	透かし三方＋1
30	703	土師器	壺	E 15	S X 7	墳頂主体部			6.0	体部内－ナデ・外－縦方向のヘラミガキ、底部外－ナデ	密（～1.0mmの砂粒含む）	にぶい黄橙10YR6/3	1／4	
31	702	土師器	高杯	E 15	S X 7	墳頂部No.10・12				外：脚柱部・タテ方向のミガキ→櫛描直線文（４本・cm)４条　内：脚柱部・ナデ	密（～1.5mmの砂粒含む）	橙5YR6/6	1／2	３方透かし
32	704	土師器	高杯	E 15	S X 7	墳頂主体部			13.0	マメツのため調整不明	やや密（～5.0mmの砂粒含む）	にぶい黄橙10YR6/4	1／6	
33	1201	土師器	高杯	E 19	S X 8	周溝	16.0	13.1	11.7	外：杯部・タテ方向のミガキ　脚部・端部ヨコナデ→タテ方向のミガキ 内：杯部・タテ方向のミガキ　脚部・斜ハケ→端部ヨコナデ	密（～2.5mmの砂粒含む）	橙7.5YR7/6	ほぼ完形	３方透かし
34	1701	土師器	壺	F 18	S X 8	周溝	16.2	27.4	6.0	外：底部ナデ→体部タテハケ→口縁ヨコナデ→体部下半タテ方向ミガキ・上半ヨコ方向のミガキ 内：体部下半粗い斜ハケ（４本／cm）→上半指オサエ・ヨコハケ（7本／cm）→口縁ヨコナデ	密	橙7.5YR7/6	ほぼ完形	体部外面下半黒斑
35	1601	土師器	台付壺	F 18	S X 8	周溝No.3	18.1	29.5		外：体部タテハケ→口縁ヨコナデ→体部～口縁タテ方向のミガキ　脚部・ヘラミガキ？ 内：口縁部内外－斜ハケ→横方向の工具ナデ→口縁ヨコナデ→、脚部内－ハケ→ナデ・ヨコナデ	密	橙7.5YR6/6	脚欠	
36	1501	土師器	壺	E 19	S X 8	周溝	15.8			外：体部タテハケ→口縁ヨコナデ→突帯貼付→体部タテ方向のヘラミガキ→体部上端櫛描直線文（５本／cm)２条＋波状文＋刺突文・　凸帯に刺突文・口縁端部刺突文、 内：体部下半斜ハケ→上半ナデ・指オサエ→口縁部・斜ハケ→ヨコナデ	密（～1.5mmの砂粒含む）	にぶい黄橙10YR7/4	1／2	最大径31.5cm
37	1301	土師器	壺	F 18	S X 8	周溝No.2	15.7			外：タテハケ→口縁ヨコナデ→体部ヨコ方向のミガキ→体部上端櫛描直線文２条＋波状文＋櫛描直線文＋刺突文＋櫛描直線文 内：体部下半斜ハケ（６～８本／cm）→上半ナデ・指オサエ→口縁ヨコナデ→	やや粗（～2.5mmの砂粒含む）	にぶい橙7.5YR7/4	底部欠	
38	1801	土師器	壺		S X 9	周溝	16.4	21.1	5.6	外：体部ナデ→体部タテハケ→口縁ヨコナデ→タテ方向のヘラミガキ→口縁端部外－刺突文 内：体部下半斜ハケ（７本／cm)→上半ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ	密（～0.5mmの砂粒含む）	橙7.5YR6/6	3／4	体部外面下半黒斑
39	1901	土師器	壺	D 21	S X 9	周溝	20.0			外：体部斜ハケ→口縁ヨコナデ→突帯貼付→タテ方向のミガキ→櫛描直線文（9本／1.5cm)２条＋刺突文・口縁端部刺突文 内：体部ナデ→ヨコハケ→口縁斜ハケ（５本／0.6cm)→ヨコナデ	やや密（～1.0mm、２～３mmの砂粒含む）	橙7.5YR7/6	1／6	
40	2101	土師器	甕	E 6	S K 10		30.8	14.0		外：体部タテハケ→底部一定方向のハケ→口縁ヨコナデ 内：体部ヨコハケ（７本／cm)→下半ヨコ方向のヘラケズリ→口縁ヨコナデ	やや粗（～2.0mmの砂粒を含む）	浅黄橙7.5YR8/4	ほぼ完形	体部外面スス
41	2301	須恵器	甕	E 6	S K 10		43.7			外：口縁ロクロナデ→ 上端に波状文２条 内：口縁ロクロナデ	密（砂粒ほとんど含まない）	灰白5Y8/1	口縁部完存	
42	2401	須恵器	甕	E 5	S K 10		22.5	47.7		外：体部外面タタキ→口縁ロクロナデ 口内：体部タタキ→口縁ロクロナデ	やや密（～2.5mmの砂粒を含む）	灰白5Y7/1	完存	
43	2201	土師器	甕	E 5	S K 10	No.5	12.2	13.0		外：体部タテハケ（5本／cm）→底部外一定方向のハケ→口縁ヨコナデ 内：体部ナデ→口縁ヨコナデ	粗（～1.5mmの微砂粒を含む）	にぶい橙5YR7/4	ほぼ完形	体部外面黒斑
44	2202	土師器	壺	E 5	S K 10	No.4	8.4	14.5		外：体部タテハケ・ナデ→ 口縁ヨコナデ 内：体部ナデ　口縁ヨコナデ	やや密（～1.5mmの微砂粒を含む）	橙5YR7/6	ほぼ完形	
45	2004	須恵器	杯蓋	E 6	S K 10	No.7	13.6	3.8		外：ロクロナデ→ 天井部ロクロケズリ 内：ロクロナデ	粗（～4.5mmの小石を含む）	灰色5Y6/1	ほぼ完形	

第14表　織糸遺跡遺物観察表（２）

報告番号	登録番号	質	器種	地区	出土遺構	層位及び取上げNo.	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法	胎土	色調	残存	特記事項
46	2002	須恵器	杯身	E 5	SK 10	No.6	12.8	4.5		外：ロクロナデ→底部ロクロケズリ 内：ロクロナデ	やや粗（～6.5mmの小石を含む）	黄灰色 2.5Y5/1	ほぼ完形	
47	2005	須恵器	杯蓋	E 6	SK 13	No.3	12.7	4.1		外：ロクロナデ→天井部ロクロケズリ 内：ロクロナデ	やや粗（～2.5mmの小石を含む）	灰色5Y7/1	ほぼ完形	
48	2003	須恵器	杯身	E 6	SK 13	No.4	12.1	3.8		外：ロクロナデ→底部ロクロケズリ 内：ロクロナデ、	粗（～2.5mmの小石を含む）	灰黄色 2.5Y6/2	ほぼ完形	
49	2006	須恵器	杯蓋	E 6	SK 13	No.1	12.7	4.4		外：ロクロナデ→天井部ロクロケズリ 内：ロクロナデ	やや粗（～2.0mmの小石を含む）	灰色5Y8/2	ほぼ完形	
50	2001	須恵器	壺	E 6	SK 13	No.2	9.0	8.9		外：ロクロナデ→底部ロクロケズリ 内：ロクロナデ	粗（～1.2mmの小石を含む）	灰色5Y7/1	ほぼ完形	
51	2503	土師器	椀	G 20	SH 14		10.0			外：体部ナデ・指オサエ→口縁ヨコナデ 内：体部ナデ→口縁ヨコナデ	密（～0.5mmの砂粒少し含む）	橙7.5YR6/6	1／4	
52	2502	土師器	甕	G 20	SH 14		14.4			外：体部タテハケ（５本／0.5cm)→口縁ヨコナデ 内：体部斜ハケ（5本／0.6cm）→口縁ヨコナデ	密（～0.5mmの砂粒を含む）	橙5YR7/6	1／12	
53	2504	土師器	甕	G 20	SH 14		13.6			外：体部斜ハケ（７本／cm)→底部-定方向のハケ→口縁ヨコナデ 内：体部斜ハケ（７本／0.8cm）→下半タテ方向のヘラケズリ→口縁ヨコナデ	やや密（～1.0mmの砂粒む）	橙5YR7/6	1／5	体部外面ヘラ記号
54	2801	土師器	甕	G 19	SH 14	PIT1	13.8	17.6		外：体部タテハケ（７本／cm)→底部-定方向のハケ→口縁ヨコナデ 内：体部ヨコハケ（７本／cm）→下半タテ方向のヘラケズリ→口縁ヨコナデ	やや密（1～2mmの砂粒む）	赤橙10YR6/6	1／2	体部外面ヘラ記号『×』
55	2501	土師器	甕	G 20	SH 14	PIT2	19.4			外：体部斜ハケ（５本／0.6cm)→口縁ヨコナデ 内：体部斜ハケ（６本／cm）→口縁ヨコナデ	密（～0.5mmの砂粒を含む）	明黄褐 10YR6/6	1／12	
56	2603	須恵器	杯	G 19	SH 14	カマド				外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	密（～0.5mmの砂粒む）	灰N5/	小片	
57	2601	土師器	甕	G 19	SH 14	カマド No.4	21.0			外：体部斜ハケ（５本／0.5cm)→口縁ヨコナデ 内：体部ヨコハケ（５本／0.5cm）→口縁ヨコナデ	密（～0.5mmの砂粒む）	橙7.5YR6/8	1／5	体部外面ヘラ記号
58	2602	土師器	甑	G 19	SH 14	カマド No.1	26.6			外：体部タテハケ（８本／cm)→口縁ヨコナデ 内：体部ヨコハケ（８本／cm）→口縁ヨコナデ	密（～0.5mmの砂粒む）	橙10YR8/4	1／6	
59	2701	土師器	甑	G 19	SH 14	カマド	27.2	31.5	14.0	外：体部タテハケ（9本／cm)→下端ヨコ方向のヘラケズリ→口縁ヨコナデ→把手挿入 内：体部ヨコハケ（9本／cm）→下半タテ方向のヘラケズリ→口縁ヨコナデ	やや密（1～2mmの砂粒む）	にぶい橙 7.5YR7/4	1／3	挿入式把手
60	3304	須恵器	杯	F 22	SD 17		10.0			外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	密	灰褐 7.5YR5/2	1／12	
61	3103	須恵器	杯	G 22	SD 15		9.5	3.4		外：口縁ロクロナデ→底部・ヘラ切り→ナデ 内：ロクロナデ	やや密（～2mmの砂粒含む）	にぶい橙 7.5YR6/4	3／4	
62	3101	陶器	甕	G 22	SD 15		32.2			外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	密	灰赤 2.5YR4/2	1／12	常滑
63	3303	土師器	鉢	E 13	SX 6	周溝	12.0			外：体部ナデ→口縁ヨコナデ 内：体部ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗（～4mmの小石含む）	にぶい橙 7.5YR6/4	1／6	
64	3305	土師器	椀	E 13	SX 6	周溝	9.9			外：体部ナデ→口縁ヨコナデ 内：体部ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗（1～3mmの砂粒含む）	にぶい橙 7.5YR7/4	1／12	
65	3402	土師器	甕	E 13	SX 6		16.9			外：ナデ 内：ナデ	やや密（砂粒わずかに含む）	にぶい黄橙 10YR6/4	1／4	
66	3307	土製品	土錘	E 13	SX 6		7.4	2.6	重量 31.2	内外：ナデ	やや密	にぶい黄橙 10YR6/4	完存	
67	3306	土師器	甕	E 13	SX 6	周溝上層			9.2	外：脚部・ナデ 内：脚部・ナデ・指オサエ	やや密（砂粒含む）	にぶい黄橙 10YR6/4	1／3	
68	3301	須恵器	杯	F 10					8.4	外：底部・ロクロケズリ→ナデ→貼り付け高台 内：底部・ロクロナデ	密（～1mmの砂粒含む）	灰黄 2.5YR6/2	1／3	
69	3403	須恵器	器台	E 10	SX 6	周溝上層				外：脚部・ロクロナデ→波状文・ヘラ描沈線・円形透かし・長方形透かし 内：脚部－ロクロナデ	やや粗（～1mmの砂粒含む）	灰7.5Y5／1	小片	
70	3203	土師器	椀	F 19						外：口縁ヨコナデ 内：口縁ヨコナデ	やや密（～1mmの砂粒含む）	にぶい橙 2.5YR6/4	1／12	
71	3205	土師器	杯	F 18						内：口縁ヨコナデ 外：口縁ヨコナデ			小片	
72	3302	須恵器	蓋	E 19						内：ロクロナデ 外：天井部ロクロケズリ	密	灰5Y5/1	小片	
73	3104	陶器	山茶椀	F 9		周溝上黄灰色土	17.4			外：ロクロナデ→底部糸切り→高台貼付（剥離） 内：ロクロナデ	やや粗（～1mmの砂粒含む）	灰黄褐 10YR6/2	小片	
74	3201	陶器	山茶椀	E 8			16.0			外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや密（～1mmの砂粒含む）	灰黄褐 10YR6/2	1／6	
75	3102	土師器	高杯	D 21			25.0			外：口縁部・ヨコナデ→タテ方向のミガキ 内：口縁部・ヨコナデ→タテ方向のミガキ	やや粗（～2mmの砂粒含む）	にぶい褐 7.5YR5/3	1／12	
76	3204	土師器	杯	G 20						外：口縁ヨコナデ 内：口縁ヨコナデ	密	にぶい橙 7.5YR7/4	小片	
77	3202	土師器	甕	G 19			21.4			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：口縁ヨコナデ	やや密（～1mmの砂粒含む）	にぶい橙 7.5YR6/4	1／6	
78	3401	須恵器	横瓶	E 14						外：体部タタキ→ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや密（～2mmの砂含む）	灰５／	小片	

第15表　織糸遺跡遺物観察表（３）

報告番号	登録番号	質	器種	地区	出土遺構	層位及び取上げNo.	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法	胎土	色調	残存	特記事項
1	9104	弥生土器	鉢	S 6	SX 7	SD1	9.7	6.0		外：底部ナデ→タテハケ→口縁ヨコナデ 内：横方向の工具ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙7.5YR7/6	口縁部4/12弱	
2	16801	弥生土器	長頸壺	R 7	SX 9	SD1	11.3			外：体部・縦方向のミガキ　口縁部・タテハケ→ヨコナデ→縦方向のミガキ 内：体部上半オサエ　口縁部・タテハケ→縦方向のミガキ	やや粗	橙7.5YR7/6	口縁部4/12	
3	16302	弥生土器	広口壺	R 7	SX 9	SD1	10.6	15.9～16.2	6.0	外：底部ナデ→体部縦方向のナデ→口縁ヨコナデ→体部上半縦方向の粗いミガキ 内：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ	粗	浅黄橙10YR8/4	ほぼ完存	穿孔？
4	8404	弥生土器	広口壺	S 7	SX 9	SD1			4.4	外：タテハケ→体部下半ナデ 内：下半板ナデ→上半オサエ	密	にぶい橙7.5YR7/4	5/12	
5	16901	弥生土器	広口壺	R 7	SX 9	SD1	12.2			外：タテハケ→口縁ヨコナデ→体部タ縦方向のミガキ 内：タテハケ→縦方向のナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部小片	外面に薄く煤付着
6	16401	弥生土器	広口壺	P 8	SX 9	SD1	16.4	31.2	6.8	外：底部・ケズリ→ミガキ→体部タテハケ→口縁ヨコナデ→体部下半横方向のミガキ・上半縦方向のミガキ→口縁端部刺突文 内：斜ハケメ→体部上半オサエ・ナデ→口縁部・ヨコナデ→横方向のミガキ	やや密	浅黄橙7.5YR8/6	4/5	
7	16301	弥生土器	広口壺	Q 9	SX 9	SD1	15.2	27.2	5.1	外：底部ナデ→タテハケ→ナデ→口縁ヨコナデ 内：体部下半斜ハケ・ナデ→ハケメ→体部上半ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	橙5YR6/6	2/3	
8	17801	弥生土器	太頸壺	R 7	SX 9	SD1	22.0			外：体部タテハケ→口縁ヨコナデ→体部縦方向のミガキ→体部上端刺突文・口縁端部U字文 内：体部下半ナデ→上半斜ハケ→上端オサエ→口縁部・下半ヨコハケ→上半ヨコナデ	やや密	浅黄2.5Y7/3	1/4	
9	16201	弥生土器	広口壺	S 7	SX 9	SD1	27.6			外：口縁部・ヨコナデ→縦方向のミガキ→棒状の浮文 内：口縁部・横方向のミガキ→羽状文・刺突文・扇文	やや密	にぶい黄橙10YR6/4	4/12	
10	8403	弥生土器	高杯	R 7	SX 9	SD1				外：脚部・縦方向のミガキ→直線文 内：杯部・ミガキ　脚部・ナデ	密	橙5YR6/6	脚柱部2/5	３方透かし孔
11	8401	弥生土器	台付甕	R 7	SX 9	SD1			6.1	外：台部・ナデ→端部ヨコナデ 内：底部・ナデ　台部・ナデ→端部ヨコナデ	密	にぶい黄橙10YR7/3	台部完存	
12	8402	弥生土器	台付甕	R 7	SX 9	SD1			9.2	外：台部・ナデ→端部ヨコナデ 内：底部・ナデ　台部・工具ナデ→端部ヨコナデ	密	橙7.5YR7/6	台部9/10	
13	16701	土師器	台付甕	Q 6	SX 25	SD1	13.0	26.1	8.6	外：体部・タテハケ→口縁ヨコナデ　台部：斜ハケ→端部ヨコナデ 内：体部・底ナデ→工具ナデ→口縁ヨコナデ　台部：オサエ・ナデ	密	にぶい黄橙10YR7/4	3/4	外面に黒斑
14	16703	土師器	鉢	N 7	SX 25		9.6			外：タテハケ→口縁ヨコナデ→直線文 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	橙7.5YR7/6	口縁部3/12	
15	16702	土師器	広口壺	Q 6	SX 25	SD1				外：板ナデ→口縁ヨコナデ 内：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙10YR7/2	口縁部3/4	
16	16601	土師器	壺	Q 6	SX 25	SD1	25.2		8.0	外：底部板ナデ→オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ→頸部突帯貼付・刺突文→口縁縦方向のミガキ・体部横方向のミガキ 内：体部下半板ナデ・オサエ→上半ナデ→口縁ヨコナデ→口縁縦方向のミガキ	密	橙5YR6/6	口縁部2/12	外面に黒斑
17	17701	土師器	広口壺	N 7	SX 32	SX1	19.1	32.9～33.1	6.5	外：底部ナデ→体部斜ハケ→口縁ヨコナデ 内：体部下半ナデ→体部上半工具ナデ→口縁部・ヨコハケ→ヨコナデ	やや密	浅黄橙10YR8/4	完存	
18	8502	弥生土器	台付壺	K 8	SX101	SD1			8.4	外：台部・端部ヨコナデ→縦方向ミガキ 内：体部・ミガキ　台部・ナデ→端部ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/4	脚部1/2	
19	8503	弥生土器	広口壺	J 6	SX101	SD1	18.4			外：体部上半ナデ→口縁ヨコナデ 内：体部上半ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ	粗	浅黄橙10YR8/3	口縁部1/3	
20	102	弥生土器	細頸壺	ア 9	SX101	SD1・No.1	11.4	29.2	7.05	外：斜ハケ→ナデ→下半部粗いミガキ→口縁ヨコナデ→直線文・縦方向の羽状文 内：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ	密	灰褐		
21	203	弥生土器	甕	ウ 6	SX101	SD2	15.8			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ハケメ→口縁ヨコナデ	密	明赤褐		
22	4402	弥生土器	細頸壺	イ 9	SX101	SD1・No.1			5.0	外：ミガキ？ 内：オサエ	やや粗	灰黄2.5Y6/2		残り悪い
23	4201	弥生土器	細頸壺	ア 10	SX101	SD1・No.3	9.7	30.7		外：タテハケ→板状工具ナデ→口縁ヨコナデ→体部下半横方向のミガキ 内：ナデ→斜ハケメ→上半ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい橙5YR6/4	口縁部3/4	
24	3601	弥生土器	細頸壺	ア 10	SX101	SD1・No.4	10.8		8.5	外：タテハケ→口縁ヨコナデ→縦方向のミガキ 内：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ	粗	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部5/6	
25	305	弥生土器	広口壺	キ 8	SX102	SD1	18.1			外：タテハケ→口縁ヨコナデ→羽状文 内：縦方向のナデ→口縁ヨコナデ	密	赤褐・茶褐		
26	306	弥生土器	広口壺	エ 6	SX102	SD1	17.0			外：板状工具によるナデ→口縁ヨコナデ→頸部貼付突帯・刺突→端部直線文→ミガキ 内：縦方向ナデ→口縁ヨコナデ	密	黄褐		
27	204	弥生土器	広口壺	カ 7	SX102	SD2	16.55			外：ハケ→ナデ→口縁ヨコナデ→体部縦方向のミガキ 内：体部下半斜ハケ→上半ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	黄褐		外面にベンガラ
28	1122	弥生土器	広口壺	エ 8	SX102	SD2・No.1	18.3			外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ→縦方向のミガキ→直線文・波状文 内：斜方向のナデ→口縁ヨコナデ	密	赤褐		
29	101	弥生土器	器台	エ 4	SX103	SD1・No.4				外：杯部・ミガキ　脚部・ミガキ→直線文 内：杯部・ミガキ　脚部・ナデ→斜ハケ	密	黄褐		４方透かし孔が２段
30	17002	弥生土器	台付甕	コ 7	SX201	SD1				外：体部ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ　台部・ナデ 内：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ	やや粗	にぶい黄橙10YR6/4	体部ほぼ完存	内外面煤付着
31	814	弥生土器	台付甕	キ 8	SX201	SK1			5.8	外：タテハケ・台部・ハケメ→ナデ 内：ナデ　台部・ナデ	密	黄褐	1/3	
32	408	弥生土器	細頸壺	サ 10	SX201	SD2			5.5	外：体部ナデ→口縁ヨコナデ→波状文・簾状文 内：体部・下半工具ナデ→上半ナデ→口縁ヨコナデ	密	黄褐		

第16表　寺垣内遺物観察表（1）

報告番号	登録番号	質	器種	地区	出土遺構	層位及び取上げNo.	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法	胎土	色調	残存	特記事項
33	3402	弥生土器	細頸壺	サ10	ＳＸ201	ＳＤ１・No.1	9.4～9.8	24.0	7.0	外：タテハケ→口縁ヨコナデ→波状文→体部下半横方向のミガキ 内：ナデ→口縁ヨコナデ→刺突文	やや粗	にぶい黄橙10YR7/4	ほぼ完形	
34	17001	弥生土器	台付甕	セ２	ＳＸ202	ＳＤ１			4.0	外：体部ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ　台部・ナデ 内：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙10YR7/3	体部ほぼ完存	
35	17601	弥生土器	広口壺	セ３	ＳＸ202	ＳＤ１・A	14.3	28.7	5.0	外：底部ナデ→体部タテハケ→口縁ヨコナデ→頸部突帯貼付→体部上半直線文・扇文→横方向の粗いミガキ 内：体部下半工具ナデ→体部上半オサエ・ナデ→口縁部・ヨコハケ→ヨコナデ	密	にぶい橙7.5YR6/4	3/4	外面に煤付着
36	4001	弥生土器	細頸壺	セ３	ＳＸ203	ＳＤ２・A			5.0	外：底部ナデ→タテハケ→下半横方向のミガキ 内：斜ハケ→ナデ→斜ハケ→ナデ	やや粗	にぶい橙7.5YR7/4		外面一部黒変
37	5501	弥生土器	細頸壺	タ２	ＳＸ203	ＳＤ１・A			6.0	外：底部ナデ・体部タテハケ→体部下半縦方向のミガキ 内：斜ハケ→上端ナデ	やや密	橙7.5YR7/6		
38	7801	弥生土器	細頸壺	ソ４	ＳＸ203	ＳＤ１	16.1	34.5	7.5	外：底部ナデ→口縁ヨコナデ→下半横方向のミガキ→直線文・波状文・簾状文 内：体部下半斜ハケ→上半ナデ→口縁ヨコナデ→刺突文	密	浅黄橙10YR8/3	口縁部2/12ほか完存	外面に煤付着
39	3701	弥生土器	細頸壺	タ２	ＳＸ203	ＳＤ２・B				外：タテハケ→直線文・波状文・簾状文→体部下半横方向のミガキ 内：体部下半斜ハケ→オサエ→口縁ヨコナデ	やや粗	ぶい橙5YR7/4		外面に黒斑
40	7701	弥生土器	細頸壺	ソ４	ＳＸ203	ＳＤ１	12.2	37.3	6.2	外：底部ナデ→体部タテハケ→口縁ヨコナデ→体部下半横方向のミガキ→櫛描文・凹線・縦方向の波状文 内：斜ハケ→上半ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙10YR6/4	口縁部完形	
41	1430	弥生土器	鉢	セ１	ＳＸ203	ＳＤ１	20.0			外：口縁ヨコナデ→体部下縦方向のミガキ→横方向のミガキ→簾状文・刺突文 内：体部下半ヨコハケ→上半ナデ→口縁ヨコナデ・刺突文	粗	黄褐	体部1/3	
42	917	弥生土器	高杯	ソ１	ＳＸ203	ＳＤ１				外：脚部・ミガキ→直線文 内：杯底部・ミガキ　脚部：シボリ痕	密	灰茶褐		
43	1431	弥生土器	高杯	ソ１	ＳＸ203	ＳＤ１				外：脚部・縦方向のミガキ→直線文 内：脚部・ハケメ	やや密			3方透かし孔
44	916	弥生土器	高杯	ソ１	ＳＸ203	ＳＤ１				外：脚部・ミガキ→直線文・貝殻による刺突文 内：ナデ	密			3方透かし孔
45	918	弥生土器	台付壺	ソ１	ＳＸ203	ＳＤ１			18.9	外：脚部・タテハケ→端部ヨコナデ→直線文・刺突文 内：脚部・ナデ→ハケメ→端部ヨコナデ	やや密	明黄褐		6方透かし孔
46	1223	土師器	広口壺	テ５	ＳＸ204	ＳＤ１・下層	8.5			外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：体部下半ヨコナデ→上半縦方向のナデ→口縁ヨコナデ	やや密	灰黄褐		
47	1021	土師器	広口壺	ナ６	ＳＸ204	ＳＤ１			4.2	外：口縁ヨコナデ→縦方向のミガキ 内：横方向のナデ・底部ヘラあたり	密	淡赤褐	底部・体部1/2	
48	17008	土師器	広口壺	テ３	ＳＸ204	ＳＤ１・下層			15.6	外：口縁部・タテハケ→ヨコナデ 内：体部上半ナデ→口縁部・ヨコハケ→ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/3	1/2	
49	2047	土師器	広口壺	ニ６	ＳＸ204	ＳＤ１	14.7			外：タテハケ→口縁ヨコナデ→ミガキ→直線文・刺突文 内：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ→口縁端部刺突文	密	黄褐	口縁・頸部完存	
50	17501	土師器	広口壺	ニ６	ＳＸ204	ＳＤ１・No.9	16.0		6.0	外：底部オサエ・ナデ→体部下端斜ハケ→体部中位ヨコハケ→体部上半斜ハケ→口縁ヨコナデ→頸部突帯貼付 内：体部下半斜ハケ→中位ナデ→上半オサエ→口縁ヨコナデ	やや密	橙7.5YR6/6	1/2	外面に煤付着
51	2661	土師器	広口壺	ニ６	ＳＸ204	ＳＤ１・No.5･6	16.2	31.45	7.2	外：タテハケ→口縁ヨコナデ→頸部突帯貼付→縦方向のミガキ→刺突文 内：体部下半斜ハケ→上半ナデ→口縁ヨコナデ→端部刺突文	やや密	淡黄褐		
52	2964	弥生土器	細頸壺	テ４	ＳＸ204	ＳＤ１・B			7.2	外：タテハケ→体部下半横方向のミガキ→頸部ヘラ描直線文 内：底部ナデ→体部下半斜ハケ→上半横方向のナデ→頸部ヨコハケ→口縁ヨコナデ	やや粗	外：淡茶褐 内：黒	口縁のみ欠損	穿孔
53	611	土師器	広口壺	テ４	ＳＸ204	ＳＤ１	18.0	37.0	7.6	外：底部ヘラケズリ・斜ハケ→口縁ヨコナデ・頸部貼付突帯→直線文・波状文・刺突→ミガキ 内：底部ハケメ→ナデ→オサエ→口縁部・ヨコナデ→ミガキ	密	黄褐		外面にベンガラ
54	1820	土師器	瓢壺	ナ６	ＳＸ204	ＳＤ１	12.4	26.2	4.0	外：縦方向のミガキ→直線文・貝殻による刺突文 内：ナデ→口縁縦方向のミガキ	やや密	外：赤褐 内：黄褐	ほぼ完存	
55	2762	土師器	直口壺	ニ６	ＳＸ204	ＳＤ１・No.11･12	12.5	30.0	6.7	外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：体部下半斜ハケ→ナデ→上半オサエ→口縁ヨコナデ	やや粗	暗黄褐・茶褐		外面に黒斑
56	1227	土師器	台付壺	ナ５	ＳＸ204					外：口縁ヨコナデ→体部ミガキ　台部・ミガキ 内：体部ナデ→口縁ヨコナデ　台部・ナデ	やや密	淡黄白		3方透かし孔
57	1741	土師器	台付壺	ニ４	ＳＸ204	ＳＤ１				外：体部縦方向のミガキ　台部・縦方向のミガキ→直線文 内：口縁縦方向のミガキ・体部横方向のミガキ　台部・ナデ	密	淡赤褐		3方透かし孔
58	1226	土師器	壺	ナ６	ＳＸ204	ＳＤ１				外：下半・ナデ→ミガキ 内：下半・斜ハケ→ミガキ	密	淡赤褐		
59	1224	土師器	高杯	ナ5・6	ＳＸ204	ＳＤ１	26.6		16.6	外：杯部・口縁ヨコナデ→縦方向のミガキ 脚部・端部ヨコナデ→縦方向のミガキ→直線文 内：杯部・口縁ヨコナデ→縦方向のミガキ 脚部・ナデ→端部ヨコナデ	やや密	黄褐・淡黄褐		2段の3方透かし孔・外面に黒斑と赤斑
60	2558	土師器	高杯	ニ４	ＳＸ204	ＳＤ１			15.2	外：脚部・端部ヨコナデ→縦方向のミガキ 内：脚部・板ナデ→端部ヨコナデ	密	淡黄褐		3方透かし孔
61	1328	土師器	高杯	ナ６	ＳＸ204	ＳＤ１	19.8			外：ヨコハケ→口縁ヨコナデ→縦方向のミガキ 内：口縁ヨコナデ→縦方向のミガキ	密	淡赤褐	2/3	外面に黒斑

第17表　寺垣内遺物観察表（２）

報告番号	登録番号	質	器種	地区	出土遺構	層位及び取上げNo.	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法	胎土	色調	残存	特記事項
62	1740	土師器	高杯	ニ 6	ＳＸ204	ＳＤ１	18.4			外：杯部・口縁ヨコナデ→縦方向のミガキ 脚部・ナデ→縦方向のミガキ 内：杯部・口縁ヨコナデ→縦方向のミガキ 脚部・ハケメ→ナデ	やや粗	淡茶褐		3方透かし 孔・外面に黒斑
63	1742	土師器	高杯	ニ 5	ＳＸ204	ＳＤ１			11.3	外：杯部・ナデ→縦方向のミガキ　脚部・端部ヨコナデ→縦方向のミガキ 内：杯部・縦方向のミガキ　脚部・シボリ痕？	密	淡赤白		
64	17007	土師器	器台	テ 3	ＳＸ204	ＳＤ１・下層			14.2	外：脚部・端部ヨコナデ→縦方向のミガキ 内：脚部・柱部ナデ→端部ヨコナデ	やや粗	橙5YR6/6	底部4/12	
65	1638	土師器	甕	ニ 6	ＳＸ204	ＳＤ１	15.95			外：口縁ヨコナデ→体部上直線文・口縁刺突文 内：斜ハケ→口縁ヨコナデ	密	赤褐	口縁部1/7強？	
66	1639	土製品	甕	ニ 6	ＳＸ204	ＳＤ１	16.7			外：斜ハケメ→口縁ヨコナデ→体部直線文・口縁刺突文 内：ハケメ→口縁ヨコナデ	密	乳黄	口縁部1/8強？	
67	3065	土師器	甕	ニ 6	ＳＸ204	ＳＤ１	15.2			外：タテハケ→ナデ→口縁ヨコナデ 内：ヨコナデ→口縁ヨコナデ		外：黒茶 内：暗褐	口縁部1/5	
68	17003	土師器	甕	ナ 2	ＳＸ204	ＳＤ１	13.4			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄2.5Ｙ6/3	口縁部4/12	外面に一部煤付着
69	17203	土師器	甕	ナ 2	ＳＸ204	ＳＤ１	16.4			外：体部タ縦向の板ナデ→口縁ヨコナデ 内：体部上半ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ	やや密	灰黄褐10YR6/2	口縁部3/12	
70	2559	土師器	台付甕	ニ 3	ＳＸ204	ＳＤ１			8.6	外：底部・板ナデ　台部・ナデ→端部ヨコナデ 内：底部・ナデ　台部・板ナデ→ヨコナデ	やや粗	淡黄白		外面に煤付着
71	2560	土師器	台付甕	ニ 3	ＳＸ204	ＳＤ１			7.3	外：台部・タテハケ→端部ヨコナデ 内：台部・オサエ→端部ヨコナデ	密	淡黄灰		
72	1332	土師器	鉢	ナ 6	ＳＸ204	暗茶褐土	20.2			外：体部タテハケ→口縁ヨコナデ→ミガキ・刺突文 内：横方向のミガキ	密	暗褐	口縁・体部1/6	
73	1743	土師器	コシキ	ニ 5	ＳＸ204	ＳＤ１				外：タテハケ・底ナデ 内：斜ハケ	密	淡赤褐		
74	2150	弥生土器	細頸壺	ソ 9	ＳＸ205	ＳＤ１			7.4	外：タテハケ・底部オサエ→ミガキ 内：タテハケ→口縁ヨコナデ	やや密？	外：赤褐 内：暗黒灰		穿孔２対
75	1844	弥生土器	台付甕	ス 11	ＳＸ205	ＳＤ２	14.25	16.3		外：斜ハケ→口縁ヨコナデ 内：工具ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	暗茶褐		内面に煤付着
76	2252	弥生土器	細頸壺	テ 11	ＳＸ206	ＳＤ１	8.7	20.1	7.4	外：口縁ヨコナデ→体部縦方向のミガキ 内：板ナデ→上半ナデ→口縁ヨコナデ	密	外：暗黄灰 内：黒		
77	2251	弥生土器	甕	チ 10	ＳＸ206	ＳＤ１	16.9			外：タテハケ→板ナデ→口縁ヨコナデ→刺突文 内：下半ナデ→上半タテハケ→口縁ヨコナデ	密	外：茶褐 内：黄褐		
78	813	弥生土器	台付甕	チ 10	ＳＸ206	ＳＤ１	13.4			外：工具ナデ・タテハケ→口縁ヨコナデ　台部：ナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	黒・黄灰		
79	4101	弥生土器	広口壺	テ 8	ＳＸ206	ＳＤ２・No.２	15.9	33.7	6.5	外：底部ナデ→斜ハケ→口縁ヨコナデ→刺突文・体部上半横方向のハケ 内：ナデ→ヨコハケ→ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙10YR7/3	口縁ほぼ完形	外面に黒斑
80	2863	弥生土器	広口壺	ト 1	ＳＸ207	ＳＤ１	14.2	28.85	6.0	外：タテハケ→口縁ヨコナデ→頸部突帯貼付→縦方向のミガキ→直線文・刺突文 内：下半斜ハケ→ナデ→オサエ→口縁ヨコナデ	やや粗？	暗褐		外面に黒斑
81	1945	弥生土器	広口壺	ナ 1	ＳＸ208	ＳＤ１	14.4			外：口縁ヨコナデ→刺突文 内：体部上ナデ　口縁・ヨコハケ→ヨコナデ	やや密			
82	3201	弥生土器	広口壺	ヌ 1	ＳＸ208	ＳＤ１	11.2			外：タテハケ→下半ケズリ→口縁ヨコナデ 内：下半ケズリ→オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	明赤褐5YR5/6		
83	3301	弥生土器	広口壺	ヌ 1	ＳＸ208	ＳＤ１	13.8	29.1	5.4	外：工具ナデ・タテハケ→口縁ヨコナデ 内：下半斜ハケ→ナデ・オサエ→口縁ヨコハケ→ヨコナデ	やや粗	橙5YR7/6	口縁・底部完存	肩部にヘラ記号あり
84	1946	弥生土器	高杯	ナ 1	ＳＸ208	ＳＤ１	27.8			外：口縁ヨコナデ→波状文・凹線文 内：ヨコナデ→ミガキ？	やや粗？	赤褐・黄褐	1/6弱	
85	10802	土製品	土錘	ナ 1	ＳＸ208	ＳＤ１				ナデ・オサエ	やや粗	にぶい黄橙10YR7/4		
86	5001	土師器	広口壺	ネ 7	ＳＸ223	ＳＤ１・No.１	12.6	24.2	5.0	外：タテハケ→下半工具ナデ→口縁ヨコナデ 内：斜ハケ→口縁ヨコナデ	やや粗	浅黄橙10YR8/3	口縁ほぼ完存	外面一部黒変
87	17202	土師器	直口壺	ネ 7	ＳＸ223	ＳＤ１	11.2			外：ナデ→口縁ヨコナデ→縦方向のミガキ 内：体部上半オサエ・ナデ→口縁部・ヨコナデ→縦方向のミガキ	やや粗	橙7.5YR6/6	口縁部7/12	
88	407	土師器	広口壺	ネ 9	ＳＸ223	ＳＤ１	9.04	12.95	4.9	外：底部ケズリ→体部ナデ→口縁ヨコナデ→体部縦方向のミガキ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	黄褐		外面一部黒斑
89	17204	土師器	広口壺	ヌ 8	ＳＸ223	ＳＤ１	18.4			外：口縁部・ヨコナデ→縦方向のミガキ・上端横方向のミガキ→刺突文 内：口縁部・ヨコハケ→ヨコナデ→縦方向のミガキ→刺突文	やや粗	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部4/12	
90	509	土師器	広口壺	ネ 10	ＳＸ223	ＳＤ１	11.8			外：ナデ→口縁ヨコナデ→頸部貼付突帯→直線文・波状文・刺突文→円形浮文・ミガキ 内：体部下半ナデ→上半オサエ→口縁ヨコナデ	密	黄赤褐		口縁・体部に浮文
91	17205	土師器	不明	ヌ 8	ＳＸ223	ＳＤ１				外：ヨコナデ→刺突文・波状文 内：ナデ	密	にぶい黄橙10YR6/3		
92	17005	土師器	台付壺	ネ 7	ＳＸ223	ＳＤ１			13.2	外：脚部・端部ヨコナデ→縦方向のミガキ→直線文→刺突文 内：脚部・ナデ・しぼり痕→端部ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/3	脚部2/3	
93	17201	土師器	鉢	ヌ 8	ＳＸ223	ＳＤ１	13.8			外：体部タテハケ→ナデ→口縁ヨコナデ 内：体部工具ナデ→体部下半縦方向のケズリ→口縁ヨコナデ	やや粗	にぶい橙6/4	口縁部3/12	
94	3066	土師器	鉢	ヌ 9	ＳＸ223	ＳＤ２	25.4	14.8	5.5	外：タテハケ→下半ナデ→口縁ヨコナデ 内：底部ナデ・オサエ→斜ハケ→口縁・ヨコハケ→ヨコナデ	密	外：黄茶 内：黄褐	1/5	内外面に黒斑

第18表　寺垣内遺物観察表（３）

報告番号	登録番号	質	器種	地区	出土遺構	層位及び取上げNo.	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法	胎土	色調	残存	特記事項
95	3067	土師器	甕	ヌ 7	S X 223	S D 1	15.0			外：斜ハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	密	外：暗黄褐 内：黄褐	1/5	
96	17004	土師器	台付甕	ネ 10	S X 223	S D 1			8.6	外：体部～台部・タテハケ→端部ヨコナデ 内：体部下半斜ハケ　台部・斜ハケ→端部ヨコナデ	やや粗	にぶい黄橙 10YR7/3	脚部完存	
97	712	弥生土器	広口壺	ネ 11	S X 230	S B 1	11.85	21.6	5.65	外：タテハケ→口縁ヨコナデ→突帯貼付→直線文・波状文・刺突文→体部下半横方向のミガキ 内：下端斜ハケ→ナデ→上半ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	黄灰		
98	17301	弥生土器	広口壺	ヌ 11	S X 230	S K 1	14.4	25.0	6.4	外：底部板ナデ→体部タテハケ→体部中央工具ナデ→体部上半斜ハケ→口縁ヨコナデ→体部上端下側刺突文・上に不規則な刺突文 内：体部下半斜ハケ→体部中央ナデ→体部上半オサエ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙 7.5YR7/4	1/3	外面に煤付着
99	510	弥生土器	細頸壺	ス 8	S X 252	S D 1	9.1	22.7	5.5	外：タテハケ・ナデ→口縁ヨコナデ→波状文・直線文・簾状文→体部下半横方向のミガキ 内：体部下半斜ハケ→上半ナデ→口縁ヨコナデ→刺突文	密	茶褐		外面黒斑・穿孔
100	5601	弥生土器	甕	ツ 4	S X 264	S D 1	18.0	26.5	4.9	外：体部タタキ？→タテハケ→下半縦方向のミガキ→口縁ヨコナデ 内：タテハケ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部5/6・底部完存	外面に煤付着
101	7001	弥生土器	広口壺	ヌ 3	S X 280	S D 2	12.1			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ	粗	にぶい橙7.5ＹＲ6/4	口縁完形	
102	4901	弥生土器	広口壺	ヌ 3	S X 280	S D 2・No.2	16.3	31.5	5.7	外：底木葉痕→体部斜ハケ→下半板ナデ→口縁ヨコナデ 内：底部ナデ→下半斜ハケ→上半ナデ→口縁部・ヨコナデ→ヨコナデ	やや密	橙5YR7/6・浅黄橙 10YR8/3	口縁部2/3	底部に木葉痕
103	5306	弥生土器	広口壺	ヌ 3	S X 280	S K 1・C	8.5	11.7	4.5	外：底部ナデ→体部タテハケ→ヨコハケ→口縁・タテハケ→縦方向のミガキ 内：ナデ→口縁部・ヨコハケ→縦方向のミガキ	密	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁・底部ほぼ完存	
104	7002	弥生土器	広口壺	ヌ 3	S X 280	S D 2	12.5			外：体部下半ヨコハケ→上半タテハケ→口縁ヨコナデ 内：下半ケズリ→ナデ→上端オサエ→口縁ヨコナデ	粗	浅黄 2.5Y7/3	上半部完存	
105	11201	土師器	直口壺	J 8	S K 43	ヤヨイ	16.0	7.2		外：底部ナデ→体部オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ・工具あたり→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部4/12	
106	4801	弥生土器	広口壺	ク 5	S K 115	ﾔﾖｲＰｉｔ・No.11				外：タテハケ→口縁ヨコナデ→頸部貼付突帯→ミガキ→直線文・波状文 内：下半工具ナデ→上半オサエ・ナデ→口縁部・タテハケ→ヨコナデ→刺突文	やや粗	にぶい橙 5YR6/4	頸部完存	
107	1533	土師器	直口壺	ナ 5	S K 276	土器Ｂ	14.0			外：ナデ・タテハケ→口縁ヨコナデ→タテ方向のミガキ 内：口縁・ヨコナデ→タテ方向のミガキ	密	淡赤褐	頸部1/2	
108	1534	土師器	広口壺	ナ 5	S K 276	土器No.10	12.0			外：口縁部・タテハケ→ヨコナデ 内：口縁部・ヨコハケ→ヨコナデ	やや密	淡黄褐		
109	2048	土師器	台付壺	ナ 5	S K 276	暗茶褐土			15.4	外：脚部・端部ヨコナデ→縦方向のミガキ 内：脚部・ヨコハケ→端部ヨコナデ	密	暗茶褐・明黄褐	台部2/3	
110	2456	土師器	甕	ナ 5	S K 276	土器群No.1				外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：斜方向の板ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	暗黄褐		外面に煤付着
111	2049	土師器	甕	ナ 5	S K 276	黒色土	15.0	14.9～15.1	6.0	外：縦方向の板ナデ→口縁ヨコナデ 内：オサエ・斜ハケ→口縁ヨコナデ　台部：ナデ	やや密？		ほぼ完存	外面に煤付着
112	1637	土師器	高杯	ナ 5	S K 276	土器No.4	25.0			外：杯部・口縁ヨコナデ→縦方向のミガキ 内：杯部・口縁ヨコナデ→縦方向のミガキ	密	黄褐		
113	1568	土師器	高杯	ナ 5	S K 276	黒色土	20.0			外：杯部・ヨコナデ→縦方向のミガキ 内：杯部・ヨコナデ→縦方向のミガキ	密	淡赤褐	杯部1/2	外面に黒斑
114	2353	土師器	高杯	ナ 5	S K 276	土器Ｂ			13.8	外：脚部・タテハケ→端部ヨコナデ→縦方向のミガキ 内：杯部・ミガキ　脚部・斜ハケ→端部ヨコナデ	やや粗	淡赤		3方透かし孔
115	1636	土師器	高杯	ナ 5	S K 276	土器Ｄ			15.8	外：脚部・端部ヨコナデ→縦方向のミガキ→直線文 内：杯部・底部ミガキ　脚部・上半ナデ・下半斜ハケ→端部ヨコナデ	密	茶褐		3方透かし孔・外面に黒斑？
116	919	土師器	高杯	ウ 6	S D 136	S D 1・No.1	10.8	8.5	10.4	外：杯部・口縁ヨコナデ→ミガキ　脚部・ミガキ→ヘラ描直線文 内：杯部・口縁ヨコナデ→ミガキ・底部一定方向のミガキ　脚部・ナデ→端部ヨコナデ	密	黄灰・乳黄灰		3方透かし孔
117	17106	弥生土器	壺	ネ 5	S K 289	S K 1			4.3	外：底部ナデ→体部タテハケ→波状文・櫛描直線文→体部下半横方向のミガキ 内：体部下半工具ナデ→上半オサエ・ナデ	密	浅黄 2.5Y7/3	1/2	
118	17105	弥生土器	甕	ネ 5	S K 289	S D 1			6.5	外：底部ナデ→体部下半タテハケ 内：底部工具ナデ	密	にぶい橙 7.5YR7/4	脚部完存	
119	9001	土師器	杯	R 6	S B 8	S B 1	10.8	3.4		外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙 10YR7/3	9/12	
120	9002	土師器	杯	R 6	S B 8	S B 1	11.2	3.45		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 10YR8/3	11/12	
121	9201	土師器	甕	R 6	S B 8	S B 1	31.2			外：タテハケ→底部調整ハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 7.5YR8/6	口縁部3/12	
122	9005	土師器	鉢	Q 10	S B 10	S B 1	11.6	8.15		外：ナデ→体部ケズリ→口縁ヨコナデ 内：工具ナデ→上端ケズリ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙 10YR6/3	4/12	
123	9101	土師器	甕	R 9	S B 11	S B 2・上層	19.0			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部4/12	
124	9003	土師器	杯	R 10	S B 13	S B 1	10.6	3.6		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙5YR7/6	10/12	
125	9102	土師器	甕	R 10	S B 13	S K 1	12.2			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部3/12	
126	9103	土師器	甕	R 10	S B 13	S K 1	30.0			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：横方向の工具ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 10YR8/3	口縁部2/12弱	外面に煤付着

第19表　寺垣内遺物観察表（4）

報告番号	登録番号	質	器種	地区	出土遺構	層位及び取上げNo.	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法	胎土	色調	残存	特記事項
127	9304	土師器	杯	P 13	SB 18	土器ダメ	12.7	3.2		外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	灰白 10YR8/2	口縁部 1/12	
128	9402	土師器	杯	P 12	SB 18	SB1・A 土器ダメ	10.4	3.5		外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部 9/12	底部外面にヘラ記号「×」
129	9303	土師器	甕	P 13	SB 18	土器ダメ	12.6			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	やや密	外：橙 2.5YR7/6	口縁部 2/12	外面に煤付着
130	9502	土師器	甕	P 11	SB 18	SB1	20.0			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	やや密	灰白 10YR8/2	口縁部 3/12	
131	9401	土師器	甕	P 12	SB 18	SB1・A 土器ダメ	21.5			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	やや密	浅黄橙 10YR8/4	口縁部 6/12	一部煤付着？ 黒斑？
132	16501	土師器	甕	P 13	SB 18	土器ダメ	19.8	21.0		外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→体部下半縦方向のケズリ→口縁ヨコナデ	やや粗	灰白10YR 8/2	口縁部 1/2	
133	9501	土師器	甕	P 11	SB 18	SB1	23.6			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい橙 5YR7/4	口縁部 2/12	一部煤付着？
134	11101	土師器	甕	p 13	SB 18	土器ダメ	21.1			外：タテハケ→底部調整ハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→体部下半縦方向のケズリ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部 6/12	
135	9202	土師器	杯	O 7	SB 24	P1	11.8	3.5		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	外：浅黄橙 10YR8/4	口縁部 9/12	内面にヘラ記号「×」
136	9004	土師器	杯	M 7	SB 28	SB1	11.8	3.0		外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 2.5Y8/2	口縁部 2/12	
137	9007	土師器	甕	L 7	SB 28	SB1	12.0			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁部・ヨコハケ→ヨコナデ	密	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部 4/12	内面に炭化物付着
138	10201	須恵器	提瓶	M 10	SB 29	SB1・ No.1				外：ロクロナデ→下半ロクロケズリ→体部穿孔→口縁貼付→頸部沈線２本 内：ロクロナデ→粘土板貼付	密	灰白5Y7/1		
139	10302	須恵器	壺	M 10	SB 29	SB1				外：体部タタキ→カキメ→沈線→口縁部・ロクロナデ 内：ロクロナデ	密	灰白 7.5Y7/1		
140	10104	須恵器	蓋	M 10	SB 29	SB1	7.5			外：ロクロナデ→天井部ロクロケズリ 内：ロクロナデ	密	灰7.5Y6/1		
141	10203	須恵器	蓋	M 10	SB 29	SB1	9.8			外：ロクロナデ→天井部ロクロケズリ 内：ロクロナデ	密	灰N6/0	口縁部 8/12	
142	10103	土師器	甕	M 9	SB 29	SB3	22.2			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：体部上半横方向の工具ナデ・ヨコハケ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部 2/12	
143	10301	土師器	甕	M 9	SB 29	SB3	21.0			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	密	浅黄 2.5Y7/3	口縁部 4/12	
144	10202	土師器	鉢	M 9	SB 29	SB3	15.0			外：ナデ→口縁ヨコナデ→ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部 4/12	把手挿入
145	10101	土師器	甕	M 10	SB 29	SB1	39.0			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部 3/12	
146	9801	土師器	杯	M 5	SB 31	SB1	10.0	2.6		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：口縁ヨコナデ→放射状暗文	密	明赤褐 5YR5/6	口縁部 3/12	
147	9802	土師器	高杯	M 5	SB 31	SB1	17.4	10.8	11.0	外：杯部・ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ　脚部・縦方向のナデ→端部ヨコナデ 内：杯部・ヨコナデ→口縁放射状暗文＋底部螺旋状暗文　脚部・ナデ→端部ヨコナデ	密	橙5YR6/6	口縁・底部5/12	
148	9602	土師器	高杯	L 11	SB 39	SB1	17.7			外：杯部・ナデ→口縁ヨコナデ 内：杯部・口縁ヨコナデ→放射状暗文	密	にぶい橙 7.5YR6/4		
149	9601	土師器	甕	L 11	SB 39	SB1	21.4			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙 10YR6/4	口縁部 3/12	
150	9603	土師器	鉢	L 11	SB 39	SB1	30.4			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ナデ・オサエ・斜ハケ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部 2/12	
151	9605	須恵器	杯	K 10	SB 41	SB1	9.2～ 9.9	3.3	6.5	外：ロクロナデ→底部ヘラ切り 内：ロクロナデ	やや密	灰7.5Y6/1	口縁・底部7/12	
152	9703	土師器	杯	J 11	SB 41	SB1・ 土器ダメ	10.0	2.8		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：口縁ヨコナデ→放射状暗文	密	橙5YR6/6	口縁部 3/12	
153	9702	土師器	杯	J 11	SB 41	SB1・ 土器ダメ	10.6	3.1		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部 7/12	
154	9604	須恵器	壺	J 11	SB 41	SB1・ 土器ダメ	9.6			外：口縁ロクロナデ 内：口縁ロクロナデ	密	灰7.5Y5/1	口縁部 2/12	
155	10001	土師器	コシキ	J 11	SB 41	SB1	22.4	24.0	14.0	外：タテハケ→体部下半縦方向のケズリ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→体部下半縦方向のケズリ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部 3/12	
156	11001	土師器	甕	J 11	SB 41	SB1土 器ダメ	21.0 ～ 21.5			外：タテハケ→底部調整ハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→体部下半縦方向のケズリ→口縁ヨコナデ	やや密	浅黄橙10Y R8/3	口縁ほぼ完存	
157	9701	土師器	甕	J 11	SB 41	SB1・ 土器ダメ	19.9			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部 9/12	
158	9901	土師器	甕	J 11	SB 41	SB1・ 土器ダメ	20.3			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→体部下半縦方向のナデ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部 10/12	
159	10401	土師器	甕	K 5	SB 51	SB	21.2			外：タテハケ→底部調整ハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→体部下半縦方向のケズリ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部 9/12	外面に煤付着
160	10501	土師器	甕	G 7	SB 80	SB1・ 上層	16.5			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	密	灰黄 2.5Y7/2	口縁部 4/12	
161	10502	土師器	甕	G 7	SB 80	SB1・ 上層	19.6			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部 5/12	
162	5701	土師器	コシキ	キ 7	SB111	SB2・ No.1	22.4	22.8	11.6	外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：タテハケ→下半ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁・底部完存	把手挿入
163	7204	須恵器	直口壺	キ 7	SB111	SB・ No.2	10.0	10.6		外：体部下半タタキ・ナデ→ロクロナデ→沈線・波状文・刺突文 内：ロクロナデ	密	灰N5/	口縁部 1/6	
164	10806	須恵器	杯	キ 6	SB129	SB1・ No.2	9.0	2.8	5.7	外：ロクロナデ→底部・ヘラ切り→ナデ 内：ロクロナデ	やや粗	灰5Y6/1	口縁部 9/12	

第20表　寺垣内遺物観察表（5）

報告番号	登録番号	質	器種	地区	出土遺構	層位及び取上げNo.	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法	胎土	色調	残存	特記事項
165	4606	土師器	杯	ク 6	ＳＢ129	ＳＢ７・No.８	12.2～12.8	2.7		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/4	完存	
166	4603	土師器	杯	ク 6	ＳＢ129	ＳＢ７・No.４	12.3	3.1		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/3	口縁部7/8	
167	7303	土師器	杯	ク 6	ＳＢ129	ＳＢ７・No.７	12.5	3.0		外：オサエ→口縁ヨコナデ 内：オサエ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙10YR7/3	ほぼ完形	
168	7304	土師器	杯	ク 6	ＳＢ129	ＳＢ７・No.５	12.8	3.0		外：オサエ→口縁ヨコナデ 内：オサエ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙10YR7/3	ほぼ完形	
169	4604	土師器	杯	ク 6	ＳＢ129	ＳＢ７・No.２	12.5	2.8～3.0		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/3	口縁部1/2	
170	7302	土師器	杯	ク 6	ＳＢ129	ＳＢ７・No.９	12.9	3.1		外：オサエ→口縁ヨコナデ 内：オサエ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙10YR7/3	完形	
171	4605	土師器	杯	ク 6	ＳＢ129	ＳＢ７・No.３	12.3～13.0	2.9		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/3	一部欠損	
172	4602	土師器	杯	ク 6	ＳＢ129	ＳＢ７・No.１	12.8	3.0		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/3	口縁部3/4	
173	7903	土師器	杯	コ 18	ＳＢ209	ＳＢ１・Ｃ地点	10.4	3.3		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	浅黄橙7.5YR8/4	4/5	
174	7902	土師器	甕	コ 8	ＳＢ209	ＳＢ・下層	18.3			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：タテハケ→口縁ヨコナデ	やや密	浅黄橙10YR8/4		
175	7901	土師器	甕	コ 8	ＳＢ209	ＳＢ１・Ａ	18.3			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ナデ・オサエ→下半ケズリ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙10YR7/3	口1/4・体1/2	内外面に煤付着
176	10705	須恵器	杯	サ 6	ＳＢ211	ＳＢ１	9.9	4.1	5.3	外：ロクロナデ→底部・ロクロケズリ→ナデ 内：ロクロナデ	やや粗	灰N6/	口縁部4/12	
177	6601	須恵器	杯	サ 7	ＳＢ211	ＳＢ１・Ｂ	9.4			外：ロクロナデ→底部・ヘラ切り→ナデ 内：ロクロナデ→口縁ナデ	密	灰N6/	ほぼ完形	
178	10704	土師器	杯	サ 7	ＳＢ211	ＳＢ１・Ｃ	11.3	3.7		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：工具ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	浅黄橙10ＹＲ8/4	口縁部1/2	
179	10703	土師器	杯	サ 7	ＳＢ211	ＳＢ１	12.8	4.2		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	黒褐10ＹＲ3/2	口縁部5/12	
180	6602	土師器	杯	サ 7	ＳＢ211	ＳＢ１・Ａ	13.6			外：オサエ→底部乱雑なハケ→脚貼付ナデ（剥離）→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙10YR6/3	口縁部10/12	
181	7301	土師器	高杯	コ 7	ＳＢ211	Ａ地点	14.1	8.4	11.3	外：杯部・ナデ→口縁ヨコナデ　脚部・タテハケ→端部ヨコナデ 内：杯部・ナデ→口縁ヨコナデ　脚部・ナデ→端部ヨコナデ	やや粗	にぶい黄橙7.5YR7/4	9/10	
182	10706	土師器	杯	サ 7	ＳＢ211	ＳＢ１	19.0	4.9		外：ナデ→口縁ヨコナデ→横方向のミガキ 内：ナデ→口縁ヨコナデ→口縁二段放射状暗文＋底部螺旋状暗文	やや密	にぶい赤褐5YR5/4	口縁部わずか	
183	10902	土師器	杯	ス 8	ＳＢ214	ＳＫ１	12.5	4.4		外：ナデ・タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙5YR6/8	口縁部4/12	
184	10905	須恵器	高杯	ス 8	ＳＢ214	ＳＫ１	10.6			外：ロクロナデ→底部・ロクロケズリ→ナデ→脚貼付 内：ロクロナデ	密	灰N5/0	口縁部1/12	透かし4ヶ所か？2ヶ所残
185	10801	土師器	杯	コ 5	ＳＢ215	ＳＢ１	12.9			外：ナデ→底部放射状に刻み（脚は剥離）→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部3/12	
186	10901	土師器	杯	ス 10	ＳＢ219	ＳＫ１	12.5	2.85		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/3	口縁部3/12	
187	10904	土師器	杯	ス 10	ＳＢ219	ＳＫ１	11.6	3.4		外：ナデ→口縁ヨコナデ→脚貼付（剥離） 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙2.5YR7/8	口縁部3/12	
188	10906	土師器	蓋	チ 11	ＳＢ220	ＳＢ１	21.2	2.9		外：ナデ→口縁ヨコナデ→紐貼付（ミガキ不明） 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙5YR7/8	口縁部4/12	
189	10903	土師器	皿	チ 11	ＳＢ220	ＳＢ２	22.6	2.8		外：ナデ→底部ケズリ→ヨコナデ→ミガキ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙2.5YR6/6	口縁部4/12	
190	8102	須恵器	蓋	テ 6	ＳＢ221	ＳＢ１	9.6	3.9		外：ロクロナデ→ヘラ切り→ロクロケズリ 内：底部ナデ→ロクロナデ	密	青灰5PB5/1	口縁部3/12	
191	6402	須恵器	杯	テ 7	ＳＢ221	土器Ｃ	8.5	2.5		外：ロクロナデ→底部ヘラ切り 内：ロクロナデ	密	暗青灰5PB4/1	完形	
192	6501	土師器	杯	テ 7	ＳＢ221	土器Ｂ	9.9	3.6		外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	黄橙10YR8/6	完形	
193	6503	土師器	杯	テ 7	ＳＢ221	土器Ｃ	10.6	3.4		外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙7.5YR7/6	完形	
194	6408	土師器	杯	テ 7	ＳＢ221	土器Ｂ	10.4	3.3		外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙7.5YR8/6	完形	
195	5201	土師器	杯	テ 7	ＳＢ221	ＳＢ２・No.２	9.8			外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙7.5YR8/4	口縁ほぼ完形	
196	6502	土師器	杯	テ 7	ＳＢ221	土器Ｂ	9.9	3.7		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙10YR7/4	完形	
197	6404	土師器	杯	テ 7	ＳＢ221	土器Ａ	10.3	6.0		外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	淡黄5Y8/3	ほぼ完形	
198	8003	土師器	杯	テ 7	ＳＢ221	ＳＢ１・No.7·8	11.4			外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：工具ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙10YR7/2	口縁部3/12	
199	8004	土師器	杯	テ 7	ＳＢ221	ＳＢ１	11.7	4.3		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/3	2/3	口縁部に煤付着
200	8002	土師器	杯	テ 7	ＳＢ221	ＳＢ１	12.4			外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部5/12	
201	5204	土師器	甕	テ 7	ＳＢ221	ＳＢ１・No.１	12.6			外：体部タテハケ→底部調整ハケ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→体部下半ケズリ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙7.5YR8/4	ほぼ完形	底部にヘラ記号
202	8009	土製品	紡錘車	テ 7	ＳＢ221	ＳＢ１				ケズリ→ナデ	密	にぶい黄橙10YR6/3	完存	
203	8008	土製品	土錘	テ 6	ＳＢ221	ＳＢ１				ナデ・オサエ→両端ケズリ	密	灰黄褐10YR6/2	完存	
204	8001	土師器	甕	テ 6	ＳＢ221	ＳＢ３	14.8			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部1/2	

第21表　寺垣内遺物観察表（６）

報告番号	登録番号	質	器種	地区	出土遺構	層位及び取上げNo.	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法	胎土	色調	残存	特記事項
205	8104	土師器	高杯	ヌ13	ＳＢ229	ＳＢ１	14.7	10.1	10.2	外：杯部・タテハケ→ナデ→口縁ヨコナデ 脚部・タテハケ→ナデ→端部ヨコナデ 内：杯部・ナデ→口縁ヨコナデ　脚部・端部ヨコナデ	密	橙5YR7/6	2/3	
206	8103	須恵器	杯	ト10	ＳＢ224	ＳＢ１	10.7			外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	密	灰5Y6/1	口縁部3/12	
207	8101	土師器	長頸壺	ト10	ＳＢ224	ＳＢ１	10.7			外：口縁ロクロナデ 内：口縁ロクロナデ	やや密	灰白5Y7/1	口縁部4/12	
208	8007	土製品	土錘	ト10	ＳＢ224	ＳＢ１				ナデ	密	にぶい黄橙10YR7/3	完存	
209	8006	土師器	杯	ナ12	ＳＢ225	ＳＢ１・カマド	11.4	3.8		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部1/12	内外面に煤付着
210	8005	土師器	皿	ナ12	ＳＢ225	ＳＢ１・カマド	21.5	3.3		外：オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/4	口縁部1/12	
211	10701	土師器	皿	テ12	ＳＢ232	ＳＢ２	21.6	2.6		外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙5YR7/6	口縁部5/6	
212	10702	土師器	皿	テ12	ＳＢ232	ＳＢ２	22.0	2.4	19.2	外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部1/12強	
213	10605	須恵器	蓋	テ12	ＳＢ231	ＳＢ２	10.7	2.2		外：ロクロナデ→天井部ロクロケズリ 内：ロクロナデ→貼付ナデ	やや密	灰N6/	口縁部2/12	
214	10604	須恵器	蓋	テ12	ＳＢ231	ＳＢ２	15.2	2.0		外：ロクロナデ→天井部ロクロケズリ 内：ロクロナデ	やや粗	灰5Y5/1	口縁部3/12	
215	10603	土師器	皿	テ13	ＳＢ231	ＳＢ１・カマド	20.2	2.5		外：ナデ→底部ケズリ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙7.5YR7/6	口縁部10/12	
216	10602	土師器	皿	テ12	ＳＢ231	ＳＢ１	20.7	2.7		外：ナデ→底部ケズリ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	橙5YR6/6	口縁部4/12弱	
217	10601	土師器	皿	テ12	ＳＢ231	ＳＢ１	21.4	2.8		外：ナデ→底部ケズリ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙5YR7/6	口縁部7/12弱	
218	5401	土師器	甕	テ13	ＳＢ231	ＳＢカマド	41.2			外：タテハケ→底部調整ハケ→口縁ヨコナデ 内：斜ハケ→下半ケズリ→口縁ヨコナデ	やや密	灰黄2.5Y7/2	口縁部5/12	内面に煤付着
219	6701	土師器	蓋	ツ10	ＳＢ268	ＳＢ１	15.2	2.3		外：口縁ヨコナデ→紐貼付→ミガキ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙7.5YR7/6	6/12	
220	6605	土師器	杯	ツ10	ＳＢ268	ＳＢ１	11.6			外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰黄褐10YR4/2	6/12弱	
221	6801	土師器	杯	ツ10	ＳＢ268	ＳＢ１	17.0	3.25		外：ナデ→底部ケズリ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ→口縁放射状暗文＋底部螺旋状暗文	密	橙5YR7/6	口縁部9/12	
222	6702	土師器	皿	ツ10	ＳＢ268	ＳＢ１	21.2	2.5		外：オサエ・ナデ→底部ケズリ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→ヨコナデ	密	橙5YR7/6	口縁部6/12	
223	11402	土師器	甕	Ｇ６	ＳＦ81	ＳＫ１	19.3			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/3	口縁部3/12	
224	11401	土師器	甕	Ｇ６	ＳＦ81	ＳＫ１	19.2			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/4	口縁部3/12	
225	11303	土師器	甕	Ｇ６	ＳＦ81	ＳＫ１	18.2			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10ＹＲ8/3	口縁部2/12	
226	11301	土師器	甕	Ｇ６	ＳＦ81	ＳＫ１	18.3			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部1/12	
227	16004	土師器	杯	Ｈ５	ＳＫ83	ＳＫ１	11.0	4.0		外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい橙7.5ＹＲ７/４	口縁部3/12	
228	11302	土師器	甕	Ｈ６	ＳＫ83	ＳＫ１	14.9			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁部・ヨコハケ→ヨコナデ	密	にぶい黄橙10Ｙ R7/4	口縁部3/12	
229	16102	土師器	甕	Ｈ５	ＳＫ83	ＳＫ１	13.0	13.7		外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：工具ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	浅黄橙10YR8/3	口縁部10/12	外面にヘラ記号「二」
230	16002	土師器	甕	Ｈ５	ＳＫ83	ＳＫ１	19.6			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	やや密	橙7.5YR7/6	口縁部4/12	
231	16003	土師器	甕	Ｈ５	ＳＫ83	ＳＫ１	15.4			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	やや密	浅黄橙10YR8/3	口縁部6/12	
232	16103	土師器	甕	Ｈ５	ＳＫ83	ＳＫ１	13.7			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：工具ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい橙7.5YR7/3	口縁ほぼ完存	外面にヘラ記号「二」
233	16001	土師器	甕	Ｈ５	ＳＫ83	ＳＫ１	21.6			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	やや密	浅黄橙7.5YR8/3	6/12	
234	16101	須恵器	甕	Ｈ５	ＳＫ83	ＳＫ１	25.8			外：口縁部・ロクロナデ→波状文 内：口縁ロクロナデ	やや密	灰白N7/0	口縁部2/12	
235	11204	土師器	杯	Ｊ11	ＳＫ42	ＳＫ１	13.7	3.2		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙5YR7/6	口縁部完存	
236	13402	土師器	杯	Ｅ７	ＳＫ60	ＳＫ１	10.1	3.6		外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ・工具ナデ？→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部5/12	底部外面ヘラ記号
237	13401	土師器	甕	Ｅ７	ＳＫ60	ＳＫ１	25.1			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：体部ヨコハケ→下半縦方向のケズリ→口縁ヨコナデ	やや密	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部1/12	把手挿入
238	6603	土師器	鉢	ク６	ＳＫ110	ＳＫ１・下層	12.0			外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ	密	外：橙7.5YR7/6	6/12	内面底部に煤付着
239	6604	土師器	鉢	ク６	ＳＫ110	ＳＫ１・No.4	13.2	5.6		外：ナデ→底部ケズリ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙7.5YR7/6	ほぼ完形	
240	5502	土師器	甕	ク６	ＳＫ110	ＳＫ１・No.2	13.4	12.4		外：斜ハケ→口縁ヨコナデ 内：斜ハケ→体部上端ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	浅黄2.5Y7/3		外面に煤付着
241	3401	土師器	甕	ク６	ＳＫ110	ＳＫ１・No.1	16.0	20.0		外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：タテハケ→口縁ヨコナデ	やや粗	浅黄橙10YR8/4	ほぼ完形	
242	6902	土師器	甕	ク６	ＳＫ110	ＳＫ１	13.3	16.0		外：タテハケ→底部調整ハケ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→下半ケズリ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙7.5YR7/4	9/12	
243	17101	土師器	杯	セ４	ＳＫ255	ＳＫ１	14.2	4.6		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙10YR7/4	11/12	
244	17102	土師器	杯	ネ12	ＳＫ286	ＳＫ１	12.3	4.3		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙10YR7/4	5/6	
245	17107	石製品	砥石	ネ12	ＳＫ286	ＳＫ１								
246	17103	土師器	杯	ネ13	ＳＫ283	ＳＤ１	5.4	3.6		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白10YR8/2	ほぼ完存	内面に煤付着

第22表　寺垣内遺物観察表（7）

報告番号	登録番号	質	器種	地区	出土遺構	層位及び取上げNo.	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法	胎土	色調	残存	特記事項
247	17104	土師器	鉢	ネ13	ＳＫ283	ＳＤ１				外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 2.5Y8/2	3/4	内外面に煤付着
248	12802	須恵器	蓋	Ｉ７	ＳＤ106	ＳＤ１・No.2	11.6	3.3		外：ロクロナデ→天井ロクロケズリ→紐貼付 内：ロクロナデ	密	灰5Y6/1	口縁部 3/12	
249	12803	須恵器	蓋	Ｉ７	ＳＤ106	ＳＤ１・No.2	15.6	1.4		外：ロクロナデ→ロクロケズリ 内：ロクロナデ	やや粗	灰N6/	口縁部 2/12	
250	12601	須恵器	杯	Ｉ７	ＳＤ106	ＳＤ１・No.4	17.5	7.2	11.1	外：ロクロナデ→底部ロクロケズリ→脚貼付 内：ロクロナデ	密	灰N5/0	3/12	
251	12901	土師器	杯	Ｉ８	ＳＤ106	ＳＤ１ No.5 最下層	16.1	3.4		外：ナデ→底部ケズリ→口縁ヨコナデ→ミガキ 内：ナデ→口縁ヨコナデ→口縁螺旋状暗文＋底部螺旋状暗文	密	橙5YR7/6・暗灰黄 2.5Y5/2	口縁部 10/12	
252	8701	土師器	杯	Ｉ７	ＳＤ106	ＳＤ１・No.6	16.0	3.0		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ→口縁放射状暗文＋底部螺旋状暗文	密	にぶい橙 7.5YR6/4	1/2	底部外面にヘラ記号
253	8901	土師器	杯	Ｉ８	ＳＤ106	ＳＤ１・No.1	15.0	3.2		外：ナデ→底部板ナデ→口縁ヨコナデ 内：ヨコナデ	密	橙7.5YR6/6	2/5	底部外面にヘラ記号「×」
254	8902	土師器	杯	Ｉ８	ＳＤ106	ＳＤ１・No.5下	20.2	3.9～4.3		外：オサエ・ナデ・板ナデ→口縁ヨコナデ→ミガキ 内：口縁ヨコナデ→口縁放射状暗文＋底部螺旋状暗文	密	明赤褐 5YR5/6	4/5	底部外面にヘラ記号「×」
255	8704	土師器	蓋	Ｉ８	ＳＤ106	ＳＤ１・No.2	19.8	3.5		外：ナデ→口縁ヨコナデ→ミガキ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	赤褐 2.5Y4/6	4/5	
256	8602	土師器	杯	Ｉ10	ＳＤ106	ＳＤ１・No.1	20.0	5.5		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→ヨコナデ	密	橙5YR6/6	1/2	
257	8801	土師器	皿	Ｉ８	ＳＤ106	ＳＤ１・No.5下	19.9	2.5		外：ナデ→底部板ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	橙5YR6/6	1/4	底部外面にヘラ記号
258	8601	土師器	皿	Ｉ７	ＳＤ106	ＳＤ１・No.4	20.2	2.5		外：ナデ→底部ケズリ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙5YR6/6	1/3	
259	8702	土師器	皿	Ｉ10	ＳＤ106	ＳＤ１・No.	21.2	2.3		外：ナデ→底部ケズリ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	橙5YR7/6	口縁部 2/12	
260	8703	土師器	皿	Ｉ７	ＳＤ106	ＳＤ１・No.7	21.8	2.6		外：ナデ→底部ケズリ→口縁ヨコナデ 内：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	橙5YR6/6	1/4	
261	3501	土師器	皿	Ｉ８	ＳＤ106	ＳＤ１・No.5	22.0	2.5		外：ケズリ→口縁ヨコナデ 内：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙 5YR6/4	ほぼ完形	底面にヘラ記号
262	13001	土師器	皿	Ｉ８	ＳＤ106	ＳＤ１・No.5	23.7	4.4	14.8	外：ナデ→底部ケズリ→口縁ヨコナデ→脚貼付 内：ナデ→口縁ヨコナデ→口縁放射状暗文・底部の暗文不明	密	橙7.5YR7/6	口縁部 6/12	
263	12801	土師器	皿	Ｉ８	ＳＤ106	ＳＤ１・No.2	22.8	3.0		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ→底部ミガキ 内：ナデ→口縁ヨコナデ→底部螺旋状暗文	密	橙5ＹＲ6/6	口縁部 3/12	底部外面に墨書
264	8804	土師器	杯	Ｉ８	ＳＤ106	ＳＤ１・No.5	12.2	3.6		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	にぶい黄橙 10YR7/4	4/5	
265	8803	土師器	杯	Ｉ７	ＳＤ106	ＳＤ１・No.5	13.4	3.3		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	灰黄 2.5Y7/2	4/5	
266	8802	土師器	杯	Ｉ７	ＳＤ106	ＳＤ１・No.7	14.8	3.8		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部 3/12	
267	12804	土師器	高杯	Ｉ８	ＳＤ106	ＳＤ１・No.5 最下層	13.4	2.9	8.6	外：杯部・ナデ→口縁ヨコナデ　脚部・柱部オサエ→端部ヨコナデ 内：杯部・ナデ→口縁ヨコナデ　脚部・柱部ナデ→裾部ヨコハケ→端部ヨコナデ	やや粗	橙7.5YR7/6	口縁部 3/4	
268	12903	土師器	高杯	Ｉ７	ＳＤ106	ＳＤ１・No.7			9.0	外：脚部・柱部面取りナデ→端部ヨコナデ 内：脚部・柱部ナデ→裾部ヨコハケ→端部ヨコナデ	密	にぶい橙 7.5YR7/4	底部2/12	
269	12904	土師器	高杯	Ｉ８	ＳＤ106	ＳＤ１・No.4	6.7			外：脚部・柱部面取りケズリ→端部ヨコナデ 内：脚部・柱部ナデ→裾部ヨコハケ→端部ヨコナデ	やや密	橙5YR7/6	底部2/12	
270	12602	土師器	甕	Ｉ10	ＳＤ106	ＳＤ１・No.3	19.0			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：体部上半横方向の工具ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部 3/12	
271	12501	土師器	甕	Ｉ10	ＳＤ106	ＳＤ１・No.2	19.0			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 9/12	
272	4301	土師器	甕	Ｉ10	ＳＤ106	ＳＤ１・No.3	20.8			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：工具ナデ→下半ケズリ→口縁ヨコナデ	やや粗	淡黄 2.5Y8/3	口縁部完存	
273	12701	土師器	コシキ	Ｉ７	ＳＤ106	ＳＤ１・No.2	22.8	17.6	14.5	外：タテハケ→体部下端横方向のケズリ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→体部下端ケズリ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 8/12	把手挿入
274	12702	土師器	コシキ	Ｉ９	ＳＤ106	ＳＤ１・No.7	30.0			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁部 1/12	把手挿入
275	13002	土師器	甕	Ｉ10	ＳＤ106	ＳＤ１・No.1	35.0			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：体部横方向の工具ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 7/12	把手挿入
276	4401	土師器	甕	Ｉ７	ＳＤ106	ＳＤ１・No.9	17.0			外：斜ハケ→ナデ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→下半ケズリ→口縁ヨコナデ	やや密	浅黄 2.5Y7/3		
277	4302	土師器	甕	Ｉ７	ＳＤ106	ＳＤ１・No.8	17.4	14.7		外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：工具ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	にぶい黄橙 10YR7/4	7/8	
278	4501	土師器	甕	Ｉ８	ＳＤ106	ＳＤ１	17.0			外：体部タテハケ→底部斜ハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→下半ケズリ→口縁ヨコナデ	やや粗	にぶい黄橙 10YR7/3		
279	12502	土師器	甕	Ｉ９	ＳＤ106	ＳＤ１・No.9	17.8			外：タテハケ→底部調整ハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→体部下半縦方向のケズリ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 8/12	
280	12401	土師器	甕	キ８	ＳＤ106	ＳＤ２	26.1			外：タテハケ→底部調整ハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→体部下半縦方向のケズリ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部 10/12	
281	13101	土師器	甕	Ｉ８	ＳＤ106	ＳＤ１・No.5	26.0			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→体部下半縦方向のケズリ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 4/12	外面に煤付着
282	12306	土師器	杯	カ７	ＳＤ107	ＳＤ１	15.4			外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙5YR6/6・7/6	口縁部 1/12	

第23表　寺垣内遺物観察表（８）

報告番号	登録番号	質	器種	地区	出土遺構	層位及び取上げNo.	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法	胎土	色調	残存	特記事項
283	12304	土師器	杯	キ 8	SD107	SD1	15.8	2.9		外：ナデ→口縁ヨコナデ→ミガキ 内：口縁ヨコナデ	密	橙5YR6/6	口縁部3/12	
284	12303	土師器	杯	キ 8	SD107	SD1	15.9	3.1		外：ナデ→ケズリ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰黄褐10YR6/2	口縁部2/12	
285	12308	土師器	杯	カ 7	SD107	SD1				外：口縁ヨコナデ 内：口縁部・ヨコナデ→放射状暗文	密	橙5YR6/6		
286	6301	土師器	皿	キ 8	SD107	SD2・No.5	20.5	6.1	13.1	外：ナデ→口縁ヨコナデ→高台貼付→ミガキ？ 内：ナデ→口縁ヨコナデ→口縁放射状暗文＋底部螺旋状暗文	やや密	橙5YR7/6	口縁部残少	
287	12307	土師器	皿	カ 7	SD107	SD1	20.0			外：ナデ→底部ケズリ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ→口縁放射状暗文＋底部螺旋状暗文	密	橙7.5YR7/6	口縁部1/12	
288	12301	土師器	皿	カ 7	SD107	SD1	21.2	2.8		外：オサエ・ナデ→底部ケズリ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙5YR7/6	口縁部9/12	
289	6303	土師器	壺	キ 8	SD107	SD2・南	10.4			外：タテハケ→口縁ヨコナデ→体部横方向のミガキ 内：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ	密	橙5YR7/8・6/6	口縁部3/4	貼付把手
290	12302	土師器	蓋	カ 7	SD107	SD1	13.1	2.5		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部1/12	
291	12305	土師器	甕	カ 7	SD107	SD1	12.9			外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部3/12	
292	3901	土師器	甕	キ 8	SD107	SD2・南	24.3			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→下半ケズリ→口縁ヨコナデ	やや密	浅黄橙10YR8/3		外面に煤付着
293	6203	須恵器	杯	コ 10	SD107	SD1	20.0	6.7	9.9	外：ロクロナデ→底部ロクロケズリ→高台貼付 内：底部ナデ→ロクロナデ	粗	灰N6/0・5/0	口縁部2/5	
294	6901	須恵器	鉢	カ 7	SD107	SD1	22.0	8.6		外：底部ヘラ切り→体部下半ロクロケズリ→ロクロナデ 内：底部ナデ→ロクロナデ	やや密	淡黄2.5Y8/3	9/12	
295	7201	須恵器	鉢	オ 6	SD107	溝内・No.1		9.7	8.8	外：ロクロナデ→下半～底部ロクロケズリ 内：底部ナデ→ロクロナデ	やや粗	灰10Y5/1	底部7/8	
296	14505	土師器	小皿	Q 12	SE 17	SB1	8.3	1.3		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部6/12	
297	14504	土師器	皿	Q 12	SE 17	SB1	13.6			外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	にぶい橙7.5YR7/3	口縁部3/12	
298	14503	土師器	皿	N 11	SE 17	SE1	15.0			外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	浅黄橙10YR8/3	口縁部3/12	
299	14502	土師器	皿	O 11	SE 17	SE1	13.2	2.2		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部2/12	
300	14507	陶器	山茶椀	Q 12	SE 17	SB1	16.7	5.2～5.5	7.7～8.0	外：ロクロナデ→底部糸切り痕・ナデ→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白N8/0	口縁部2/12	
301	14506	陶器	山茶椀	Q 12	SE 17	SB1	16.5	5.15		外：ロクロナデ→底部ヘラ切り？→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白2.5Y7/1	口縁部4/12	煤付着・自然釉
302	14508	陶器	山茶椀	Q 12	SE 17	SB1			7.4～7.8	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	やや密	灰白N7/0	口縁部10/12	底部に墨書
303	14501	土師器	甕	O 11	SE 21	SE1	21.0			外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	にぶい黄橙10YR7/2	口縁部1/12	
304	14604	陶器	山茶椀	O 11	SE 21	SK1			7.3	外：ロクロナデ→底部ヘラ切り→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白2.5Y7/1	台部11/12	内面に煤付着
305	14603	陶器	山茶椀	O 11	SE 21	SE1			7.5	外：ロクロナデ→底部ヘラ切り→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白N8/0	底部7/12	外面一部に煤付着？
306	14601	陶器	山茶椀	Q 12	SE 21	SE上層			7.2	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白N8/0	底部11/12	
307	14605	陶器	山茶椀	O 11	SE 21	SK1			7.0	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰N6/0	台部6/12	内面に墨痕？
308	14602	陶器	山茶椀	Q 12	SE 21	SE1下層			7.5	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白N7/0	底部8/12	
309	14606	陶器	山茶椀	O 11	SE 21	黒掘り下げ			7.5	外：ロクロナデ→底部ヘラ切り→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白N7/0	台部5/12	内面に自然釉
310	14707	土師器	小皿	N 8	SE 22	SK1	8.0	1.7		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白10YR8/2	10/12	
311	14801	土師器	小皿	O 9	SE 22	SK1	8.4	1.3		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	灰黄褐10YR6/2	口縁部8/12	
312	14802	土師器	小皿	O 9	SE 22	SK1	8.0	1.45		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい橙7.5YR7/4	5/12	
313	14705	土師器	小皿	N 9	SE 22	SK1	8.4	1.55		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙10YR7/2	10/12	
314	14803	土師器	小皿	O 8	SE 22	SK1	9.0	1.4		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	浅黄橙7.5YR8/3	6/12	
315	14706	土師器	小皿	N 9	SE 22	SK1	9.4	1.2		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙10YR7/3	7/12	
316	14701	陶器	山茶椀	N 9	SE 22	SK1			7.6	外：ロクロナデ→底部ヘラ切り→高台貼付 内：ロクロナデ	やや密	灰白5Y7/1	底部8/12	外面に墨書
317	14702	陶器	甕	O 9	SE 22	上層	22.0			外：ナデ 内：ナデ	やや密	褐灰7.5YR5/1	口縁部3/12	
318	14704	陶器	山茶椀	カ 10	SE122	SE1・掘形			6.7	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	やや密	灰黄2.5Y7/2	底部完存	底部に墨書
319	5303	土師器	皿	ニ 11	SE234	SE1	11.7	2.7		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	浅黄橙10YR8/3	口縁ほぼ完存	底部に煤付着
320	5302	土師器	皿	ニ 11	SE234	SE1	12.0	2.3		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	浅黄橙10YR8/3	口縁ほぼ完存	
321	14703	陶器	山皿	ニ 11	SE234	SE1・掘形	9.1	2.0		外：ロクロナデ→底部糸切り痕 内：ロクロナデ	やや密	灰白2.5Y7/1	口縁部11/12	
322	13207	陶器	山茶椀	P 10	SK 19	SK1上層			7.25	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	やや密	灰白N7/0	底部完存	底部内面に墨痕
323	13202	土師器	甕	P 10	SK 19	SK1上層	17.4			外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	灰白10YR8/2	口縁部2/12	

第24表　寺垣内遺物観察表（9）

報告番号	登録番号	質	器種	地区	出土遺構	層位及び取上げNo.	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法	胎土	色調	残存	特記事項
324	13201	土師器	甕	P 10	SK 19	SK 1	25.0			外：斜ハケ→底部ケズリ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→体部下半ケズリ→口縁ヨコナデ	やや密	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 2/12	外面に煤付着
325	13205	土師器	小皿	P 10	SK 20	SK 2	9.5	1.75		外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	にぶい橙 5YR7/4	口縁部 4/12	
326	13208	陶器	山茶椀	P 10	SK 20	SK 2	7.2			外：ロクロナデ→底部ヘラ切り？→高台貼付 内：ロクロナデ	やや密	灰白N7/0	底部完存	
327	13206	土師器	小皿	Q 8	SK 26	SK 1	7.5	1.2		外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 10YR8/2	口縁ほぼ完存	
328	13204	土師器	皿	Q 8	SK 26	SK 1	11.3	2.4		外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 10YR8/2	口縁部 11/12	
329	13203	土師器	皿	Q 8	SK 26	SK 1	11.7	2.65		外：ナデ・工具あたり痕→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 10YR8/2	口縁部完存	
330	14009	土師器	小皿	F 9	SK 67	SK 1	7.4	1.2		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 7.5YR・8/4. 8/3	口縁部 8/12	
331	14202	土師器	小皿	F 9	SK 67	SK 1	7.2～ 8.0	1.1		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 10YR8/2	口縁部完存	
332	14008	土師器	小皿	F 9	SK 67	SK 1	7.2	1.1		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部 10/12	
333	14005	土師器	小皿	F 9	SK 67	SK 1	7.3	1.2		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部 9/12	
334	14004	土師器	小皿	F 9	SK 67	SK 1	8.3	1.5		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙 5YR7/4	口縁部 10/12	
335	14201	土師器	小皿	F 9	SK 67	SK 1	8.6	2.2		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部 10/12	
336	14105	土師器	皿	F 9	SK 67	SK 1	11.4	2.1		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 10YR8/2	口縁部 11/12	
337	14102	土師器	皿	F 9	SK 67	SK 1	11.7	2.3		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 10YR8/2	口縁部 11/12	
338	14101	土師器	皿	F 9	SK 67	SK 1	11.8	2.5		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 10YR8/2	口縁部 10/12	
339	14103	土師器	皿	F 9	SK 67	SK 1	12.2	2.4		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 10YR8/2	口縁部 10/12	
340	14106	土師器	皿	F 9	SK 67	SK 1	11.2～ 11.7	2.8		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 2.5Y8/2	口縁部 11/12	
341	14007	土師器	皿	F 9	SK 67	SK 1	12.4			外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 10YR8/2	口縁部 5/12	
342	14104	土師器	皿	F 9	SK 67	SK 1	11.6～ 12.2	2.4		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 10YR8/2	口縁部 8/12	
343	14006	土師器	皿	F 9	SK 67	SK 1	12.4	2.5		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 10YR8/2	口縁部 4/12	
344	14107	土師器	皿	F 9	SK 67	SK 1	13.2			外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 2.5Y8/2	口縁部 4/12	
345	14108	土師器	皿	F 9	SK 67	SK 1	13.6			外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 4/12	
346	14003	土師器	皿	F 9	SK 67	SK 1	14.0			外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部 4/12	
347	14109	土師器	皿	F 9	SK 67	SK 1	14.0			外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 3/12	
348	14203	土製品	土錘	F 9	SK 67	SK 1				ナデ・オサエ	密	にぶい褐 7.5YR6/3		
349	14002	陶器	山茶椀	F 9	SK 67	SK 1			6.8	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白5Y7/1	台部2/12	底部に墨書・自然釉
350	14205	陶器	山茶椀	F 9	SK 67	SK 1			6.5	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白5Y7/1	台部完存	底部に墨書
351	14206	陶器	山皿	F 9	SK 67	SK 1	8.5	1.9	5.0	外：ロクロナデ→底部糸切り痕 内：ロクロナデ	密	灰白5Y7/1	口縁部 10/12	
352	14204	陶器	山茶椀	F 9	SK 67	SK 1	15.1	4.9	7.0	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白5Y7/1	口縁部 2/12・	
353	14207	陶磁器	青磁	F 9	SK 67	SK 1	13.0	4.2	6.0	外：ロクロナデ→底部ケズリ出し高台→施釉 内：ロクロナデ→蓮弁文（ケズリだし）→施釉	密	素地：灰白 N8/0	口縁部 1/12	釉：緑灰 10GY6/1
354	14001	陶磁器	青磁	F 9	SK 67	SK 1			4.9	外：ロクロナデ→底部ロクロケズリ 内：ロクロナデ	密	素地：灰黄 2.5Y7/2	台部2/12	釉：ｵﾘｰﾌﾞ灰 5GY6/1
355	13301	土師器	鍋	F 7	SK 61	SK 1	34.3			外：斜ハケ→顎貼付→底部横方向のケズリ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗		口縁部 4/12	外面に煤付着
356	14406	土師器	小皿	G 10	SK 68	SK 3	7.9	1.1		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙5YR6/6	完形	
357	14405	土師器	小皿	G 10	SK 68	SK 3	8.1	1.1		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙 7.5YR7/3	口縁ほぼ完存	
358	14403	土師器	皿	G 10	SK 68	SK 3	12.6	2.4		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部 10/12	外面に煤付着？
359	14401	土師器	皿	G 10	SK 68	SK 3	13.4	2.5		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙5YR6/6	完形	
360	14402	土師器	皿	G 10	SK 68	SK 3	12.8	2.9		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙5YR6/6	口縁部 8/12	
361	14404	土師器	皿	G 10	SK 68	SK 3	15.0	3.0		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙5YR6/6	口縁部 4/12	
362	14301	土師器	鍋	F 9	SK 68	SK 1	17.4			外：ナデ→体部下半横方向のケズリ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部 4/12	
363	14303	土師器	鍋	G 10	SK 68	SK 3	31.0			外：オサエ・ナデ→斜ケメ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 10YR8/3		外面に煤付着
364	14407	陶器	山皿	G 10	SK 68	SK 3	8.0	1.5	5.4	外：ロクロナデ→底部糸切り痕 内：ロクロナデ	密	灰白5Y7/1	口縁部 5/12	底部外面に墨書
365	14302	陶器	山茶椀	G 10	SK 68	SK 3			17.0	外：ロクロケズリ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰N6/0	台部3/12	内面に自然釉
366	14304	石製品	砥石	G 10	SK 68	SK 3								

第25表　寺垣内遺物観察表（10）

報告番号	登録番号	質	器種	地区	出土遺構	層位及び取上げNo.	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法	胎土	色調	残存	特記事項
367	13902	土師器	小皿	G 10	SK 69	SK1	7.2	1.4		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙 7.5YR7/4	完形	
368	13903	土師器	小皿	G 10	SK 69	SK1	8.0	1.1		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙5YR6/6		
369	13901	土師器	皿	G 10	SK 69	SK1	12.7	2.55		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部 6/12	
370	13904	石製品	砥石	G 10	SK 69	SK1								
371	13804	土師器	小皿	H 9	SK 71	SK2	7.8	0.8～ 1.3		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 7.5YR8/3	口縁部 7/12	
372	13803	土師器	小皿	H 9	SK 71	SK2	7.8	1.4		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 10YR8/2	口縁部 11/12	
373	13806	土師器	皿	H 9	SK 71	SK2	11.9	2.7		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 10YR8/2	口縁部 3/12	
374	13805	土師器	皿	H 9	SK 71	SK2	11.8	2.55		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部 7/12	
375	13802	土師器	鉢	H 9	SK 71	SK2	9.1	6.2		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部 4/12	外面に煤付着
376	13801	土師器	鍋	H 9	SK 71	SK2	20.9			外：斜ハケ→体部下半斜方向のケズリ→口縁ヨコナデ 内：オサエ・ナデ→体部下半横方向のケズリ→口縁ヨコナデ	密	灰白 2.5Y8/2	口縁部 10/12	
377	13605	土師器	小皿	H 9	SK 72	SK1	7.4	1.0		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 11/12	
378	13604	土師器	小皿	H 9	SK 72	SK1	7.3	1.0		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 7.5YR8/2	完形	
379	13607	土師器	小皿	H 9	SK 72	SK1	7.5	1.1		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 2.5Y8/1	口縁部 7/12	
380	13606	土師器	小皿	H 9	SK 72	SK1	7.6	1.3		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 10YR8/2	口縁部 10/12	
381	13608	土師器	小皿	H 9	SK 72	SK1	7.8	1.4		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 2.5Y8/2	完形	
382	13707	土師器	皿	H 9	SK 72	SK1	11.5	2.5		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 10YR8/2	口縁部 6/12	
383	13701	土師器	皿	H 9	SK 72	SK1	11.7	2.7		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 9/12	
384	13706	土師器	皿	H 9	SK 72	SK1	12.0	2.3		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 6/12	
385	13703	土師器	皿	H 9	SK 72	SK1	12.3	2.5		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 2.5Y8/1	口縁部 9/12	
386	13704	土師器	皿	H 9	SK 72	SK1	11.9	2.5		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 2.5Y8/2	口縁部 9/12	
387	13705	土師器	皿	H 9	SK 72	SK1	12.0	2.4		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 5/12	
388	13702	土師器	皿	H 9	SK 72	SK1	12.0	2.9		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 2.5Y8/2	口縁部 11/12	
389	13603	土師器	小皿	G 8	SK 75	SK3	7.9	1.0		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙 7.5YR7/4	完形	
390	13601	土師器	小皿	G 8	SK 75	SK3	7.1	1.1		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙 5YR7/4	完形	
391	13602	土師器	小皿	G 8	SK 75	SK3	8.0	1.1		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 10YR8/2	完形	
392	13509	土師器	皿	G 8	SK 75	SK3	13.3	2.9		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部 6/12	
393	13501	土師器	皿	G 8	SK 77	SK1	11.2	2.6		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 10YR8/4	完形	
394	13502	土師器	皿	G 8	SK 77	SK1	11.3	2.6		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 10YR8/2	口縁部完存	
395	13503	土師器	皿	G 8	SK 77	SK1	11.9	2.6		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 10YR8/3	口縁部完存	
396	13507	土師器	小皿	H 8	SK 78	SK1	7.3	1.25		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 11/12	
397	13508	土師器	小皿	H 8	SK 78	SK1	7.8	1.1		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	淡黄 2.5Y8/3	口縁部 10/12	
398	13505	土師器	皿	H 8	SK 78	SK1	11.3	2.7		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 10YR8/2	口縁部 9/12	
399	13504	土師器	皿	H 8	SK 78	SK1	12.1	2.3		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白 10YR8/2	口縁部 5/12	
400	13506	土師器	皿	H 8	SK 78	SK1	15.6	2.4		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁部 4/12	
401	5904	陶器	山皿	ナ 9	SK277	SK1	7.7	1.8	4.5	外：ロクロナデ→底部糸切り 内：ロクロナデ	やや粗	灰白N8/0	口縁部 7/8	
402	5903	陶器	山皿	ナ 9	SK277	SK1	8.0	1.8	3.9	外：ロクロナデ→底部・糸切り→ナデ 内：ロクロナデ	やや密	灰白N8/0	口縁部 3/4	
403	5905	陶器	山皿	ナ 9	SK277	SK1	8.2	1.6	5.3	外：ロクロナデ→底部糸切り痕 内：ロクロナデ	やや粗	灰白N8/0	口縁部 1/2	自然釉
404	5902	陶器	山皿	ナ 9	SK277	SK1	8.8	2.0	4.8	外：ロクロナデ→底部・糸切り→ナデ 内：ロクロナデ	やや粗	灰白N7/0	口縁部 5/6	
405	5901	陶器	山茶椀	ソ 7	SK277	P6	16.3	5.5	7.4	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白 10YR8/2	口縁一部欠	
406	6101	陶器	山茶椀	ナ 9	SK277	SK1	15.4	4.9	5.6	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→区台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白N8/0	口縁部 1/2	底部に墨書・ﾓﾐｶﾞﾗ痕
407	5202	陶器	山茶椀	ナ 9	SK277	SK1			7.0	外：ロクロナデ→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白5Y7/1	ほぼ完形	底部に墨書
408	6002	陶器	山茶椀	ナ 9	SK277	SK1	14.7	5.0	6.0	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	やや粗	灰白N8/0	口縁部 5/12	底部に墨書・ﾓﾐｶﾞﾗ痕
409	6001	陶器	山茶椀	ナ 9	SK277	SK1	14.8	5.0	6.6	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	やや粗	灰白 2.5Y8/1	口縁部 3/4	底部に墨書・ﾓﾐｶﾞﾗ痕

第26表　寺垣内遺物観察表（11）

報告番号	登録番号	質	器種	地区	出土遺構	層位及び取上げNo.	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法	胎土	色調	残存	特記事項
410	6102	陶器	山茶椀	ナ 9	ＳＫ277	ＳＫ１	15.3	5.45	7.0	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白N8/0	口縁部1/3	底部に墨書・ﾓﾐｶﾞﾗ痕
411	6003	陶器	山茶椀	ナ 9	ＳＫ277	ＳＫ１	14.8	5.1	6.6	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	やや粗	灰白N7/0	口縁部1/3	底部に墨書・ﾓﾐｶﾞﾗ痕
412	6004	陶器	山茶椀	ナ 9	ＳＫ277	ＳＫ１	15.3	5.4	6.3	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	やや粗	灰白N8/0	台部完存	底部に墨書・ﾓﾐｶﾞﾗ痕
413	6103	陶器	山茶椀	ナ 9	ＳＫ277	ＳＫ１	15.9	5.2	6.9	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	やや密	灰白N8/0	口縁部1/2	底部に墨書
414	15106	土師器	小皿	Ｕ 8	ＳＤ 2	ＳＫ２上層	7.3	1.2		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/3	9/12	
415	15107	土師器	小皿	Ｕ 9	ＳＤ 2	ＳＤ１中層	7.5	1.05		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/3	6/12弱	
416	14909	土師器	小皿	Ｔ 12	ＳＤ 2	ＳＤ１・中層	7.6	1.25		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙7.5YR8/3	口縁部8/12	
417	14907	土師器	小皿	Ｕ 7	ＳＤ 2	ＳＤ１・中層	8.0	0.75		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白10YR8/2	口縁部4/12	
418	14908	土師器	小皿	Ｕ 9	ＳＤ 2	ＳＤ１・上層	8.2	1.35		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/3	口縁部9/12	
419	14903	土師器	皿	Ｔ 8	ＳＤ 2	ＳＤ１・黄褐土	11.3	2.2		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	灰白10YR8/2	口縁部7/12	
420	14904	土師器	皿	Ｔ 10	ＳＤ 2	ＳＤ１・底	11.6	2.45		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	灰白10YR8/2	口縁部5/12	
421	14905	土師器	皿	Ｕ 6	ＳＤ 2	ＳＤ１・南黒色土	11.8	2.6		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙7.5YR8/3	口縁部6/12	
422	14906	土師器	皿	Ｕ 7	ＳＤ 2	ＳＤ１・中層	12.2	2.6		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙7.5YR8/3	口縁部6/12	
423	14902	土師器	皿	Ｔ 9	ＳＤ 2	ＳＤ１中層下	12.5	2.7		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/3	口縁部6/12	
424	15001	土師器	甕	Ｔ 9	ＳＤ 2	ＳＤ１・上層	15.0			外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：工具ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部4/12	
425	14901	土師器	羽釜	Ｔ 9	ＳＤ 2	ＳＤ１中層下	17.7	21.2		外：斜ハケ→顎貼付→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	浅黄橙10YR8/3	口縁部5/12	
426	15101	土師器	鍋	Ｕ 8	ＳＤ 2	ＳＤ１・上層	25.8			外：斜ハケ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白10YR8/2	口縁部3/12弱	
427	15007	石製品	砥石	Ｔ 11	ＳＤ 2	ＳＤ１・中層								
428	15003	陶器	山茶椀	Ｔ 12	ＳＤ 2	ＳＤ１・中層	16.0	4.8	7.0	外：ロクロナデ→底部ヘラ切り→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白2.5Y7/1	口縁部2/12	ﾓﾐｶﾞﾗ痕
429	15002	陶器	山茶椀	Ｔ 11	ＳＤ 2	ＳＤ１・上層	15.75	4.9	7.5	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白2.5Y7/1	口縁部1/12	台部に墨痕？
430	15004	陶器	山皿	Ｔ 6	ＳＤ 2	ＳＤ１・中層			5.0	外：ロクロナデ→底部糸切り痕 内：ロクロナデ	密	灰白Ｎ8/0	底部ほぼ完存	内面に自然釉
431	15005	陶器	山皿	Ｔ 9	ＳＤ 2	ＳＤ１・上層	8.6	1.9	5.2	外：ロクロナデ→底部糸切り痕 内：ロクロナデ	密	にぶい黄橙10ＹＲ7/3	底部3/12	
432	15108	陶器	山皿	Ｕ 6	ＳＤ 2	ＳＤ１上層	8.6	2.4	3.8	外：ロクロナデ→底部糸切り痕 内：ロクロナデ	密	灰白2.5Y7/1	4/12	内面に漆付着
433	15006	陶磁器	青磁	Ｔ 12	ＳＤ 2	ＳＤ１・中層	17.7			外：ロクロナデ→蓮弁文→施釉 内：ロクロナデ→施釉	密	素地：灰白N8/0	口縁部2/12	釉：ｵﾘｰﾌﾞ灰10Y5/2
434	15901	陶器	甕	Ｔ 12	ＳＤ 2	ＳＤ１	37.2			外：ロクロナデ→スタンプ文 内：ロクロナデ	やや粗	にぶい赤褐5YR5/3	6/12弱	
435	15105	土師器	皿	Ｑ 8	ＳＤ 23	ＳＤ１	9.6	2.5		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白2.5Y8/1	4/12	
436	15104	土師器	皿	Ｓ 6	ＳＤ 27	ＳＤ２	12.2	2.4		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白10YR8/2	4/12	
437	15103	陶器	山茶椀	Ｓ 6	ＳＤ 27	ＳＤ２	15.1	5.2	7.0	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白5Y7/1	8/12	
438	15102	陶器	山茶椀	Ｎ 11	ＳＤ 44	ＳＤ１・上層	16.4	5.4		外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白5Y7/1	4/12	
439	15305	土師器	小皿	Ｉ 9	ＳＤ 50	ＳＤ１	7.3	0.9		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部9/12	
440	15406	土師器	小皿	Ｉ 10	ＳＤ 50	ＳＤ１	7.4	1.1		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙5YR7/4		
441	15304	土師器	皿	Ｉ 7	ＳＤ 50	ＳＤ１	12.4	2.0		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10ＹＲ8/3	口縁部6/12	
442	15303	土師器	皿	Ｉ 6	ＳＤ 50	ＳＤ１	12.4	2.3		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白10YR8/2	口縁部4/12	
443	15401	土師器	羽釜	Ｉ 8	ＳＤ 50	ＳＤ１	18.4			外：斜ハケ→顎貼付→ヨコナデ 内：工具ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/3	口縁部3/12	
444	15203	陶器	山茶椀	Ｊ 5	ＳＤ 50	ＳＤ１			7.5	外：ロクロナデ→底部糸切→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白5Y7/1	台部6/12	内面に自然釉
445	15202	陶器	山茶椀	Ｊ 5	ＳＤ 50	ＳＤ１			7.7	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰黄2.5Y7/2	台部8/12	ﾓﾐｶﾞﾗ痕
446	15204	陶器	山茶椀	Ｊ 5	ＳＤ 50	ＳＤ１			7.3	外：ロクロナデ→底部ナデ→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白2.5Y7/1	台部6/12	ﾓﾐｶﾞﾗ痕
447	15404	陶器	山茶椀	Ｉ 10	ＳＤ 50	ＳＤ１			8.0	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白2.5Y7/1	台部4/12	
448	15405	陶器	山茶椀	Ｉ 10	ＳＤ 50	ＳＤ１			5.8	外：ロクロナデ→糸切り痕 内：ロクロナデ→一方向ナデ	密	灰白5Y7/1	底部4/12	内面に自然釉
449	15403	陶器	瓶	Ｉ 10	ＳＤ 50	ＳＤ１			9.8	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→施釉 内：ロクロナデ	密	素地：灰黄2.5Y6/2	底部6/12	釉：黒褐10YR3/2
450	15402	陶器	瓶	Ｉ 8	ＳＤ 50	ＳＤ１			10.0	外：施釉？ 内：回転ナデ	密	ｵﾘｰﾌﾞ灰10Y5/2	底部6/12	内面の底部に釉ダレ
451	15205	陶器	甕	Ｊ 5	ＳＤ 50	ＳＤ１			18.0	外：ナデ・工具あたり→タタキ 内：回転ナデ	密	黄灰2.5Y6/1	底部3/12	内面に自然釉
452	15301	石製品	硯	Ｊ 6	ＳＤ 50	ＳＤ２								
453	15302	土製品	瓦	Ｉ 6	ＳＤ 50	ＳＤ１					密	灰N4/0		

第27表　寺垣内遺物観察表（12）

報告番号	登録番号	質	器種	地区	出土遺構	層位及び取上げNo.	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法	胎土	色調	残存	特記事項
454	11502	須恵器	蓋	Ｈ 5	ＳＤ 56	ＳＤ１	8.8	2.7		外：ロクロナデ→天井部ロクロケズリ→紐貼付 内：ロクロナデ	密	灰N6/0	口縁部 1/12	
455	11501	須恵器	杯	Ｈ 5	ＳＤ 56	ＳＤ１・下層	12.4	5.1		外：ロクロナデ→底部・ロクロケズリ→ナデ 内：ロクロナデ→底部一方向ナデ	密	灰白N7/0		
456	11903	須恵器	壺	Ｈ 4	ＳＤ 56	ＳＤ１	10.8	9.45		外：ロクロナデ→底部ヘラケズリ 内：ロクロナデ	やや密	灰白N7/0	口縁部 3/12	
457	11902	土師器	甕	Ｆ 5	ＳＤ 56	ＳＤ１	13.0			外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：体部横方向の工具ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	にぶい橙7.5ＹＲ7/4	口縁部 4/12	
458	11602	土師器	甕	Ｈ 5	ＳＤ 56	ＳＤ１	16.0	15.3		外：タテハケ→底部調整ハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→体部下半工具ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙2.5YR6/6	口縁部 5/12	
459	11802	土師器	甕	Ｈ 4	ＳＤ 56	ＳＤ１	14.7			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→体部下半ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 4/12	
460	11703	土師器	皿	Ｈ 5	ＳＤ 56	ＳＤ１	10.5	2.6		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/3	口縁部 6/12	
461	11701	土師器	皿	Ｈ 5	ＳＤ 56	ＳＤ１	10.7～11.2	2.5		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰黄2.5Y7/2	口縁部 11/12	
462	11702	土師器	皿	Ｈ 5	ＳＤ 56	ＳＤ１	11.0	2.5		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/3	口縁部 5/12	
463	11704	土師器	皿	Ｈ 5	ＳＤ 56	ＳＤ１	11.8	2.8		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白10YR8/2	口縁部 6/12	
464	11505	土師器	皿	Ｈ 4	ＳＤ 56	ＳＤ１	12.6	2.2		外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白10YR8/2	口縁部 5/12	
465	11503	陶器	山皿	Ｈ 4	ＳＤ 56	ＳＤ１	4.0	2.7		外：ロクロナデ→底部ナデ 内：ロクロナデ→底部一方向ナデ	密	灰白5Y7/1	口縁部 3/12	
466	11504	土師器	山茶椀	Ｈ 5	ＳＤ 56	ＳＤ１	13.6	5.7	5.7	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ→底部一方向ナデ	密	灰白2.5Y7/1	口縁部 1/2	
467	15806	土師器	皿	Ｉ 7	ＳＤ 57	ＳＫ１	11.6	2.5		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白2.5Y8/2	4/12	
468	15805	土師器	皿	Ｉ 7	ＳＤ 57	ＳＫ１	11.8	2.5		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	淡黄2.5Y8/3	6/12	
469	15804	土師器	皿	Ｉ 7	ＳＤ 57	ＳＫ１	12.0	2.2		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白10YR8/2	8/12	
470	15706	土師器	小皿	Ｈ 8	ＳＤ 58	ＳＤ１	8.0	1.3		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	淡黄2.5Y8/3	ほぼ完存	
471	15603	土師器	皿	Ｈ 8	ＳＤ 58	ＳＤ１	11.3	2.1		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	淡黄2.5Y8/3	ほぼ完形	
472	15704	土師器	皿	Ｈ 8	ＳＤ 58	ＳＤ１	11.6	2.4		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	淡黄2.5Y8/3	口縁部 10/12	
473	15705	土師器	皿	Ｈ 8	ＳＤ 58	ＳＤ１	11.8	2.0		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	淡黄2.5Y8/3	6/12	
474	15604	土師器	皿	Ｈ 8	ＳＤ 58	ＳＤ１	11.7	2.2		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	黄灰2.5Y4/1	口縁部 11/12	
475	15703	土師器	皿	Ｈ 8	ＳＤ 58	ＳＤ１	11.7	2.3		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	淡黄2.5Y8/3	口縁部 8/12	
476	15702	土師器	皿	Ｈ 8	ＳＤ 58	ＳＤ１	11.7	2.6		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	灰白10YR8/2	6/12弱	
477	15803	土師器	皿	Ｈ 8	ＳＤ 58	ＳＤ１	12.1	2.5		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/3	10/12	
478	15802	土師器	皿	Ｈ 8	ＳＤ 58	ＳＤ１	11.5	2.8		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	淡黄2.5Y8/3	8/12	
479	15701	土師器	皿	Ｈ 8	ＳＤ 58	ＳＤ１	11.6	3.0		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	浅黄橙10YR8/3	6/12	
480	15801	土師器	皿	Ｈ 8	ＳＤ 58	ＳＤ１	12.1	2.6		外：オサエ・ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	淡黄2.5Y8/3	9/12	
481	15601	土師器	鍋	Ｈ 8	ＳＤ 58	ＳＤ１	23.0			外：オサエ→斜ハケ→体部下半横方向のケズリ→口縁ヨコナデ 内：オサエ・ナデ・工具によるナデ→口縁ヨコナデ	密	外：黒N2/0 内：浅黄2.5Y7/3	3/12	外面に煤付着
482	15707	陶磁器	青磁	Ｈ 8	ＳＤ 58	ＳＤ１	17.0			外：ロクロナデ→蓮弁文→施釉 内：ロクロナデ→施釉	密	釉：ｵﾘｰﾌﾞ灰5GY6/1	口縁部 1/12	
483	15602	陶器	山茶椀	Ｈ 8	ＳＤ 58	ＳＤ１	14.0	4.9	6.9	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白5Y7/1	口縁部 9/12	口縁外面に墨書
484	15501	陶器	甕	Ｈ 8	ＳＤ 58	ＳＤ１	36.0			外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ→施釉 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	素地：灰褐7.5YR5/2/1	1/12	釉：ｵﾘｰﾌﾞ黄5Y5/4
485	8302	土師器	山皿	ｷ 11	ＳＤ125	ＳＤ１	7.4	1.6	4.8	外：ロクロナデ→底部糸切り痕 内：ロクロナデ→底部一方向ナデ	やや密	灰黄2.5Y7/2	完存	自然釉あり
486	8201	陶器	山茶椀	ｸ 11	ＳＤ125	ＳＤ１	14.9	4.7	6.5	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰白5Y7/1	9/10	自然釉あり・ﾓﾐｶﾞﾗ痕
487	8204	陶器	山茶椀	ｶ 11	ＳＤ125	ＳＤ１	14.9	5.2	7.3	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ→底部一方向ナデ	密	灰黄2.5Y7/2	口縁部 6/12	ﾓﾐｶﾞﾗ痕
488	8205	陶器	山茶椀	ｸ 11	ＳＤ125	ＳＤ１	15.1	5.5	6.8	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰黄2.5Y7/2	口縁部 4/12	自然釉あり
489	8202	陶器	山茶椀	ｸ 11	ＳＤ125	ＳＤ１	15.6	6.1	6.2	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	やや密	灰白5Y7/1	口縁部 3/12	自然釉あり・ﾓﾐｶﾞﾗ痕
490	8206	陶器	山茶椀	ｶ 11	ＳＤ125	ＳＤ１	16.0	5.8	5.8	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ→底部一方向ナデ				内面に煤付着・ﾓﾐｶﾞﾗ痕
491	8203	陶器	山茶椀	ｸ 4	ＳＤ125	ＳＤ１	16.4	5.8	8.0	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	密	灰黄2.5Y7/2	口縁部 7/12	
492	8301	陶器	山茶椀	ｴ 11	ＳＤ125	ＳＤ１	16.6	5.6	7.4	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→高台貼付 内：ロクロナデ	やや密	灰黄2.5Y7/2	2/3	
493	8304	陶器	壺	ｷ 11	ＳＤ125	ＳＤ１	10.1			外：ナデ→口縁ロクロナデ 内：オサエ→口縁ロクロナデ	密	にぶい褐7.5YR5/3	口縁部 5/12	
494	8305	土製品	支脚	ｶ 11	ＳＤ125	ＳＤ１				ナデ・オサエ	やや密	にぶい褐7.5YR6/3	1/2	

第28表　寺垣内遺物観察表（13）

報告番号	登録番号	質	器種	地区	出土遺構	層位及び取上げNo.	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法	胎　土	色調	残存	特記事項
1	3401	弥生土器	蓋	B 5	S X 303	S D 1				外：ミガキ？ 内：ナデ	密	乳茶褐	ツマミの片方のみ	頂部に穿孔
2	3402	弥生土器	蓋	B 5	S X 303	S D 1	11.4			外：ミガキ 内：ミガキ	やや粗	暗乳褐		板状の摘み、中央に穿孔
3	3403	弥生土器	広口壺	B 22	S X 304	S D 1	14.1			外：ナデ→口縁部ヨコナデ→ヘラ描き沈線→ミガキ 内：ナデ→口縁部ヨコナデ	やや粗	外：黄褐 内：灰褐	1/3	
4	1903	弥生土器	広口壺	B 22	S X 304	S D 1				外：ナデ→口縁ヨコナデ→ヘラ描き直線文 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部1/4弱	
5	3406	弥生土器	広口壺	B 22	S X 304	S D 4	15.7			外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ		明黄褐	口縁部1/4	
6	2503	弥生土器	壺	B 22	S X 304	S D 1				外：貼付突帯→ヘラ描沈線→ミガキ 内：ナデ	やや粗	橙7.5YR7/6		
7	1601	弥生土器	壺	B 22	S X 304	S D 1				外：貼付突帯・刺突→ヘラ描沈線→ミガキ 内：ナデ	やや粗	橙2.5YR7/6		
8	1501	弥生土器	甕	B 18	S X 304	S D 1	20.5	24.0	7.7	外：タテハケ→口縁ヨコナデ→端部刺突・ヘラ描き沈線 内：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ	粗	にぶい橙 7.5YR7/3	口縁部ほぼ完形・底部1/3	
9	1902	弥生土器	甕	B 21	S X 304	S D 1				外：タテハケ→口縁ヨコナデ→端部刺突 内：オサエ・ハケメ→口縁ヨコナデ	やや粗	にぶい黄橙 10YR7/4		
10	2603	弥生土器	蓋	B 17	S D 305	S D 1	11.9			外：ナデ→ミガキ 内：ナデ	やや粗	淡橙 5YR8/4・灰 N4/0		
11	3103	弥生土器	蓋	B 17	S D 305	S D 1	13.3			外：ナデ→ミガキ 内：ナデ	やや粗	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部3/4	頂部に１穿孔
12	3503	弥生土器	蓋	B 23	S D 305	S D 1				外：ミガキ 内：ミガキ		外：暗灰 内：淡褐	口縁部1/8	頂部に１穿孔
13	3504	弥生土器	蓋	B 20	S D 305	S D 1				外：ミガキ 内：ナデ？		外：こげ茶褐 内：淡褐	口縁部1/8	
14	3502	弥生土器	蓋	B 21	S D 305	S D 1				外：ナデ 内：ナデ	密	暗乳赤褐	ツマミの部分のみ	頂部に１穿孔
15	3501	弥生土器	広口壺	B 23	S D 305	S D 1	17.6			外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	密	赤褐		
16	2702	弥生土器	広口壺	B 18	S D 305	S D 1	21.5			外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	にぶい橙 7.5YR7/3	口縁部1/3弱	
17	2602	弥生土器	広口壺	B 17	S D 305	S D 2	17.8			外：ケズリ出し突帯→口縁ヨコナデ→ミガキ 内：ナデ	やや粗	黒褐10YR3/1	口縁部わずか	
18	2605	弥生土器	広口壺	B 17	S D 305	S D 1	18.6			外：ケズリ出し突帯→口縁ヨコナデ→ミガキ？ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	浅黄橙 10YR8/3	口縁部1/4	
19	1502	弥生土器	広口壺	B 21	S D 305	S D 1	17.2			外：タテハケ→口縁ヨコナデ→ヘラ描直線文 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	浅黄橙 10YR8/3	口縁部1/3	
20	3301	弥生土器	壺	B 17	S D 305	S D 1			4.8	外：オサエ・ナデ→沈線 内：ナデ	やや粗	灰黄褐 10YR6/2	底部完存	
21	2801	弥生土器	壺	B 17	S D 305	S D 1				外：ミガキ→ヘラ描き直線文 内：ナデ	やや密	外：暗褐 内：淡褐		外面に黒斑あり
22	3302	弥生土器	壺	B 17	S D 305	S D 1				外：ナデ・貼付突帯２条・刺突→横方向のミガキ 内：ナデ	粗	にぶい橙 5YR7/4		突帯に刻み
23	2201	弥生土器	壺	B 17	S D 305	S D 1			11.4	外：斜ハケ→縦方向のミガキ 内：ナデ	やや粗	浅黄橙 7.5YR8/4		
24	3506	土製品	匙型土製品	B 17	S D 305	S D 1				外：ナデ・オサエ→ミガキ 内：ナデ・オサエ	密	黄褐～赤褐	口縁部1/2	外面に彩色（朱）・柄一部欠
25	2606	土製品	土錘	B 17	S D 305	S D 1				外：ナデ・オサエ 内：ナデ・オサエ	やや密	浅黄橙 7.5YR8/3		
26	3202	弥生土器	鉢	B 17	S D 305	S D 1				外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：工具ナデ→口縁ヨコナデ	粗	にぶい橙 5YR7/4	口縁わずか・底完存	
27	3101	弥生土器	甕	B 19	S D 305	S D 1	18.6	20.6	7.2	外：タテハケ→口縁ヨコナデ→端部刺突 内：工具ナデ	やや粗	浅黄橙 10YR8/3	口縁部ほぼ完存	片口の甕
28	3102	弥生土器	甕	B 17	S D 305	S D 1	19.8			外：ナデ→直線文→口縁端部ヨコナデ→端部刺突 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	灰黄褐 10YR6/2	口縁部1/4	
29	2601	弥生土器	甕	B 23	S D 305	S D 1	22.6			外：ナデ→口縁ヨコナデ→端部刺突文・ヘラ描直線文 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部1/8	
30	1901	弥生土器	甕	B 21	S D 305	S D 1	22.4			外：タテハケ→口縁ヨコナデ→端部刺突文・ヘラ描直線文 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	にぶい橙 7.5YR7/4		
31	3201	弥生土器	甕	B 17	S D 305	S D 1	23.4			外：ケズリ出し突帯→タテハケ→口縁ヨコナデ→端部刺突 内：体部ナデ→口縁・ハケメ→ヨコナデ	やや粗	浅黄橙 10YR8/3	口縁部1/6	突帯に刺突
32	2402	弥生土器	甕	B 18	S D 305	S D 1	23.2			外：ナデ→口縁ヨコナデ→ヘラ描直線文・端部刺突 内：ハケメ→ナデ→ヨコナデ	やや粗	橙7.5YR6/6		
33	3001	弥生土器	甕	B 17	S D 305	S D 2	25.6	26.7	7.8	外：タテハケ→口縁ヨコナデ→端部刺突・ヘラ描き直線文 内：オサエ・ナデ→ヨコナデ	粗	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部1/2・底部完存	外面に煤付着
34	2901	弥生土器	甕	B 19	S D 305	S D 1	25.0	29.4	8.0	外：ケズリ出し突帯→タテハケ→口縁ヨコナデ→端部刺突 内：ナデ・ハケメ	粗	浅黄橙 10YR8/3	口縁部1/2弱・底部完存	外面に煤付着
35	2401	弥生土器	甕	B 18	S D 305	S D 1	30.2			外：タテハケ→口縁部ヨコナデ→端部刺突・ヘラ描き直線文 内：ナデ→ヨコナデ	粗	にぶい黄橙 10YR6/4	口縁部1/7	
36	1802	弥生土器	甕	B 21	S D 305	S D 1	33.5			外：タテハケ→口縁ヨコナデ→端部刺突・ヘラ描き沈線 内：ハケメ→ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	浅黄橙 10YR8/4	口縁部1/9	
37	2701	弥生土器	甕	B 23	S D 305	S D 1	39.0			外：斜ハケ→口縁ヨコナデ→ヘラ描き沈線 内：ヨコナデ	やや粗	にぶい橙 5YR7/4		内面一部黒斑
38	2101	弥生土器	甕	B 17	S D 305	S D 1	27.0	27.0	7.6	外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：ナデ・ハケメ→口縁ヨコナデ	粗	橙5・ 7.5YR7/6		
39	606	弥生土器	蓋	B 22	S K 306	S K 5	5.2	1.8		外：口縁部ヨコナデ→ミガキ 内：口縁部ヨコナデ→ミガキ	やや粗	にぶい橙 7.5YR7/3	口縁部1/2弱	つまみ上げた摘み、中央に穿孔

第29表　金剛坂遺物観察表（１）

報告番号	登録番号	質	器種	地区	出土遺構	層位及び取上げ№	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法	胎土	色調	残存	特記事項
40	303	弥生土器	蓋	B 22	SK306	SK5	10.9	2.1		外：ナデ→ミガキ 内：ナデ	やや粗	にぶい橙 7.5YR7/4		
41	603	弥生土器	蓋	B 22	SK306	SK5	12.2			外：口縁部ヨコナデ→ミガキ 内：口縁部ヨコナデ→ミガキ	粗	にぶい橙 7.5YR7/3	口縁部1/3	
42	304	弥生土器	蓋	B 22	SK306	SK5	12.0			外：ナデ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	にぶい黄橙 10YR6/3	口縁部1/2	
43	602	弥生土器	蓋	B 22	SK306	SK5	13.1			外：口縁ヨコナデ→ミガキ 内：口縁ヨコナデ→ミガキ	やや粗	にぶい褐 7.5YR6/3	口縁部1/3	透かし２方
44	305	弥生土器	蓋	B 22	SK306	SK5	11.4			外：ナデ→浮文３個１単位に７カ所 内：オサエ・ナデ	やや粗	にぶい黄橙 10YR6/3・6/4	口縁部3/4	裾部に浮文
45	306	弥生土器	蓋	B 22	SK306	SK5	11.0	3.35		外：ナデ→貼付突帯３条・刺突 内：ナデ	やや粗	にぶい黄橙 10YR7/3	1/2	中央に穿孔
46	601	弥生土器	甕	B 22	SK306	SK5	10.8			外：ハケメ→半栽竹管→口縁ヨコナデ→端部刺突 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや粗	橙 7.5YR7/6・ にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部1/4	
47	201	弥生土器	甕	B 22	SK306	SK5	34.8			外：タテハケ→口縁ヨコナデ→端部刺突 内：ナデ・ハケメ→口縁ヨコナデ	やや粗	灰黄褐 10YR6/2	1/4	
48	3507	土師器	椀	B 23	SX307	SD1				外：ヨコナデ 内：ヨコナデ		淡黄褐	口縁部1/5	
49	605	須恵器	杯	B 33	SX308	SK2	10.5	5.0		外：ロクロナデ→底部ロクロケズリ 内：ロクロナデ→中央に青海波文	やや密	灰7.5Y6/1・ 5/1	口縁部1/3	
50	302	須恵器	杯	B 33	SX308	SK2	10.6	4.8		外：ロクロナデ→底部ロクロケズリ 内：ロクロナデ	やや密	灰7.5Y6/1	口縁部2/3	
51	604	陶器	山茶椀	B 62	SX312	SK2	14.2 ～ 16.1	5.7	7.3	外：ロクロナデ→底部糸切り痕→脚貼付ナデ 内：ロクロナデ	やや密	灰白2.5Y8/1	口縁部ほぼ完形	
52	301	陶器	山茶椀	B 62	SX312	SK2	16.2	5.8	6.9	外：ロクロナデ→底部ナデ→脚貼付ナデ 内：ロクロナデ	やや粗	にぶい黄橙 10YR7/2	口縁部・底部完存	
53	1604	弥生土器	壺	B 13		包含層				外：ヘラ描き沈線 内：ナデ	やや粗	にぶい黄橙 10YR7/4		
54	2001	弥生土器	壺	B 13		包含層				外：ナデ→ヘラ描き沈線→貼付突帯→突帯キザミ 内：ナデ・オサエ	やや粗	にぶい黄橙 10YR6/3		
55	1702	陶器	山茶椀	B58・59		包含層	16.0	6.05	7.3～7.6	外：ロクロナデ→底部糸切痕→脚貼付ナデ 内：ロクロナデ	やや密	灰白2.5Y7/1	口縁部小片・底完形	内面に自然釉・ﾓﾐｶﾞﾗ痕
56	1306	石製品	砥石	F		包含層								
57	1401	弥生土器	甕	F		包含層	25.4			外：タテハケ→口縁ヨコナデ→ヘラ描き沈線→口縁端部刺突 内：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ	粗	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部一部	
58	1201	弥生土器	壺	F		包含層	42.0			外：ナデ→口縁ヨコナデ→ミガキ 内：ミガキ	やや粗	暗灰黄 2.5Y5/2	1/6	外面に煤付着
59	1301	土師器	杯	A 43	SK301	SK1	13.0	3.6		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ	ほぼ密	にぶい黄橙 10YR6/4	口縁部2/3	
60	1303	土師器	皿	A 70	SD302	SD1	17.7			外：ケズリ→口縁部ヨコナデ 内：ヨコナデ	ほぼ密	橙5YR6/8	口縁部一部	
61	1302	土師器	皿	E 10	SD318	SD1	17.6			外：ナデ・オサエ→ヨコナデ→ミガキ 内：ヨコナデ	ほぼ密	明赤褐 5YR5/6	口縁部一部	
62	401	弥生土器	細頸壺	D 2	SX312	SD1	5.0			外：タテハケ→下半部横方向のケズリ→口縁ヨコナデ 内：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ	粗	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部1/2	
63	402	弥生土器	広口壺	D 2	SX312	SD1	8.4	19.8	5.5	外：ナデ→ヨコナデ→直線文・波状文・刺突・ミガキ不明 内：シボリ痕・ナデ→口縁ヨコナデ→端部刺突	やや密	にぶい黄橙 10YR7/3・ 6/3	口縁部 1/2・底部 2/3	
64	701	土師器	蓋	D 19	SH315	SK1	13.3	4.6		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙 10YR7/4	1/2強	
65	702	土師器	蓋	D 19	SH315	SK1	16.6	3.9		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙 10YR7/4	1/2強	
66	804	土師器	杯	D 19	SH315	SK1	11.5	4.1		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙 7.5YR6/4	ほぼ完形	
67	801	土師器	杯	D 19	SH315	SK1	11.0	4.2		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	橙7.5YR7/6	口縁部 9/12	
68	802	土師器	杯	D 19	SH315	SK1	12.2	3.6		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	密	橙7.5YR7/6	口縁部 9/12	
69	803	土師器	杯	D 19	SH315	SK1	12.2	3.9		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ヨコナデ	密	橙7.5YR7/6	ほぼ完形	
70	101	土師器	皿	D 19	SH315	SK1	19.0			外：底部ケズリ→口縁ヨコナデ→ミガキ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	にぶい橙 5YR7/4	1/5	
71	1103	土師器	皿	D 19	SH315	SK1	20.9	2.5		外：底部ケズリ→口縁ヨコナデ→ミガキ？ 内：ナデ→口縁ヨコナデ	やや密	橙7.5YR6/6	口縁部1/6	
72	705	須恵器	杯	D 19	SH315	SK1	11.6	4.5		外：ロクロナデ→底部ヘラ切り 内：ロクロナデ	密	にぶい黄橙 10YR4/7	口縁部 9/12	
73	704	須恵器	蓋	D 19	SH315	SK1	15.3	2.4		外：ロクロナデ→天井部ロクロケズリ 内：ロクロナデ	やや密	灰黄2.5Y7/2	1/2強	
74	102	土師器	コシキ	D 19	SH315	SK1	20.0	17.4	12.0	外：タテハケ→下半部ケズリ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	やや粗	浅黄橙 10YR8/3・ 8/4	口縁部・底部1/2	把手は挿入
75	1101	土師器	コシキ	D 19	SH315	SK1				外：タテハケ→下半部ケズリ→口縁ヨコナデ 内：ヨコハケ→口縁ヨコナデ	やや粗	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部1/5	把手は挿入
76	1002	須恵器	甕	D 19	SH315	SK1	24.0			外：平行タタキ→口縁ロクロナデ 内：タタキ（青海波）→口縁ロクロナデ	密	灰白 2.5Y7/1・灰黄2.5Y6/2		
77	901	土師器	甕	D 22	SH316	SK1	16.5			外：タテハケ→口縁ヨコナデ 内：下半部ケズリ→口縁ヨコナデ	やや粗	浅黄橙 10YR8/4		
78	703	須恵器	杯	D 22	SH316	SK1	24.5	4.5	19.8	外：ロクロナデ→底ロクロケズリ→高台貼付 内：ロクロナデ	やや密	にぶい黄橙 10YR7/4	1/4弱	
79	1001	土師器	鍋	D 24	SK313	SK1	42.0			外：オサエ・ケズリ→口縁ヨコナデ 内：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ	密	にぶい橙 7.5YR6/4		
80	1004	土師器	小皿	D 9	SK314	SK1	8.0	1.0		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ	やや密	橙5YR6/6		
81	1003	土師器	小皿	D 37	SK317	SK1	8.3	1.4		外：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ 内：ナデ・オサエ→口縁ヨコナデ	やや粗	橙5YR7/6・灰褐 7.5YR4/2		

第30表　金剛坂遺物観察表（２）

写　真　図　版

調査前風景（北から）

工事中現況写真（H17.12月：北から）

ＰＬ２

ＳＸ５・６（東から）

ＳＸ７・８（北から）

ＳＸ５ 南北アゼ（東から）

ＳＸ５ 表土除去後（北から）

ＳＸ５ 主体部検出状況（北から）

ＳＸ５ 墳丘盛土除去後（北から）

ＳＸ５ 主体部検出状況（西から）

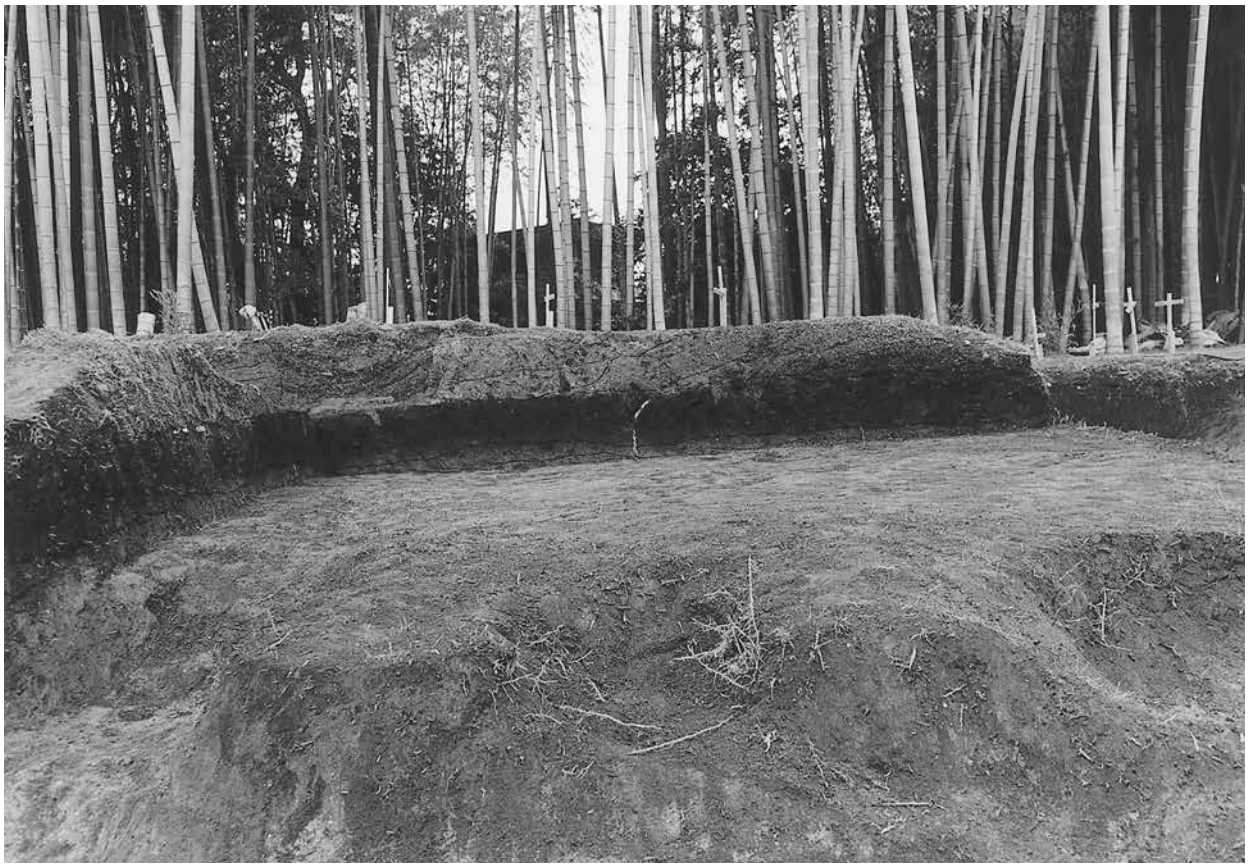
ＳＸ５ 主体部（北から）

ＳＸ５ 周溝東側　遺物出土状況（北から）

ＳＸ６ 南北アゼ（西から）

ＳＸ６ 表土除去後（北西から）

ＳＸ６ 主体部検出状況（西から）



ＳＸ６ 墳丘除去後（北から）

ＳＸ６ 主体部検出状況（西から）

ＳＸ６ 主体部土層（北から）

ＳＸ６ 主体部（南から）

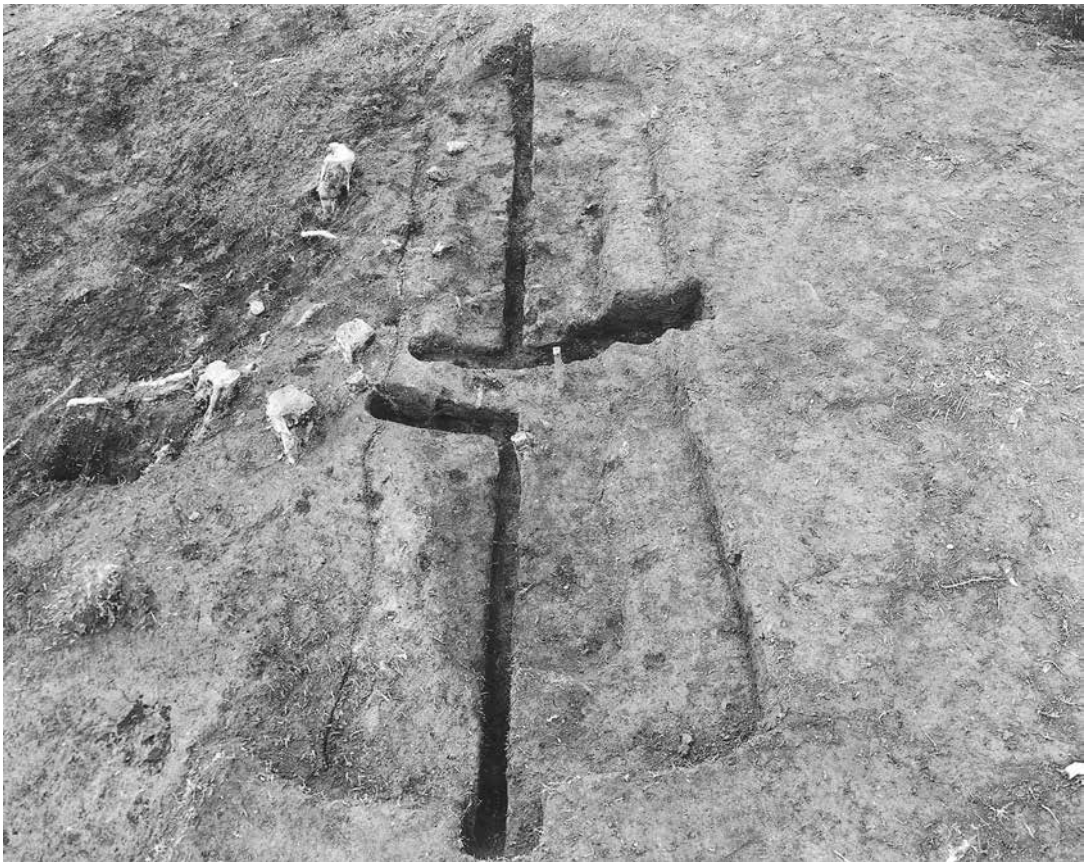
ＳＸ６ 周溝西側　遺物出土状況（西から）

ＳＸ７ 表土除去後（東から）

ＳＸ７ 主体部検出状況（北東から）

ＳＸ７ 主体部上遺物出土状況（東から）

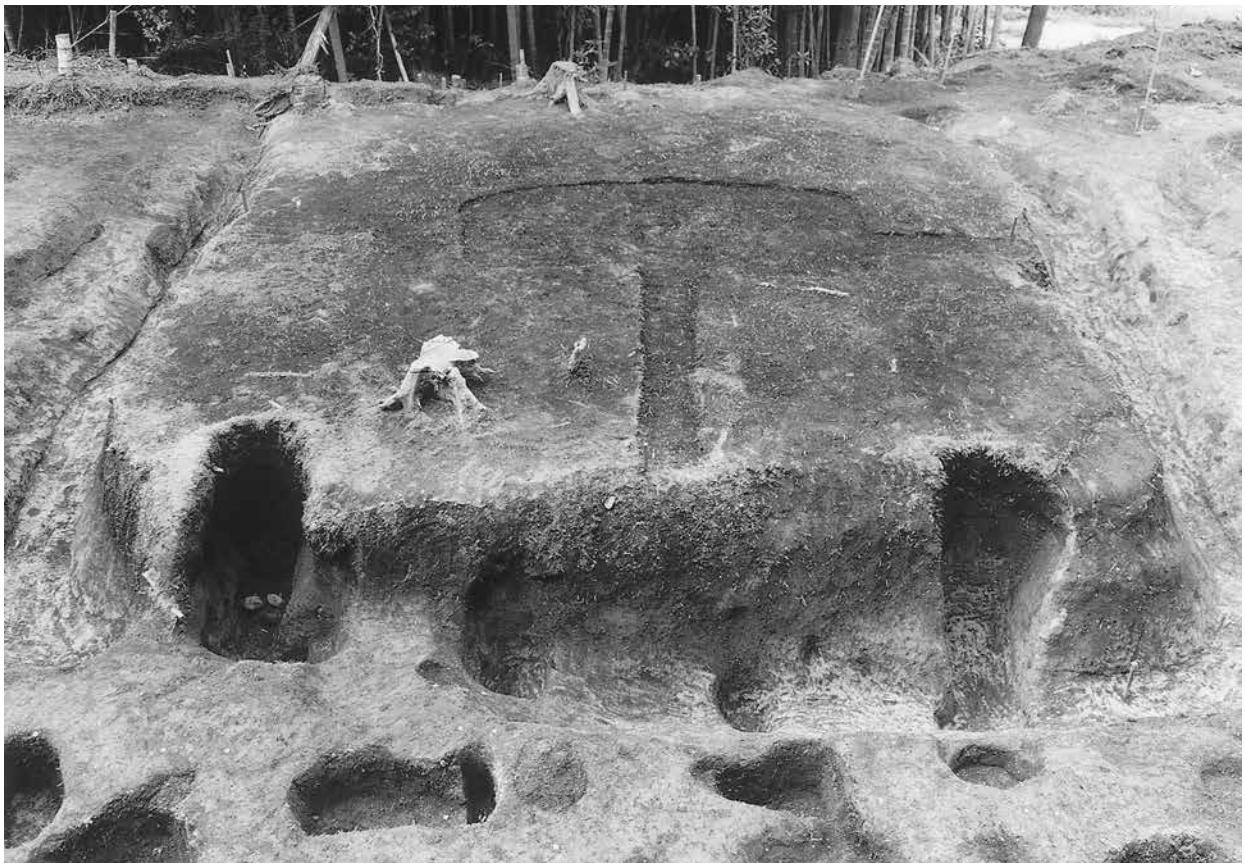
ＳＸ７ 主体部土層（東から）



ＳＸ７ 主体部（西から）

ＳＸ７ 周溝東側　遺物出土状況（北から）

ＳＸ８ 表土除去後（南西から）



ＳＸ８ 主体部検出状況（南から）

ＳＸ８ 周溝南側　遺物出土状況（東から）

調査区西側（東から）

ＳＢ21（南から）

ＳＢ19 検出状況（南から）

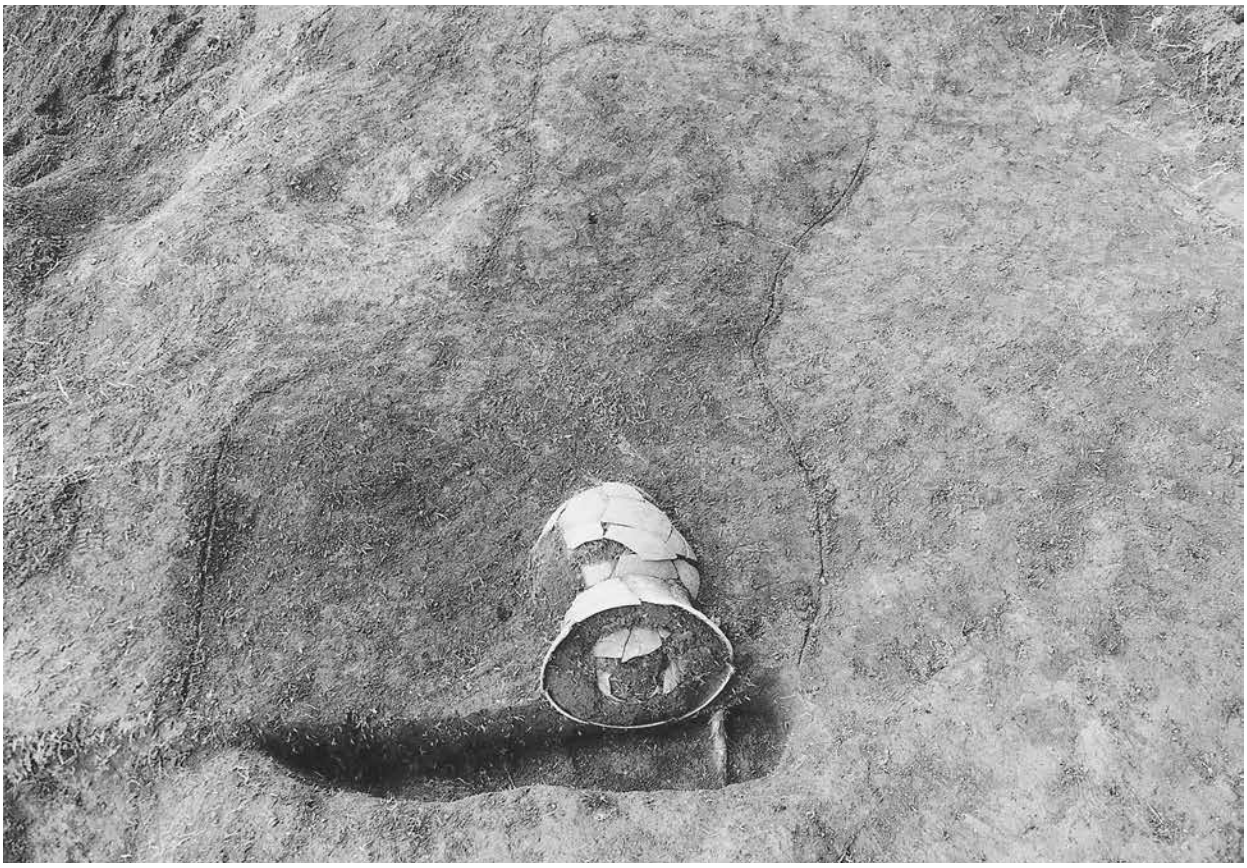
ＳＢ19 完掘状況（南から）

ＳＢ23（東から）

ＳＢ22（南から）

ＳＢ24（西から）

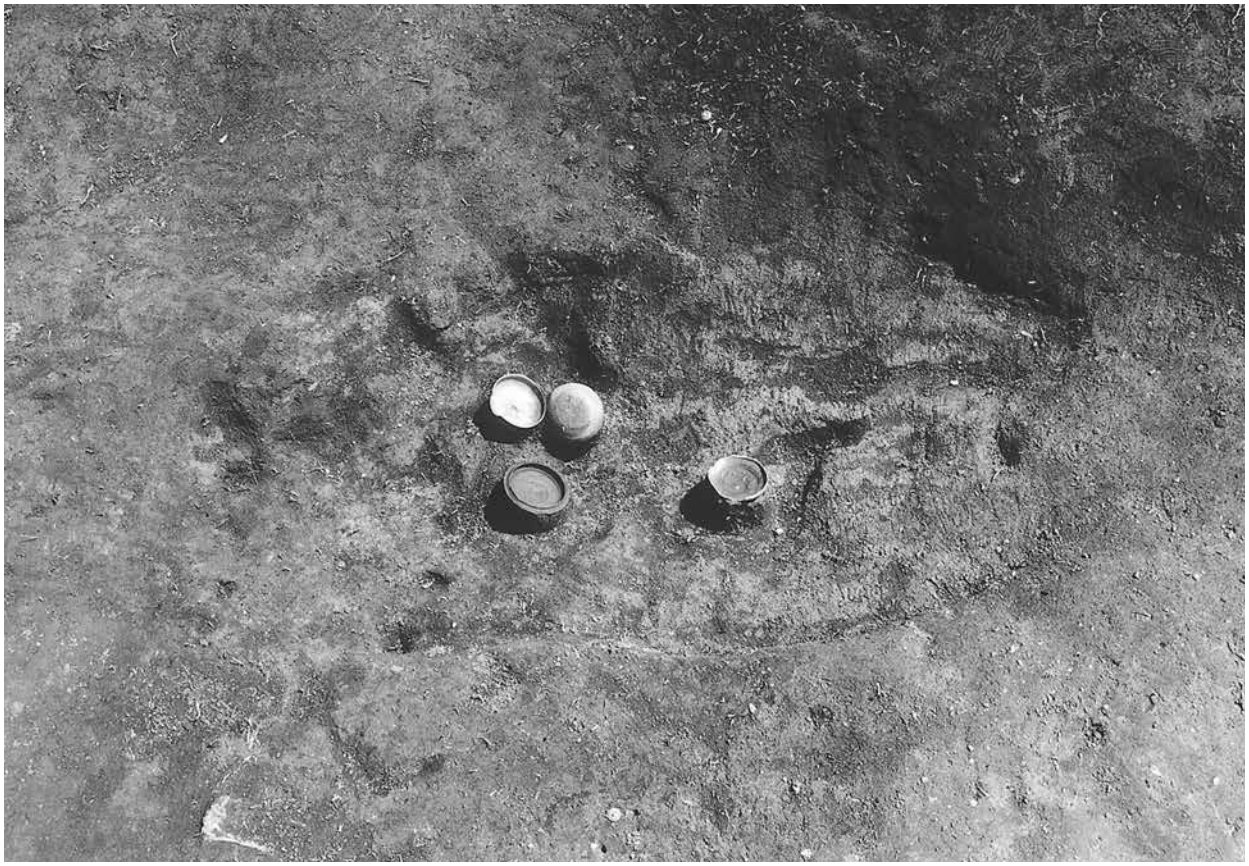
ＳＨ14（西から）



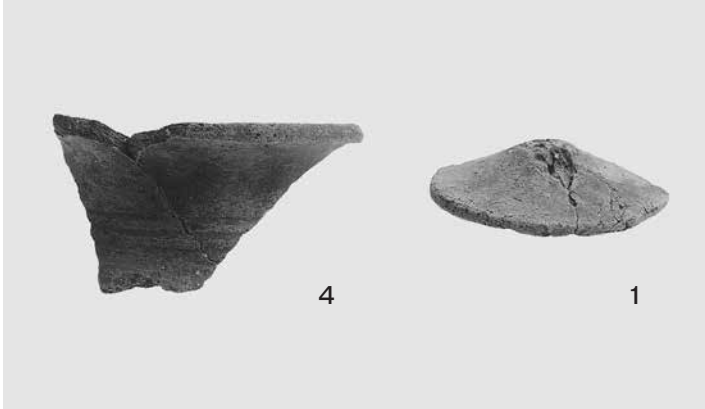
ＳＫ10 検出状況（西から）

ＳＫ10 遺物出土状況（西から）

ＳＫ10 土器棺出土状況（北から）



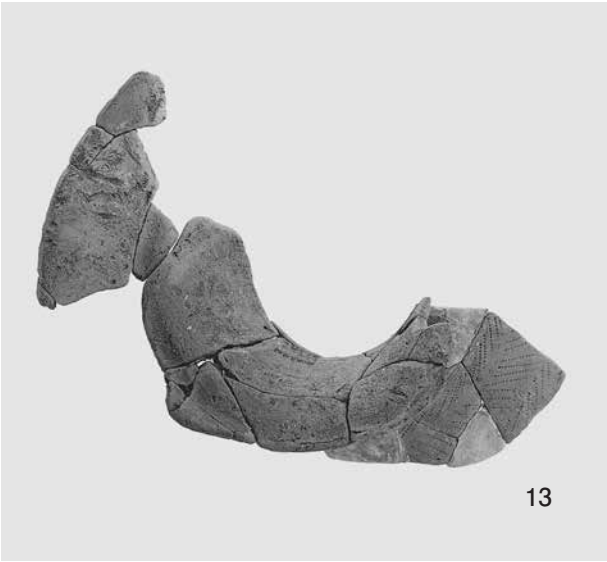
ＳＫ13 遺物出土状況（北から）


4
1

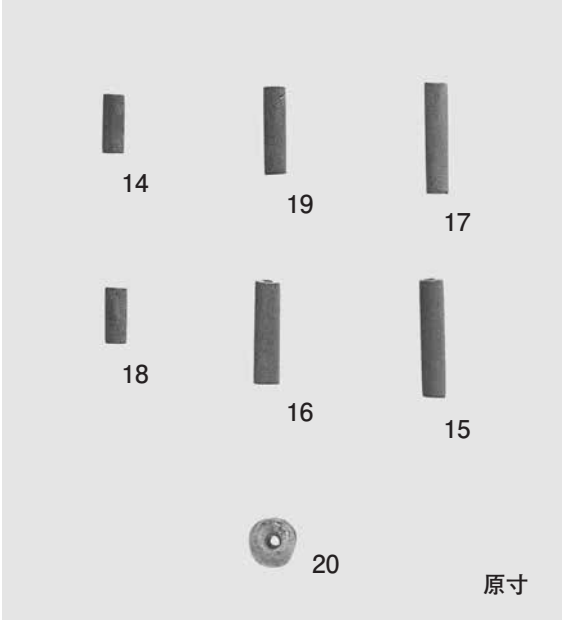
8

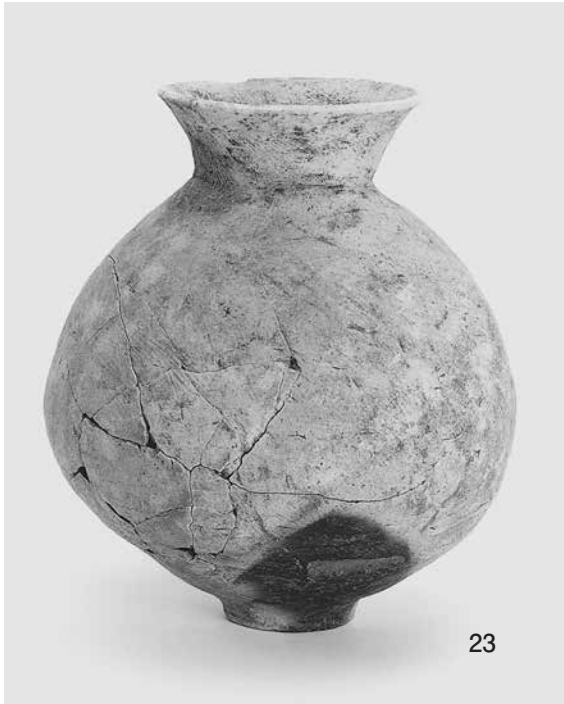
11

10


13

12


14
19
17
18
16
15
20
原寸


23

21

22

26

24

27

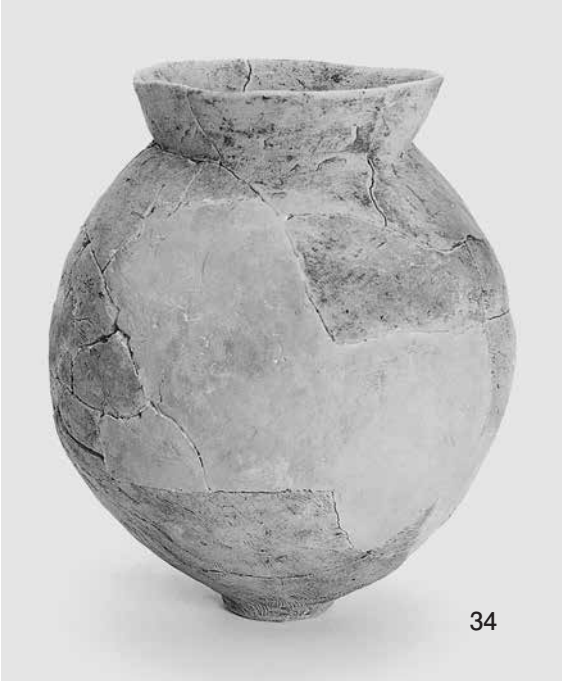
28

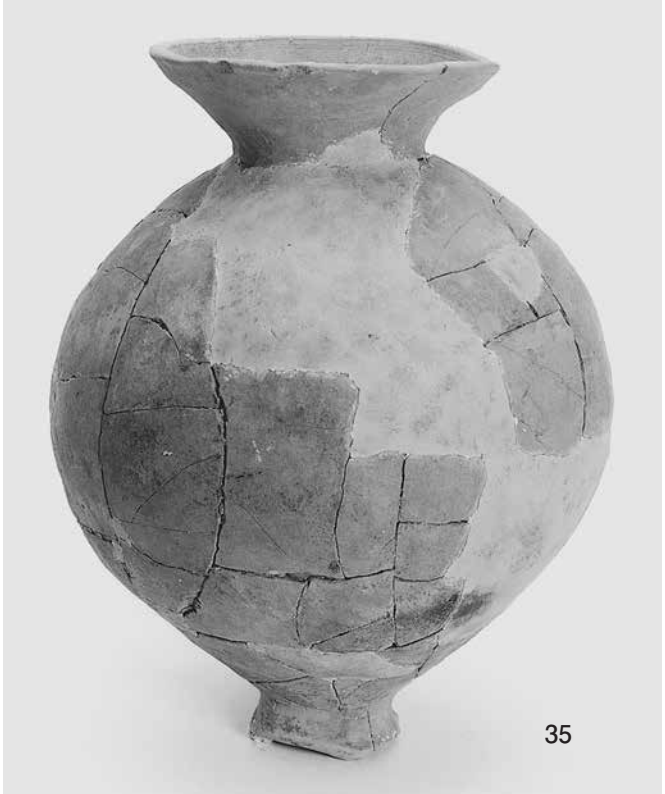
P L 24

29

37

33


34


35

38

39

54

43

59

44

45

49

47

46

50

48

40

41

42

報告書抄録

ふりがな	おりといせき
書　　名	織糸遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	２６９
編著者名	泉　雄二
編集機関	三重県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒515-0325　三重県多気郡明和町竹川５０３　　TEL 0596-52-1732
発行年月日	西暦２００６年3月２８日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
織糸遺跡（おりといせき）	多気郡明和町（たきぐんめいわちょう） 金剛坂（こんごうざか）	24442		34 31 29	136 36 07	20040618 ～1119	881	県 道

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特　記　事　項
織糸遺跡	墳墓	古墳時代初期	方形周溝墓５基	土師器加飾壺 管玉・丸玉	盛土を伴う古墳時代初期の方形周溝墓群
	集落	古墳時代後期	竪穴住居		
		飛鳥～奈良時代	掘立柱建物	須恵器・土師器	出土遺物箱数 コンテナ17箱 重量　42.2kg

要　　約	織糸遺跡は、祓川の沖積平野を見下ろす台地縁辺部にある遺跡で、方形周溝墓５基を検出した。方形周溝墓は、墳丘盛土の残るものが４基があり、残りの良いもので約１ｍの盛土が確認できた。主体部も３基で検出でき、ＳＸ６の主体部から管玉６点・硬玉製丸玉１点を出土したほか、ＳＸ７の主体部直上には供献用の加飾壺が置かれていた。 方形周溝墓は、周辺の遺跡（寺垣内遺跡・金剛坂遺跡）でも多数確認されており、当遺跡周辺の弥生時代から古墳時代にかけての方形周溝墓の変遷が明らかとなってきた。

三重県埋蔵文化財調査報告 269

織　糸　遺　跡

２００６（平成 18）年 ３月

編集
発行　三重県埋蔵文化財センター
印刷　文　化　印　刷